

26

平成26年度

授業計画

[実技カリキュラム・大学院科目を含む]

東京藝術大学美術学部

共通科目

教養科目	1
外国語科目	23
保健体育科目	61
専門基礎科目	69

専門科目等

デザイン科	129
建築科	141
先端芸術表現科	159
芸術学科	163
芸術学各分野	185
文化財保存学	197

教職科目	213
------------	-----

学芸員科目	225
-------------	-----

美術研究科リサーチセンター開設科目 ..	237
----------------------	-----

外国人留学生科目	241
----------------	-----

実技カリキュラム（各科別）	245
---------------------	-----

上野校地・取手校地配置図	277
--------------------	-----

共 通 科 目

教養科目

授業科目名	単位数	教 員	曜日	時限	学期	交流区分	大学院	開設区分	履修対象	特記事項	頁
倫理学	4	山田 忠彰	金曜	2	通年	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		3
哲学	4					(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生	H26 年度休講	—
法学（日本国憲法2単位を含む）	4	松元 安子	水曜	3	通年		(併)		学部生・大学院生		3
社会学	2	稲増 龍夫	集中			(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		4
考古学	4	中村 るい	集中				(併)		学部生・大学院生		4
生物学	4	服部 淳彦	木曜 火曜	5 5	前期 後期	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生	前期・後期の時間割が違うので注意すること。	5
環境と防災の科学	2	桐野 文良	水曜	5	前期	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		5
環境と防災の科学（取手）	2	桐野 文良	火曜	1	後期		(併)		学部生・大学院生		6
日本文学	4					(交)				H26 年度休講	—
フランス文学	4	大森 晋輔	水曜	4	通年	(交)	(併)	(音)	美術・音楽学部生・大学院生		6
ドイツ文学 I（詩）	4	檜山 哲彦	水曜	4	通年	(交)	(併)	(音)	美術・音楽学部生・大学院生		7
イタリア文学	4					(交)		(音)		H26 年度休講	—
英米文学	4	侘美 真理	火曜	3	通年	(交)	(併)	(音)	美術・音楽学部生・大学院生		7
美学	4	津上 英輔	水曜	2	通年	(交)	(併)	(音)	美術・音楽学部生・大学院生		8
演劇論	4	篠崎 光正	金曜	3	通年	(交)	(併)	(音)	美術・音楽学部生・大学院生		8
歴史	4	石井 規衛	木曜	2	通年	(交)	(併)	(音)	美術・音楽学部生・大学院生		9
経済学	4	枝川 明敬	火曜	4	通年	(交)	(併)	(音)	美術・音楽学部生・大学院生		10
思想史	4	高山 守	火曜	2	通年	(交)	(併)	(音)	美術・音楽学部生・大学院生		10
宗教学	4	市川 裕	集中			(交)	(併)	(音)	美術・音楽学部生・大学院生		11
アートマネージメント概論	4	枝川 明敬	火曜	5	通年	(交)	(併)	(音)	美術・音楽学部生・大学院生		11
応用医学研究	2					(交)		(音)	美術・音楽学部生	H26 年度休講	—
パトグラフィー（天才学）	2					(交)		(音)	美術・音楽学部生	H26 年度休講	—
現代思想：ポストモダン哲学	2					(交)		(音)		H26 年度休講	—
社会基盤としての芸術 I	2	伊東 順二	木曜	3	前期	(交)	(併)	(社)	美術・音楽学部生・大学院生		12
社会基盤としての芸術 II	2	伊東 順二	木曜	3	後期	(交)	(併)	(社)	美術・音楽学部生・大学院生		12
文化人類学	4	加原 奈穂子	金曜	2	通年	(交)	(併)	(音)	美術・音楽学部生・大学院生		13
芸術史（千住）	2	木方 幹人	金曜	4	前期	(交)	(併)	(音)	美術・音楽学部生・大学院生		13
芸術論（千住）	2	恩地 元子	木曜	4	前期	(交)	(併)	(音)	美術・音楽学部生・大学院生		14
臨床音楽入門（千住）	4	今野 貴子	水曜	3	通年	(交)	(併)	(音)	美術・音楽学部生・大学院生		14
映画史	4					(交)		(音)		H26 年度休講	—
メディア・リテラシー（千住）	2	水越 伸	月曜	5	前期	(交)	(併)	(音)	美術・音楽学部生・大学院生		15
ポップ論（千住）	4	桜井 圭介	水曜	4	通年	(交)	(併)	(音)	美術・音楽学部生・大学院生		15
音楽文化史（千住）	4	坂崎 紀	月曜	4	通年	(交)	(併)	(音)	美術・音楽学部生・大学院生		16
メディア論（千住）	4	若林 幹夫	木曜	2	通年	(交)	(併)	(音)	美術・音楽学部生・大学院生		16
英語総合講座（言語学入門）	2	磯部 美和	水曜	2	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		17
仏語初級表現法	2	ヴィエル エリック	火曜	4	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		17
劇場技術論	4	西川 信廣 大石 泰	水曜	2	通年	(交)	(併)	(演)	美術・音楽学部生・大学院生		18
劇場芸術論	4	松下 功 西川 信廣 湯浅 卓雄	火曜	5	通年	(交)	(併)	(演)	美術・音楽学部生・大学院生		18
サウンドレコーディング基礎演習	2	松田 賢一	木曜	3	通年	(交)	(併)	(演)	美術・音楽学部生・大学院生		19

(ゼ) ゼメスタ科目 (併) 併設科目（学部・大学院で履修可能） (演) 演奏芸術センター開設科目 (大) 大学美術館開設科目
 (2 コマ以上の履修が必要) (院) 大学院設置科目 (音) 音楽学部開設科目 (共) 共通工房開設科目
 (交) 交流科目（美・音で履修可能） (言) 言語音声トレーニングセンター開設科目 (情) 芸術情報センター開設科目 (社) 社会連携センター開設科目

授業科目名	単位数	教員	曜日	時限	学期	交流区分	大学院	開設区分	履修対象	特記事項	頁
アジアの伝統と現代	4	安田 茂美 松下 功 丸山 俊一	月曜	5	通年	(交)	(併)	(演)	美術・音楽学部生・大学院生		19
コンサート制作論	4	大石 泰 小場瀬 純子	水曜	3	通年	(交)	(併)	(演)	美術・音楽学部生・大学院生		20
音楽を伝えるメディア	2	新井 陽子 小場瀬 純子	木曜	4	通年	(交)	(併)	(演)	美術・音楽学部生・大学院生		20
障害とアート	4	松下 功 安田 茂美	水曜	4	通年	(交)	(併)	(演)	美術・音楽学部生・大学院生		21
ホール音響概論	2	福地 智子		集中		(交)	(併)	(演)	美術・音楽学部生・大学院生		21

外国語科目

授業科目名	単位数	教員	曜日	時限	学期	交流区分	大学院	開設区分	履修対象	特記事項	頁
英語初級 A	2	近藤 真彰	月曜	4	通年		(併)		学部生・大学院生		25
英語初級 C (取手)	2	武井 美砂	月曜	2	通年		(併)		学部生・大学院生		25
英語中級 A	2	大滝 結	水曜	1	通年		(併)		学部生・大学院生		26
英語中級 B	2	源中 由記	金曜	4	通年		(併)		学部生・大学院生		26
英語上級 A	2	磯部 美和	月曜	4	通年		(併)		美術・音楽学部生・大学院生	音楽学部では「演習 A」	27
英語上級 B	2	佐美 真理	火曜	2	通年		(併)		美術・音楽学部生・大学院生	音楽学部では「演習 B」	27
独語初級 A	4	満留 伸一郎 川嶋 均	月曜 木曜	4 3	通年		(併)		学部生・大学院生	月：満留、木：川嶋。2単位に分割不可。	28
独語初級 B (取手)	2	濱西 雅子	木曜	2	通年		(併)		学部生・大学院生		28
独語中級 A	2	山村 浩	水曜	4	通年		(併)		学部生・大学院生		29
独語上級 A	2	満留 伸一郎	月曜	5	通年		(併)		美術・音楽学部生・大学院生	音楽学部では独語(演習) B	29
独語上級 C (西洋美術史演習)	1	薩摩 雅登	金曜	5	前期		(併)		学部生・大学院生	芸術学科・西洋美術史演習と併習(振替措置)	30
仏語初級 B	4	檜垣 嗣子 ヴィエル エリック	月曜 木曜	3 3	通年		(併)		学部生・大学院生	主に建・芸対象。月：檜垣、木：ヴィエル。2単位に分割不可。	30
仏語初級 C (取手)	2	船岡 美穂子	月曜	2	通年		(併)		学部生・大学院生		31
仏語中級 B	2	谷本 道昭	金曜	5	通年		(併)		学部生・大学院生		31
仏語上級 A	2	新谷 淳一	水曜	4	通年		(併)		美術・音楽学部生・大学院生	音楽学部では仏語演習 B	32
仏語上級 C	1	高木 真喜子	水曜	2	後期		(併)		学部生・大学院生	芸術学科・西洋美術史・演習と併習(振替措置)	32
伊語初級 A	4	松浦 弘明 リッチ 佐藤 エレナ	月曜 木曜	5 4	通年		(併)		学部生・大学院生	月：松浦、木：佐藤。2単位に分割不可。	33
伊語中級 A	2	吉澤 早苗	月曜	4	通年		(併)		学部生・大学院生		33
伊語中級 B	2	リッチ 佐藤 エレナ	木曜	3	通年		(併)		学部生・大学院生		34
伊語上級 C - I	1	越川 倫明	水曜	4	前期		(併)		学部生・大学院生	芸術学科・西洋美術史演習 B-I と併習(振替措置)	34
伊語上級 C - II	1	越川 倫明	水曜	4	後期		(併)		学部生・大学院生	芸術学科・西洋美術史演習 B-II と併習(振替措置)	35
オランダ語	2									H26年度休講	-
スペイン語(初級)	2	石井 登	金曜	4	通年	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		35
スペイン語(中級)	2	石井 登	金曜	5	通年	(交)	(併)	(音)	美術・音楽学部生・大学院生		36
中国語初級	2	檜尾 季美	火曜	5	通年		(併)		学部生・大学院生		36
韓国語初級	2	池 鳳花	金曜	2	通年	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		37
英語会話初級	2	平田 アンナ	金曜	3	通年		(併)		学部生・大学院生		38
英語会話中級 A	2	平田 アンナ	金曜	4	通年		(併)		学部生・大学院生		38
英語会話中級 B	2	平田 アンナ	金曜	5	通年		(併)		学部生・大学院生		39

外国語科目 (言語音声トレーニングセンター)

※ 申込者が多い科目については、テストを行うなどして、受講者数を制限することがあります。

授業科目名	単位数	教員	曜日	時限	学期	交流区分	大学院	開設区分	履修対象	特記事項	頁
英語会話 I a	2	平田 アンナ	月曜	3	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		43
英語会話 I b	2	グリブル ジョン	火曜	2	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		43

(ゼ) ゼメスタ科目 (併) 併設科目(学部・大学院で履修可能) (演) 演奏芸術センター開設科目 (大) 大学美術館開設科目
(2) コマ以上の履修が必要 (院) 大学院設置科目 (音) 音楽学部開設科目 (共) 共通工房開設科目
(交) 交流科目(美・音で履修可能) (言) 言語音声トレーニングセンター開設科目 (情) 芸術情報センター開設科目 (社) 社会連携センター開設科目

授業科目名	単位数	教員	曜日	時限	学期	交流区分	大学院	開設区分	履修対象	特記事項	頁
英語会話Ⅰc	2	コリンズ キム ソノコ	水曜	3	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		44
英語会話Ⅱa	2	グリブル ジョン	火曜	3	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		45
英語会話Ⅱb	2	コリンズ キム ソノコ	木曜	3	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		45
英語会話Ⅲa	2	平田 アンナ	月曜	4	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		46
英語会話Ⅲb	2	平田 アンナ	月曜	5	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		46
英語作文Ⅰ	2	グリブル ジョン	火曜	4	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		47
Advanced Writing (英語作文Ⅲ)	2	磯部 美和	水曜	3	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		47
実用英語Ⅰa	2	磯部 美和	月曜	2	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		48
実用英語Ⅰb	2	磯部 美和	金曜	2	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		48
実用英語Ⅰc	2	コリンズ キム ソノコ	火曜	3	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		49
実用英語Ⅱa	2	磯部 美和	月曜	3	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		49
実用英語Ⅱb	2	磯部 美和	金曜	3	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		50
実用英語Ⅱc	2	コリンズ キム ソノコ	木曜	4	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		50
英語原典指導 A	0	グリブル ジョン	火曜	5	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		51
英語原典指導 B	0	コリンズ キム ソノコ	水曜	4	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		51
独語会話Ⅰa	2	シュタイン ミヒヤエル	火曜	4	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		52
独語会話Ⅰb	2	ククリンスキ アンドレア	木曜	3	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		52
独語会話Ⅰc	2	ククリンスキ アンドレア	金曜	3	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		53
独語会話Ⅱ	2	ククリンスキ アンドレア	木曜	4	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		53
実用ドイツ語Ⅰa	2	シュタイン ミヒヤエル	水曜	4	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		54
実用ドイツ語Ⅰb	2	ククリンスキ アンドレア	金曜	2	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		54
実用ドイツ語Ⅱ	2	ククリンスキ アンドレア	火曜	2	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		55
独語作文Ⅰ	2	ククリンスキ アンドレア	火曜	3	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		55
独語作文Ⅱ (上級)	2					(交)		(言)		H26年度休講	—
独語原典指導 A	0	シュタイン ミヒヤエル	月曜	5	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		56
独語原典指導 B	0	ククリンスキ アンドレア	木曜	2	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		56
実用フランス語Ⅱ	2	ヴィエル エリック	月曜	5	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		57
仏語原典指導	0	ヴィエル エリック	木曜	4	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		57
伊語会話Ⅰa	2	ジェレヴィーニ アレッサンドロ	月曜	5	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		58
伊語会話Ⅰb	2	ジェレヴィーニ アレッサンドロ	金曜	2	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		58
実用イタリア語Ⅱ	2	ジェレヴィーニ アレッサンドロ	水曜	3	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		59
伊語原典指導	0	ジェレヴィーニ アレッサンドロ	水曜	2	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		59
英語ディスカッションⅠ	2					(交)		(言)		H26年度休講	—
英語ディスカッションⅡ	2	コリンズ キム ソノコ	火曜	2	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		60
英語プレゼンテーションⅠ	2					(交)		(言)		H26年度休講	—
英語プレゼンテーションⅡ	2	コリンズ キム ソノコ	水曜	2	通年	(交)	(併)	(言)	美術・音楽学部生・大学院生		60

(ゼ) ゼメスタ科目 (併) 併設科目 (学部・大学院で履修可能) (演) 演奏芸術センター開設科目 (大) 大学美術館開設科目
(2 コマ以上の履修が必要) (院) 大学院設置科目 (音) 音楽学部開設科目 (共) 共通工房開設科目
(交) 交流科目 (美・音で履修可能) (言) 言語音声トレーニングセンター開設科目 (情) 芸術情報センター開設科目 (社) 社会連携センター開設科目

保健体育科目

※ 体育Ⅱの受講者は、体育Ⅰを取得した者に限る

授業科目名	単位数	教 員	曜日	時限	学期	交流区分	大学院	開設区分	履修対象	特記事項	頁
体育Ⅰ（身体操法～身体を通して気づく～）	2	林 久仁則	月曜	3	通年	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		63
体育Ⅰ（フラッグフットボール・球技）	2	林 久仁則	月曜	4	通年	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		63
体育Ⅰ（球技・ランニング&フィットネス）	2	大林 太朗	月曜	5	通年	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		64
体育Ⅰ（球技等スポーツ）	2	教馬 広二	水曜	3	通年	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		64
体育Ⅰ（球技等スポーツ・体操）	2	教馬 広二 鈴木 由起子	水曜	4	通年	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		65
体育Ⅰ（体操・球技）	2	鈴木 由起子	水曜	5	通年	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		65
体育Ⅰ（体操・球技）	2	亀田 まゆ子	金曜	3・4	通年	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		66
体育Ⅰ（剣道）	2	高橋 亨	月曜 4・5 水曜 3・4 金曜 4		通年	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		66
体育Ⅰ（球技等スポーツ・体操・ダンス） （取手）	2	熊谷 紀子	木曜	1	通年	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		67
体育Ⅱ	2	月 3・4 限：林 久仁則 月 5 限：大林 太朗 水 3・4 限：教馬 広二 水 4・5 限：鈴木 由起子 金 3・4 限：亀田 まゆ子	月曜 3・4・5 水曜 3・4・5 金曜 3・4		通年	(交) (併) (交) (併) (交) (併) (交) (併)	(併) (併) (併) (併) (併) (併)		美術・音楽学部生・大学院生		67
体育Ⅱ（剣道）	2	高橋 亨	月曜 4・5 水曜 3・4 金曜 4		通年	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		68
体育Ⅱ（取手）	2	熊谷 紀子	木曜	1	通年	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		68

専門基礎科目

授業科目名	単位数	教 員	曜日	時限	学期	交流区分	大学院	開設区分	履修対象	特記事項	頁
古美術研究（日本画）	10	日本画科教員		集中					学部生	学事暦参照	71
古美術研究（油画）	10	油画科教員		集中					学部生	学事暦参照	71
古美術研究（彫刻）	10	彫刻科教員		集中					学部生	学事暦参照	72
古美術研究（工芸）	10	工芸科教員		集中					学部生	学事暦参照	72
古美術研究（デザイン）	10	デザイン科教員		集中					学部生	学事暦参照	73
古美術研究（建築）	10	建築科教員		集中					学部生	学事暦参照	73
古美術研究（先端芸術表現）	10	先端芸術表現教員		集中					学部生	学事暦参照	74
古美術研究（芸術学）	10	芸術学科教員		集中					学部生	学事暦参照	74
図学Ⅰ	4	面出 和子	木曜	3	通年		(併)		学部生・大学院生		75
図学Ⅱ（取手）	4	たほ りつこ		集中		(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		75
塑造（取手）	4	本郷 寛		集中			(併)		学部生・大学院生		76
工芸制作実習	6	豊福 誠 篠原 行雄 原口 健一		集中			(併)		学部生・大学院生		76
日本美術史概説	4	松田 誠一郎	水曜	4	通年		(併)		学部生・大学院生		77
日本美術史概説（取手）	4	松田 誠一郎	木曜	2	通年				学部生		77
美学概論	4								学部生	H26 年度休講	—
美学史概説	4	川瀬 智之	月曜	3	通年		(併)		学部生・大学院生		78
東洋美術史概説	4	片山 まび	火曜	5	通年		(併)		学部生・大学院生		78
西洋美術史概説Ⅰ	2	田邊 幹之助	火曜	3	前期		(併)		学部生・大学院生		79
西洋美術史概説Ⅱ	2								学部生	H26 年度休講	—
西洋美術史概説Ⅲ	2	佐藤 直樹	火曜	3	後期		(併)		学部生・大学院生		79
西洋美術史概説Ⅰ（取手）	2	田邊 幹之助	金曜	2	前期		(併)		学部生・大学院生		80
西洋美術史概説Ⅱ（取手）	2								学部生	H26 年度休講	—
西洋美術史概説Ⅲ（取手）	2	佐藤 直樹	金曜	2	後期		(併)		学部生・大学院生		80
美術解剖学 A	4	布施 英利	水曜	4	通年		(併)		学部生・大学院生		81
美術解剖学 B	4	布施 英利	月曜	3	通年		(併)		学部生・大学院生		81

(ゼ) ゼメスタ科目 (併) 併設科目（学部・大学院で履修可能） (演) 演奏芸術センター開設科目 (大) 大学美術館開設科目
 (2) コマ以上の履修が必要 (院) 大学院設置科目 (音) 音楽学部開設科目 (共) 共通工房開設科目
 (交) 交流科目（美・音で履修可能） (言) 言語音声トレーニングセンター開設科目 (情) 芸術情報センター開設科目 (社) 社会連携センター開設科目

授業科目名	単位数	教 員	曜日	時限	学期	交流区分	大学院	開設区分	履修対象	特記事項	頁
美術解剖学 A (取手)	4	宮永 美知代	水曜	2	通年		(併)		学部生・大学院生		82
彫刻概論 I (取手)	2	中西 麻澄	月曜	2	前期		(併)		学部生・大学院生		82
彫刻概論 II (取手)	2	小泉 晋弥	金曜	1	後期		(併)		学部生・大学院生		83
絵画創作概論	2	油画教員	水曜	5	前期	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		83
絵画技法史・絵画材料論 (取手)	8	秋本 貴透 木島 隆康	火曜	1・2	通年		(併)		学部生・大学院生		84
日本工芸史概説	4	原田 一敏	火曜	4	通年		(併)		学部生・大学院生		85
日本・東洋建築史 I	2	光井 渉	金曜	3	前期		(併)		学部生・大学院生		85
日本・東洋建築史 II	2	光井 渉	金曜	3	後期		(併)		学部生・大学院生		86
西洋建築史 I	2	野口 昌夫	月曜	3	前期		(併)		学部生・大学院生		86
西洋建築史 II	2	野口 昌夫	月曜	3	後期		(併)		学部生・大学院生		87
現代芸術論 I (美学特講)	2	鈴木 賢子	金曜	4	後期		(併)		学部生・大学院生	振替措置	87
現代芸術論 II (取手)	2								学部生	H26 年度休講	—
工芸理論	4	片山 まび	火曜	3	通年		(併)		学部生・大学院生		88
デザイン概説	4	藤崎 圭一郎	金曜	4	通年		(併)		学部生・大学院生		88
色彩学	2	日比野 克彦			集中	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		89
色彩概論 (取手)	4									H26 年度休講	—
日本金工史	4	黒川 廣子 原田 一敏	金曜	5	通年		(併)		学部生・大学院生	通年で4単位 前期：原田、後期：黒川	89
漆工史	4	奥窪 聖美	木曜	4	通年		(併)		学部生・大学院生		90
東洋陶磁史	4	片山 まび 唐澤 昌宏	金曜	5	通年		(併)		学部生・大学院生		90
染織工芸史	4	沢尾 絵	木曜	3	通年		(併)		学部生・大学院生		91
建築概論 I	2	中山 英之	金曜	2	前期		(併)		学部生・大学院生		91
建築概論 II	2	トーマス アンソニー ヘネガン	金曜	2	後期		(併)		学部生・大学院生		92
金属材料学	4	桐野 文良	水曜	4	通年		(併)		学部生・大学院生		92
化学塗装学	4	鈴木 伸吾	木曜	3	通年		(併)		学部生・大学院生		93
化学塗装実験 (取手)	4	鈴木 伸吾			集中		(併)		学部生・大学院生		93
陶磁原料学	4	滝 次陽	木曜	4	通年		(併)		学部生・大学院生		94
染色化学	4	原田 ロクゴー	月曜	3	通年		(併)		学部生・大学院生		94
舞台美術	4	島 次郎 服部 基	金曜	2	前期		(併)		学部生・大学院生	前期＋集中で4単位	95
写真映像論	2	伊藤 俊治 北澤 ひろみ 鈴木 理策 土屋 誠一 小原 真史	火曜	4	前期	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		95
現代写真論	2	飯沢 耕太郎 山本 和弘	木曜	4	後期	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		96
写真史	2	倉石 信乃 橋本 一径	火曜	5	前期	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		96
メディア音楽演習 (取手)	4	柴田 悠基	月曜	1・2	前期		(併)		学部生・大学院生		97
プログラミング演習 I (取手)	4	田中 孝太郎	水曜	1・2	前期		(併)		学部生・大学院生		97
プログラミング演習 II (取手)	4	田中 孝太郎	水曜	1・2	後期		(併)		学部生・大学院生		98
メディアデザイン演習 I (取手)	4	森垣 賢	木曜	1・2	前期		(併)		学部生・大学院生		98
メディアデザイン演習 II (取手)	4	森垣 賢	木曜	1・2	後期		(併)		学部生・大学院生		99
写真表現演習 I (取手)	4	佐藤 時啓 鈴木 理策 佐野 陽一	金曜	1・2	前期		(併)		学部生・大学院生		99
写真表現演習 I (取手)	4	佐藤 時啓 鈴木 理策 佐野 陽一	金曜	1・2	後期		(併)		学部生・大学院生		100
写真表現演習 II	4	佐藤 時啓 小山 穂太郎	月曜	3・4	前期	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		100
写真表現演習 II	4	佐藤 時啓 小山 穂太郎	月曜	3・4	後期	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		100
映像演習 I (取手)	4	山川 冬樹	火曜	1・2	前期		(併)		学部生・大学院生		101
映像演習 II (取手)	4	山川 冬樹	火曜	1・2	後期		(併)		学部生・大学院生		102
ドローイング演習 (取手)	4	小沢 剛	水曜	1・2	前期		(併)		学部生・大学院生		102
映像芸術論	2	伊藤 俊治			集中	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		103
音表現論 (取手)	4	川崎 義博	木曜	2	通年	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		103
環境表象論 (取手)	4	銅金 裕司	水曜	2	通年		(併)		学部生・大学院生		104
環境保護論 (取手)	2									H26 年度休講	—

(ゼ) ゼメスタ科目 (併) 併設科目 (学部・大学院で履修可能) (演) 演奏芸術センター開設科目 (大) 大学美術館開設科目
(2 コマ以上の履修が必要) (院) 大学院設置科目 (音) 音楽学部開設科目 (共) 共通工房開設科目
(交) 交流科目 (美・音で履修可能) (言) 言語音声トレーニングセンター開設科目 (情) 芸術情報センター開設科目 (社) 社会連携センター開設科目

授業科目名	単位数	教員	曜日	時限	学期	交流区分	大学院	開設区分	履修対象	特記事項	頁
身体言語論 (取手)	4	長谷部 浩	月曜	2	通年	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		104
空間演出演習 (取手)	2					(交)				H26 年度休講	—
空間映像演習 (取手)	2	風袋 宏幸			集中				学部生 (先端芸術表現科のみ)		105
複合表現演習 I	2	八谷 和彦 鴻池 朋子			集中	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		105
複合表現演習 II	2	八谷 和彦 清水 寛二			集中	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		106
複合表現演習 III (取手)	2	八谷 和彦 野口 実			集中	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		106
メディア概論 (取手)	4	樽沼 範久	金曜	2	通年	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		107
I MA 概論 A (取手)	4	長谷部 浩 八谷 和彦 日比野 克彦 佐藤 時啓	水曜	1・2	前期	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		108
I MA 概論 B (取手)	4	伊藤 俊治 たほ りつこ 古川 聖	木曜	1・2	前期	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		108
I MA 概論 C (取手)	4	鈴木 理策 小谷 元彦 小沢 剛	木曜	1・2	後期	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		109
現代芸術概論 (取手)	4	小沢 剛	火曜	2	通年	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		109
アートプロジェクト運営論	2	伊藤 達矢			集中	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		110
プレゼンテーション演習 (取手)	4	八谷 和彦	水曜	1・2	後期		(併)		学部生・大学院生 (映像研究科生も受講可能)		110
工芸制作論 (取手)	4	工芸基礎担当教員	火曜	2	通年		(併)		学部生・大学院生	工芸科 1 年必修	111
素材表現演習 I (金工) (取手)	4	篠原 行雄 坂本 至 田中 航	木曜	1・2	前期		(併)	(共)	学部生・大学院生		111
素材表現演習 II (鋳造) (取手)	4	橋本 明夫 見目 未果 小椋 聡子	水曜	1・2	前期		(併)	(共)	学部生・大学院生		112
素材表現演習 III (七宝) (取手)	4	前田 宏智 井上 菜恵子 前田 恭兵	月曜	1・2	前期		(併)	(共)	学部生・大学院生		112
素材表現演習 IV (木材) (取手)	4	菌部 秀徳 藤原 洋人 滝澤 水瑠	水曜	1・2	前期		(併)	(共)	学部生・大学院生		113
素材表現演習 V (塗装) (取手)	4	小椋 範彦 青木 伸介 玉川 みほの	月曜	1・2	前期		(併)	(共)	学部生・大学院生		113
素材表現演習 VI (石材) (取手)	4	工藤 晴也 武田 充生 三矢 直矢	水曜	1・2	前期		(併)	(共)	学部生・大学院生		114
ガラス工芸演習 (取手)	4	藤原 信幸 海藤 博 榎本 夏帆	水曜	1・2	前期		(併)	(共)	美術・音楽学部生・大学院生		114
ステンドグラス実習 (取手)	4	鶴身 美友 中野 竜志	木曜	1・2	前期		(併)		学部生・大学院生		115

専門基礎科目 (芸術情報センター)

授業科目名	単位数	教員	曜日	時限	学期	交流区分	大学院	開設区分	履修対象	特記事項	頁
芸術情報概論 A	2	荻宿 俊文	金曜	5	前期	(交)	(併)	(情)	学部生・大学院生	A, B いずれか 1 つを履修	119
芸術情報概論 B	2	荻宿 俊文	金曜	5	後期	(交)	(併)	(情)	学部生・大学院生	A, B いずれか 1 つを履修	119
芸術情報特論 I	2					(交)	(併)	(情)	学部生・大学院生	H26 年度休講	—
CAD 図法演習 I	2	永田 康祐	金曜	4	前期		(併)	(情)	学部生・大学院生 (建築科 1 年必修)		120
CAD 図法演習 II	2	豊田 啓介 大野 友資	金曜	4	後期		(併)	(情)	学部生・大学院生 (建築科 1 年必修)		120
DTP デザイン演習 I	2					(交)	(併)	(情)	学部生・大学院生	H26 年度休講	—
DTP デザイン演習 II	2					(交)	(併)	(情)	学部生・大学院生	H26 年度休講	—
スタジオサウンド演習 II	2					(交)	(併)	(情)	学部生・大学院生	H26 年度休講	—
芸術情報演習 (デザイン)	4	小川 裕子 田所 淳	木曜	4	通年			(情)	学部生 (デザイン科 2 年必修)		121
グラフィックスプログラミング演習 I	2					(交)	(併)	(情)	学部生・大学院生	H26 年度休講	—
グラフィックスプログラミング演習 II	2					(交)	(併)	(情)	学部生・大学院生	H26 年度休講	—
フィジカルコンピューティング演習	2					(交)	(併)	(情)	学部生・大学院生	H26 年度休講	—

(ゼ) ゼメスタ科目 (併) 併設科目 (学部・大学院で履修可能) (演) 演奏芸術センター開設科目 (大) 大学美術館開設科目
(2 コマ以上の履修が必要) (院) 大学院設置科目 (音) 音楽学部開設科目 (共) 共通工房開設科目
(交) 交流科目 (美・音で履修可能) (言) 言語音声トレーニングセンター開設科目 (情) 芸術情報センター開設科目 (社) 社会連携センター開設科目

授業科目名	単位数	教員	曜日	時限	学期	交流区分	大学院	開設区分	履修対象	特記事項	頁
モーショングラフィックス演習	2					(交)	(併)	(情)	学部生・大学院生	H26年度休講	—
インタラクティブデザイン概論	2					(交)	(併)	(情)	学部生・大学院生	H26年度休講	—
モバイルコンピューティング演習	2					(交)	(併)	(情)	学部生・大学院生	H26年度休講	—
芸術情報素材表現演習<電気・生物・計算>	2					(交)	(併)	(情)	学部生・大学院生	H26年度休講	—
情報美学概論 II	2					(交)	(併)	(情)	学部生・大学院生	H26年度休講	—
芸術と情報	2	桐山 孝司	水曜	3	後期	(交)	(併)	(情)	学部生・大学院生		122
情報メディア学	2	桂 英史	水曜	3	前期	(交)	(併)	(情)	学部生・大学院生		122
情報編集 (WEB)	2	田所 淳	金曜	3	前期	(交)	(併)	(情)	学部生・大学院生		123
インタラクティブ・ミュージック I	2	松村 誠一郎	木曜	5	前期	(交)	(併)	(情)	学部生・大学院生		123
インタラクティブ・ミュージック II	2	田所 淳	木曜	5	後期	(交)	(併)	(情)	学部生・大学院生		124
デジタル・サウンド演習	2	野平 一郎 仲井 朋子 松井 茂	火曜	4	後期	(交)	(併)	(情)	学部生・大学院生		124
ジェネラティブ・デザイン	4	金田 充弘 市川 創太 永田 康祐	月曜	4・5	後期	(交)	(併)	(情)	学部生・大学院生		125
コードとデザイン	4	鈴木 太朗 渡邊 淳司 藤木 淳	水曜	4・5	前期	(交)	(併)	(情)	学部生・大学院生		125
サウンド・デザイン概論	2	長嵩 寛幸 古川 聖 野平 一郎 久保田 晃弘 島中 実	火曜	4	前期	(交)	(併)	(情)	学部生・大学院生		126
映像演習 I 映画	2	長嵩 寛幸	火曜	5	前期	(交)	(併)	(情)	学部生・大学院生		126
映像演習 II アニメーション	2	岡本 美津子	月曜	5	前期	(交)	(併)	(情)	学部生・大学院生		127
アーカイブ概論	2	西澤 徹夫 上崎 千 松井 茂	木曜	3	前期	(交)	(併)	(情)	学部生・大学院生		127
情報プロデュース概論	2					(交)	(併)	(情)	学部生・大学院生	H26年度休講	—

専門基礎科目 (音楽学部音楽環境創造科)

※ 音楽学部時間割を参照すること。詳細は履修登録システムに掲載予定。

授業科目名	単位数	教員	曜日	時限	学期	交流区分	大学院	開設区分	履修対象	特記事項	頁
音響技術史 (千住)		(音楽学部時間割を参照すること) 詳細は履修登録システム に掲載予定									—
コマーシャルにおける映像と音楽 (千住)											—
サウンドデザイン演習 (千住)											—
ジャズ・ポピュラー音楽理論 (千住)											—
リズムのフィールドワーク (千住)											—
音響心理研究法 (千住)							(交)		(音)		—
音響表現論 I (千住)											—
空間音響研究 (千住)											—
芸術運営論 I : 音楽マネジメント 1 (千住)											—
芸術運営論 I : 音楽マネジメント 2 (千住)											—
芸術運営論 I : 基礎概論 (千住)											—
芸術運営論 I : 著作権 (千住)											—
芸術運営論 II : 芸術支援 (千住)											—
芸術運営論 II : 社会事業マネジメント (千住)											—
芸術運営論 II : 文化政策 (千住)											—
高臨場感音響設計概論 (千住)											—
声楽実技演習 (千住)											—
日本音楽概論 (千住)											—
文化理論演習 (千住)											—
録音技法研究 (千住)											—

(ゼ) ゼメスタ科目 (併) 併設科目 (学部・大学院で履修可能) (演) 演奏芸術センター開設科目 (大) 大学美術館開設科目
(2 コマ以上の履修が必要) (院) 大学院設置科目 (音) 音楽学部開設科目 (共) 共通工房開設科目
(交) 交流科目 (美・音で履修可能) (言) 言語音声トレーニングセンター開設科目 (情) 芸術情報センター開設科目 (社) 社会連携センター開設科目

専 門 科 目

※ 専門科目には各科関連科目を含みます。

デザイン科

授業科目名	単位数	教 員	曜日	時限	学期	交流区分	大学院	開設区分	履修対象	特記事項	頁
デザイン原論	4	デザイン科教員	火曜	3	通年				学部生 (デザイン科2年のみ)		131
ビジュアルデザインⅠ	2	宮後 優子 山口 信博	月曜	5	前期				学部生 (デザイン科)		131
ビジュアルデザインⅡ	2	櫻井 稔 色部 義昭 渋谷 克彦 城田 圭介 松下 計	月曜	3・4	後期				学部生 (デザイン科)		132
スペースプランニングⅠ	2	柚木 恵介 橋本 夕紀夫 木下 史青 皆川 明 青木 ゆかり 八木澤 優記	木曜	4・5	前期				学部生 (デザイン科)		132
スペースプランニングⅡ	2	富田 泰行 団塚 栄喜 石多 未知行 田瀬 理夫 中野 恒明	木曜	4・5	後期				学部生 (デザイン科)		133
プロダクトデザインⅠ	2	山崎 宣由 廣田 尚子 今中 隆介 山岸 悦夫	金曜	4・5	前期				学部生 (デザイン科)		133
プロダクトデザインⅡ	2	青木 史朗 尾登 誠一 長濱 雅彦 若杉 浩一 田川 欣也 鄭 秀和	金曜	4・5	後期				学部生 (デザイン科)		134
映像論Ⅰ	2	中谷 日出 村田 朋泰 中村 勇吾 高崎 勝二 口石 潤一 箭内 道彦	金曜	4・5	前期				学部生 (デザイン科)		134
映像論Ⅱ	2	高木 章	金曜	5	後期				学部生 (デザイン科)		135
デザイン特論	4	デザイン科教員	集中				(院)		大学院 (修士1年、 デザイン専攻)		135
デザインプロジェクト	4	デザイン科教員	水曜	1・2	通年		(院)		大学院生 (デザイン専攻)		136
アートディレクションⅠ	2	中村 政久	木曜	5	前期		(院)		大学院生 (デザイン専攻)		136
アートディレクションⅡ	2	田中 良治 廣村 正彰 服部 一成 加藤 芳夫 祖父江 慎 室賀 清徳 松下 計	木曜	4・5	後期		(院)		大学院生 (デザイン専攻)		137
パブリックアート	2	池村 明生	金曜	3	前期		(院)		大学院生		137
環境デザイン	2	宮城俊作 西村浩 大田友祐 面出薫	火曜	4・5	後期		(院)		大学院生		138
プロダクトプランニングⅠ	2	山田 弘和 森山 明子	月曜	4・5	前期		(院)		大学院生 (デザイン専攻)		138
プロダクトプランニングⅡ	2	白濱 力 安井 俊一 有吉 司 石田 和人	月曜	4・5	後期		(院)		大学院生 (デザイン専攻)		139

建築科

授業科目名	単位数	教 員	曜日	時限	学期	交流区分	大学院	開設区分	履修対象	特記事項	頁
建築概論Ⅰ	2									[専門基礎科目・再掲示]	91
建築概論Ⅱ	2									[専門基礎科目・再掲示]	92
日本・東洋建築史Ⅰ	2									[専門基礎科目・再掲示]	85
日本・東洋建築史Ⅱ	2									[専門基礎科目・再掲示]	86
西洋建築史Ⅰ	2									[専門基礎科目・再掲示]	86
西洋建築史Ⅱ	2									[専門基礎科目・再掲示]	87

(ゼ) ゼメスタ科目

(2) コマ以上の履修が必要

(交) 交流科目 (美・音で履修可能)

(併) 併設科目 (学部・大学院で履修可能)

(院) 大学院設置科目

(言) 言語音声トレーニングセンター開設科目

(演) 演奏芸術センター開設科目

(音) 音楽学部開設科目

(情) 芸術情報センター開設科目

(大) 大学美術館開設科目

(共) 共通工房開設科目

(社) 社会連携センター開設科目

授業科目名	単位数	教員	曜日	時限	学期	交流区分	大学院	開設区分	履修対象	特記事項	頁
CAD 図法演習 I	2									[専門基礎科目・再揭示]	120
CAD 図法演習 II	2									[専門基礎科目・再揭示]	120
建築構法	2	丸谷 博男	月曜	4	前期				学部生		143
構造力学 I	2	大原 和之	金曜	1	後期				学部 1 年生		143
構造力学 II	2	大原 和之	金曜	1	前期				学部 2 年生		144
構造計画	2	金田 充弘	金曜	5	前期				学部 1 年生		144
構造材料演習 I	2	金田 充弘	金曜	5	後期				学部 2 年生		145
構造材料演習 II	2	金田 充弘	火曜	2	前期				学部 3 年生		145
建築材料 I	2	輿石 直幸	火曜	4	前期				学部生		146
建築材料 II	2	乾 久美子	金曜	2	後期				学部生		146
建築計画 I	2	ヨコミゾ マコト	金曜	2	後期				学部生		147
建築計画 II	2	北川原 温	金曜	2	前期				学部生		147
近代建築史 I	2	野口 昌夫	月曜	4	後期				学部生		148
近代建築史 II	2	光井 渉	月曜	3	前期				学部生		148
都市設計	2	窪田 亜矢	火曜	4	後期				学部 3 年生		149
建築設備	2	森 義之	火曜	3	前期				学部 3 年生		149
建築社会制度	2	河村 茂 多田 宏行 松村 進	火曜	3	後期				学部生		150
建築施工 I	2	山梨 知彦	月曜	4	前期				学部生		150
建築施工 II	2	荻原 剛 内木 博喜	火曜	2	後期				学部生		151
環境工学 I	2	平手 小太郎	金曜	3	前期				学部生		151
環境工学 II	2	平手 小太郎	金曜	3	後期				学部生		152
建築一般構造	2	永井 佑季	火曜	5	前期				学部 3 年生		152
特論 建築史 I	2	野口 昌夫	月曜	4	前期		(院)		大学院生		153
特論 建築史 II (都市遺産保存論)	2	光井 渉	月曜	5	後期		(院)		大学院生	振替措置 (建築→建築史 II、文化財→都市遺産保存論)	153
特論 建築史 III	2	石川 清	月曜	5	前期		(院)		大学院生		154
特論 環境計画 I	2	宿谷 昌則	金曜	5	前期		(院)		大学院生		154
特論 環境計画 II	2	高井 啓明	金曜	5	後期		(院)		大学院生		155
特論 建築構造論 I	2	金田 充弘	金曜	3	前期		(院)		大学院生		155
特論 建築構造論 II	2	尾関 美紀	金曜	3	後期		(院)		大学院生		156
特論 建築都市計画論 I	2	岸田 省吾	火曜	4	前期		(院)		大学院生		156
特論 建築都市計画論 II	2	赤坂 喜顕	月曜	3	後期		(院)		大学院生		157
特論 建築論	2	入江 経一	金曜	2	後期		(院)		大学院生		157
実測	2	光井 渉			集中				建築科 学部 2 年生対象		158

先端芸術表現科

授業科目名	単位数	教員	曜日	時限	学期	交流区分	大学院	開設区分	履修対象	特記事項	頁
メディア音楽演習 (取手)										[専門基礎科目・再揭示]	97
プログラミング演習 I (取手)										[専門基礎科目・再揭示]	97
プログラミング演習 II (取手)										[専門基礎科目・再揭示]	98
メディアデザイン演習 I (取手)										[専門基礎科目・再揭示]	98
メディアデザイン演習 II (取手)										[専門基礎科目・再揭示]	99
写真表現演習 I (取手)										[専門基礎科目・再揭示]	99
写真表現演習 II (取手)										[専門基礎科目・再揭示]	100
映像演習 I (取手)										[専門基礎科目・再揭示]	101
映像演習 II (取手)										[専門基礎科目・再揭示]	102
ドローイング演習 (取手)										[専門基礎科目・再揭示]	102
映像芸術論										[専門基礎科目・再揭示]	103
音表現論 (取手)										[専門基礎科目・再揭示]	103
環境表象論 (取手)										[専門基礎科目・再揭示]	104
環境保護論 (取手)									H26 年度休講	[専門基礎科目・再揭示]	—
身体言語論 (取手)										[専門基礎科目・再揭示]	104
空間演出演習 (取手)									H26 年度休講	[専門基礎科目・再揭示]	—
空間映像演習 (取手)										[専門基礎科目・再揭示]	105
複合表現演習 I (取手)										[専門基礎科目・再揭示]	105
複合表現演習 II (取手)										[専門基礎科目・再揭示]	106
複合表現演習 III (取手)										[専門基礎科目・再揭示]	106
メディア概論 (取手)										[専門基礎科目・再揭示]	107
I MA 概論 A (取手)										[専門基礎科目・再揭示]	108

(ゼ) ゼメスタ科目 (併) 併設科目 (学部・大学院で履修可能) (演) 演奏芸術センター開設科目 (大) 大学美術館開設科目
(2 コマ以上の履修が必要) (院) 大学院設置科目 (音) 音楽学部開設科目 (共) 共通工房開設科目
(交) 交流科目 (美・音で履修可能) (言) 言語音声トレーニングセンター開設科目 (情) 芸術情報センター開設科目 (社) 社会連携センター開設科目

授業科目名	単位数	教員	曜日	時限	学期	交流区分	大学院	開設区分	履修対象	特記事項	頁
I MA 概論 B (取手)										[専門基礎科目・再掲示]	108
I MA 概論 C (取手)										[専門基礎科目・再掲示]	109
現代芸術概論 (取手)										[専門基礎科目・再掲示]	109
プレゼンテーション演習 (取手)										[専門基礎科目・再掲示]	110
I MA 英語 (取手)	4	荏開津 広	火曜	1	通年		(併)		学部生・大学院生		35
I MA 英語 マジ・コミ・プロ養成(上野)										H26 年度休講	—

芸術学科

授業科目名	単位数	教員	曜日	時限	学期	交流区分	大学院	開設区分	履修対象	特記事項	頁
古美術研究 (芸術学)										[専門基礎科目・再掲示]	74
美学概論									H26 年度休講	[専門基礎科目・再掲示]	—
美学史概説										[専門基礎科目・再掲示]	78
東洋美術史概説										[専門基礎科目・再掲示]	78
西洋美術史概説 I										[専門基礎科目・再掲示]	79
西洋美術史概説 II									H26 年度休講	[専門基礎科目・再掲示]	—
西洋美術史概説 III										[専門基礎科目・再掲示]	79
日本工芸史概説										[専門基礎科目・再掲示]	85
日本・東洋建築史 I										[専門基礎科目・再掲示]	85
日本・東洋建築史 II										[専門基礎科目・再掲示]	86
西洋建築史 I										[専門基礎科目・再掲示]	86
西洋建築史 II										[専門基礎科目・再掲示]	87
芸術学演習 I	2	松尾 大	水曜	2	前期				学部生		165
芸術学演習 II	2	田邊 幹之助	水曜	2	後期				学部生		165
論文作成演習	2	芸術学科教員			集中				学部生		166
美学特講 (川瀬)	4	川瀬 智之	月曜	5	通年		(併)		学部生・大学院生		166
美学特講 (今村)	2	今村 純子	火曜	2	前期		(併)		学部生・大学院生		167
美学特講 (長谷川)	2	長谷川 明子	月曜	4	前期		(併)		学部生・大学院生		167
美学特講 (現代芸術論 I)	2	鈴木 賢子	金曜	4	後期		(併)		学部生・大学院生	現代芸術論 I と併習 (振替措置)	168
美学特講 A (松尾)	2	松尾 大	月曜	3	前期		(併)		学部生・大学院生		168
美学特講 B (松尾)	2	松尾 大	月曜	3	後期		(併)		学部生・大学院生		169
美学演習 (松尾)	4	松尾 大	金曜	3	通年		(併)		学部生・大学院生		169
美学演習 (川瀬)	4	川瀬 智之	金曜	5	通年		(併)		学部生・大学院生		170
美学課題演習	4	美学教員	月曜	1	通年		(院)		大学院生		170
日本美術史特講 (佐藤)	4	佐藤 道信	火曜	3	通年		(併)		学部生・大学院生		171
日本美術史特講・演習 (松田)	4	松田 誠一郎	水曜	2	通年		(併)		学部生・大学院生		171
日本美術史特講 (須賀)	4	須賀 みほ	金曜	2	通年		(併)		学部生・大学院生		172
日本美術史特講・演習 (古田)	4	古田 亮	月曜	5	通年		(併)		学部生・大学院生		172
日本美術史演習 (佐藤)	4	佐藤 道信	火曜	4	通年		(併)		学部生・大学院生		173
日本美術史演習 (須賀)	4	須賀 みほ	金曜	5	通年		(併)		学部生・大学院生		173
工芸史特講・演習	4	片山 まび	火曜	2	通年		(併)		学部生・大学院生		174
日本・東洋美術史、工芸史課題演習	4	日本・東洋美術史、工芸史教員	金曜	3・4	通年		(院)		大学院生		174
西洋美術史特講 (佐藤)	2	佐藤 直樹	火曜	5	前期		(併)		学部生・大学院生		175
西洋美術史特講 (越川)	2	越川 倫明	金曜	5	後期		(併)		学部生・大学院生		175
西洋美術史特講 (田邊)	2	田邊 幹之助	金曜	4	後期		(併)		学部生・大学院生		176
西洋美術史特講 (濱西)	2	濱西 雅子	火曜	4	後期		(併)		学部生・大学院生		176
西洋美術史演習 (高木)	2	高木 真喜子	水曜	2	後期		(併)		学部生・大学院生	外国語・仏語上級 C と併習 (振替措置)	177
西洋美術史演習 (近藤)	2	近藤 学	金曜	2	前期		(併)		学部生・大学院生		177
西洋美術史演習 (薩摩)	2	薩摩 雅登	金曜	5	前期		(併)		学部生・大学院生	外国語・独語上級 C と併習 (振替措置)	178
西洋美術史特講・演習 I (田邊)	2	田邊 幹之助	水曜	5	前期		(併)		学部生・大学院生		178
西洋美術史特講・演習 II (田邊)	2	田邊 幹之助	水曜	5	後期		(併)		学部生・大学院生		179
西洋美術史演習 A	2	越川 倫明	火曜	3	前期		(併)		学部生・大学院生		179
西洋美術史演習 B - I	2	越川 倫明	水曜	4	前期		(併)		学部生・大学院生	外国語・伊語上級 C - I と併習 (振替措置)	180
西洋美術史演習 B - II	2	越川 倫明	水曜	4	後期		(併)		学部生・大学院生	外国語・伊語上級 C - II と併習 (振替措置)	180
西洋美術史演習 C	2	佐藤 直樹	水曜	3	前期		(併)		学部生・大学院生		181
西洋美術史演習 D	2	佐藤 直樹	火曜	5	後期		(併)		学部生・大学院生		181
西洋美術史演習 E	2	佐藤 直樹	水曜	3	後期		(併)		学部生・大学院生		182

(ゼ) ゼメスタ科目 (併) 併設科目 (学部・大学院で履修可能) (演) 演奏芸術センター開設科目 (大) 大学美術館開設科目
(2) コマ以上の履修が必要 (院) 大学院設置科目 (音) 音楽学部開設科目 (共) 共通工房開設科目
(交) 交流科目 (美・音で履修可能) (言) 言語音声トレーニングセンター開設科目 (情) 芸術情報センター開設科目 (社) 社会連携センター開設科目

授業科目名	単位数	教員	曜日	時限	学期	交流区分	大学院	開設区分	履修対象	特記事項	頁
西洋美術史課題演習Ⅰ	2	西洋美術史教員	火曜	2	前期		(院)		大学院生		182
西洋美術史課題演習Ⅱ	2	西洋美術史教員	火曜	2	後期		(院)		大学院生		183

芸術学各分野

授業科目名	単位数	教員	曜日	時限	学期	交流区分	大学院	開設区分	履修対象	特記事項	頁
素材論及び演習Ⅰ	2	本郷 寛	月曜	4・5	前期		(院)		大学院生		187
素材論及び演習Ⅱ	2	本郷 寛	月曜	4・5	後期		(院)		大学院生		187
構成論及び演習Ⅰ	2	木津 文哉	火曜	3・4	前期		(院)		大学院生	前期：取手、後期：上野で授業を行う	188
構成論及び演習Ⅱ	2	木津 文哉	火曜	3・4	後期		(院)		大学院生	前期：取手、後期：上野で授業を行う	188
美術教育論（取手）Ⅰ	2	小松 佳代子	金曜	4・5	前期		(院)		大学院生		189
美術教育論（取手）Ⅱ	2	小松 佳代子	金曜	4・5	後期		(院)		大学院生		189
課題研究（美術教育）	4	本郷 寛 木津 文哉 小松 佳代子 宮永 美知代 青木 宏希	木曜	3・4・5	通年		(院)		大学院生		190
美術教育ゼミⅠ（論文演習）（取手）	4	小松 佳代子	金曜	3	通年		(院)		大学院生		190
美術教育ゼミⅡ（立体表現・理論）	4	本郷 寛	集中				(院)		大学院生		191
美術教育ゼミⅢ（平面表現・理論）	4	木津 文哉	集中				(院)		大学院生		191
美術解剖学特講Ⅰ	4	加藤 公太	木曜	5	通年		(院)		美術解剖学専攻の修士1年生対象		192
美術解剖学特講Ⅱ	4	布施 英利	木曜	3	通年		(院)		美術解剖学専攻の修士2年生対象		192
美術解剖学演習Ⅰ	4	阿久津 裕彦	水曜	5	通年		(院)		美術解剖学専攻の修士1年生対象		193
美術解剖学演習Ⅱ	4	栗田 大輔	月曜	4	通年		(院)		美術解剖学専攻の修士2年生対象		193
解剖学・同実習Ⅰ	2	布施 英利	月曜	1	前期		(院)		美術解剖学専攻の修士1年生対象		194
解剖学・同実習Ⅱ	2	布施 英利	月曜	1	後期		(院)		美術解剖学専攻の修士1年生対象		194
解剖学・同実習Ⅲ	2	布施 英利	月曜	2	前期		(院)		美術解剖学専攻の修士2年生対象		195
解剖学・同実習Ⅳ	2	布施 英利	月曜	2	後期		(院)		美術解剖学専攻の修士2年生対象		195
課題研究（1）	4	布施 英利	集中				(院)		美術解剖学専攻の修士1年生対象		196
課題研究（2）	4	布施 英利	集中				(院)		美術解剖学専攻の修士2年生対象		196

文化財保存学

授業科目名	単位数	教員	曜日	時限	学期	交流区分	大学院	開設区分	履修対象	特記事項	頁
文化財保存学演習Ⅰ	2	文化財保存学教員	火曜	3・4・5	前期		(院)		大学院生		199
文化財保存学演習Ⅱ	2	文化財保存学教員	火曜	3・4・5	後期		(院)		大学院生		199
文化財保護概論	2	上野 勝久	火曜	2	前期		(院)		大学院生		200
文化財保護計画論	2	上野 勝久	火曜	2	後期		(院)		大学院生		200
建築技術史特論A	2	上野 勝久	月曜	5	前期		(院)		大学院生		201
建築技術史特論B	2	秋枝 ユミ イザベル	木曜	5	後期		(院)		大学院生		201
建造物保存技術論	2	上野 勝久	月曜	3	前期		(院)		大学院生		202
都市遺産保存論（建築史Ⅱ）	2	光井 渉	月曜	5	後期		(院)		大学院生	振替措置（建築専攻→建築史）	202
建造物調査・修復演習	4	上野 勝久	集中				(院)		大学院生		203
保存科学演習Ⅰ	1	稲葉 政満 桐野 文良 塚田 全彦	月曜	3	前期		(院)		大学院生		203
保存科学演習Ⅱ	1	稲葉 政満 桐野 文良 塚田 全彦	月曜	3	後期		(院)		大学院生		204
保存科学演習Ⅲ	1	稲葉 政満 桐野 文良 塚田 全彦	水曜	1	前期		(院)		大学院生		204
保存科学演習Ⅳ	1	稲葉 政満 桐野 文良 塚田 全彦	水曜	1	後期		(院)		大学院生		205

(ゼ) ゼメスタ科目 (併) 併設科目（学部・大学院で履修可能） (演) 演奏芸術センター開設科目 (大) 大学美術館開設科目
(2) コマ以上の履修が必要 (院) 大学院設置科目 (音) 音楽学部開設科目 (共) 共通工房開設科目
(交) 交流科目（美・音で履修可能） (言) 言語音声トレーニングセンター開設科目 (情) 芸術情報センター開設科目 (社) 社会連携センター開設科目

授業科目名	単位数	教 員	曜日	時限	学期	交流区分	大学院	開設区分	履修対象	特記事項	頁
文化財測定学	4	稲葉 政満 鈴木 稔 二宮 修治	金曜	5	通年		(院)		大学院生		205
美術工芸材料学	4	桐野 文良	月曜	1	通年		(院)		大学院生		206
材料学実験	1	稲葉 政満	月曜	4・5	通年		(院)		大学院生		206
機器分析法	2	稲葉 政満 桐野 文良	金曜	2	通年		(院)		大学院生		207
機器分析実験	1	稲葉 政満 桐野 文良	金曜	3	通年		(院)		大学院生		207
保存環境学特論	2	朽津 信明 木川 りか 佐野 千絵	火曜	1	後期		(併)		学部生・大学院生	学部生は卒業要件単位にならない	208
保存環境計画論	2	佐野 千絵	火曜	1	前期		(院)		大学院生		208
修復計画論	2	北野 信彦 中山 俊介 朽津 信明 早川 典子	木曜	1	前期		(院)		大学院生		209
修復材料学特論	2	中山 俊介 北野 信彦 朽津 信明 早川 典子	木曜	2	前期		(院)		大学院生		209
文化財保存学Ⅰ	4						(院)		大学院生		210
文化財保存学Ⅱ	4						(院)		大学院生		210
埋蔵文化財保存論	4	関根 理恵	月曜	2	通年		(院)		大学院生		211
古文化財研究	4	文化財保存学教員		集中			(院)		大学院生	学事暦参照	211

教 職 科 目

授業科目名	単位数	教 員	曜日	時限	学期	交流区分	大学院	開設区分	履修対象	特記事項	頁
教職概論（取手）	2	萩野谷 栄							教職課程履修者		215
教育原理	4	青柳 路子	水曜	3	通年				教職課程履修者		215
教育心理学	2	青柳 路子	水曜	5	後期				教職課程履修者		216
教育課程の研究（取手）	1	杉本 昌裕		集中					教職課程履修者		216
工芸教育法 A	4	織田 このみ	月曜	5	通年				教職課程履修者	AB いずれか1つ（4単位）を履修	217
工芸教育法 B	4	織田 このみ	火曜	4	通年				教職課程履修者	AB いずれか1つ（4単位）を履修	217
美術教育法 A	4	矢部 亜矢	金曜	4	通年				教職課程履修者	AB いずれか1つ（4単位）を履修	218
美術教育法 B	4	藤岡 孝充	木曜	5	通年				教職課程履修者	AB いずれか1つ（4単位）を履修	218
道徳教育の研究	2	杉本 昌裕	火曜	4	前期				教職課程履修者		219
特別活動の指導法（取手）	1	杉本 昌裕		集中					教職課程履修者		219
教育方法論（取手）	1	藤岡 孝充		集中					教職課程履修者		220
生徒指導の研究	2	池田 秀俊	金曜	4	前期				教職課程履修者		220
教育相談	2	萩野谷 栄							教職課程履修者		221
教育実習（含、事前事後指導） （高等学校教諭）	3	池田 秀俊 本郷 寛		集中					教職課程履修者	入学年度の「履修案内」を参照すること	221
教育実習（含、事前事後指導） （中学校教諭）	5	池田 秀俊 本郷 寛		集中					教職課程履修者	入学年度の「履修案内」を参照すること	222
介護等体験	0								教職課程履修者	入学年度の「履修案内」を参照すること	222
教職実践演習	2	本郷 寛 藤岡 孝充 青柳 路子 小松 佳世子 宮永 美知代 青木 宏希		集中					教職課程履修者		223
映像メディア表現	0.5	木津 文哉		集中					日本画専攻のみ		223

学 芸 員 科 目

授業科目名	単位数	教 員	曜日	時限	学期	交流区分	大学院	開設区分	履修対象	特記事項	頁
生涯学習概論	2	奥村 高明	月曜	5	後期	(交)		(大)	1年次以上		227
博物館概論 A	2	薩摩 雅登	月曜	2	前期	(交)		(大)	1年次以上		227
博物館概論 B（取手）	2	薩摩 雅登	金曜	1	前期	(交)		(大)	1年次以上		228

(ゼ) ゼメスタ科目 (併) 併設科目（学部・大学院で履修可能） (演) 演奏芸術センター開設科目 (大) 大学美術館開設科目
(2) コマ以上の履修が必要 (院) 大学院設置科目 (音) 音楽学部開設科目 (共) 共通工房開設科目
(交) 交流科目（美・音で履修可能） (言) 言語音声トレーニングセンター開設科目 (情) 芸術情報センター開設科目 (社) 社会連携センター開設科目

授業科目名	単位数	教 員	曜日	時限	学期	交流区分	大学院	開設区分	履修対象	特記事項	頁
博物館経営論	2	安藤 美奈			集中	(交)		(大)	2年次以上		228
美術館資料論 A	2	古田 亮	月曜	4	前期	(交)		(大)	3年次以上		229
美術館資料論 B	2	黒川 廣子	月曜	4	後期	(交)		(大)	3年次以上		229
博物館資料保存論	2	稲葉 政満	木曜	5	前期	(交)		(大)	2年次以上		230
企画展示論	2	薩摩 雅登	月曜	2	後期	(交)		(大)	2年次以上		230
博物館情報・メディア論	2	川口 雅子	木曜	4	前期	(交)		(大)	2年次以上		231
博物館教育論	2	真住 貴子			集中	(交)		(大)	1年次以上		231
美術館実習 A	3	薩摩 雅登			集中	(交)		(大)	学部4年生以上、修士2年生以上、博士2年生以上		232
美術館実習 B	3	薩摩 雅登			集中	(交)		(大)	学部4年生以上、修士2年生以上、博士2年生以上		232
音響学	4	小泉 宣夫	木曜	2	通年	(交)	(併)	(音)	美術・音楽学部生・大学院生(学芸員科目としてのみ履修可能)	学芸員科目としてのみ履修可能	233
芸術文化環境論	4	伊志嶺 絵里子 朝倉 由希	木曜	3	通年	(交)	(併)	(音)	美術・音楽学部生・大学院生(学芸員科目としてのみ履修可能)	学芸員科目としてのみ履修可能	233
西洋音楽史	4	福中 冬子 佐藤 望	金曜	3	通年	(交)	(併)	(音)	美術・音楽学部生・大学院生(学芸員科目としてのみ履修可能)	学芸員科目としてのみ履修可能	234
日本・東洋音楽史	4	塚原 康子 植村 幸生	月曜	3	通年	(交)	(併)	(音)	美術・音楽学部生・大学院生(学芸員科目としてのみ履修可能)	学芸員科目としてのみ履修可能	234
楽器学	4					(交)		(音)	美術・音楽学部生(学芸員科目としてのみ履修可能)	学芸員科目としてのみ履修可能 H26年度休講	—
音楽音響学	4					(交)		(音)	美術・音楽学部生(学芸員科目としてのみ履修可能)	学芸員科目としてのみ履修可能 H26年度休講	—
西洋音楽史概説	4	土田 英三郎 福中 冬子	火曜	4	通年	(交)	(併)	(音)	美術・音楽学部生・大学院生(学芸員科目としてのみ履修可能)	学芸員科目としてのみ履修可能	235
日本音楽史概説	4	塚原 康子	火曜	5	通年	(交)	(併)	(音)	美術・音楽学部生・大学院生(学芸員科目としてのみ履修可能)	学芸員科目としてのみ履修可能	235
東洋音楽史概説	4	植村 幸生	火曜	2	通年	(交)	(併)	(音)	美術・音楽学部生・大学院生(学芸員科目としてのみ履修可能)	学芸員科目としてのみ履修可能	236
音楽民族学概説	4	早稲田 みな子	火曜	4	通年	(交)	(併)	(音)	美術・音楽学部生・大学院生(学芸員科目としてのみ履修可能)	学芸員科目としてのみ履修可能	236

美術研究科リサーチセンター開設科目

授業科目名	単位数	教 員	曜日	時限	学期	交流区分	大学院	開設区分	履修対象	特記事項	頁
論文作成技術特殊講義	1	中西 麻澄			集中		(院)		博士1年次対象		239
論文作成技術演習	1	五十嵐 ジャンヌ			集中		(院)		博士2年次対象		239

外国人留学生科目

授業科目名	単位数	教 員	曜日	時限	学期	交流区分	大学院	開設区分	履修対象	特記事項	頁
日本語(入門)	4	石田 恵里子	月曜	3	通年	(交)		(音)	留学生対象		243
		茶谷 恭代	金曜	3							
日本語(初級)	4	石田 恵里子	月曜	4	通年	(交)		(音)	留学生対象		243
		茶谷 恭代	金曜	4							
日本語(中級)	4	茶谷 恭代	金曜	5	通年	(交)		(音)	留学生対象		244
日本事情(含日本語表現法)	4	杉本 和寛	金曜	3	通年	(交)		(音)	留学生対象		244

(ゼ) ゼメスタ科目 (併) 併設科目(学部・大学院で履修可能) (演) 演奏芸術センター開設科目 (大) 大学美術館開設科目
(2 コマ以上の履修が必要) (院) 大学院設置科目 (音) 音楽学部開設科目 (共) 共通工房開設科目
(交) 交流科目(美・音で履修可能) (言) 言語音声トレーニングセンター開設科目 (情) 芸術情報センター開設科目 (社) 社会連携センター開設科目

取 手 校 地 開 設 科 目 (再 掲 載)

授業科目名	単位数	教 員	曜日	時限	学期	交流区分	大学院	開設区分	履修対象	特記事項	頁
環境と防災の科学 (取手)	2	桐野 文良	火曜	1	後期		(併)		学部生・大学院生		6
英語初級 C (取手)	2	武井 美砂	月曜	2	通年				学部生		25
独語初級 B (取手)	2	濱西 雅子	木曜	2	通年				学部生		28
仏語初級 C (取手)	2	船岡 美穂子	月曜	2	通年				学部生		31
体育 I (球技等スポーツ・体操・ダンス) (取手)	2	熊谷 紀子	木曜	1	通年	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		66
体育 II (取手)	2	熊谷 紀子	木曜	1	通年	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		68
図学 II (取手)	4	たほ りつこ	集中			(交)			美術・音楽学部生		75
塑造 (取手)	4	本郷 寛	集中						学部生		76
日本美術史概説 (取手)	4	松田 誠一郎	木曜	2	通年				学部生		77
西洋美術史概説 I (取手)	2	田邊 幹之助	金曜	2	前期				学部生		80
西洋美術史概説 II (取手)	2								学部生	H26 年度休講	—
西洋美術史概説 III (取手)	2	佐藤 直樹	金曜	2	後期				学部生		80
美術解剖学 A (取手)	4	宮永 美知代	水曜	2	通年		(併)		学部生・大学院生		82
彫刻概論 I (取手)	2	中西 麻澄	月曜	2	前期				学部生		82
彫刻概論 II (取手)	2	小泉 晋弥	金曜	1	後期				学部生		83
絵画技法史・絵画材料論 (取手)	8	秋本 貴透 木島 隆康	火曜	1・2	通年				学部生		84
現代芸術論 II (取手)	2								学部生	H26 年度休講	—
色彩概論 (取手)	4									H26 年度休講	—
化学塗装実験 (取手)	4	鈴木 伸吾	集中				(併)		学部生・大学院生		93
メディア音楽演習 (取手)	4	柴田 悠基	月曜	1・2	前期		(併)		学部生・大学院生		97
プログラミング演習 I (取手)	4	田中 孝太郎	水曜	1・2	前期		(併)		学部生・大学院生		97
プログラミング演習 II (取手)	4	田中 孝太郎	水曜	1・2	後期		(併)		学部生・大学院生		98
メディアデザイン演習 I (取手)	4	森垣 賢	木曜	1・2	前期		(併)		学部生・大学院生		98
メディアデザイン演習 II (取手)	4	森垣 賢	木曜	1・2	後期		(併)		学部生・大学院生		99
写真表現演習 I (取手)	4	佐藤 時啓 鈴木 理策 佐野 陽一	金曜	1・2	前期		(併)		学部生・大学院生		99
写真表現演習 I (取手)	4	佐藤 時啓 鈴木 理策 佐野 陽一	金曜	1・2	後期		(併)		学部生・大学院生		100
映像演習 I (取手)	4	山川 冬樹	火曜	1・2	前期		(併)		学部生・大学院生		101
映像演習 II (取手)	4	山川 冬樹	火曜	1・2	後期		(併)		学部生・大学院生		102
ドローイング演習 (取手)	4	小沢 剛	水曜	1・2	前期		(併)		学部生・大学院生		102
音表現論 (取手)	4	川崎 義博	木曜	2	通年	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		103
環境表象論 (取手)	4	銅金 裕司	水曜	2	通年		(併)		学部生・大学院生		104
環境保護論 (取手)	2									H26 年度休講	—
身体言語論 (取手)	4	長谷部 浩	月曜	2	通年	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		104
空間演出演習 (取手)	2					(交)				H26 年度休講	—
空間映像演習 (取手)	2	風袋 宏幸	集中						学部生 (先端芸術表現科のみ)		105
複合表現演習 III (取手)	2	八谷 和彦 野口 実	集中			(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		106
メディア概論 (取手)	4	樽沼 範久	金曜	2	通年	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		107
I MA 概論 A (取手)	4	長谷部 浩 八谷 和彦 日比野 克彦 佐藤 時啓	水曜	1・2	前期	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		108
I MA 概論 B (取手)	4	伊藤 俊治 たほ りつこ 古川 聖	木曜	1・2	前期	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		108
I MA 概論 C (取手)	4	鈴木 理策 小谷 元彦 小沢 剛	木曜	1・2	後期	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		109
現代芸術概論 (取手)	4	小沢 剛	火曜	2	通年	(交)	(併)		美術・音楽学部生・大学院生		109
プレゼンテーション演習 (取手)	4	八谷 和彦	水曜	1・2	後期				学部生・大学院生 (映像研究科生も受講可能)		110
工芸制作論 (取手)	4	工芸基礎担当教員	火曜	2	通年				工芸科 1 年必修		111

(ゼ) ゼメスタ科目 (併) 併設科目 (学部・大学院で履修可能) (演) 演奏芸術センター開設科目 (大) 大学美術館開設科目
 (2 コマ以上の履修が必要) (院) 大学院設置科目 (音) 音楽学部開設科目 (共) 共通工房開設科目
 (交) 交流科目 (美・音で履修可能) (言) 言語音声トレーニングセンター開設科目 (情) 芸術情報センター開設科目 (社) 社会連携センター開設科目

授業科目名	単位数	教 員	曜日	時限	学期	交流区分	大学院	開設区分	履修対象	特記事項	頁
素材表現演習Ⅰ（金工）（取手）	4	篠原 行雄 坂本 至 田中 航	木曜	1・2	前期		(併)	(共)	学部生・大学院生		111
素材表現演習Ⅱ（鑄造）（取手）	4	橋本 明夫 見目 未果 小椋 聡子	水曜	1・2	前期		(併)	(共)	学部生・大学院生		112
素材表現演習Ⅲ（七宝）（取手）	4	前田 宏智 井上 菜恵子 前田 恭兵	月曜	1・2	前期		(併)	(共)	学部生・大学院生		112
素材表現演習Ⅳ（木材）（取手）	4	菌部 秀徳 藤原 洋人 滝澤 水瑠	水曜	1・2	前期		(併)	(共)	学部生・大学院生		113
素材表現演習Ⅴ（塗装）（取手）	4	小椋 範彦 青木 伸介 玉川 みほの	月曜	1・2	前期		(併)	(共)	学部生・大学院生		113
素材表現演習Ⅵ（石材）（取手）	4	工藤 晴也 武田 充生 三矢 直矢	水曜	1・2	前期		(併)	(共)	学部生・大学院生		114
ガラス工芸演習（取手）	4	藤原 信幸 海藤 博 榎本 夏帆	水曜	1・2	前期		(併)	(共)	美術・音楽学部生・大学院生		114
スタンドグラス実習（取手）	4	鶴身 美友 中野 竜志	木曜	1・2	前期		(併)		学部生・大学院生		115
I MA 英語（取手）	4	荏開津 広	火曜	1	通年		(併)		学部生・大学院生		35
美術教育論（取手）Ⅰ	2	小松 佳代子	金曜	4・5	前期		(院)		大学院生		189
美術教育論（取手）Ⅱ	2	小松 佳代子	金曜	4・5	後期		(院)		大学院生		189
美術教育ゼミⅠ（論文演習）（取手）	4	小松 佳代子	金曜	3	通年		(院)		大学院生		190
教職概論（取手）	2								教職課程履修者		215
教育課程の研究（取手）	1	杉本 昌裕			集中				教職課程履修者		216
特別活動の指導法（取手）	1	杉本 昌裕			集中				教職課程履修者		219
教育方法論（取手）	1	藤岡 孝充			集中				教職課程履修者		220
博物館概論B（取手）	2	薩摩 雅登	金曜	1	前期	(交)		(大)	1年次以上		228

千住校地開設科目（再掲載）

授業科目名	単位数	教 員	曜日	時限	学期	交流区分	大学院	開設区分	履修対象	特記事項	頁
芸術史（千住）	2	木方 幹人	金曜	4	前期	(交)		(音)	美術・音楽学部生		13
芸術論（千住）	2	思地 元子	木曜	4	前期	(交)		(音)	美術・音楽学部生		14
臨床音楽入門（千住）	4	今野 貴子	水曜	3	通年	(交)		(音)	美術・音楽学部生		14
メディア・リテラシー（千住）	2	水越 伸	月曜	5	前期	(交)		(音)	美術・音楽学部生		15
ポップ論（千住）	4	桜井 圭介	水曜	4	通年	(交)		(音)	美術・音楽学部生		15
音楽文化史（千住）	4	坂崎 紀	月曜	4	通年	(交)		(音)	美術・音楽学部生		16
メディア論（千住）	4	若林 幹夫	木曜	2	通年	(交)		(音)	美術・音楽学部生		16
音響技術史（千住）											—
コマーシャルにおける映像と音楽（千住）											—
サウンドデザイン演習（千住）											—
ジャズ・ポピュラー音楽理論（千住）											—
リズムのフィールドワーク（千住）											—
音響心理研究法（千住）						(交)		(音)			—
音響表現論Ⅰ（千住）		(音楽学部時間割を参照すること) 詳細は履修登録システム に掲載予定									—
空間音響研究（千住）											—
芸術運営論Ⅰ：音楽マネジメントⅠ（千住）											—
芸術運営論Ⅰ：音楽マネジメントⅡ（千住）											—
芸術運営論Ⅰ：基礎概論（千住）											—
芸術運営論Ⅰ：著作権（千住）											—
芸術運営論Ⅱ：芸術支援（千住）											—
芸術運営論Ⅱ：社会事業マネジメント（千住）											—
芸術運営論Ⅱ：文化政策（千住）											—
高臨場感音響設計概論（千住）											—
音楽実技演習（千住）											—
日本音楽概論（千住）											—
文化理論演習（千住）											—
録音技法研究（千住）											—

(ゼ) ゼメスタ科目 (併) 併設科目 (学部・大学院で履修可能) (演) 演奏芸術センター開設科目 (大) 大学美術館開設科目
(2コマ以上の履修が必要) (院) 大学院設置科目 (音) 音楽学部開設科目 (共) 共通工房開設科目
(交) 交流科目 (美・音で履修可能) (言) 言語音声トレーニングセンター開設科目 (情) 芸術情報センター開設科目 (社) 社会連携センター開設科目

教養科目

授業科目名	倫理学 Ethics			
教員名	山田 忠彰			
開講時期	通年	金曜 2	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

芸術とはなにか、あるいは視点をかえて、いつ芸術は存在するのか。これは、いまだ確定的な了解が成立していない問いだといわざるをえない。

本講義では、この古くて新しい問題に、「人間の倫理的な生とはなにか」という視角からアプローチして、芸術と人間との密接不可分なかわりについて検討してみたい。本年は、とりわけ、いわゆる芸術終焉論（前期）と自由の芸術美的変形（variant）論（後期）から考察を進めることにする。

■授業計画及び内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：芸術終焉論一般について〈1〉古典ギリシャ・ルネサンス
- 第3回：芸術終焉論一般について〈2〉モダニズム
- 第4回：ヘーゲルの場合：芸術の学・記号の創造・芸術作品の二重性
- 第5回：ヘーゲルの場合：三つの芸術様式
- 第6回：ヘーゲルの場合：音楽と詩文芸・芸術の自己超脱
- 第7回：「芸術の最高の使命」
- 第8回：ハイデガーの場合：芸術作品の根源
- 第9回：GeistとThe End-of-Art Thesis
- 第10回：芸術・宗教・哲学
- 第11回：芸術哲学がヘーゲルの哲学体系のheartか？
- 第12回：シェリングの場合
- 第13回：多元主義へ
- 第14回：「理性の新たな時代」
- 第15回：まとめ
- 第16回：主観的自由の基本的関係：ヘーゲルの場合
- 第17回：「能動的受動性」
- 第18回：カント、アドルノの場合
- 第19回：キャヴェルの場合
- 第20回：自己喪失から自己到達へ
- 第21回：他者依存を介しての自己自立
- 第22回：人間的自由のコア
- 第23回：芸術美学の領域
- 第24回：芸術美的実践と人間的自由のアーリーナ
- 第25回：芸術美的知覚および制作と「能動的受動性」
- 第26回：芸術美的知覚と制作のプロセス
- 第27回：芸術美的感受性の中心的徳目
- 第28回：芸術美的実践の意味
- 第29回：芸術美的自由
- 第30回：まとめ

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

response sheet の提出と学期末の筆記試験（レポートに準じる）とによって、総合的に評価する。

■教科書／参考書

山田忠彰『エスト-エティカ 〈デザイン・ワールド〉と〈存在の美学〉』ナカニシヤ出版、2009年

適宜、プリントを配布する。

参考書は、講義のなかで、適宜指示する。

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	法学（日本国憲法2単位を含む） Jurisprudence			
教員名	松元 安子			
開講時期	通年	水曜 3	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

前期は、現代日本社会における法体系の根幹をなす日本国憲法について、その歴史的背景をふまえながら、自由権、社会権等の基本的人権、国民主権、権力分立を基本原理とする統治機構を中心に理解を深める。

また後期は、親族法、相続法を含む民法、刑法、労働法などの諸法について、日常生活の中で起こりうる身近な問題をいかに考え、解決していくかという観点から説明する。

社会の中で法がいかに機能しているかを学ぶと同時に、社会人としての最低限度の法律的常識及び法的な考え方の習得を目標とする。

■授業計画及び内容

前期

1. 憲法とは何か
2. 大日本国憲法、日本国憲法の歴史的背景
3. 国民主権、選挙制度
4. 象徴天皇制、平和主義
- 5～9. 自由権、社会権などの基本的人権
（表現の自由、プライバシー権、生存権など）
- 10～13. 立法、行政、司法の統治機構

後期

1. 法とは何か 民事責任と刑事責任
2. 日常生活と契約（1）契約の基本
3. 日常生活と契約（2）各種の契約
4. 日常生活とアクシデント（1）不法行為の基本
5. 日常生活とアクシデント（2）交通事故、悪徳商法など
6. 家族関係（1）夫婦、親子
7. 家族関係（2）相続
8. 民事紛争の解決
9. 刑法の考え方
10. 刑事手続き
11. 12. 雇用と法
13. 企業と法

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

各学期末の筆記試験
（出席点も一部加味する）

■教科書／参考書

前期 いちばんやさしい「憲法入門」初宿正典 高橋正俊 他
共著 有斐閣アルマ
後期 「法の世界へ」池田真朗他共著 有斐閣アルマ

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	社会学 Sociology		
教員名	稲増 龍夫		
開講時期	集中	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生		
特記事項			

■授業テーマ

本講義は、教科書的な机上の社会学講義ではない、「生きた学問」を目指し、テレビからインターネットへという、映像メディアの進化を主たるテーマとして取り上げます。具体的には、さまざまなメディア文化現象を素材に、現代人のリアリティ感の変容が導く、今後の現代社会の動態を大胆に予測していきたいと思えます。

■授業計画及び内容

1. ポストモダン論 1) すみわけ社会と「格差」論争
2. 2) 記号消費と現代広告文化
3. 3) 現代社会における「自分探し」の構図
4. 4) アメコミヒーローの変遷にみる「正義」の変容
5. 5) 「おたく」文化とクールジャパン戦略
6. TV 原論 1) 「有名人の時代」の自己相対化戦略
7. 2) TV 的リアリティとループ的世界観の構造
8. 3) 「やらせ」とメディアリテラシー
9. 4) AKB 48 にみるアイドル工学戦略
10. 5) MTV の映像美学
11. ポスト TV 論 1) テレビゲームの進化と
ゲーミフィケーション
12. 2) インターネットの誕生と
グーグル化する社会
13. 3) デジタルコンテンツの時代における
著作権と二次創作
14. 4) 動画投稿サイト文化と初音ミク現象
15. まとめ ポストモダン社会の位相とデジタルネイティブ

■受講に当たっての留意事項

9月上旬～中旬にかけての3日間15コマで3分の2以上の出席が単位取得の最低条件です。特に初回のガイダンスは絶対に出席してください。

■成績評価方法

毎時限、授業アンケートを提出してもらい、その出席点のみで評価します。

■教科書／参考書

テーマごとに適宜指示します。

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	考古学 Archaeology		
教員名	中村 るい		
開講時期	集中	単位	4
履修対象	学部生		
特記事項			

■授業テーマ

ギリシャの考古学

■授業計画及び内容

古代ギリシャの遺跡と美術を中心に、エジプト、オリエントの考古遺跡（イスラエルのカエサリア遺跡など）も加え、古代地中海世界の文化を考察する。

- 1 考古学とは何か。
- 2～3 発掘の実際（イスラエル カエサリア）
- 4～5 エジプト
- 6～10 トロイの遺跡・発掘・ギリシャ神話との関係
- 11 ギリシャの考古学概観（青銅器時代～ヘレニズム時代）
- 12～15 エーゲ考古学
- 16～20 ギリシャ・アルカイック～クラシック期（アクロポリスの発掘・パルテノン神殿）
- 21～25 アルカイック～ヘレニズム期（アテネ以外の地域）デルフィ・マケドニアほか。

■受講に当たっての留意事項

美術館・博物館へ積極的に足を運び、実物を見ること。

■成績評価方法

出席を重視する。筆記試験（資料持ち込み不可）。

■教科書／参考書

『古代地中海世界の歴史』（ちくま学芸文庫 2012年）

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	生物学 Biology		
教員名	服部 淳彦		
開講時期	前期：木曜 5 限 後期：火曜 5 限	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生		
特記事項	前期・後期 の時間割が違うので注意すること。		

■授業テーマ

ヒトを中心として様々な生物の遺伝子や各臓器の構造と機能について学び、「地球上で生きているとはどういうことか」を生物学的な視点から理解し、大学教育の大きな目標である、さまざまな視点を持つことに、生物学的な視点を加えられるようにする。

■授業計画及び内容

身の回りに起こるヒトをはじめ様々な生物の生命現象を入り口にして、ある程度生命科学を理解したのちに、「体内時計」や「老化と寿命」、さらには「生命と重力」(宇宙生物学)に関して学ぶ。講義は、以下のようなトピックスを中心にすすめる。

- 1 ヒトの遺伝子と遺伝病について
- 2 性格や能力はどこまで遺伝子で決まる？
- 3 兄弟姉妹が違うのはなぜか
- 4 遺伝子の突然変異の種類と異常が生じる頻度
- 5 芸術に遺伝子はどこまで関係するか。
- 6 細胞内で遺伝子からタンパク質が作られるまで
- 7 遺伝子組み換え植物とクローン技術の応用
- 8 遺伝子の診断技術と遺伝子治療の現状
- 9 生物の進化
ーダーウィンの自然淘汰説と分子進化の中立説
- 10 人類の進化と未来
- 11 細胞からどのようにして個体ができるのか
- 12 栄養の供給と消化管の役割
- 13 傷の修復と血液の成分
- 14 体液とイオンバランスと腎臓の働き
- 15 成長と軟骨・骨
- 16 血糖値・血圧の調節と内分泌系
- 17 病原体への対応と免疫系
- 18 生体リズム
- 19 体内時計
- 20 老化と寿命
- 21 宇宙生物学

1つのトピックに対して、およそ1～2回分の予定で授業をすすめる。

■受講に当たっての留意事項

通年の授業です(前期のみ、後期のみは認められません)。
*前期と後期で開講される曜日(前期：木5、後期：火5)が異なりますので、注意して下さい。

■成績評価方法

出席(重視)、レポートや試験等で総合的に評価する。

■教科書／参考書

参考書:「ワークブックで学ぶ 生物学の基礎(第2版)」、Greenwood et al. 共著、後藤監訳、オーム社(2011)。
授業のときに、適宜、参考図書を紹介するとともに、コピー等も配布する。

■備考(オフィスアワー)

講義を行う日の講義終了後、美術教育(美術学部中央棟地下1階)研究室

授業科目名	環境と防災の科学 Science of environment and disaster prevention			
教員名	桐野 文良			
開講時期	前期	水曜 5	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

21世紀に活躍する芸術家にとって環境への配慮や安全配慮は必須である。そこで、本講義では創作活動を行う上での基本的な環境と防災の知識の習得が目標である。制作等をおこなう上で自らの安全を確保するとともに周囲の人への安全配慮の重要性および環境に関する社会的な要請と個人・組織の責任の基本的な事項について述べ、防災と環境に関する基礎的かつ自然科学的な知識と考え方の基本を身につける。一方的な講義としないで自ら考えることを基本として進める。

■授業計画及び内容

1. 安全の基礎
2. リスクアセスメント
3. 化学安全、機械安全および電気安全の具体例
4. 法的規制と安全衛生管理
5. 安全教育
6. 防災科学と消防の科学
7. 環境科学の基礎
8. 公害の歴史から学ぶこと
9. 『成長の限界』、『沈黙の春』をめぐって
10. 法的規制と自主的な取組み (ISO14000 シリーズ)
11. 地球環境問題とエコ(環境と気象)
12. 環境アセスメントと環境社会学
13. 環境とエネルギー
14. ライフサイクルアセスメント(環境と廃棄物について)
15. 環境と防災の今後の展開ー総括にかえて

■受講に当たっての留意事項

学生の参加型授業とするのでゼミ形式を基本とします。講義中は互いに議論を展開するので自らの考えを述べるなど積極的な授業参加を希望します。

■成績評価方法

出席点

■教科書／参考書

講義時間中に適宜配布する。

■備考(オフィスアワー)

水曜日 9:00～17:00

授業科目名	環境と防災の科学 (取手) Science of environment and disaster prevention			
教員名	桐野 文良			
開講時期	後期	火曜 1	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

21世紀に活躍する芸術家にとって環境への配慮や安全配慮は必須である。そこで、本講義では創作活動を行う上での基本的な環境と防災の知識の習得が目標である。制作等をおこなう上で自らの安全を確保するとともに周囲の人への安全配慮の重要性および環境に関する社会的な要請と個人・組織の責任の基本的な事項について述べ、防災と環境に関する基礎的かつ自然科学的な知識と考え方の基本を身につける。一方的な講義としないで自ら考えることを基本として進める。

■授業計画及び内容

1. 安全の基礎
2. リスクアセスメント
3. 化学安全、機械安全および電気安全の具体例
4. 法的規制と安全衛生管理
5. 安全教育
6. 防災科学と消防の科学
7. 環境科学の基礎
8. 公害の歴史から学ぶこと
9. 『成長の限界』、『沈黙の春』をめぐって
10. 法的規制と自主的な取組み (ISO14000 シリーズ)
11. 地球環境問題とエコ (環境と気象)
12. 環境アセスメントと環境社会学
13. 環境とエネルギー
14. ライフサイクルアセスメント (環境と廃棄物について)
15. 環境と防災の今後の展開 — 総括にかえて

■受講に当たっての留意事項

学生の参加型授業とするのでゼミ形式を基本とします。講義中は互いに議論を展開するので自らの考えを述べるなど積極的な授業参加を希望します。

■成績評価方法

出席点

■教科書／参考書

講義時間中に適宜配布する。

■備考 (オフィスアワー)

火曜日 9:00～17:00

授業科目名	フランス文学 French Literature			
教員名	大森 晋輔			
開講時期	通年	水曜 4	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

フランス近代の代表的な文学作品の講読

■授業計画及び内容

19世紀中葉から20世紀前半にかけてフランス語で書かれた詩作品を一定の作法に従って読むことで、詩の醍醐味を多角的に味わう。作曲家によって詩に付曲された歌曲作品についても検討する。

■受講に当たっての留意事項

詩という、原理的には翻訳不可能なものを味わうことを主な目的とするため、原文の参照なしには授業が成り立たない。初級程度のフランス語をすでに習得していること、あるいは習得中であることが望ましい。

■成績評価方法

出席、授業への参加度、レポート、発表。

■教科書／参考書

大森晋輔『フランスの詩と歌の愉しみ』、東京藝術大学出版会、2012年 (教員からの直接購入が可能。割引あり) を副読本とし、適宜プリントを配布する。

■備考 (オフィスアワー)

水曜 11時～。事前連絡のこと。

授業科目名	ドイツ文学 I (詩) German Literature I (Poem)			
教員名	檜山 哲彦			
開講時期	通年	水曜 4	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

ドイツの詩を読む

■授業計画及び内容

リートなどの形で付曲されている詩（18世紀後半から20世紀初頭にいたるまでの詩）を主たる対象とする。

各時間ごとの担当者の作成するプリント（対訳、解釈、詩や詩人についての知見など）をもとにしつつ、以下の点に重点を置きながら、詩を多面的・多層的に読み進めてゆく。

1) 内容の読解、解釈、日本語への翻訳 2) 韻律法 3) 原詩の朗読

■受講に当たっての留意事項

ドイツ語の基礎的な読解力があることが望ましい。

■成績評価方法

担当発表の平常点によるが、レポートを課すこともある。

■教科書／参考書

教材はコピーを配布する。参考書：「ドイツ名詩選」（岩波文庫）

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	英米文学 English and American Literature			
教員名	侘美 真理			
開講時期	通年	火曜 3	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

19世紀から20世紀に書かれた英国の幽霊・怪奇小説について概観する。幽霊などの怪奇・幻想のモチーフはなぜ小説にとって魅力的なのか。それぞれの小説における幽霊の果たす役割から、小説という虚構における「幽霊」の意義について、さらには英国小説における幽霊表象の変遷について概観する。

■授業計画及び内容

イントロダクションの後、1, 2回ごとにテーマを決めて幽霊小説を見ていく。

前期は、主に19世紀の作家を時代順に取り上げる。チャールズ・ディケンズの『クリスマス・キャロル』・「信号手」、エミリー・ブロンテの『嵐が丘』など、有名な長・中篇を扱う他、19世紀にとりわけ多い短篇あるいは詩も積極的に読んでいく。その他、幻想、超自然現象、お化け、吸血鬼、分身、謎探しなど多岐にわたるジャンルにも目を通す。

後期は、主に19世紀末から20世紀初頭の作家を時代順に取り上げる。コナン・ドイル、ラドヤード・キプリング、H・G・ウェルズなど。科学技術への関心、心霊写真、戦争の影響などこの時代ならではの幽霊表象を見る。また、現代に続く幽霊物語との共通点・相違点がどこにあるのかも考察する。

多くの原文に触れてもらうつもりだが、翻訳も可。

詳細・スケジュールは初回の授業で説明する。

■受講に当たっての留意事項

①自分の芸術性を豊かにするため、専門以外の分野も積極的に学ぶ姿勢が望まれる。

②初回の授業は授業の進め方や評価について詳細に説明するので、必ず出席すること。

■成績評価方法

出席（20%）、平常点（20%）、期末試験（60%）

■教科書／参考書

基本的にプリントを用意する。個々の小説・作品のタイトルは、前もって読んできてもらう場合、邦訳タイトルを含めその都度伝える。

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	美学 Aesthetics			
教員名	津上 英輔			
開講時期	通年	水曜 2	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

芸術と美について考える

■授業計画及び内容

- 1 導入
2. 芸術とは何か (1) : わざの中のわざ
3. 芸術とは何か (2) : わざのためのわざ
4. 芸術とは何か (3) : わざを超えるわざ
5. 芸術作品
6. 芸術の分類
7. 質問に答えて (1)
8. 芸術と娯楽
9. 芸術とスポーツ
10. 贋作
11. 芸術と猥褻 (Blackwell Companion)
12. 感傷性 (Blackwell Companion)
13. 音楽の政治性
14. 質問に答えて (2)
15. まとめ
16. 前期試験の解説
17. 美 (1)
18. 美 (2)
19. 美学 (1) <BR 美学 (2)
21. />20. 美と美的
22. 質問に答えて (3)
23. 感性的質の変化 (1)
24. 感性的質の変化 (2)
25. 観光美学
26. 飲食美学 (Blackwell Companion)
27. 環境美学
28. 日常美学
29. 質問に答えて (4)
30. まとめ

■受講に当たっての留意事項

特になし。

■成績評価方法

前期末と後期末に試験を行ない、その点数の平均を学年成績とする。

■教科書／参考書

Stephen Davies et all.

■備考 (オフィスアワー)

特になし。

授業科目名	演劇論 Seminar of Theater Production			
教員名	篠崎 光正			
開講時期	通年	金曜 3	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

劇的な状況をめぐって

■授業計画及び内容

- ①第1回目はこの講義概要の説明。この演劇論の講義において、演劇とは何か、演劇批評とは何か、演技とは何かを考える講義内容の説明。
- ②ビデオ鑑賞①により、舞台演劇についての実際と演劇とは何かを考える。また、演劇批評を通して、演劇鑑賞方法を考える。
- ③シノザキシステム (篠崎光正演技術) の「呼吸」とは何かを考え、さらに「感動」を題材にして、演劇の「心のミラー現象」を論じる。この回はビデオ鑑賞②による演劇鑑賞。さらに次週までに鑑賞した舞台作品についての批判課題。
- ④「二つの神経」を題材にして、現実と虚構の世界について論じる。実際に二つの神経をどのように使うのかを実技で試しながら、演劇的創造方法を論じる。演劇では、他の芸術ジャンルと同様、イメージを使うことにより、演劇表現を行っているが、そのメカニズムについて検証する。この回はビデオ鑑賞は無い。
- ⑤「三つの間」を題材にして、演劇の最大の特徴である人間の心情について論じる。「受け演技」とは何か、「間合い」とは何か、3つの「間」とは何かを論じる。この回はビデオ鑑賞③による演劇鑑賞を含む。
- ⑥この回は「笑い」の演劇について論じる。「笑い」の演劇を鑑賞する場合、感情移入が起ることは、ニーチェの「悲劇の誕生」などでも論じられているが、ここでは実際に演劇と演技のもっとも不思議な、そして大きな劇的な感情を生むメカニズムを考える。さらに「ダズデザドゼ」を題材に、セリフ表現について論じる。演劇は言葉を使う芸術であるが、その言葉を支える演劇的発音について検証する。特に日本語に隠された秘密について、その現象を含め考える。実技課題としては、「外郎売」を取り上げ、実際にそれを音声化しながら日本語の魅力と共に、演劇のセリフ表現について論じるこの回はビデオ鑑賞による演劇鑑賞は無い。
- ⑦演技を受けることについてそのメカニズムを考える。「髪の毛をひっぱる」を題材に想像力と演技の関係を演技により考える。「受ける」という意味を考えビデオ鑑賞④によりその演技的效果の実際を考える。さらに次週までに、今回鑑賞した舞台作品についての批判課題。
- ⑧「真似」は昔から演技の本質のように言われてきた。この理由と真似の持つ意味について、演技と比較しながら検証する。それと共に、リアリティとデフォルメについても考える。日常のリアリティと舞台のリアリティの違いを実際に演技で検証する。この回はビデオ鑑賞⑤によりその演劇的效果を考える。さらに次週までに、今回鑑賞した舞台作品についての批判課題。
- ⑨「スローモーション」演劇には、現実の時間の流れと、想像上の時間の流れが同時に存在する。その中で演劇的行為が時間軸を大きく揺るがす表現を行うのは何故かを考える。ビデオ鑑賞⑥によりその演劇的效果の実際を考える。さらに次週までに、今回鑑賞した舞台作品についての批判課題。
- ⑩「大学を落ちて浪人」演劇的な構造とは、どのような事をいうのかを考えると共に、その中で「ウソ」と「本当」の逆転現象を分析検証する。ビデオ鑑賞⑦によりその演劇的效果の実際を考える。さらに次週までに、今回鑑賞した舞台作品についての批判課題。
- ⑪「母親の涙」人間の心の働きについて、その基本的な構造を考える。その中で最も注目を集める「感動」について、そのメカニズムを解き明かす。「ミラー現象」として考えるものは一体何か。ビデオ鑑賞⑧によりその演劇的效果の実際を考える。さらに次週までに、今回鑑賞した舞台作品についての批判課題。
- ⑫以上総合まとめ

授業は講義とビデオ鑑賞、そして各自の批判作業という内容を主体とし、時には実際に演じてもらったり、あるいは朗読してもらったり、身体でも感じてもらう時間をつくります。

■受講に当たっての留意事項

演劇未経験者、および演劇未体験者、感動少体験者歓迎

■成績評価方法

筆記試験（前期後期）と出席状況

■教科書／参考書

「篠崎光正演技術」晩成書房を使用

■備考（オフィスアワー）

講義終了後 30 分

授業科目名	歴史 History			
教員名	石井 規衛			
開講時期	通年	木曜 2	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

おもに 20 世紀の世界で起った様々な事件をとりあげて多面的に検討しながら、それに人々がどのように対応し、また苦悩し、そしてどのように生き抜いてきたのか、という貴重な体験を、現代の私たちの生活とたえず突き合わせることを通して、歴史の重さと、「今、現在」の意味を問い直すこと。

■授業計画及び内容

- ・前史（18 世紀と 19 世紀）、世紀末の時代。
 - ・第一次世界大戦とロシア革命。
 - ・戦間期の世界。
 - ・第二次世界大戦。
 - ・冷戦期。
 - ・ソ連文明の崩壊と「グローバル」。
 - ・「端緒的」現代の終焉か、現代のはじまりか。
- 以上のような時代ごとに、世界を、経済、政治、文化など多面的に説明する。
- 全体としては、(1) 20 世紀という時代のあり方をつよく規程していたロシア・ソ連文明のあり方を、やや詳しく触れること、(2) つねに日本の歩みと関係づけること、の 2 点で、特色を出す。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

平常点 80%

課題の遂行 20%

■教科書／参考書

必要に応じて映像資料を用いる。

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	経済学 Economics			
教員名	枝川 明敬			
開講時期	通年	火曜 4	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

将来、文化芸術活動に携わる受講生に対し、経済活動と文化芸術活動との関連性を中心として、基礎的な経済学の知識や考え方について教授する。

■授業計画及び内容

前期期間

1. 社会における経済活動
 2. 経済活動と経済学（主にミクロ経済学）及び経済学の基礎理論・知識・考え方
 - (1) 経済学とは
 - (2) 市場メカニズム
 - (3) 家計の行動と最適消費
 - (4) 需要と供給
 - (5) 完全競争と不完全競争
 3. 経済活動と文化芸術活動
 - (1) 産業と文化芸術活動
 - (2) 文化産業と産業関連分析
 - (3) 地域振興（開発）と文化芸術活動
 4. 現在の経済事象のトピックス
- (注) 必要に応じ、経済政策面についても触れる。

後期期間

1. 企業戦略
 - (1) 戦略計画
 - (2) 事業戦略
2. マーケティング
 - (1) マーケティング機会－環境分析
 - (2) マーケティング戦略
 - ・市場と細分化
 - ・標的市場
 - (3) マーケティング戦略

■受講に当たっての留意事項

細かな知識の機械的な記憶より、経済学における考え方について習得することを重点とする。経済関係の新聞記事等を適宜読み、経済の動きを知っておくことが望ましい。

■成績評価方法

前・後期 1回ずつの試験またはレポート及び出席回数

■教科書／参考書

教材：必要に応じて資料を配布。参考書：経済学の入門的な関係の書籍等 一例：伊藤善一『現代人の経済学』有斐閣選書（本著は、ミクロ・マクロ経済学の基礎的知識が習得できかつ数式も無いので理解しやすい）、宇沢弘文『経済学の考え方』、奥村昭博『経営戦略』、木幡健一『マーケティングの基本がわかる本』

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	思想史 History of Thoughts			
教員名	高山 守			
開講時期	通年	火曜 2	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

「思想」の凝縮である「哲学（西洋哲学）」の歴史を、芸術もしくは美の問題と関連させつつ、お話する。

■授業計画及び内容

「思想」とは、大変広い概念である。政治思想、経済思想、社会思想、平和思想等と言われるし、また、孔子の思想、世阿弥の思想、ソクラテスの思想、ゲーテの思想等とも言われる。要するに、私たち人間の営みの根幹にいくぶんでも触れるような、ある程度まとまって展開される人々の考えは、すべて思想である。こうした幅広く多様な思想のなかで、その凝縮とも言われうるものがある。「哲学」である。それは、ひたすら人間の営みの根幹に迫ろうとする「思想」だと言えよう。しかも、こうした「思想」・「哲学」とは、実は意外にも芸術と近い関係にある。まずは、この哲学と芸術との親近性について、ドイツ近代の哲学（シェリングとヘーゲル）に即してお話する。

その後、古代ギリシアから現代に至る哲学の歴史をたどるが、通り一遍の概説ではなく、哲学の奥行きあるおもしろさをお話できればと思っている。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

前期末および後期末の筆記試験によるが、出席状況も考慮する。

■教科書／参考書

適宜プリントを配布する。

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	宗教学 Comparative Religion		
教員名	市川 裕		
開講時期	集中	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生		
特記事項			

■授業テーマ

一神教の歴史と思想：近現代と宗教、そして芸術の理解に向けて

■授業計画及び内容

一神教に属する3つの宗教、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の特徴を把握するにあたり、ユダヤ教からの視点を中心に捉え、私たちが生きる近現代が人類の宗教史において持っている特徴を考察する。集中講義の前半で、「一神教の世界宗教史」を扱い、後半では、「日本の宗教および現代の価値論」を取り上げる。

視点は、私がユダヤ教を専門としていることから、ユダヤ教を通して、他の2つの宗教の特徴を引き出すというやり方を採用する。ユダヤ教は、旧約聖書を唯一の「聖書」として、キリスト教とは異なる新興態度を示し、法秩序を包摂する点でイスラム教と類似した宗教共同体を形成して今日に至ったからである。

また、日本に生きている以上、一神教とは異なる特徴をもつ宗教伝統との比較考察に留意して特徴を把握したい。

宗教儀礼や美術、歴史的事件などを知るために、できるだけビデオやCDなど視聴覚教材を使いたい。

■受講に当たっての留意事項

とくになし

■成績評価方法

レポートと出席。最後に、講義の感想を書いてもらいます。

■教科書／参考書

講義で指示する。

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	アートマネジメント概論 Lecture on Art-Management		
教員名	枝川 明敬		
開講時期	通年	火曜 5	単位 4
履修対象	美術・音楽学部生		
特記事項			

■授業テーマ

芸術経営の理念と役割、その制度的枠組み、芸術・文化支援活動の実態など

■授業計画及び内容

芸術文化活動が盛んになるにつれ、先進国を中心に、急速にその必要性が認識されるようになってきた「芸術経営＝アート・マネジメント」は、アメリカでは商業文化の著しい進展から、マーケティングを主体とした経営方策の一環として議論されている。

本講義では、今日の芸術・文化の問題点を踏まえながら、芸術経営の理念と役割、その制度的枠組み、芸術・文化支援活動の実態などを考察するとともに、実演芸術、ファインアーツに分けながら、劇場、美術館等の歴史と運営方法をアメリカの流れをくむ経営手法を一つの切り口として考え、近年地方において多く開設されている文化会館、美術館等への地域文化振興の現状とあり方にも触れる。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

出席状況、期末のレポートにより行なう。

■教科書／参考書

枝川明敬『文化芸術の経営・政策論』小学館スクウェア【参】浅利慶太『四季 21世紀へのまなざし』慶応出版会、植田神爾『宝塚百年の夢』文芸春秋、Bernstein, J., S. "Arts Marketing Insight", Throsby, D., "Economic & Culture", Toffler, A., "The Culture Consumers"

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	社会基盤としての芸術 I Art As Social Infrastructure 1			
教員名	伊東 順二			
開講時期	前期	木曜 3	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

従来、芸術もしくはその前提条件としての文化は社会の限定された層でのみの価値でしか問われることはなく、その領域における表現や活動も社会を構成する基盤としてではなく、その前提条件を満たした上での余剰的なものとして受け止められてきた。しかし、ここでは芸術文化という領域そしてその表現や活動を、社会の第一義的な構成要素とみなし、人間社会を支える基盤の一つとしてとらえ直すことによって、芸術文化に対する根本的な視点の転回を試みる。

■授業計画及び内容

全 15 回をそれぞれ 3 ブロックに分け、社会を構成する五つの領域それぞれにおける芸術文化の役割とそこから生み出される感性と知識、経験の社会的重要性を説いていく。講義形式とそれぞれのブロックにおいて現実に指導的な立場でマネジメントにあたる講師を招聘することで、現実社会の動向とリンクする実学としての芸術マネジメント技術の習得と芸大生が身につけている技術と知識を用いた社会参加、貢献へのビジョンを具体的に示唆していく。

第 1 回 芸術の原点と現在

第 2, 3 回 情報拠点としての芸術文化施設 (美術館、コンサートホール、文化コンプレックス)

第 4, 5, 6 回 まちづくり基盤としての芸術文化 (地方行政、都市計画、文化資源)

第 7, 8, 9 回 国際関係プロトコルとしての芸術 (外交、相互支援、環境問題)

第 10, 11, 12 回 経済産業基盤としての芸術 (工芸、メディア芸術、デザイン)

第 13, 14 回 未来予測基盤としての芸術 (情報工学、科学技術)

第 15 回 総括

全体を通じて芸術文化が果たしうる社会貢献と、そのマネジメントの現在と未来を説くことによって、芸術を学ぶ学生たちの人材資源としての重要性とそれについての自覚を促すものとした。

2013 年度のゲスト：隈研吾、恵良隆二、秋元雄史、井上隆史、平田オリザ、河口洋一郎、本木克英、宮廻正明、森雅志、谷内正太郎、池宮中夫、上野景文

■受講に当たっての留意事項

授業ブロックごとに講義で示唆します。

■成績評価方法

出席とレポート

■教科書／参考書

特になし。過去の芸術観を捨ててください。

■備考 (オフィスアワー)

木曜日 (社会連携センター)

授業科目名	社会基盤としての芸術 II Art As Social Infrastructure 2			
教員名	伊東 順二			
開講時期	後期	木曜 3	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

従来、芸術もしくはその前提条件としての文化は社会の限定された層でのみの価値でしか問われることはなく、その領域における表現や活動も社会を構成する基盤としてではなく、その前提条件を満たした上での余剰的なものとして受け止められてきた。しかし、ここでは芸術文化という領域そしてその表現や活動を、社会の第一義的な構成要素とみなし、人間社会を支える基盤の一つとしてとらえ直すことによって、芸術文化に対する根本的な視点の転回を試みる。

■授業計画及び内容

全 15 回をそれぞれ 3 ブロックに分け、社会を構成する五つの領域それぞれにおける芸術文化の役割とそこから生み出される感性と知識、経験の社会的重要性を説いていく。講義形式とそれぞれのブロックにおいて現実に指導的な立場でマネジメントにあたる講師を招聘することで、現実社会の動向とリンクする実学としての芸術マネジメント技術の習得と芸大生が身につけている技術と知識を用いた社会参加、貢献へのビジョンを具体的に示唆していく。

第 1 回 芸術の原点と現在

第 2, 3 回 情報拠点としての芸術文化施設 (美術館、コンサートホール、文化コンプレックス)

第 4, 5, 6 回 まちづくり基盤としての芸術文化 (地方行政、都市計画、文化資源)

第 7, 8, 9 回 国際関係プロトコルとしての芸術 (外交、相互支援、環境問題)

第 10, 11, 12 回 経済産業基盤としての芸術 (工芸、メディア芸術、デザイン)

第 13, 14 回 未来予測基盤としての芸術 (情報工学、科学技術)

第 15 回 総括

全体を通じて芸術文化が果たしうる社会貢献と、そのマネジメントの現在と未来を説くことによって、芸術を学ぶ学生たちの人材資源としての重要性とそれについての自覚を促すものとした。

2013 年度のゲスト：隈研吾、恵良隆二、秋元雄史、井上隆史、平田オリザ、河口洋一郎、本木克英、宮廻正明、森雅志、谷内正太郎、池宮中夫、上野景文

■受講に当たっての留意事項

授業ブロックごとに講義で示唆します。

■成績評価方法

出席とレポート

■教科書／参考書

特になし。過去の芸術観を捨ててください。

■備考 (オフィスアワー)

木曜日 (社会連携センター)

授業科目名	文化人類学 Cultural Anthropology			
教員名	加原 奈穂子			
開講時期	通年	金曜 2	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

文化の多様性と現代

■授業計画及び内容

文化の多様性とは、如何なるものか。文化人類学という学問の特質は、どのようなものか。これらのことを念頭におきながら、“人間”、“文化”、“多様性”、“普遍性”などという語の意味を考察し、次いで、食べ物や装い、コミュニケーション、見る、聞く、触れる、といった身近な話題を例に挙げながら、世界の人々が外界の事物をどのようにとらえているのかを探る。また、人々は他者との関係をどのように持ち、自分の世界を如何に表現しているのか、そのためには、如何なる状況の中で何をどのように使っているのか、といったようなことをも考える。話題は、主に20世紀以降のことに絞る。この講義では、単なる概論的介绍にとどまらず、具体的な土地の事例を取り上げながら、近年の文化人類学の状況、現代の世界で文化が直面している諸問題についても考慮してゆきたい。

■受講に当たっての留意事項

この授業は、いろいろなことを記憶することを目的とするものではなくて、自分で考える機会を持つためのものである。積極的な授業出席が望ましい。

■成績評価方法

平常点（出席など）・レポート・試験

■教科書／参考書

講義の際に紹介する。

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	芸術史 Arts History			
教員名	木方 幹人			
開講時期	前期	金曜 4	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

私たちの社会において「芸術」は、欠くべからざるものとして語られ理解されている。なぜそうなっているのかという基本的な思想的枠組みを歴史に沿って講じつつ、現代につながる芸術（アート）と社会のアクチュアルな問題を、絶えず聴講者に問いかけていきたい。難解な用語はなるべく避けて身近な例や最新的话题を挙げつつ説明していきたいと思います。

■授業計画及び内容

- 1) 地に足の着いた具体性を持つための芸術史（「芸術」＋「歴史」）の考え方へ。
- 2) 近代思想（「人間」の成立）と物理学を基礎とする我々の宇宙観。
- 3) カントによるエстетイック（美的直感的）な次元の成立。
- 4) シラーの美学思想と現在にまで及ぶその影響（例：ベートーヴェン第9交響曲）
- 5) ロマン主義（広義）と自律する近代的芸術観の普及。
- 6) ヘーゲルによる「歴史（弁証法）」の成立と「時代」意識の成立。
- 7) 美的次元における分類概念から各芸術ジャンルにおける実証的研究成果へ。
- 8) 近代社会の現実（国民の創出）に寄与する芸術に関わる装置や制度。
- 9) 美的領域と新たな学問領域（実験心理学、文化人類学、精神分析など）。
- 10) 社会主義革命と「前衛」運動（芸術における自由と行為の問題）。
- 11) 現代芸術論（1）言語論的転回、批評理論、用語「パフォーマンス」。
- 12) 現代芸術論（2）後期資本主義と新たな芸術活動（アクティヴィズムなど）。

■受講に当たっての留意事項

ノートの準備

■成績評価方法

レポート（小論文）

■教科書／参考書

授業中に指示します。

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	芸術論 Essay on Art			
教員名	恩地 元子			
開講時期	前期	木曜 4	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

今日では日常的に使用されるようになってきている「コラボレーション」という状態について、20世紀初頭の芸術運動から今日の創作活動にいたる様々な事例を挙げながら、理解を深める。さらにそれが、作品の総合性、ハイブリディティにどのように関与しているか考える。

■授業計画及び内容

- ・共同性の思想について、主に哲学などを参照しながら知識を得る。
- ・20世紀の、複数のジャンルにわたる芸術運動、芸術活動を検証する。親密な共同体というより、個々の要員の差異を際立たせるような局面に注目する。

具体的な事例は、戦前については未来派、ダダイスム、シュルレアリスム、ロシア・バレエ団とその周辺、戦後については、日本で上演に接することのできたパフォーマンス・アーツ領域の作品を採り上げる。

- ・受講者の顔ぶれによっては、ひとつの作品（あるいは一人の作者）を詳しく分析したい。

■受講に当たっての留意事項

テーマに即した催しは、随時、紹介するので、可能なかぎり体験する。詳細は、最初の授業で指示する。

■成績評価方法

出席状況、受講態度、レポートによって行う。

■教科書／参考書

随時、資料などを配布し、視聴覚資料も用いる。テーマに即した催しがあれば、実際にクラスで鑑賞することもある。また、個別的な問題についての参考文献も、随時、指示する。

■備考（オフィスアワー）

最初の授業で指示する。

授業科目名	臨床音楽入門 Intoroduction to the clinically applied music			
教員名	今野 貴子			
開講時期	通年	水曜 3	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

音楽をノンバーバルコミュニケーションのツールとしてとらえ、音楽療法を含む様々な対象者にあわせ、音楽をいかに利用するかの実践方法を習得する。

■授業計画及び内容

授業では、様々な対象者にあわせて音楽を使う上での基本的な考え方や技法について説明するほか、実際に音を出したり意見交換をしたりしながら、音楽の使い方を実践的に習得する。

- 1, 臨床における音・音楽・楽器の使い方について
- 2, 対象者の観察、情報の重要性
- 3, 発達障害児を対象とした音楽療法技法
- 4, 高齢者を対象とした音楽療法技法
- 5, 乳幼児を対象とした音楽技法
- 6, 様々な施設、対象者に合わせた音楽療法、音楽活動および演奏会について
- 7, 即興について

■受講に当たっての留意事項

千住校地開設。履修を希望する者はかならず初回に出席すること。

■成績評価方法

出席および授業参加態度
レポートの提出

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	メディア・リテラシー Media and Literacy			
教員名	水越 伸			
開講時期	前期	月曜 5	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

メディア・リテラシーとはメディアの特性を理解し、情報を批判的に読み解くとともに、主体的に表現、発信していくための複合的な力を意味します。メディアが多様化し、情報が溢れる社会になりつつある中、メディアと批判的かつ積極的に付き合っていくための素養や能力はますます大切になっていきます。ここでいう「表現」「発信」とは、狭い意味での音楽やアートなどの創作活動だけではなく、メディアに媒介されるコミュニケーション活動全般のことを広く指しています。本授業では、このような意味でのメディア・リテラシーの考え方の基本や応用を、講義とワークショップを織りまぜながら学んでいきます。

■授業計画及び内容

講義形式とグループによるワークショップを組み合わせて進める予定

(A) 講義形式

私たちが日ごろ無意識のうちに接しているメディアについて、その文化的・社会的特性を知ることが、今後の情報が溢れるデジタル・メディア社会で生きていくために、また創造、発信活動をより豊かなものにしていくために、とても重要です。講義ではまず、メディア・リテラシーの概念や、メディアそのものの構造について、導入的かつ俯瞰的な概説をおこないます。

(B) ワークショップ形式

メディアの情報がどのように構成されているかを、頭だけではなく体を動かしながら体得していくために、メディア・リテラシーに関するミニワークショップも並行して行っていきます。その内容や進め方については、参加者の人数や状況を踏まえて決めていきたいと思いますが、参加者自らが主体的に活動をデザインしていくことが求められます。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

出席、ワークショップの内容、最終レポートなどから総合的に判断します。

授業形態の特性上、出席を重視します。

■教科書／参考書

水越伸『メディア・ビオトープ：メディアの生態系をデザインする』（紀伊国屋書店、2005年）

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	ポップ論 Inquiry on Pop			
教員名	桜井 圭介			
開講時期	通年	水曜 4	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

20世紀の大衆文化、とりわけ、“規範的な・マジョリティの”文化に対する“マイナーな者たち”の対抗文化としての「ポップ・カルチャー」を考察する。

■授業計画及び内容

- ・1969年（ウッドストック）にいたるまでのアメリカン・ポップ・ミュージック史
- ・1980年代前半の日本のポップ・カルチャー概観
- ・「ポップ・アート」から始まるアートにおけるポップ（という語義矛盾）

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

前期・後期にレポートを提出。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	音楽文化史 History of western musical culture			
教員名	坂崎 紀			
開講時期	通年	月曜 4	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

古代から現代にいたるまでの西洋音楽の歴史を理解し、時代や様式の違いを聞きわける能力を身につけます。まず各時代の全般的傾向を把握し、それぞれの時代の音楽のありかたを考えます。また、音楽の発展に影響する外的要因（政治・経済などの社会状況や他の文化・芸術との関連）も考察します。ついでテキスト掲載の楽曲例の特徴を確認し、録音資料を聴くことによって具体的な音の変遷として西洋音楽史を理解します。

■授業計画及び内容

※ [] 内は予定回数

・前期：

1. ガイダンスと導入：音楽史の時代区分と、代表的楽曲について [1]

2. 先史時代と古代文明・古代ギリシャの音楽思想と音楽 [2]

3. 中世 [3]

4. 音楽におけるルネサンス：15世紀後半～16世紀 [3]

5. バロック [3]

前期試験 [1]

・後期：

6. 古典主義 [3]

7. ロマン主義 [3]

8. 近現代 [3]

9. ジャズと中南米の大衆音楽 [3]

後期試験 [1]

■受講に当たっての留意事項

(1) 教科書は毎回参照しますので必ず用意して下さい。1回目の授業時に申込みを受け付け、2回目の授業時に頒布します。(2) 授業時には蛍光黄色、ピンクなど薄い色のマーカーを用意して下さい(楽譜などのポイントをマークします)。

■成績評価方法

前期末および後期末に筆記試験を行います。録音資料を聴いて、時代・様式・形式などを判別する問題を出題します。

■教科書／参考書

教科書：坂崎紀編著『西洋音楽史－譜例と解説』（アカデミア・ミュージック）

参考書：『カラー図解音楽事典』（白水社）、『音楽大事典』（平凡社）

■備考（オフィスアワー）

担当者メールアドレス：[mail]sakazaki@ari.bekkoame.ne.jp[/mail]

連絡用ウェブページ(携帯対応)：[link]http://www.bekkoame.ne.jp/~sakazaki/mce/[/link]

授業科目名	メディア論 Media Studies			
教員名	若林 幹夫			
開講時期	通年	木曜 2	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

メディアと文化、社会の関係について、「話す／聴く」「書く／読む」「記録する／再生する」「蓄積する／流通する／共有する」といった点から、比較社会的かつ社会史的な視点から、理論的かつ具体的に検討する。

■授業計画及び内容

メディアと社会、文化についての導入的な解説を行った上で、上記のテーマに関連して、受講者の問題関心も考慮して、テキストを選択して輪読する。また、そのテキストと関連した映像・音響作品の鑑賞・検討や、参加者のレポートの検討などを通じて、上記のテーマについて多角的な議論と考察を進めてゆく。社会的な視点や理論が考察の基軸となるが、社会学についての予備的な知識は必要としない。

■受講に当たっての留意事項

演習形式でおこなうので、継続的な出席、報告、討論への積極的な参加が求められる。

■成績評価方法

出席、報告、討論、レポートを総合して評価する。

■教科書／参考書

受講者と相談のうえ決定する。

■備考（オフィスアワー）

非常勤なので、オフィスアワーは設定しない。質問等は授業時におこなうこと。教員の連絡先等は、授業で連絡する。

授業科目名	英語総合講座（言語学入門） Comprehensive Study of English			
教員名	磯部 美和			
開講時期	通年	水曜 2	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

英語から見た日本語とその獲得

■授業計画及び内容

私たちが母語として身につけている日本語の興味深い特徴を、英語や他の外国語、日本語の方言と比較しながら検討する。また、人間がどのように母語を獲得するのか、という問いも取り上げる。（したがって、この授業では、他の英語科目で行うような英語の運用能力を高める練習等を行わない。）

具体的には、主に以下の項目について順次解説していく予定である。受講者とのディスカッションを多く取り入れる。

1. 英語・日本語の持つ性質とその共通性
2. 英語・日本語の獲得過程

■受講に当たっての留意事項

- ・履修希望者は初回の授業に必ず出席すること。初回授業に出られない場合は、4月14日（月）までに言語・音声トレーニングセンター教員室にて、指示を受けること。聴講は不可。
- ・単位は「自由科目」（音楽学部）・「教養科目」（美術学部）として認定される。

■成績評価方法

- ・各学期末レポート・（遅刻回数を含む）出席状況・授業への貢献度を総合的に評価する。特に、ディスカッションへの積極的な参加、および自分の頭でよく考える姿勢を高く評価する。
- ・各学期、総授業回数の1/3以上の無断欠席は失格とする。

■教科書／参考書

<教材>
適宜プリントを配布する。

<参考書>
適時指示する。

■備考（オフィスアワー）

金曜日 15:00-17:00

授業科目名	仏語初級表現法 Fundamental Expressions of French			
教員名	ヴィエル エリック			
開講時期	通年	火曜 4	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

この授業では、将来的に DELF の B1 レベルを取得することを視野に入れています。これは、フランスに留学する際に大学から求められるレベルです。この一般フランス語の授業では、特に DELF の A1 を受けられるレベルに到達することを目指します（詳細はサイト delfdalf.jp を参照）。

■授業計画及び内容

フランス語の基本レベル。日常生活での単純で具体的な状況を理解できる。相手がゆっくり話すなら、簡単なコミュニケーションが可能。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

平常点、出席、授業への参加度。

■教科書／参考書

Crepieux, Callens. "Spirale" Pearson Education Japan. (2450 円)

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

授業科目名	劇場技術論 Theory of Theatre Techniques			
教員名	西川 信廣、大石 泰			
開講時期	通年	水曜 2	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

戯曲や台本を視覚化、立体化するための照明・音響・美術などの舞台技術、ならびにそれらが総合された舞台芸術について、各分野の専門家がワークショップなどを交えながら講義する。また、舞台稽古見学なども随時行う。

■授業計画及び内容

総論を西川、大石が担当し、下記の講師陣（予定）による講義、ワークショップ、舞台稽古の見学を行う。

舞台美術論＝石井強司（舞台美術家）、松井るみ（舞台美術家）
 舞台照明論＝海藤春樹（舞台照明家）、中山奈美（舞台照明家）
 衣装論＝合田瀧秀（衣装デザイナー）、前田文子（衣装プランナー）
 音響論＝山北史郎（音響デザイナー）
 劇場運営論＝衛 紀生（演劇評論家）、吉井澄雄（舞台照明家・劇場コンサルタント）
 舞台技術論＝金井勇一郎（舞台美術家）
 オペラ＝高島 勲（オペラ演出家）
 ミュージカル＝上田 亨（作曲家）
 地域劇場論＝高萩 宏（東京芸術劇場副館長）他

■受講に当たっての留意事項

休講や、舞台稽古見学の集合時間、集合場所の連絡などがあるので、事前に掲示を注意して見る。問い合わせは、演奏芸術センター教員室 050 - 5525 - 2465、または内線 6150 へ。

■成績評価方法

平常点(出席率)を基本として、レポートの提出を求めることもある。

■教科書／参考書

その都度指示する。

■備考（オフィスアワー）

授業時間の前後 30 分間、演奏芸術センター教員室（4-101）

授業科目名	劇場芸術論 Theory of Theatre Arts			
教員名	松下 功、西川 信廣、湯浅 卓雄			
開講時期	通年	火曜 5	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

舞台芸術を、総合芸術としての演劇を中心に、戯曲、台本、演出、演技、音楽など、様々な面から分析的にとらえ、それらが劇場空間の中で、どのように融合し、立体化されるのか、実践も交えながら講義する。

■授業計画及び内容

総論を西川と松下が担当し、下記の講師陣（予定）による講義と実践を行う。

演出論＝鶴山 仁（演出家）、栗山民也（新国立劇場演劇部門芸術監督・演出家）、
 池内美奈子（演出家）、西川信廣（演出家）
 戯曲論＝古城十忍（演出家）、鴻上尚史（劇作家）
 演技論＝角野卓造（俳優）
 劇場音楽＝岩代太郎（作曲家）、
 ミュージカル論＝小池修一郎（宝塚歌劇団作家・演出家）、横山由和（作家・演出家）
 落語論＝三遊亭遊之介（落語家）
 ダンス＝室町あかね（舞踊家）
 ファイティング・コリオグラフ＝渥美 博（ファイティング・コーディネーター）
 演奏論＝林 英哲（和太鼓奏者）他

■受講に当たっての留意事項

休講や、舞台稽古見学の集合時間、集合場所の連絡などがあるので、事前に掲示を注意して見る。問い合わせは、演奏芸術センター教員室 050 - 5525 - 2465、または内線 6150 へ。

■成績評価方法

平常点(出席率)を基本として、レポートの提出を求めることもある。

■教科書／参考書

そのつど指示する

■備考（オフィスアワー）

授業時間の前後 30 分間、演奏芸術センター教員室（4-101）

授業科目名	サウンドレコーディング基礎演習 Sound Recording Practice			
教員名	松田 賢一			
開講時期	通年	木曜 3	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

楽器別、演奏形態別にマイクロホンによる收音技術の基礎を、演習により習得する。CD、放送等で聞かれる音楽表現は收音技術の方法により大きく異なることを体験する。

■授業計画及び内容

1. サウンドレコーディングとは
 - ア. 既存 CD により録音手法、音楽表現の事例を聞く
 - イ. 録音、收音とはどのような技術なのか
 - ウ. 再生音声を想定したサウンドステージ、音声空間の作り方
 - エ. マイクアレンジの方法
2. 演習

楽器別、演奏形態による收音をスタジオ及びホールにて実習

■受講に当たっての留意事項

積極的に演習作業に参加して下さい。録音の音源となる楽器演奏に、積極的に参加して下さい。機材の取り扱いには指示に従ってください。

■成績評価方法

出席率を重視します。評価試験はレポート提出によります。

■教科書／参考書

若林駿介 著 レコーディング技法入門 オーム社

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	アジアの伝統と現代 Asian Tradision and Contemporary Era			
教員名	安田 茂美、松下 功、丸山 俊一			
開講時期	通年	月曜 5	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

日本・アジア、そして世界へ伝統と現代の狭間で生きる我々にとって、アジアは「可能性の宝庫」である。日本、アジアそして世界の伝統と現代の芸術的要素を取り入れた、創造芸術の可能性を考察する。

■授業計画及び内容

アジアの音楽・美術は、その音響、色彩、舞台、衣装等、空間芸術としても多くの魅力に溢れている。この授業では、現代のアジアの芸術界の状況とその魅力を、考察していくとともに、日本、アジア、そして世界の 21 世紀を担う空間芸術としての可能性を探っていく。担当する美術プロデューサー、NHK プロデューサー、作曲家により、毎回、Video、CD、スライド等を用いて講義を行う。そして、受講者にはアジアの音楽・美術的要素を取り入れた、プロデュース案を提案してもらう。

■受講に当たっての留意事項

基本的には講義科目であるが、履修生のアイデアによる小イベントを行なう予定である。積極的な参加を期待する。

■成績評価方法

出席率とレポート内容

■教科書／参考書

そのつど指示する

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	コンサート制作論 Lecture on Concert Production			
教員名	大石 泰、小場瀬 純子			
開講時期	通年	水曜 3	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

東京藝術大学演奏芸術センター企画のコンサートを手がかりとして、コンサートの制作とはどういうことか、その理念と実際を理論的体系的な学問としてではなく、現場制作者の立場で学ぶ。

■授業計画及び内容

演奏芸術センターは、今年度も下記のような3つの柱を立ててコンサートの企画を進めている。

- 1 音楽学部各科の枠を越えた藝大ならではの《藝大プロジェクト》シリーズ
 - 2 各科の専門性、独自性を活かした《奏楽堂》シリーズ
 - 3 「今」という時代を見つめる《藝大21》シリーズ
- これらのコンサートの企画・運営を学ぶとともに、打合せから本番までコンサート制作の流れを実習する。
具体的には、コンサートを企画するとはどういうことかという総論から始めて、徐々に具体的な事例を取り上げ、最終的には履修者ひとりひとりにコンサートの企画書を作成してもらう。

■受講に当たっての留意事項

演奏芸術センター企画のコンサートにおいて、課外授業もある。

■成績評価方法

出席率に平常の授業態度を加味する。

■教科書／参考書

その都度指示する。

■備考（オフィスアワー）

水曜日 15:00～17:00

授業科目名	音楽を伝えるメディア A Good Medium for Music			
教員名	新井 鷗子、小場瀬 純子			
開講時期	通年	木曜 4	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

一般に「音楽メディア」と言えば楽譜等の印刷物や録音媒体を指すが、この授業では、言葉・絵画・映像など音楽を伝える多種多様なメディアの在り方や功罪について考える。
音楽を伝達する手段・方法の可能性を探ることは、コンサートの構成や自己プロデュースの実践において最も重要な知識となる。

■授業計画及び内容

授業は、講義および履修者による議論を中心とするゼミ形式。
以下3つのテーマを中心に、音楽を伝えるメディアの機能・目的がどのように変わるのかを分析し比較する。

- 1 音楽と映像（音楽に関する映像・映画・番組の分析）
- 2 音楽と言葉（ポップスからオペラまでの作詞・訳詞の試作）
- 3 音楽と場所（コンサートの構成・プロデュースの実践指導）

■受講に当たっての留意事項

オペラ、コンサート、番組の制作現場の見学など課外授業もあり。

■成績評価方法

出席率、および議論参加の積極性。

■教科書／参考書

「あたらしい教科書8音楽」（プチグラ・パブリッシング）小沼純一・新井鷗子他著。「携帯で聴けるクラシックの名旋律」（実業之日本社）新井鷗子著。
他随時提示。

■備考（オフィスアワー）

木曜日 14:00～14:30、16:20～17:00

授業科目名	障害とアート Art's and Disability			
教員名	松下 功、安田 茂美			
開講時期	通年	水曜 4	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

人に温かさを、地球にやさしさを求められている今、藝術を志すものに何が求められ、また我々は何を為すことができるだろうか？本授業では、「障がい者から学ぶアート」をテーマに芸術の果たす役割を考察し、奏楽堂で開催する「藝大アーツ・スペシャル」の企画を立案・実行していく。

■授業計画及び内容

本授業では障がいを越えた芸術のあり方について論じるとともに、「共に生きる」の理念の基に、福祉施設等の現場においてワークショップ等を行う。障がいを持つ人たちと一緒に音楽・美術などの芸術活動を行い、提供する側と受ける側という境をなくし、真に心の交流による芸術空間の創造の可能性を洞察する。《聞こえる色、見える音》という発想のもと、視覚・聴覚・知的の特別支援学校や福祉施設との交流を行う。また、国内外の障がいとアートに取り組む大学・組織との交流を行う。本年は、ベトナムから視覚障がいをもつダンバウ（ベトナムの伝統楽器）奏者らを招へいする。

平成26年12月6日、7日に、奏楽堂で開催する《藝大アーツ・スペシャル》～障がいとアート～では、芸術活動を行っている障がい者、研究者、アーティストらを招き、展覧会、コンサート、シンポジウム等を行う。その企画・構成・運営を演奏芸術センター・社会連携センターの教員らと共に実行していく。

本授業では障がいを越えた芸術のあり方について論じるとともに、「共に生きる」の理念の基に、福祉施設等の現場においてワークショップ等を行う。障がいを持つ人たちと一緒に音楽・美術などの芸術活動を行い、提供する側と受ける側という境をなくし、真に心の交流による芸術空間の創造の可能性を洞察する。《聞こえる色、見える音》という発想のもと、視覚・聴覚・知的の特別支援学校や福祉施設との交流を行う。また、国内外の障がいとアートに取り組む大学・組織との交流を行う。本年は、ベトナムから視覚障がいをもつダンバウ（ベトナムの伝統楽器）奏者らを招へいする。

平成26年12月6日、7日に、奏楽堂で開催する《藝大アーツ・スペシャル》～障がいとアート～では、芸術活動を行っている障がい者、研究者、アーティストらを招き、展覧会、コンサート、シンポジウム等を行う。その企画・構成・運営を演奏芸術センター・社会連携センターの教員らと共に実行していく。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

授業、《藝大アーツ・スペシャル》への参加度

■教科書／参考書

「そのつど指示する

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	ホール音響概論 General Discussion on Hall Sound			
教員名	福地 智子			
開講時期	集中		単位	2
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

コンサートホールをはじめとするホールの音響設計の概要と手法を習得する。響きの良さや静けさがホールには必要だが、これらがどのような方法で得られているか。またホールの音響特性がどのような建築条件に関係しているかなどを学ぶ。

■授業計画及び内容

- 音の基礎
- 室内音響設計
室形状や仕上げ材料と響きの関係について学ぶ
・室形状と音響条件
・残響時間と音響条件
- 遮音設計
周辺室からの騒音・振動を防ぐ方法について学ぶ
・静けさの基準と評価方法
・遮音構造と遮音性能
・防振構造
- 電気音響設備設計
- 設備騒音・振動の防止
- いろいろなホールの音響設計例
海外やわが国の代表的なホールの紹介と音響設計について
- 奏楽堂の音響設計、見学
舞台、客席、奈落、天井裏などを見学し、総合的な音響設計の内容を学ぶ

■受講に当たっての留意事項

講義を受ける前にできるだけいろいろなホールでコンサートや芝居などを聞いたり見たりすること。奏楽堂の見学では、可動する天井をいろいろなパターンでセットして聴感的な確認をするので、その時には楽器演奏をしてください。

■成績評価方法

出席率重視
評価方法はレポート提出

■教科書／参考書

永田穂著「新版 建築の音響設計」オーム社
適時プリント

■備考（オフィスアワー）

相談については都度相談のこと。
（前期担当）片山まび 教員
（後期担当）唐澤昌宏 教員

外国語科目

授業科目名	英語初級 A English 1A			
教員名	近藤 真彫			
開講時期	通年	月曜 4	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

美術に関する比較的平易なテキストを読んで英語の読解力を養成するとともに、それを応用した英語表現を習得することを目的とします。

■授業計画及び内容

美術に関係する内容の論文や評論を読み、履修者の必要に応じて基本文法の復習も行います。また、学んだ語彙などを使って、ライティングやスピーキングによる表現練習もあわせて行います。

■受講に当たっての留意事項

テキスト講読については予習を前提とします。

受講人数の制限があります(30名まで)。人数の調整を行うので、受講希望者は登録期間の初日には必ず出席してください。

■成績評価方法

前期・後期試験の成績、通常の課題と出席で評価します。

■教科書／参考書

教材はプリントを使用し、参考書は適宜指示します。

■備考（オフィスアワー）

授業の前後。

授業科目名	英語初級 C (取手) English 1C			
教員名	武井 美砂			
開講時期	通年	月曜 2	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

美術に関する比較的容易な文章を読みます。英語の文章に親しみ、読解力、リスニング力、英作文力を高めることを目指します。

■授業計画及び内容

教材のテキストを少しずつ読み進めます。テキストを深く理解するために、語彙、基本文法、美術の知識などを確認していきます。時間が取れる時は、その日に学んだ表現を用いた英作文を課します。

■受講に当たっての留意事項

テキスト講読については、予習を前提とします。

受講は、学部生のみ、美術学部生のみ。

受講制限があります(25名まで)。

登録期間の初日に先着順で受けつけます。

■成績評価方法

出席、平常点、前期・後期試験で評価します。

■教科書／参考書

田中久美子、池上英洋著『英語でめぐる世界の美術館 — 大英博物館 & ナショナル・ギャラリー』ジャパンタイムズ 2010年

■備考（オフィスアワー）

月曜日、授業後。

授業科目名	英語中級 A English (intermediate) 2A			
教員名	大滝 結			
開講時期	通年	水曜 1	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

主にリーディングとリスニングを行う。特に、英語特有の慣用的表現の習得とカタカナ英語の矯正に焦点をあてる。

■授業計画及び内容

〈前期〉

初回の授業時に授業計画および内容の説明を行う。リーディングでは、映画の SCRIPT などを使い生きた英語の表現の習得を目指す。また、リスニングとスピーキングでは、日本人特有のカタカナ英語を矯正するため、英語の発音に対する日本語の影響の問題点を考察し、さらに自ら実際に発音しそれを正してゆく。

〈後期〉

リーディングでは、映画の SCRIPT に加えて演劇の脚本なども使用する予定である。また、リスニングでは、話すスピードによる英語の音声変化の規則を習得し、それに則った練習問題を解いてみる予定である。カタカナ英語の矯正も続けて行う。

■受講に当たっての留意事項

初回または 2 回目の授業に必ず出席し教員の指示を受けること。出席しない場合は、履修を認めないことがある。英語と国語の辞書を持参すること（電子辞書可）。

■成績評価方法

出席 30%、授業への参加態度 20%、前期と後期の試験の成績 50% で評価する。

■教科書／参考書

教科書は適宜コピーして配布する予定。

■備考（オフィスアワー）

授業時間の前後

授業科目名	英語中級 B Intermediate English 2B (intensive reading)			
教員名	源中 由記			
開講時期	通年	金曜 4	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

英語文献の読解力習得を目的とした精読。自宅での予習を前提に、英文読解および内容読解を毎日のクラスで行う。教材は履修者の能力水準をみながら調整しつつ、基本的には美術・芸術をあつかった評論文をとりあげる予定。詳細は第 1 回の授業で指示する。

■授業計画及び内容

各授業においては、あらかじめさだめられた分担にしたがって訳文を発表する輪読形式により教材を精読していく。（参考までに、昨年度は John Dewey『Art as Experience』からの抜粋をおもな教材としてあつかった。）

規定の出席率をクリアし、なおかつ：

- 教材の語学的理論的理解にもとづいた訳文を発表する（回数はクラスの規模その他の事情による）
- その理解と自分の専門研究とをからめた（いわゆる）「レポート」を提出する（参考までに、昨年度は年間 2 回）というふたつの作業をつうじて一定の得点を獲得することを単位取得の条件とする。

■受講に当たっての留意事項

第 1 回の授業で詳細を指示するので、履修者はかならず出席すること。第 1 回・第 2 回の授業のいずれにも出席しなかった学生は履修登録しても成績の評価の対象としない。ただし、大学の定める公欠届かないしそれに準ずる理由があれば、公欠届の提出とともに成績評価の対象とする。

■成績評価方法

出席点、平常点、試験の総合評価。（参考までに、昨年度はいわゆる「レポート」を「持ち帰りの試験」とした。）成績評価の計算式を第 1 回の授業その他で告知する。

■教科書／参考書

教材はハンドアウト形式にて配布（の予定）。詳細は第 1 回の授業で指示する。

■備考（オフィスアワー）

金曜日の 4 限から 5 限とその前後。ただし授業中はのぞく。

授業科目名	英語上級 A English (Higher Grade) 3A			
教員名	磯部 美和			
開講時期	通年	月曜 4	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項	音楽学部では「演習 A」			

■授業テーマ

文章や放送の内容を、正確に把握し、報告する能力の養成

■授業計画及び内容

新聞・雑誌記事や論文等の内容、および講演・放送などの要点を正確に理解し、その内容を報告したり、関連する質問に適切に応答できるようにする。また、それらの内容について自分の考えをまとめて議論する練習を行う。

主に以下の項目について扱っていく予定である。

1. 新聞・雑誌記事や論文、講演等についての報告や要約
2. 1に関連したディスカッション
3. 単語・表現の小テスト（毎回授業開始時に実施）

■受講に当たっての留意事項

・初回の授業で、取り扱っていくトピックについて話し合い、発表担当者を決定するので、履修希望者は初回の授業に必ず出席すること。初回授業に出られない場合は、4月11日（金）までに言語・音声トレーニングセンター教員室に相談し、指示を受けること。聴講は不可。

・受講者の発表や議論を中心とする「演習」の授業なので、十分な予習・復習、および授業への積極的な参加が求められる。

■成績評価方法

各学期末試験・毎回の小テスト・平常点（遅刻回数を含む出席状況や授業への貢献度）を総合的に評価する。各学期、総授業回数の1/3以上の無断欠席は失格とする。

■教科書／参考書

<教材>

受講者と相談のうえ決定する。初回から数回分はプリントを配布する。

<参考書>

授業時間内に紹介する。

■備考（オフィスアワー）

金曜日 15:00-17:00

授業科目名	英語上級 B English (Higher Grade) 3B			
教員名	佐美 真理			
開講時期	通年	火曜 2	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項	音楽学部では「演習 B」			

■授業テーマ

より深いコミュニケーションを目指して

■授業計画及び内容

現代世界において英語は好むと好まざるとに関わらず世界語としての重要性を一層増している。そのような状況の中で、単なる挨拶や情報の交換を超えてより深いコミュニケーションを可能にする英語力を養成する。

大学での主要研究形態である「演習」の仕方を身につけることも目標の一つ。

毎回担当者を決め、字句の厳密な解釈及び注釈、質疑応答を行う。

<前期>

主に読解力を養成する。

1. 文芸作品（詩、演劇、小説、映画等）の鑑賞。
2. 評論、論文の精読。
3. 新聞、雑誌等のマスコミ英語の読解。

<後期>

主に聴解力、表現力を養成する。

1. テレビ、ラジオ等のマスコミ英語の聴解。
2. インタビュー、演説、演劇、映画等の聴解。
3. 歌詞（歌曲、ミュージカル、ポピュラー等）の聴解。
4. 課題作文による表現力養成。英語の詩を書く。

基本計画は昨年度と同じであるが教材は異なるので、2年目の受講も可能。

■受講に当たっての留意事項

受講資格は音楽学部では「英語Ⅰ」（楽理科と音環科は「英語Ⅱ」）4単位既習者、美術学部では「英語中級」4単位既習者、または教員が適当と認めた者。「演習」であるから、学生諸君が積極的に課題を探求すること。

■成績評価方法

試験、レポート及び平常点

■教科書／参考書

指定教材及びプリント

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	独語初級 A German 1A			
教員名	満留 伸一郎、川嶋 均			
開講時期	通年	月曜 4・木曜 3	単位	4
履修対象	学部生			
特記事項	月：満留、木：川嶋。2単位に分割不可。			

■授業テーマ

ドイツ語の初等文法を習得し、芸術表現の基礎となることばの力を養う。

■授業計画及び内容

月曜 4 限（文法／満留担当）と木曜 3 限（演習／川嶋担当）の二本立てです。

月曜（満留）：1年間をかけて文法教科書を仕上げます。ドイツ語文法は、1年目に覚えねばならない事柄がたくさんありますが、それを乗り越えて初等文法の全体像をつかめるようになれば、芸術性と論理的な緻密さをあわせもったドイツ語の美しさを実感できるでしょう。

木曜（川嶋）：月曜の文法授業で学んだことを生かしながら、絵本や音楽作品、演劇台本の会話、ラジオ音声など、生きたドイツ語素材を使って、発音の基礎や、ドイツ語特有の構文、やさしい日常的表現に馴れ親んでもらいます。後期はより高度な読み物の読解や、芸術的テキストを実際に声に出して表現する作業にも挑戦してみましょう。文法のハンドブック（『ドイツ文法総まとめ』）以外の教材は、基本的にプリントを用意します。

■受講に当たっての留意事項

教材欄に指定した二点の教科書・参考書は、両曜日とも随時使用するので、毎回持参のこと。

ことばの勉強は、地道にコツコツ続ければ、世界がぐんと広がること間違いなしです。1年間を通して最後まで出席し続けられるよう、頑張りましょう。

【辞書について】

1. なるべくカタカナによる発音表記のない辞書を使って欲しい。
2. 「初学者向け」を唱った辞書やポケット辞書は語彙数が少なくあまりオススメできない。中型以上のサイズの、例文豊富な辞書が望ましい。
3. 教室では紙の辞書を使います（電子辞書禁止）。

※ 詳しくは初回授業での各教官の指示を聞いてください。辞書購入はそのあとからでもだいじょうぶ。

■成績評価方法

前・後期の学期末試験を主に、出席状況などを加味した評価を、月・木総合して行う。必ず月・木両方の授業をあわせて履修してください。分割履修不可！

■教科書／参考書

1. 『Übung macht den Meister（練習中心 初級ドイツ文法 コンパクト版）』白水社
2. 『必携ドイツ文法総まとめ』中島悠爾他著 白水社

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	独語初級 B（取手） German 1B			
教員名	濱西 雅子			
開講時期	通年	木曜 2	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

ドイツ語の基礎の修得

■授業計画及び内容

ドイツ語圏の美術作品を取り扱った教科書に沿って学習するなかで、ドイツ語の基礎的な能力と、美術に関連する基本用語を身につける。

■受講に当たっての留意事項

予習と授業への積極的な参加が望まれる。

■成績評価方法

前期・後期末の試験と平常点の総合評価。

■教科書／参考書

荻野蔵平他著 『ドイツ美術の旅』朝日出版社 2013年

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	独語中級 A German 2A			
教員名	山村 浩			
開講時期	通年	水曜 4	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

初級文法修了後のドイツ語読解

■授業計画及び内容

初級文法の既習者を対象にドイツ語の散文作品を読む。主たる目標は構文把握能力の養成。文法を振り返りながらワンランク上の読解力をめざす。

■受講に当たっての留意事項

授業への積極的な参加（毎回の予習）がのぞまれる。

■成績評価方法

平常点（予習を含む）を基本点とし、学期末に小テストを行う。

■教科書／参考書

コピーを配布の予定。

■備考（オフィスアワー）

授業前後

授業科目名	独語上級 A German 3A			
教員名	満留 伸一郎			
開講時期	通年	月曜 5	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項	音楽学部では独語（演習）B			

■授業テーマ

文法事項を反芻しつつドイツ語を丁寧に読み、そして味わう。

■授業計画及び内容

チェコのドイツ語作家フランツ・カフカと、彼が終生離れることになかった街プラハの関係を描いたテキストを読む。50 ページ少々あるが、平易な文章なので、できれば1年で読み終えたいところ。日本語として自然な訳文を作る力を身につけることも、目標のひとつである。

受講人数によるが、ひとり4回程度は担当がまわるようにしたい。

■受講に当たっての留意事項

ポケット辞書は授業内容に不十分なので不可。文章を読む際は、例文の多い辞書が不可欠です。

■成績評価方法

試験は行わず平常点で評価する。出席3割、担当箇所訳出その他7割。

■教科書／参考書

Egmont Helmelt 著、有賀健編『フランツ・カフカ — ユダヤ人のプラハ—』朝日出版社

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	独語上級 C (西洋美術史演習) German 3C(Special Seminar in western art history)			
教員名	薩摩 雅登			
開講時期	前期	金曜 5	単位	1
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項	芸術学科・西洋美術史演習と併習(振替措置)			

■授業テーマ

テキスト講読

■授業計画及び内容

我が国における西洋美術史の大半は西洋絵画史で、とりわけ建築に関する授業に乏しい傾向にある。この授業では、主としてドイツの教会建築に関するドイツ語文献を読みながら解説、講義も行う。テキストは受講生を見てから決める。

■受講に当たっての留意事項

講読の授業は出席することが大切。「今日は予習をしていないから欠席して、次回にきちんと予習をしてから出席しよう」と思い出すと脱落する。予習の有無は問わないから遅刻せずに出席すること。

■成績評価方法

出席重視で、学期末レポートと一緒に評価する。

■教科書／参考書

プリントで配布する。

■備考 (オフィスアワー)

授業科目名	仏語初級 B Beginning French B			
教員名	檜垣 嗣子、ヴィエル エリック			
開講時期	通年	月曜3・木曜3	単位	4
履修対象	学部生			
特記事項	主に建・芸対象。月：檜垣、木：ヴィエル。 2単位に分割不可。			

■授業テーマ

基本レベルのフランス語の習得。

■授業計画及び内容

月曜3限：フランス語文法の基礎を教科書にそって学んでいきます。単純な例文をおぼえ、練習問題で繰り返し復習することによって、基本的な文法事項を理解しましょう。最初歩からのスタートなので、大まかな全体像の把握を目標に、積極的に取り組んでください。

木曜3限：この授業では、将来的に DELF の B1 レベルを取得することを視野に入れています。これは、フランスに留学する際に大学から求められるレベルです。この一般フランス語の授業では、特に DELF の A1 を受けられるレベルに到達することを目指します(詳細はサイト delfdalf.jp を参照)。

フランス語の基本レベル。日常生活での単純で具体的な状況を理解できる。相手がゆっくり話すなら、簡単なコミュニケーションが可能。

■受講に当たっての留意事項

月曜3限・木曜3限を併せて受講すること。

■成績評価方法

前後期末の試験結果に平常点を加味する。

■教科書／参考書

月曜3限教科書：『《新版》ル・フランセ』、齋藤昌三著、白水社

木曜3限教科書：『Spirale』 ピアソン・エデュケーション

■備考 (オフィスアワー)

授業科目名	仏語初級 C (取手) French beginner C			
教員名	船岡 美穂子			
開講時期	通年	月曜 2	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

初心者を対象として、フランス語の基本文法を学び、日常的な会話の習得を目指します。

■授業計画及び内容

初回の授業ではガイダンスを行います。以後、教科書に沿って、初級文法を学ぶとともに、会話の練習を行います。

■受講に当たっての留意事項

教科書と辞書を毎回持参してください。予習・復習をして授業に出席してください。

■成績評価方法

前期・後期に行う期末試験と平常点（出席、予習・復習）を総合して評価します。

■教科書／参考書

『Cafe Francais (カフェ・フランセ)』ニコラ・ガイヤール他著、朝日出版社
プリントも配布予定

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	仏語中級 B French IIB			
教員名	谷本 道昭			
開講時期	通年	金曜 5	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

フランス語の理解を深め、語学力を向上させる。
フランス語の学習を通じてフランス語圏の文化や歴史にふれる。

■授業計画及び内容

教科書、音声教材を用いて、読解、発音、役割練習、聞き取り、書き取りを行うことで、フランス語を総合的に学習する。日常的に用いられるフランス語表現に親しみ、ある程度の長さの文章を読む練習を行う。すでに学習した文法事項のおさらいをしながら、さらに語彙を増やし、基礎的な表現力を身につけることを目指します。

教科書には練習問題がふくまれているので、必ず予習を行うこと。教科書に出てきた単語の意味をあらかじめ調べておくと、授業に集中することができて、効率よくフランス語を学べるようになると思います。

教科書を用いた学習を終えたら、映像や音楽、音声、文字資料などを通じて、フランス語圏の文化、歴史を紹介していく予定です。受講者の希望があれば、芸術家、芸術作品を取り上げたり、芸術に関するテキストを読むことも考えています。フランス語の学習を通じて世界を広げていきましょう。

■受講に当たっての留意事項

受講者には基礎的なフランス語（初級文法）の知識が求められますが、適宜文法の解説を行うので、語学力に自信のない方でも受講は可能です。

語学の学習では辞書（電子辞書は可。ポケット版の小型辞書はおすすめしません）をひく習慣を身につけることが決定的に重要です。授業にもなるべく辞書を持参してください。

■成績評価方法

前期、後期に行う期末試験の点数を重視しつつ、出席や授業態度を平常点として加味して評価します。

■教科書／参考書

教科書として『Amicalement bis アミカルマン・ビス』（駿河台出版社）を使用します。

■備考（オフィスアワー）

相談、質問等は授業後に受けつけます。

授業科目名	仏語上級 A French IIIA			
教員名	新谷 淳一			
開講時期	通年	水曜 4	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項	音楽学部では仏語演習 B			

■授業テーマ

フランス語評論文の読解。

■授業計画及び内容

ミシェル・セール (Michel Serres) のいくつかのテキストから、あるテーマにそって抜粋したものを読みます。出典とするのは次の4つです。

I 《Musique et bruit de fond》 in L'Interference. Hermes II, 1972.

II Esthétiques sur Carpaccio, 1975.

III Carpaccio. Les esclaves libérés, 2007.

IV Musique, 2011.

タイトルから見てとれるように、軸となるのは「音楽」「ノイズ」「カルパッチョ」の3項です。最後の固有名詞がどう関係するのか、常人には想像しにくいのですが、セールの頭のなかではリンクしています (たとえば II の最終章はノイズ/音楽を論じています)。そのリンクの意味合いが常人にもわかるように、抜粋をうまく配列して読み進めたいと考えています。

I・II には邦訳があります。I・II と III・IV の執筆時期はへだたっており、著者が一貫して関心を持ち続けてきたテーマだとわかります。I・II は、若さと時代ゆえに、かなり尖った読みにくい文章です。III・IV では著者も丸くなり、時流にそくしたソフトな語り口になっています。授業で読むのは、III・IV からのものが多くなるでしょう。

著者セールは、理科と文科を自在に越境する、スケールの大きな思想家です。あまりにスケールが大きいため、常人には、大風呂敷を広げているだけとも見えます。ところが、一九九〇年代までは胡散臭く思えたセールの「アナログック」で「非実証的」なヴィジョンが、「デジタル」による世界像の変貌とともに、ある種の現実味を持つようになった感があります。いわば「時代がセールに追いついた」ことが、今セールを読むもうとする理由のひとつです。

ついでにひとこと。セールのデビュー作は『ライブニッツのシステム』という大著です。「二進法=デジタル」と「微積分法=連続」という2つの方法の生みの親であるライブニッツは、理科と文科の統合的ヴィジョンを体現する名です。セールの思考の根底にあるライブニッツは、この授業にとつての「隠れキャラ」的な存在かもしれません。

■受講に当たっての留意事項

音楽学部との共通の授業。

語学的な説明を十分に行ないながらも、内容も楽しめるものにしたと思います。和訳のプリントを配布し、上級なみの語学力がなくとも受講可能ですので、興味のある方は気軽に出てみてください。

■成績評価方法

期末の試験=7割。出席と授業への参加=3割。

■教科書／参考書

プリント配布。

■備考 (オフィスアワー)

授業科目名	仏語上級 C French IIIC			
教員名	高木 真喜子			
開講時期	後期	水曜 2	単位	1
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項	芸術学科・西洋美術史・演習と併習 (振替措置)			

■授業テーマ

中世美術に関するフランス語文献の講読、読解およびディスカッション

■授業計画及び内容

初回の授業でガイダンスを行います。

2回目以降は、各回学生の担当者を中心に講読、読解を進めます。

フランス語を中級程度まで履修した学生を主な対象に想定し、美術史関係の専門的な文献を読んで内容を理解する、言及されている事例について調べるなど、講読に基づいた演習を行います。

以下文献のいずれかの章をテキストとして使用する予定です。初回ガイダンス時に、候補となるテキストの概要を説明し、受講生の希望を聞いた上で選びます。

Splendeur de l'enluminure: le roi Rene et les livres, 2009

Boespflug, Francois, Dieu et ses images: une histoire de l'eternel dans l'art, 2011

■受講に当たっての留意事項

この授業は、「西洋美術史演習」2単位、もしくは「フランス語上級」1単位、いずれかの単位として認定される授業です。どちらの単位として履修するかを登録時に判断し、演習として履修する場合は「西洋美術史演習 (高木)」、語学として履修する場合は「フランス語上級C」の科目名で登録してください。登録後の変更はできません。

■成績評価方法

平常点とレポート

■教科書／参考書

ガイダンス時にテキストのコピーを配布します。

■備考 (オフィスアワー)

授業科目名	伊語初級 A Italian 1A			
教員名	松浦 弘明、リッチ 佐藤 エレナ			
開講時期	通年	月曜5・木曜4	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項	月：松浦、木：佐藤。2単位に分割不可。			

■授業テーマ

ゼロからイタリア語を始める学生に、正しい発音を留意しながら、基本的な会話の習得をめざす。
初級文法を一通り終える。

■授業計画及び内容

前期の第1回はガイダンスを行う。
以後、テキストに合わせて、文法の説明と会話の練習を行う。

文法の主な内容：

- ” 冠詞、名詞と形容詞
- ” 動詞の現在形（不規則動詞と再帰動詞を含む）
- ” 補助動詞（sapere、volere、dovere、potere）
- ” 過去形（近過去と半過去）
- ” 未来形
- ” 命令形
- など

■受講に当たっての留意事項

予習・復習をして授業に出席すること。

■成績評価方法

2回の筆記試験（前期・後期末）と出席点を合わせて評価。

■教科書／参考書

松浦弘明の授業：松浦弘明「快速マスターイタリア語」語研
リッチ佐藤エレナの授業：遠藤礼子・三宅剛「イタリア語ひとさら」
(改訂版) 白水社

■備考（オフィスアワー）

中央棟3階西洋美術史研究室で予約の上行う。

授業科目名	伊語中級 A Italian 2A			
教員名	吉澤 早苗			
開講時期	通年	月曜 4	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

イタリア語初級を終えた学生を対象とします。
基礎事項を復習しつつ、さらに高度な文法を学び、日常の身近な事柄をより正確にイタリア語で理解し、表現できるようにすることが目標です。文法学習とあわせ、平易なテキストによる読解練習を行いながら語彙を増やし、美術史研究等にも役立つ実践力を身につけます。

■授業計画及び内容

授業は履修者のレベルに応じて進める予定です。
初級文法の復習を交えながら、遠過去・受動態・比較級と最上級・関係代名詞・条件法・接続法・仮定文などを学びます。各文法事項の学習に際しては、その応用練習として、日常会話の聞き取りや書き取り、また新聞のコラムその他の読解を行います。
中級文法をひととおり終えた後は、文学や美術関連のテキストを取り上げ、より高度な読解練習を試みる予定です。

■受講に当たっての留意事項

文法事項復習のため、そのつど宿題を出す予定です。また、特にテキスト読解の授業は、履修者の予習が前提となりますので、課題は必ず済ませた上で授業に臨んでください。
やむを得ず欠席する場合は、事前に担当教員まで連絡すること。

■成績評価方法

授業への参加度および期末試験（前期・後期各1回）。

■教科書／参考書

プリントを配布します。

■備考（オフィスアワー）

質問その他は、毎回の授業の後に受け付けます。

授業科目名	伊語中級 B Italian 2B			
教員名	リッチ 佐藤 エレナ			
開講時期	通年	木曜 3	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

イタリア語の文法の習得を続けながら、中級レベルの読解、リスニング、会話のトレーニングを行う。

■授業計画及び内容

テキストに沿って、初級 A で学んでいない文法事項（接続法、条件法など）を学習する。テキスト以外にも、プリントなどを通して生きたイタリア語に触れる。

■受講に当たっての留意事項

「初級 A」を終えた学生を対象とする。

■成績評価方法

2回の筆記試験（前期・後期末）と出席点を合わせて評価。

■教科書／参考書

白崎容子／アントニオ・マイツァ「らくらくマスターイタリア語／初歩から使いこなすまで」郁文堂、コピーの配布。

■備考（オフィスアワー）

中央棟 3 階西洋美術史研究室で予約の上行う。

授業科目名	伊語上級 C - I Italian language (advanced level) C-I			
教員名	越川 倫明			
開講時期	前期	水曜 4	単位	1
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項	芸術学科・西洋美術史演習 B- I と併習（振替措置）			

■授業テーマ

イタリア美術史文献講読

■授業計画及び内容

今年度は以下の文献を講読します。

Paolo Giovio, Dialogo dell'imprese militari e amorose (1551), Roma, 1978

受講には、平易なイタリア語の文章ならば読める語学力を必要とします。また、読解力のトレーニングとして若干の宿題も出す予定です。

内容としては、ルネサンス以降大いに流行する「エンブレム本」の代表的な文献です。読解練習に加えて、この種の象徴図像に親しむことも目的とします。

■受講に当たっての留意事項

この授業は、専門科目「西洋美術史演習 B-I」を兼ねていますが、語学単位として履修する場合には 1 単位、演習単位として履修する場合には 2 単位となります（演習単位として認定する場合には別途レポートの提出を課します）。登録時には、語学でとるか演習でとるかを判断し、演習でとる場合には、ここではなく、必ず「西洋美術史演習 B-I」の方に履修登録してください。

■成績評価方法

平常点（出席）と試験

■教科書／参考書

講読テキストはコピーで配布。その他参考書は適宜指示します。

■備考（オフィスアワー）

木曜 12:40 ~ 14:40（ただしメールで要予約）

授業科目名	伊語上級 C - II Italian language (advanced level) C-II			
教員名	越川 倫明			
開講時期	後期	水曜 4	単位	1
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項	芸術学科・西洋美術史演習 B- II と併習 (振替措置)			

■授業テーマ

イタリア美術史文献講読

■授業計画及び内容

前期に引き続き、以下の文献を講読します。

Paolo Giovio, Dialogo dell' imprese militari e amorose (1551), Roma, 1978

受講には、平易なイタリア語の文章ならば読める語学力を必要とします。また、読解力のトレーニングとして若干の宿題も出す予定です。

内容としては、ルネサンス以降大いに流行する「エンブレム本」の代表的な文献です。読解練習に加えて、この種の象徴図像に親しむことも目的とします。

■受講に当たっての留意事項

この授業は、専門科目「西洋美術史演習 B-II」を兼ねていますが、語学単位として履修する場合には 1 単位、演習単位として履修する場合には 2 単位となります (演習単位として認定する場合には別途レポートの提出を課します)。登録時には、語学でとるか演習でとるかを判断し、演習でとる場合には、ここではなく、必ず「西洋美術史演習 B-II」の方に履修登録してください。

■成績評価方法

平常点 (出席) と試験

■教科書／参考書

講読テキストはコピーで配布。その他参考書は適宜指示します。

■備考 (オフィスアワー)

木曜 12:40 ~ 14:40 (ただしメールで要予約)

授業科目名	スペイン語 (初級) Spanish (Middle Grade)			
教員名	石井 登			
開講時期	通年	金曜 4	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

スペイン語文法の習得

■授業計画及び内容

スペイン語の文法学習を中心に、簡単な日常会話の表現も学んでいきます。また、受講者の興味に合わせてスペイン語圏の関連資料等も見ていきます。教科書は全 20 課で、授業は各回 1 課ごとに進む予定です。受講者の理解に合わせていきます。

■受講に当たっての留意事項

履修上の注意事項：初回授業にて詳細を案内しますので、必ず出席して下さい。

■成績評価方法

平常点 (出席・小テスト・レポート等) 50%、試験 (前期・後期) 50% で評価します。

■教科書／参考書

教科書は『スペイン語の基礎 (Lo basico del espanol)』朝日出版社を使用します。

辞書は『西和中辞典』小学館など。

参考書については、学生のニーズに合わせて紹介します。

■備考 (オフィスアワー)

授業科目名	スペイン語 (中級) Spanish (Middle Grade)			
教員名	石井 登			
開講時期	通年	金曜 5	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

スペイン語文法の復習とスペイン語圏の文化を知る。

■授業計画及び内容

教科書の他に、サブテキスト等を用いて、スペイン語の文章に慣れていきます。初級の授業で学んだスペイン語の知識を用いて、スペイン語圏の文化について考えていきます。

■受講に当たっての留意事項

「スペイン語 (初級)」履修済み、あるいはスペイン語初級文法習得者向けの授業です。

■成績評価方法

平常点 (出席・小テスト・レポート等) 50%、試験 (前期・後期) 50% で評価します。

■教科書／参考書

教科書は『スペイン語の基礎 (Lo basico del espanol)』朝日出版社を使用します。
辞書は『西和中辞典』小学館など。
参考書については、学生のニーズに合わせて紹介します。また、資料等も適宜配布します。

■備考 (オフィスアワー)

授業科目名	中国語初級 Chinese I			
教員名	樫尾 季美			
開講時期	通年	火曜 5	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

初心者を対象に1年間の学習を通じて、発音と文法の習得に重点をおきながら、中国語の基礎力を養成します。1年後には中国語で簡単な会話ができ、平易な文を読みこなせることを目標にします。

■授業計画及び内容

前期は、中国語特有の発音および基礎文法に重点をおきます。具体的にはまず、中国語の発音表記システムである「ピンイン」や「四声」を集中的に覚え、その後に文法事項、基礎会話に進みます。

後期は、語彙や文法の学習と並行して、比較的平易な講読を行い、読む練習を行っていきます。

〔授業内容〕

教科書に沿って文法事項の解説、例文の音読・訳解および簡単な練習問題を中心に授業を行います。基本的に前期は毎回授業の初めに発音練習、後期は授業の最後にディクテーションテストを行い、一回ずつの授業の内容習得を確認しながら進めます。
止むを得ず欠席した回については、課題を指示し、できるだけ全体での進度を統一しながら進めたいと思います。

〔授業計画〕前期

第1回：中国語とは 授業オリエンテーション
第2回：中国語の発音①②③

第3回：中国語の発音④⑤⑥⑦
第4回：中国語の発音⑧⑨ 日常のあいさつ
第5回：発音テスト
第6回：第1課
第7回：第1課～第2課
第8回：第2課～第3課
第9回：第3課～第4課
第10回：第4課～第5課
第11回：第5課～第6課
第12回：第6課～第7課
第13回：第7課～第8課
第14回：復讐
第15回：前期試験 (口答試験)

〔授業計画〕後期

第1回：前期復習
第2回：復習小テスト
第3回：第9課

第4回：第9課～第10課
第5回：第10課～第11課
第6回：第11課～第12課
第7回：第12課～第13課
第8回：第13課～第14課
第9回：第14課～第15課
第10回：第15課～第16課
第11回：映画鑑賞
第12回：後期復習 (テキスト第8課から16課まで)
第13回：後期復習小テスト
第14回：講読
第15回：後期試験

■受講に当たっての留意事項

できる限りシラバスに沿って授業を進めますので、止むを得ぬ事情で欠席した学生は、欠席した回の授業内容を自習しておいてください。
テキスト附属のCDで何度も例文を聞き、発音する癖を身につけてください。

■成績評価方法

前期は毎回授業の初めに発音練習を行い、出席点の要件とします。(1回3点、出席点45点)
 その上で、第5回目を行う口頭での発音テスト(10点)、第15回目を行う口答試験(45点)をあわせ、100点満点とします。
 後期は第2回目を行う前期復習小テスト(20点)第13回目を行う後期復習小テスト(30点)第15回目を行う後期試験(50点)により100点満点とします。

通年で100点以上の学生に単位を付与します。

■教科書／参考書

本間史・孟広学『中国語ポイント55』白水社

その他の辞書、参考書については授業中に順次お話しします。

■備考(オフィスアワー)

オフィスアワーは特に設けていませんが、16時ごろには講師は教室付近で待機していますので、気軽に何でも質問してください。

授業科目名	韓国語初級 Korean I			
教員名	池 鳳花			
開講時期	通年	金曜 2	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

韓国語Ⅰ(前期) 韓国語Ⅱ(後期)

■授業計画及び内容

韓国語Ⅰ： 韓国語の文字と発音をメインに学習します。ハングル文字の構成を理解し、正しい書き方と読み方を身につけていきます。よって簡単な自己紹介や挨拶ことばが話せることを目指します。
 韓国語Ⅱ： 韓国語Ⅰで学習した内容を復習したうえで、用言の連用形、過去形及び尊敬形など、より豊かな韓国語表現を習得し、場面に応じた一定の日常会話能力を養うことを目指します。

■受講に当たっての留意事項

- (1) 指定の教科書を必ず持参すること
- (2) 韓国語Ⅰ・韓国語Ⅱにおいて出席が全授業回数の1/3に満たさない場合は受験失格となります。但し体調不良・就職活動・研修旅行など、やむを得ない事情がある場合は除きます。(大学で発行する証明証が必要)

■成績評価方法

出席率 20% 小テスト・宿題 30% 期末試験 50%

■教科書／参考書

教科書： 生越直樹・チョヒチョル 著 韓国朝鮮語初級テキスト『ことばの架け橋』改訂版 白帝社

参考書： 菅野裕臣『コスモス朝和辞典』白水社
 『小学館日韓辞典』小学館

■備考(オフィスアワー)

都度相談のうえ調整します。

授業科目名	英語会話初級 Beginning English Conversation			
教員名	平田 アンナ			
開講時期	通年	金曜 3	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

このクラスでは主にスピーキングとリスニングの練習を重ねることによって英語に慣れる努力をします。何となく英語で簡単な会話が出来ると思っている、実際に中々通じないことがあるものです。スピードはゆっくりでも、正確でスムーズに話せるように練習します。

■授業計画及び内容

授業は基本的には英語で行いますが、日本語と英語の微妙なニュアンスの違いなどは日本語で説明します。メインテキストは初歩の文法、簡単な語彙、発音、イントネーションも会話を通して学べるように工夫されています。CDを活用して、スピーキングとリスニングの練習をします。授業ではペアで会話練習を重ね、リラックスした雰囲気の中で、実際に声を出して英語に慣れることを目指します。授業参加が非常に大事なクラスです。

■受講に当たっての留意事項

授業第一日目に Placement Test を行います。他の授業の関係でテストを受けられない場合は、必ず、連絡して下さい。聴講は不可です。授業には、英和・和英（出来たら英英）辞書、B5の紙を持参すること。公欠、その他やむを得ず欠席する場合は、必ず前もって届け出て下さい。年間9回まで欠席可。二度連続無断欠席は失格。

■成績評価方法

出席、授業参加率、授業態度、課題、小テスト（クイズ）の成果によって総合的に評価します。このうち出席と授業参加を最も重要視します。

■教科書／参考書

Interchange, 4th Edition, Intro, Student's Book A with Self-study DVD-ROM, Cambridge University Press, 2012.

■備考（オフィスアワー）

メールでアポイントメントを取ってください。連絡先は、言語・音声トレーニングセンター（音トレ）にお問い合わせください。

授業科目名	英語会話中級 A Intermediate English Conversation A			
教員名	平田 アンナ			
開講時期	通年	金曜 4	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

英語を楽しく学ぶこと。英語に慣れること—つまり、書いたり、読んだり、聞いたり、話したりすることに慣れるのが目的です。このうち話すことに重きを置きます。英語会話初級（金曜日3限）と英語会話中級（B）（金曜日5限）の丁度中間のレベルです。

■授業計画及び内容

授業は基本的に英語で行います。なるべく英語に慣れるようにするためです。しかし文法の説明や、日本語と英語の微妙なニュアンスの違いなどは日本語でも説明します。メインテキストを基に、お互いの interaction を通じて、リスニング、スピーキングの練習を重ねます。授業時間は限られていますが、CDを活用して、クラス外でもスピーキングとリスニングの練習が出来ます。自習した成果を試す為にも授業参加は非常に重要です。

■受講に当たっての留意事項

聴講は認めません。授業には必ず英和・和英（出来たら英英）辞書、B5の紙を持参すること。出席と授業参加を最も重視。公欠、その他やむを得ず欠席する場合は、必ず前もって届け出てください。年間9回まで欠席可。二度連続無断欠席は失格。

■成績評価方法

出席、授業参加率、授業態度、課題、小テスト（クイズ）の成果によって総合的に評価します。このうち出席と授業参加を最も重要視します。

■教科書／参考書

English Firsthand 1 (4th Edition), Marc Helgesen, Steven Brown, & John Wiltshier, Longman.

■備考（オフィスアワー）

メールでアポイントメントを取ってください。連絡先は、言語・音声トレーニングセンター（音トレ）にお問い合わせください。

授業科目名	英語会話中級 B Intermediate English Conversation B			
教員名	平田 アンナ			
開講時期	通年	金曜 5	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

このクラスは、英語会話中級 A（金曜・4限）の1つ上のレベルのクラスです。上級のクラスで時事・文学等のテーマを自由に表現するにはまだ会話能力が足りないが、一般的な話題、日常会話はかなりスムーズに出来る学生が対象です。

■授業計画及び内容

授業は基本的には英語で行います。メインテキストと CD を活用し、ペアやグループ活動を通してなるべく話す機会を設けます。教科書は会話のみでなく、英語を学ぶときに不可欠な文法の知識や語彙を文脈の中で覚えるための工夫がされています。授業参加を最も重視します。

■受講に当たっての留意事項

聴講は認めません。授業には必ず英和・和英（出来たら英英）辞書、B5 の紙を持参すること。出席と授業参加を最も重視。公欠、その他やむを得ず欠席する場合は、必ず前もって届け出てください。年間 9 回まで欠席可。二度連続無断欠席は失格。

■成績評価方法

出席、授業参加率、授業態度、課題、小テスト（クイズ）の成果によって総合的に評価します。このうち出席と授業参加を最も重要視します。

■教科書／参考書

Interchange, 4th Edition, Level 2, Student's Book A with Self-study DVD-ROM, Cambridge University Press, 2012.

■備考（オフィスアワー）

メールでアポイントメントを取ってください。連絡先は、言語・音声トレーニングセンター（音トレ）にお問い合わせください。

外国語科目
(言語音声トレーニングセンター)

授業科目名	英語会話 I a English Conversation Ia			
教員名	平田 アンナ			
開講時期	通年	月曜 3	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

このクラスでは基礎を踏まえて、実際に使える英語に慣れることを目指します。具体的には、英語のリズム、抑揚、間のおき方、日常英語の言い回し、などです。リラックスして、自信を持って英語を聞いたり話したり出来るように毎回練習を重ねます。

■授業計画及び内容

様々な Class Activities を通して、英語を総合的に（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）学びます。英語圏と日本の文化的背景が異なるために生じる微妙なニュアンスの違いや、文法の説明などは、日本語で説明しますが、授業全体は基本的に英語で行います。

■受講に当たっての留意事項

このクラスは中級のクラスです。初級、あるいは中級の上～上級と自己判断した学生は遠慮してください。聴講は認めません。授業初日に Placement Test を行います。初日に出席出来ない学生は、必ず言語・音声トレーニングセンター（音トレ）に連絡してください。出席は非常に重要です。通年、2回連続無断欠席、および10回以上の欠席は失格です。授業には必ず辞書、B5 のルーズリーフを持参のこと。

■成績評価方法

出席、授業参加率、授業態度、課題、小テスト（クイズ）の成果によって総合的に評価しますが、このうち出席と授業参加態度を最も重要視します。

■教科書／参考書

プリントを随時配布します。

■備考（オフィスアワー）

メールでアポイントメントを取ってください。連絡先は、言語・音声トレーニングセンター（音トレ）に問い合わせてください。

授業科目名	英語会話 I b English Conversation Ib			
教員名	グリブル ジョン			
開講時期	通年	火曜 2	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

The purpose of this class is to help students be able to understand and communicate easily in useful English. The goal is to have each student develop an English communication strategy which works.

This is a speaking and listening class. In order to be successful, students must attend class regularly, do all the exercises and activities, have their textbooks, dictionaries and other supplies with them in class, practice their English on their own, and be ready for in-class interviews.

The class will follow a similar format each week. There will be a Question and Answer ("Q & A") session. Each student answers one of several conversation questions, such as, "What did you do last Saturday?" or, "What's your favorite class? Why?" This will be followed by a review. The students will then work as a class, in groups, or in pairs on that week's textbook material.

There will also be other activities, which may include games, songs, pronunciation drills, or a group activity. There will be occasional in-class interviews.

This is an English-only class.

■授業計画及び内容

First Term:

1. Introduction to the class.
2. Question and Answer, begin Unit 1, "To be," "Personal Information."
3. Question and Answer, complete Unit 1, "Meeting People."
4. Question and Answer, begin Unit 2, "To be? location and objects."
5. Question and Answer, complete Unit 2, "Around town, around the world."
6. Question and Answer, begin Unit 3, Continuous verb tense, "Activities."
7. Question and Answer, Complete Unit 3, "More Activities," Review.
8. Question and Answer, begin Unit 4, Possessive adjectives, "Activities."
9. Question and Answer, complete Unit 4, More Possessives
10. Question and Answer, begin Unit 5, "Yes/No questions and answers."
11. Question and Answer, complete Unit 5, Review.
12. Question and Answer, begin Unit 6, Prepositions of location, "Family."
13. Question and Answer, complete Unit 6, prepositions, "Activities and Events," Review.
14. Final Interview Examination

Second Term:

1. Introduction and Review.
2. Question and Answer, begin Unit 7, plurals, "Locating places."
3. Question and Answer, complete Unit 7, "Describing places."
4. Question and Answer, begin Unit 8, more plurals, "Clothes."
5. Question and Answer, complete Unit 8, "This, That, These, Those."

6. Question and Answer, begin Unit 9, present tense, "Languages and Nationalities."
7. Question and Answer, complete Unit 9, Review.
8. Question and Answer, begin Unit 10, present tense, "Activities."
9. Question and Answer, complete Unit 10, "Special Interests."
10. Question and Answer, begin Unit 11, adverbs of frequency, "How often...?"
11. Question and Answer, complete Unit 11, "Describing people."
12. Question and Answer, begin Unit 12, "Feelings."
13. Question and Answer, complete Unit 12, "Unusual Activities," Review.
14. Final Interview Examination

■受講に当たっての留意事項

英和辞典、和英辞典、英語学習者用辞典、筆記用具とノート類を持参すること。

■成績評価方法

出席状況と授業活動への参加具合をみて採点します。

■教科書／参考書

Molinsky and Bliss, Side By Side, Third Edition, Student Book One, Pearson Longman.

■備考（オフィスアワー）

教室で指示する。

授業科目名	英語会話 I c English Conversation Ic			
教員名	コリンズ キム ソノコ			
開講時期	通年	水曜 3	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

このクラスの目的は、英語を積極的に使うことにより、会話能力を高めることです（中級）。コミュニケーション技能を向上させるために、読む、書く、聞く、話すことを通じて、英語に習熟しましょう。

■授業計画及び内容

<授業内容>

このコースは、レベルチェックテストと自己紹介から始まります。英語で課題に取り組んでもらいます。単語の小テストを授業の始めに行います。授業中の話題や課題のため、新聞やブログの記事を使います。年度末に、一年のまとめの提出とインタビューがあります。

<授業計画>

Tasks include:

Introductions - talking about likes/dislikes/personalities/family
Presentations/show and tell on a topic such as travel/food/culture
Writing a diary/blog
Powerpoint/visual presentation of an inspirational person/movie
Discuss/express opinions on a topic - Example; The Future/Environment
Interview

■受講に当たっての留意事項

このクラスのレベルは、「英語中級」（美術学部）・「英語Ⅱ」（音楽学部）に相当します。

最初の授業でレベルチェックテストを行います。毎回出席し、欠席する場合には、欠席届を提出すること。課題をやり遂げること、積極的な参加姿勢が求められます。欠席する場合には、教師に授業進度を確認してください。

■成績評価方法

出席、授業への参加具合、課題の達成度、単語テストと、ポートフォリオとインタビューに基づき採点します。

■教科書／参考書

テキストは使いませんが、プリントや課題をまとめる A4 ファイルが必要。

■備考（オフィスアワー）

Email:[mail]sonoko31@gmail.com[/mail]

授業科目名	英語会話Ⅱ a English Conversation IIa			
教員名	グリブル ジョン			
開講時期	通年	火曜 3	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

このクラスの目的は、学生の英語を話す能力、読み、書く能力を、会話Ⅰのクラスに引き続き練習を通して上達させることである。初回授業で担当教員による面接をし、英語力が十分に達しているか判断する。主な教材としては、さまざまなアーティストとのコラボレーションをするチェリスト、ヨー・ヨー・マのビデオ教材、「Inspired By Bach」を用いる。学生はこのビデオについて議論をするほか、芸術をテーマとした短い発表を2回おこなう。授業では、教科書“Side by Side, Third Edition, Book 1”も使用する。

■授業計画及び内容

First Term, Week:

1. Introduction to the class, Student Interviews
2. Video, “Struggle For Hope” (1) textbook exercise
3. Video, “Struggle For Hope” (2) textbook exercise
4. Video, “Falling Down Stars” (1) textbook exercise
5. Presentation Demonstration and Topics
6. Video, “Falling Down Stars” (2) textbook exercise
7. Video, “The Music Garden” (1) Foreigner interview questions
8. Video, “The Music Garden” (2) Foreigner interview questions
9. Presentation skills and practice
10. Presentations (1)
11. Presentations (2)
12. Foreigner interview questionnaire distributed, interview strategies discussed.
13. Review of the videos
14. Final discussion? Ranking the three videos

Second Term, Week:

1. Review of the First Term materials.
2. Video, “Six Gestures” (1) textbook exercise
3. Video, “Six Gestures” (2) textbook exercise
4. Foreigner Interview presentations
5. Presentation Demonstration and Topics
6. Video, “Sarabunde” (1) textbook exercise
7. Video, “Sarabunde” (2) textbook exercise
8. Video, “The Sound of the Carceri” (1) textbook exercise
9. Video, “The Sound of the Carceri” (2) textbook exercise
10. Presentations
11. Presentations
12. Review of Second Term videos
13. Review of First Term videos.
14. Final meeting? Review and ranking all six videos

■受講に当たっての留意事項

学生は毎回授業に出席し、クラスの活動やディスカッションに参加すること。また、期日内に課題を提出すること。

■成績評価方法

出席回数、授業への参加度、課題の提出具合によって成績が付与される。

■教科書／参考書

Molinsky, Steven J. and Bill Bliss, Side By Side, Third Edition, Book 1.

■備考（オフィスアワー）

学生と相談して決める。

授業科目名	英語会話Ⅱ b English Conversation IIb			
教員名	コリンズ キム ソノコ			
開講時期	通年	木曜 3	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

このクラスの目的は、英語を積極的に使うことにより、会話能力を高めることです（上級）。コミュニケーション技能を向上させるために、読む、書く、聞く、話すことを通じて、英語能力を高めましょう。

■授業計画及び内容

<授業内容>

このコースは、レベルチェックテストと自己紹介から始まります。英語で課題に取り組んでもらいます。単語の小テストを授業の始めに行います。授業中の話題や課題のため、新聞やブログの記事を使います。年度末に、一年のまとめの提出とインタビューがあります。

<授業計画>

Tasks include:

Introductions - talking about likes/dislikes/personalities/family
Presentations/show and tell on a topic such as travel/food/culture
Writing a diary/blog
Powerpoint/visual presentation of an inspirational person/movie
Discuss/express opinions on a topic - Example: The Future/Environment
Interview

■受講に当たっての留意事項

このクラスのレベルは、「英語上級」（美術学部）・「英語演習」（音楽学部）に相当します。

最初の授業でレベルチェックテストを行います。毎回出席し、欠席する場合には、欠席届を提出すること。課題をやり遂げること、積極的な参加姿勢が求められます。欠席する場合には、教師に授業進捗と課題を確認してください。

■成績評価方法

出席、授業への参加度、課題の達成、単語テストと、ポートフォリオとインタビューに基づき採点します。

■教科書／参考書

テキストは使いませんが、プリントや課題をまとめる A4 ファイルが必要。

■備考（オフィスアワー）

Email: [mail]sonoko31@gmail.com[/mail]

授業科目名	英語会話Ⅲ a English Conversation IIIa			
教員名	平田 アンナ			
開講時期	通年	月曜 4	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

日常会話はもとより、時事問題、歴史・文化など多岐に渡る話題についてある程度自由に会話ができる学生のための上級のクラスです。レベルは月曜・5限、英語会話 IIIb の一つ下になります。様々な状況に対応出来るように英語のコミュニケーションスキルを総合的に向上させるのが目的です。

■授業計画及び内容

主教材を基にボキャブラリーや慣用表現を増やし、新聞、雑誌、テレビドラマ、エッセーなどの副教材を通して、英語圏の文化を学び、文化比較など、様々なテーマについて日常会話、およびディスカッションの練習を重ねます。又、話すのみでなく、書く事によって自分の意見や感想をよりの確に表現出来るようにします。

■受講に当たっての留意事項

このクラスは上級のクラスです。聴講は認めません。初日に Placement Test を行います。どうしても初日に出席できない場合は、前もって言語・音声トレーニングセンター（音トレ）に連絡すること。以後、公欠、その他の理由でやむを得ず欠席する場合は、必ず前もって届け出ること。年間9回まで欠席可。二度連続無断欠席は失格。B5 のルーズリーフと辞書を必ず持参すること。

■成績評価方法

出席、授業参加率、授業態度、課題、小テスト（クイズ）の成果によって総合的に評価しますが、このうち「出席と授業参加」を最も重視します。

■教科書／参考書

プリントを随時配布します。

■備考（オフィスアワー）

メールでアポイントメントを取ってください。連絡先は言語・音声トレーニングセンター（音トレ）にお問い合わせください。

授業科目名	英語会話Ⅲ b English Conversation IIIb			
教員名	平田 アンナ			
開講時期	通年	月曜 5	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

日常会話はもとより、時事問題、歴史・文化など多岐に渡る話題についてかなり自由に会話ができる学生のための上級のクラスです。レベルは月曜・4限、英語会話 IIIa の一つ上になります。様々な状況に対応出来るように英語のコミュニケーションスキルを総合的に向上させるのが目的です。

■授業計画及び内容

主教材を基にボキャブラリーや慣用表現を増やし、新聞、雑誌、映画、エッセーなどの副教材を通して、英語圏の文化を学び、文化比較など、様々なテーマについて高度なディスカッションの練習を重ねます。

又、話すのみでなく、書く事によって自分の意見や感想をよりの確に表現出来るようにします。

■受講に当たっての留意事項

このクラスは上級のクラスです。聴講は認めません。初日に Placement Test を行います。どうしても初日に出席できない場合は、前もって言語・音声トレーニングセンター（音トレ）に連絡すること。以後、公欠、その他の理由でやむを得ず欠席する場合は、必ず前もって届け出ること。年間9回まで欠席可。二度連続無断欠席は失格。B5 のルーズリーフと辞書を必ず持参すること。

■成績評価方法

出席、授業参加率、授業態度、課題、小テスト（クイズ）の成果によって総合的に評価しますが、このうち「出席と授業参加」を最も重視します。

■教科書／参考書

プリントを随時配布します。

■備考（オフィスアワー）

メールでアポイントメントを取ってください。

授業科目名	英語作文 I English Composition I			
教員名	グリブル ジョン			
開講時期	通年	火曜 4	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

このクラスの主目的は、学生の英語を書く能力を練習によって伸ばすことです。受講生は、毎週、クラスの中でさまざまな話題について書く練習をし、学生同士で間違いを訂正します。また、自分が前週に書いた文章もチェックします。アイデアを生みだし、それを効果的に表現するテクニックを学んでいきます。

■授業計画及び内容

First term, Week:

1. Introduction to the class. Discussion: "Why do we write?"
2. Self Introduction
3. Introduce a Classmate
4. "Morning Person/Night Person"
5. "My Family"
6. "A Family Member"
7. "The Weekend"
8. A Scary or Funny Story (1)
9. A Scary or Funny Story (2)
10. My Favorite Holiday
11. The Best (or Worst) Part of the Holiday Vacation.
12. "A Person Important to Me"
13. Plans for the Semester Break.
14. Group Haiku translation

Second term, Week:

1. Best (or Worst) of Summer
2. My Best (or Worst) Day ever (1)
3. My Worst (or Best) Day Ever (2)
4. My Favorite Place (1)
5. My Favorite Place (2)
6. Write a Story (1)
7. Write a Story (2)
8. The Ideal Spouse
9. "My Other Career"
10. Why I Came to Geidai
11. My Opinion
12. Poems in English (1)
13. Poems in English (2)
14. Final Class Meeting? Writing a Song

■受講に当たっての留意事項

学生は毎回出席し、与えられた作文の課題を仕上げるように。

■成績評価方法

出席と課題の提出具合により採点する。

■教科書／参考書

Singleton, Jill. Writers at Work: The Paragraph.

和英辞典、英和辞典、筆記用具（赤ペンか赤鉛筆を含む）
また、英語学習者用辞典 (Longman or Oxford) の使用を薦める。

■備考（オフィスアワー）

教室で指示する。

授業科目名	Advanced Writing (英語作文Ⅲ) Advanced Writing (English Composition III)			
教員名	磯部 美和			
開講時期	通年	水曜 3	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

パラグラフやエッセイの書き方

■授業計画及び内容

パラグラフやエッセイの構成法を学習しながら、実際に自分でパラグラフやエッセイを作成する。これにより、英語の文章で自分の意見や研究内容をわかりやすく論理的に表現する能力を養う。

■受講に当たっての留意事項

- ・履修希望者は、初回の授業に必ず出席すること（履修人数を制限することがある）。初回授業に出られない場合は、4月11日（金）までに言語・音声トレーニングセンター教員室に相談し、指示を受けること。聴講は不可。
- ・このクラスのレベルは、「英語上級」（美術学部）・「英語演習」（音楽学部）に相当するので、高等学校までで学習した英文法・表現を復習済みであることを前提とする。
- ・課題は文書作成ソフトで作成し、電子メールで提出することが求められる。

■成績評価方法

各学期末試験・毎回の課題提出・平常点（遅刻回数を含む出席状況および授業態度）を総合的に評価する。各学期、総授業回数の 1/3 以上無断欠席した場合、および出席は十分であっても、決められた課題を提出しない場合は失格とする。また、課題の作成時に翻訳ソフトの使用や剽窃が認められた場合は、その時点で失格とする。

■教科書／参考書

<教材>

Oshima, A. and A. Hogue (2007) Writing Academic English. Longman.

<参考書>

授業中に紹介する。

■備考（オフィスアワー）

金曜日 15:00-17:00

授業科目名	実用英語 I a Practical English Ia			
教員名	磯部 美和			
開講時期	通年	月曜 2	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

英語による自己表現能力の養成

■授業計画及び内容

これまでの英語学習で身につけてきた基本的な知識を基に、「話す」「書く」といった能動的な活動を行うことで、日常会話能力・自己表現能力をさらに養う。主に以下の項目について扱っていく予定である。

1. 基本的な構文・文法事項などの学習
2. 身近なトピックに関する会話・ディスカッション
3. 単語・表現の小テスト（毎回授業開始時に実施）
4. 自分の研究領域についてのプレゼンテーション

■受講に当たっての留意事項

- ・履修希望者は初回の授業に必ず出席してレベルチェックテストを受けること。初回授業に出られない場合は、4月11日（金）までに言語・音声トレーニングセンター教員室に相談し、指示を受けること。聴講は不可。
- ・このクラスのレベルは、「英語中級」（美術学部）・「英語Ⅱ」（音楽学部）に相当するので、基本的な英文法や語彙を身につけていることを前提とする。
- ・原則として、実用英語 I b, II a, II b との重複履修不可。
- ・授業への積極的な参加姿勢、および十分な予習・復習が要求される。

■成績評価方法

各学期末試験・毎回の小テスト・平常点（遅刻回数を含む出席状況および授業態度）を総合的に評価する。各学期、総授業回数の 1/3 以上の無断欠席は失格とする。

■教科書／参考書

<教材>

受講者と相談のうえ決定する。

<参考書>

授業時間内に紹介する。

■備考（オフィスアワー）

金曜日 15:00-17:00

授業科目名	実用英語 I b Practical English Ib			
教員名	磯部 美和			
開講時期	通年	金曜 2	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

英語による自己表現能力の養成

■授業計画及び内容

これまでの英語学習で身につけてきた基本的な知識を基に、「話す」「書く」といった能動的な活動を行うことで、日常会話能力・自己表現能力をさらに養う。主に以下の項目について扱っていく予定である。

1. 基本的な構文・文法事項などの学習
2. 身近なトピックに関する会話・ディスカッション
3. 単語・表現の小テスト（毎回授業開始時に実施）
4. 自分の研究領域についてのプレゼンテーション

■受講に当たっての留意事項

- ・履修希望者は初回の授業に必ず出席してレベルチェックテストを受けること。初回授業に出られない場合は、4月16日（水）までに言語・音声トレーニングセンター教員室に相談し、指示を受けること。聴講は不可。
- ・このクラスのレベルは、「英語中級」（美術学部）・「英語Ⅱ」（音楽学部）に相当するので、基本的な英文法や語彙を身につけていることを前提とする。
- ・原則として、実用英語 I a, II a, II b との重複履修不可。
- ・授業への積極的な参加姿勢、および十分な予習・復習が要求される。

■成績評価方法

各学期末試験・毎回の小テスト・平常点（遅刻回数を含む出席状況および授業態度）を総合的に評価する。各学期、総授業回数の 1/3 以上の無断欠席は失格とする。

■教科書／参考書

<教材>

受講者と相談のうえ決定する。

<参考書>

授業時間内に紹介する。

■備考（オフィスアワー）

金曜日 15:00-17:00

授業科目名	実用英語 I c Practical English Ic			
教員名	コリンズ キム ソノコ			
開講時期	通年	火曜 3	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

このクラスの目的は、学術のために実践的な能力（中級）を身につけることです。読む、書く、話す、聞く、語彙を増やすことで英語に習熟しましょう。

■授業計画及び内容

<授業内容>

最初の授業でレベルチェックテストと導入を行います。

読む、書く、語彙を増やすことや、話す能力に焦点を当てます。

学期中、単語テストを行います。

学期末には、プレゼンテーション、自己評価、インタビューが求められます。

<授業計画>

Topics (based on Text)

1st Semester:

Study Abroad - filling forms/writing emails

Countries - descriptions/presentation

Modern Technology - discussion for and against

Conferences and visits - formal writing/speech

2nd Semester:

Science and the world - paraphrasing, summarizing/expressing opinions

People: past and present - research on internet-presentation

IT/Computers - linking ideas/abbreviations/crediting sources/
written report

Inventions, process - describing a process

Travel and tourism - interpreting data and presenting graphs,
charts.

■受講に当たっての留意事項

このクラスのレベルは、「英語中級」（美術学部）・「英語 II」（音楽学部）に相当します。

最初の授業でレベルチェックテストを行います。毎回授業に出席し、欠席する場合には欠席届を提出すること。課題をやり遂げ、授業活動に十分参加するように。欠席した時は、授業の進捗を教師に確認して下さい。

■成績評価方法

出席、授業への参加具合、課題の達成度、単語テスト、プレゼンテーション、学期末のインタビューによって採点します。

■教科書／参考書

New Headway Academic Skills, Reading, Writing, and Study Skills Level 2 (Sarah Philpot/ Series Editors John and Liz Soars: 2010 Oxford)

■備考（オフィスアワー）

Email: [mailto:sonoko31@gmail.com]

授業科目名	実用英語 II a Practical English IIa			
教員名	磯部 美和			
開講時期	通年	月曜 3	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

英語による自己表現能力の養成

■授業計画及び内容

これまでの英語学習で身につけてきた運用能力を基に、「話す」「書く」といった能動的な活動を行うことで、より高度な日常会話能力・自己表現能力を養う。主に以下の項目について扱っていく予定である。

1. 実用的な表現方法や論理的に意見を述べる方法
2. 身近なトピックに関するディスカッション
3. 自分の研究領域についてのプレゼンテーション
4. 単語・表現の小テスト（毎回授業開始時に実施）

■受講に当たっての留意事項

・履修希望者は初回の授業に必ず出席してレベルチェックテストを受けること。初回授業に出られない場合は、4月11日（金）までに言語・音声トレーニングセンター教員室に相談し、指示を受けること。聴講は不可。

・このクラスのレベルは、「英語上級」（美術学部）・「英語演習」（音楽学部）に相当するので、高等学校までで学習した英文法・表現を復習済みであることを前提とする。

・原則として、実用英語 I a, I b, II b との重複履修不可。

・授業への積極的な参加姿勢、および十分な予習・復習が要求される。

■成績評価方法

各学期末試験・毎回の小テスト・平常点（遅刻回数を含む出席状況および授業への貢献度）を総合的に評価する。各学期、総授業回数の1/3以上の無断欠席は失格とする。

■教科書／参考書

<教材>

新聞記事やインターネット上の講演ビデオを利用する予定であるが、詳細は受講者と相談のうえ決定する。

<参考書>

授業時間内に紹介する。

■備考（オフィスアワー）

金曜日 15:00-17:00

授業科目名	実用英語Ⅱb Practical English IIb			
教員名	磯部 美和			
開講時期	通年	金曜 3	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

英語による自己表現能力の養成

■授業計画及び内容

これまでの英語学習で身につけてきた運用能力を基に、「話す」「書く」といった能動的な活動を行うことで、より高度な日常会話能力・自己表現能力を養う。主に以下の項目について扱っていく予定である。

1. 実用的な表現方法や論理的に意見を述べる方法
2. 身近なトピックに関するディスカッション
3. 自分の研究領域についてのプレゼンテーション
4. 単語・表現の小テスト（毎回授業開始時に実施）

■受講に当たっての留意事項

- ・履修希望者は初回の授業に必ず出席してレベルチェックテストを受けること。初回授業に出られない場合は、4月16日（水）までに言語・音声トレーニングセンター教員室に相談し、指示を受けること。聴講は不可。
- ・このクラスのレベルは、「英語上級」（美術学部）・「英語演習」（音楽学部）に相当するので、高等学校までで学習した英文法・表現を復習済みであることを前提とする。
- ・原則として、実用英語Ⅰa, Ⅰb, Ⅱbとの重複履修不可。
- ・積極的な参加姿勢、および十分な予習・復習が要求される。

■成績評価方法

各学期末試験・毎回の小テスト・平常点（遅刻回数を含む出席状況および授業態度）を総合的に評価する。各学期、総授業回数の1/3以上の無断欠席は失格とする。

■教科書／参考書

<教材>

新聞記事やインターネット上の講演ビデオを利用する予定であるが、詳細は受講者と相談のうえ決定する。

<参考書>

授業時間内に紹介する。

■備考（オフィスアワー）

金曜日 15:00-17:00

授業科目名	実用英語Ⅱc Practical English IIc			
教員名	コリンズ キム ソノコ			
開講時期	通年	木曜 4	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

このクラスの目的は、（上級）英語における実践的な能力を身につけることです。読み書きの課題とプレゼンテーションに加え、話す／聞く／語彙を増やすことで英語に習熟しましょう。

■授業計画及び内容

<授業内容>

最初の授業でレベルチェックテストと導入を行います。話す、聞く、そして読み書き能力に焦点を当てます。単語小テストやプレゼンテーションを課します。

<授業計画>

トピック (based on Text)

前期：

1. Moving on : new places, new people - Introductions
2. Island States: talking about countries
3. Careers in the media: talking about jobs and studies
4. Innovations from nature: using visuals, describing objects
5. Conversations: making conversation

後期：

6. Food Science: listening for gist, taking notes, checking understanding.
7. Great Lives: Listening for details, giving opinions and presentation.
8. Communication: surveys, talking to strangers
9. Significant objects: supporting an argument
10. Responsible Tourism: longer listening, transitions, dealing with questions and presentation.

■受講に当たっての留意事項

最初の授業でレベルチェックテストを行います。毎回授業に出席し、欠席する場合には欠席届を提出すること。課題をやり遂げ、授業活動に十分参加するように。欠席した時は、授業の進捗を教師に確認して下さい。

■成績評価方法

このクラスのレベルは、「英語上級」（美術学部）・「英語演習」（音楽学部）に相当します。

出席、授業への参加度、課題の達成度、単語小テスト、プレゼンテーション、期末口頭試験によって評価します。

■教科書／参考書

Headway Academic Skills Listening, Speaking and Study Skills Level 2 (Sarah Philpot and Lesley Curnick: Oxford 2011)

■備考（オフィスアワー）

Email:[mailto:sonoko31@gmail.com[/mail]

授業科目名	英語原典指導 A Consulting Hours A			
教員名	グリブル ジョン			
開講時期	通年	火曜 5	単位	0
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

学生の個人的問題に即した指導を行う。

■授業計画及び内容

個別指導を必要とする学生を対象とする。論文執筆のための準備、留学のための必要書類添削、語学検定試験のための準備、演奏会のための歌詞の発音チェックなど、あらかじめ学生が準備してきた内容を個別に指導する。原則として一人あたり30分の指導が受けられる。

■受講に当たっての留意事項

指導を希望する学生はその都度、言語・音声トレーニングセンター教員室（音楽学部 4 号館 4-209）にて予約をすること。都合が悪くなった場合は、必ず当センターに連絡をすること。

■成績評価方法

無単位の授業であり、成績評価の対象外である。（この授業を履修登録することはできない。）

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	英語原典指導 B Consulting Hours B			
教員名	コリンズ キム ソノコ			
開講時期	通年	水曜 4	単位	0
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

学生の個人的問題に即した指導を行う。

■授業計画及び内容

個別指導を必要とする学生を対象とする。論文執筆のための準備、留学のための必要書類添削、語学検定試験のための準備、演奏会のための歌詞の発音チェックなど、あらかじめ学生が準備してきた内容を個別に指導する。原則として一人あたり30分の指導が受けられる。

■受講に当たっての留意事項

指導を希望する学生はその都度、言語・音声トレーニングセンター教員室（音楽学部 4 号館 4-209）にて予約をすること。都合が悪くなった場合は、必ず当センターに連絡をすること。

■成績評価方法

無単位の授業であり、成績評価の対象外である。（この授業を履修登録することはできない。）

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	独語会話 I a German Conversation Ia			
教員名	シュタイン ミヒャエル			
開講時期	通年	火曜 4	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

ドイツ語は、読み書きだけのものではなく、話し言葉である。特に留学を考えれば、早めに言葉の壁を乗り越えよう。

■授業計画及び内容

初級・中級向けのドイツ語会話。日常的なドイツ語会話の能力をグレード・アップする。ドイツ語をコミュニケーションの手段と見て、おしゃべりするがこのコースの目的です。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

授業中の勉強意欲・予習・出席率を基に成績をつけます。

■教科書／参考書

プリントを配布する。

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

授業科目名	独語会話 I b German Conversation Ib			
教員名	ククリンスキ アンドレア			
開講時期	通年	木曜 3	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

ドイツ語圏諸国での日常生活に必要な基礎的な会話ができる運用能力を養う。会話の授業であるため、重点は口頭の練習にある。

■授業計画及び内容

ドイツ語（主に文法）を1年以上学んだ学生を対象とする。簡単な挨拶などのような身近な場面からスタートし、数多くの練習によってドイツ語の実際の会話能力を養う。授業の重点は「話す・聞く」の能力の養成にあるため、練習の第一目的は、学生の日常生活に必要な語彙を増やすことにある。場合によっては、解読と作文練習も行う。この授業に1年間続けて参加することで、ドイツ語圏諸国での日常生活ができる程度のコミュニケーション能力を身につけることを目指す。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

授業への参加・宿題・出席率・随時行われる小テストを総合的に評価する。中でも授業への積極的な参加を高く評価する。さらに、各学期末には、口頭試験を行う。

■教科書／参考書

“studio [21]” A1/1: Das Deutschbuch, Cornelsen-Verlag

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

授業科目名	独語会話 I c German Conversation Ic			
教員名	ククリンスキ アンドレア			
開講時期	通年	金曜 3	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

ドイツ語圏諸国での日常生活に必要な基礎的な会話ができる運用能力を養う。会話の授業であるため、重点は口頭の練習にある。

■授業計画及び内容

ドイツ語（主に文法）を1年以上学んだ学生を対象とする。簡単な挨拶などのような身近な場面からスタートし、数多くの練習によってドイツ語の実際の会話能力を養う。授業の重点は「話す・聞く」の能力の養成にあるため、練習の第一目的は、学生の日常生活に必要な語彙を増やすことにある。場合によっては、解読と作文練習も行う。この授業に1年間続けて参加することで、ドイツ語圏諸国での日常生活ができる程度のコミュニケーション能力を身につけることを目指す。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

授業への参加・宿題・出席率・随時行われる小テストを総合的に評価する。中でも授業への積極的な参加を高く評価する。

■教科書／参考書

“studio [21]” A1/1: Das Deutschbuch, Cornelsen-Verlag

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

授業科目名	独語会話 II German Conversation II			
教員名	ククリンスキ アンドレア			
開講時期	通年	木曜 4	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

ドイツ語会話の能力をさらに伸ばし、ドイツ語圏諸国での長期滞在に必要なコミュニケーション・スキルの養成を図る。

■授業計画及び内容

ドイツ語の基礎的な会話能力を身につけた学生を対象とし、その能力を実際の会話練習によってさらに伸ばす。ごく簡単な文法を基に、広範囲に渡る内容をドイツ語で表現する能力を習得する。授業の重点は「話す・聞く」の能力の養成にあるため、練習の第一目的は、学生の日常生活に必要な語彙を増やすことにある。場合によっては、解読と作文練習も行う。特に留学を考える学生にとり、留学先の日常・学生生活に必要な言語能力を身につける有益な授業である。また、声楽の学生へ向けて、発音練習も数多く行う。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

授業への参加・宿題・出席率・随時行われる小テストを総合的に評価する。中でも授業への積極的な参加を高く評価する。さらに、各学期末には、口頭試験を行う。

■教科書／参考書

studio d A1, Teilband 2, Cornelsen-Verlag

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

授業科目名	実用ドイツ語 I a Practical German Ia			
教員名	シュタイン ミヒャエル			
開講時期	通年	水曜 4	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

初級で勉強した文法・語彙などが、実際に文章や会話でいかに使われるかを知り、体験する。

■授業計画及び内容

初級を終え、さらにドイツ語を続けたいと思う学生のためのコース。イラスト付きのやさしいテキストを使い、会話と練習問題に挑戦する。主にドイツ語を始めて2年目の学生を対象とする。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

予習・宿題・勉強への積極性・テスト・出席率を基に、成績をつける。

■教科書／参考書

「蜂蜜瓶の中に消えた指輪」『Der Ring im Honigglas』、同学者

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

授業科目名	実用ドイツ語 I b Practical German Ib			
教員名	ククリンスキ アンドレア			
開講時期	通年	金曜 2	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

初級で身についたドイツ語能力を実際の練習において運用させ、ドイツ語による自己表現能力（話す・聞く・読む・書く）を養成する。

■授業計画及び内容

ドイツ語（主に文法）を1年以上学んだ学生を対象とする。この授業の第一目的は、学習者があらゆるシチュエーションにおいて、自分から積極的にドイツ語でコミュニケーションを取る能力の養成にある。ドイツ語会話に重点を置く教科書を基盤に、学生全員が参加する実際の練習によってドイツ語の運用能力を高める。発音練習、パートナーとの練習やゲーム等々、数多く取り入れる。練習の第一目的は、学生の日常生活に必要な語彙を増やすことにある。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

授業への参加・宿題・出席率・随時行われる小テストを総合的に評価する。中でも授業への積極的な参加を高く評価する。

■教科書／参考書

- (1) “Menschen” A1/1, Kursbuch, Hueber-Verlag
- (2) “Menschen” A1/1, Arbeitsbuch, Hueber-Verlag

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

授業科目名	実用ドイツ語Ⅱ Practical German 2			
教員名	ククリンスキ アンドレア			
開講時期	通年	火曜 2	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

ドイツ語の能力（読む・書く・聞く・話す）をさらに伸ばし、ドイツ語圏諸国での長期滞在に必要なコミュニケーション・スキルの養成を図る。特に留学や研究を目的とする学生向けへの授業である。

■授業計画及び内容

ドイツ語会話Ⅰや実用ドイツ語Ⅰを終えた学生、またはそれと同等のドイツ語能力を身につけた学生を対象とする。実際の練習によって読む・書く・聞く・話す能力を同時に伸ばす。授業の重点は語彙の拡大にあるが、そのために必要な文法練習も含める。特に留学を考える学生にとり、留学先の日常・学生生活に必要な言語能力を養う有益な授業である。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

授業への参加・宿題・出席率・たまに行われる小テストを総合的に評価する。中でも授業への積極的な参加を高く評価する。

■教科書／参考書

- (1) “Menschen “ A1/2, Kursbuch, Hueber-Verlag
- (2) “Menschen “ A1/2, Arbeitsbuch, Hueber-Verlag

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

授業科目名	独語作文Ⅰ German Composition I			
教員名	ククリンスキ アンドレア			
開講時期	通年	火曜 3	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

ドイツ語圏諸国において生活ができるように、書く練習を数多く行い、ドイツ語の作文能力を身につける授業である。留学や研究を目的とする学生のために、基礎的な書く能力を養成する。

■授業計画及び内容

ドイツ語を1年以上学んだ学生を対象とする。簡単なメモや短い挨拶からスタートし、メール、葉書、手紙等の一般的な文通、日記、描写、報告書、詩や物語等々、数多くの具体的な練習を行い、ドイツ語で文章を作る能力を習得する。言語ゲームなども頻繁に行い、学生の創造力を増やしながらドイツ語の能力を伸ばす。特に留学を考える学生にとり、留学先の日常・学生生活に必要な言語能力を身につける有益な授業である。

■受講に当たっての留意事項

和独辞典を授業へ持参する必要がある。電子辞書を薦める（ネット上の辞書可）。

■成績評価方法

授業への参加・宿題・出席率を総合的に評価する。テストは行わないが、毎週宿題を課する。

■教科書／参考書

プリントを配布する。

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

授業科目名	独語原典指導 A Consulting Hours (German) A			
教員名	シュタイン ミヒャエル			
開講時期	通年	月曜 5	単位	0
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

学生の個人的問題に即した指導を行う。

■授業計画及び内容

個別指導を必要とする学生を対象とする。論文執筆のための準備、留学のための必要書類添削、語学検定試験のための準備、演奏会のための歌詞の発音チェックなど、あらかじめ学生が準備してきた内容を個別に指導する。原則として一人あたり 30 分間の指導が受けられる。

■受講に当たっての留意事項

指導を希望する学生はその都度、言語・音声トレーニングセンター教員室（音楽学部ホール館 H-203）にて予約をすること。都合が悪くなった場合は、必ず当センターに連絡をすること。

■成績評価方法

無単位の授業であり、成績評価の対象外である。この授業を履修登録することは必要でない。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	独語原典指導 B Consulting Hours (German) B			
教員名	ククリンスキ アンドレア			
開講時期	通年	木曜 2	単位	0
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

学生の個人的問題に即した指導を行う。

■授業計画及び内容

個別指導を必要とする学生を対象とする。論文執筆のための準備、留学のための必要書類添削、語学検定試験のための準備、演奏会のための歌詞の発音チェックなど、あらかじめ学生が準備してきた内容を個別に指導する。原則として一人あたり 30 分間の指導が受けられる。

■受講に当たっての留意事項

指導を希望する学生はその都度、言語・音声トレーニングセンター教員室（1 号館 1-2-22）にて予約をすること。都合が悪くなった場合は、必ず当センターに連絡をすること。指導は H-207 の部屋に行う。

■成績評価方法

無単位の授業であり、成績評価の対象外である。（この授業を履修登録する必要はない。）

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	実用フランス語Ⅱ Practical French II			
教員名	ヴィエル エリック			
開講時期	通年	月曜 5	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

この授業の到達目標は DELF の B1/B2 を取得できるレベルを養うことにあります。語学試験の準備など、参加する学生の要望、関心、必要性に沿って授業が行われます。

■授業計画及び内容

一年の間に、各自の専門に関連したテーマを選んでフランス語で発表を行っていただきます。この発表は専門的な意味でも実践的な意味でも役に立つでしょう。勉強したことを説明するために、目を引くようなハンドアウト、パソコン、テレビ、ピアノなど、さまざまな手段を自由に用いて発表を行ってください。

DELF の B1/B2 の到達目標は以下の通り。
フランス語を全般に渡って自主的に運用できる。複雑なテキストの要点を理解すると同時に、一般的あるいは専門的な内容の会話に参加し、筋通の通った意見を明確に詳細に述べることができる。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

小テスト、授業への積極的な参加度。

■教科書／参考書

教室で配布する。

■備考（オフィスアワー）

質問は、授業の前後に受け付ける。

授業科目名	仏語原典指導 Consulting Hours (French)			
教員名	ヴィエル エリック			
開講時期	通年	木曜 4	単位	0
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

学生の個人的問題に即した指導を行う。

■授業計画及び内容

個別指導を必要とする学生を対象とする。論文執筆のための準備、留学のための必要書類添削、語学検定試験のための準備、演奏会のための歌詞の発音チェックなど、あらかじめ学生が準備してきた内容を個別に指導する。原則として一人あたり 30 分の指導が受けられる。

■受講に当たっての留意事項

指導を希望する学生はその都度、言語・音声トレーニングセンター教員室（音楽学部 4 号館 4-209）にて予約をすること。都合が悪くなった場合は、必ず当センターに連絡をすること。

■成績評価方法

無単位の授業であり、成績評価の対象外である。（この授業を履修登録することはできない。）

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	伊語会話 I a Italian Conversation Ia			
教員名	ジェレヴィーニ アレッサンドロ			
開講時期	通年	月曜 5	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

日常の伊語会話のスピードに慣れ、自然な言葉の受け答えができるよう練習します。

■授業計画及び内容

教科書を使い、日常的なイタリア語会話の練習をします。初級～中級の基本的な文法を身につけていることと、ある程度の語彙力を備えていることが必要です。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

年2回の期末テストの他、出席回数、授業中の勉強意欲などを参考にして採点する。

■教科書／参考書

教科書：

Mazzetti, Falcinelli, Servadio 著、『Qui Italia, 1 Lingua e grammatica (Nuova Edizione)』, Le Monnier 出版社, 2002. (ISBN: 88-00-85356-0)

参考書：

Takeshi Tojo, Rie Inouchi 『Qui Italia. Note di grammatica italiana per studenti giapponesi (文法ハンドブック)』、Le Monnier 2008 ;
クラウドディオ・マネッラ『Ecco! イタリア語文法』Progetto Lingua

辞書：

『伊和中辞典・第2版』小学館；
『和伊中辞典・第2版』小学館；
『ポケット・プログレッシブ 伊和・和伊辞典』小学館

■備考（オフィスアワー）

学生と相談した上、決める。

授業科目名	伊語会話 I b Italian Conversation Ib			
教員名	ジェレヴィーニ アレッサンドロ			
開講時期	通年	金曜 2	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

日常の伊語会話のなかで、意思伝達のために役立つ基本的な表現や言い回しを覚えます。

■授業計画及び内容

教科書にそって、イタリア語の基本的言い回しを勉強します。伊語初級の単位を取得し、イタリア語文法の知識をひとつおりに身につけている学生を対象とします。教室での勉強に積極的に参加すること。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

年2回の期末テストの他に、出席回数、授業中の勉強意欲などを参考にして採点します。

■教科書／参考書

教科書：

Mazzetti, Falcinelli, Servadio 著、『Qui Italia, 1 Lingua e grammatica (Nuova Edizione)』, Le Monnier 出版社, 2002. (ISBN: 88-00-85356-0)

参考書：

Takeshi Tojo, Rie Inouchi 『Qui Italia. Note di grammatica italiana per studenti giapponesi (文法ハンドブック)』、Le Monnier 2008 ;
クラウドディオ・マネッラ『Ecco! イタリア語文法』Progetto Lingua

辞書：

『伊和中辞典・第2版』小学館；
『和伊中辞典・第2版』小学館；
『ポケット・プログレッシブ 伊和・和伊辞典』小学館

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

授業科目名	実用イタリア語Ⅱ Practical Italian II			
教員名	ジェレヴィーニ アレッサンドロ			
開講時期	通年	水曜 3	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

挨拶よりさらに踏み込んだ内容の会話を持続させることができるように、練習します。

■授業計画及び内容

イタリア語文法の基礎的知識をすでに身につけ、会話も出来るけれど、さらに磨きをかけたいと思っている学生、あるいは奨学金を獲得し、イタリアの大学で勉強したいと思っている学生などを対象とします。

教科書にそって授業を進めます。

またイタリアの大衆文化に対する理解を深める目的でポップス、映画などを紹介することを考えています。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

年2回の期末テストの他、出席回数、積極的な授業参加などを参考にして採点します。

■教科書／参考書

教科書：

『Nuovo Progetto italiano 1』Edilingua.

参考書：

クラウディオ・マネッラ『Ecco! イタリア語文法』Progetto Lingua.

辞書：

『伊和中辞典・第2版』小学館；

『和伊中辞典・第2版』小学館；

『ポケット・プログレッシブ 伊和・和伊辞典』小学館

■備考（オフィスアワー）

学生と相談した上、決める。

授業科目名	伊語原典指導 Consulting Hours (Italian)			
教員名	ジェレヴィーニ アレッサンドロ			
開講時期	通年	水曜 2	単位	0
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

学生の個人的問題に即した指導を行う。

■授業計画及び内容

個別指導を必要とする学生を対象とする。論文執筆のための準備、留学のための必要書類添削、語学検定試験のための準備、演奏会のための歌詞の発音チェックなど、あらかじめ学生が準備してきた内容を個別に指導する。原則として一人あたり30分の指導が受けられる。

■受講に当たっての留意事項

指導を希望する学生はその都度、言語・音声トレーニングセンター教員室（音楽学部1号館2-22）にて予約をすること。都合が悪くなった場合は、必ず当センターに連絡をすること。

■成績評価方法

無単位の授業であり、成績評価の対象外である。（この授業を履修登録することはできない。）

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	英語ディスカッションII English Discussion/Debate II			
教員名	コリンズ キム ソノコ			
開講時期	通年	火曜 2	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

このクラスの目的は、英語でディスカッションやディベートをする技能を向上させることです。

■授業計画及び内容

<授業内容>

レベルチェックテストと自己紹介から授業を始めます。授業活動には、ディスカッション、ディベートの練習とともにライティングも含まれます。インターネットや新聞で調べることが求められます。読む、書く、聴く、話す能力を向上させることや、語彙を増やすことも授業の目的のひとつです。ディスカッションやディベートの論題について、小論を書くことも求められます。年度末に自己評価、インタビューがあります。

■受講に当たっての留意事項

このクラスのレベルは、「英語上級」(美術学部)・「英語演習」(音楽学部)に相当します。

最初の授業でレベルチェックテストをします。毎回授業に出席し、欠席する場合には欠席届を提出すること。課題をやり遂げること、積極的な参加姿勢が求められます。

■成績評価方法

出席、授業への参加具合、課題の達成度、自己評価、インタビューにより、採点します。

■教科書／参考書

テキストは使いません。インターネットを元にしたハンドアウトや調査(学生のものを含む)を使います。小論を書く際、A4ファイルが必要。

■備考(オフィスアワー)

Email:[mailto:sonoko31@gamil.com[/mail]

授業科目名	英語プレゼンテーションII English Presentation II			
教員名	コリンズ キム ソノコ			
開講時期	通年	水曜 2	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

このクラスの目的は、英語でプレゼンテーションを行う技能を向上させることです。

■授業計画及び内容

<授業内容>

レベルチェックテストと自己紹介から授業を始めます。授業活動には、プレゼンテーション技術の練習とともにスピーチ原稿を書くことも含まれます。読む、書く、聴く、話す能力を向上させることや、語彙を増やすことも授業の目的のひとつです。授業では、視聴覚教材も使用します。授業期間中、スピーチやプレゼンテーションを書くことも求められます。年度末に、最終プレゼンテーションと自己評価をしてもらいます。

■受講に当たっての留意事項

このクラスのレベルは、「英語上級」(美術学部)・「英語演習」(音楽学部)に相当します。

最初の授業でレベルチェックテストをします。毎回授業に出席し、欠席する場合には欠席届を提出すること。課題をやり遂げ、授業活動に十分参加するように。

■成績評価方法

出席、授業活動への参加具合、課題の達成度や、学期末のプレゼンテーションにより、採点します。

■教科書／参考書

教科書は使いません。スピーチ原稿を書く際に、A4ファイルを持つてくること。

■備考(オフィスアワー)

Email:[mailto:sonoko31@gmail.com[/mail]

保健体育科目

授業科目名	体育 I (身体操法～身体を通して気づく～) Physical Education 1(Body Work ~Developing Self-Awareness Through the Body ~)			
教員名	林 久仁則			
開講時期	通年	月曜 3	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

「身体を育む」ことの意義や価値の理解を深める。

1. 「力をぬく」

単純に力をぬくことは誰にでもできる。ここでの力のぬきとは、力をぬくことから新たに気づく自分自身の内側から起こる身体感覚そのものである。自由闊達な状態とは肩肘に力が漲った状態であるだろうか。力が強いことに注目しがちな身体を、力のぬきという観点で捉え直す。自己の身体の硬い部分にこそ、力をぬく感覚を養う必要がある。

2. 「ありのままに動く」

抵抗、反発、押す、引く、掴まれる、外力として自分の身体に加わった作用に対して、身体は意識的・無意識的に反応してしまう。その反応を身体操作という点で吟味すると、これらの外力や抵抗と向き合っている自分自身の在り方に注目せざるをえなくなる。ありのままに動くにはどうあればよいのか。その時の身体をどうしていくことが抵抗を障害とせず、自由に動けるのか。すぐには出来ないもどかしさも含め、自分の癖や動きに注目していく。

■授業計画及び内容

具体的な内容は身体に外力が加わった状況下での対人での動きや、ペアを組んで互いの動きや感覚の検証をするといった地味な動作の検証が中心となってくる(時に杖やヒモなどの道具を使用するが、各自で準備する必要はない)。受講生の学習進度に応じて内容を進める予定だが、授業の後半では身体の使い方のコツを基に、その状態でバスケットボールのシュートを打ってみたり、綱引きをしたり、実際の動きへの応用時にパフォーマンスがどのように変わるかも検証していく。動作の内省を通して身体操作感覚を育み、「力をぬく」と「ありのままに動く」ことがスポーツ場面へどう応用できるかを、年間を通して取組んでいく。

なるべく多くの気づきが受講生から引き出されるよう、授業で記述する個人ノートを活用する。器用でもあり不器用でもある身体と向き合いながらも、自由に伸びやかに動ける自分自身との出会いを体験して欲しい。

■受講に当たっての留意事項

週 1 回、通年で授業を開講する。基本的には学生が自由に選択する科目であるが、定員を超えた場合は抽選を行う。詳細については4月の体育授業ガイダンス時に説明する。

■成績評価方法

- ・出席状況及び受講態度
- ・評価に関して、初回のガイダンス時に明確な成績評価基準を説明する。

授業中の開始と終了の時間を丁寧にし、5分以上の遅刻は厳しく対応する。ただし、正当な理由は受け付ける。授業の終了は余裕をもって終えることを約束する。

■教科書／参考書

身体操作と深い関連のある武道に注目をし、その特徴・身体観・古人の言葉について資料を配布する。これらを読み進め、教養としての身体観も身につけていく。

■備考 (オフィスアワー)

月、水、金：13時30分～17時00分(上野校地体育館教員室)

授業科目名	体育 I (フラッグフットボール・球技) Physical Education 1(Flag Football/Ball game)			
教員名	林 久仁則			
開講時期	通年	月曜 4	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

「身体を育む」ことの意義や価値の理解を深める。

1. 「チームコミュニケーション」

多くの球技チームスポーツでは、自分がどうしたいか、相手がどう動くのかといった意思疎通が非常に重要である。時に出しゃばることや自分の意志を伝えることの躊躇がチームを生かせない原因となってしまう。他者をどう扱い、自分の役をどう見極めるか。その点に意識を置き、チームとしてのコミュニケーションを重視し、チーム力を高める工夫や知恵を出し合う。

2. 「真剣勝負」

準備を徹底し、作戦を遂行し、結果として味わう達成感をチームで共有することがチームスポーツの魅力の一つ。そのためには各自が有している真剣さをいかに前面に出し、主体性ある取組みが出来るかが求められる。その真剣さと表裏一体の充足感に、スポーツの魅力を再認識する。

■授業計画及び内容

- ・実技だけでなく、各種目の歴史、ルール、競技特性等を踏まえながら、講義も行う。
- ・年間のうち前期はフラッグフットボールを中心に実施し、後期は幅広く球技を中心に実施する。球技の内容は「バスケットボール、バレーボール、フットサル、ユニホック、アルティメット」などを予定し、受講生の希望にも対応する。
- ・楯円球のボールのスローイング、キャッチング
- ・フラッグ取り、相手のかわり方、コート設置、ルールの理解
- ・1対1、3対3、ミニゲーム、戦略の基礎
- ・リーグ戦形式のゲーム、戦術の立案
- ・チーム固定によるリーグ戦は5週目以降
- ・有志による大学対抗の遠征試合(予定：夏季休暇中)

■受講に当たっての留意事項

週 1 回、通年で授業を開講する。基本的には学生が自由に選択する科目であるが、定員を超えた場合は抽選を行う。詳細については4月の体育授業ガイダンス時に説明する。

■成績評価方法

- ・出席状況及び受講態度
 - ・評価に関して、初回のガイダンス時に明確な成績評価基準を説明する。
- 授業中の開始と終了の時間を丁寧にし、5分以上の遅刻は厳しく対応する。ただし、正当な理由は受け付ける。授業の終了は余裕をもって終えることを約束する。

■教科書／参考書

授業中に配布するプリント、およびゲームの映像などの振り返りの時間を設ける。

■備考 (オフィスアワー)

月、水、金：13時00分～17時00分(上野校地体育館教員室)

授業科目名	体育 I (球技・ランニング&フィットネス) Physical Education 1(Ball game/ Running&fitness)			
教員名	大林 太朗			
開講時期	通年	月曜 5	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

身体運動の実践を通じて、自己の健康や体力に対する認識を深めるとともに、健康・体力づくりの方法を理解する。また、様々なスポーツ種目の基礎的な動きなどを習得する。さらに、講義を通して、「身体を育む」ことの意義や価値の理解を深める。

■授業計画及び内容

- ・球技：学内施設において、テニス、卓球、フットサル、バスケットボール、バレーボール等を行い、各種目の基礎的な実践能力を身につける。
- ・ランニング&フィットネス：大学周辺（上野公園等）でのランニング&ウォーキング、雨天時には体育館にてストレッチ、レジスタンストレーニング等を行い、それぞれの運動が身体に与える効果について理解する。
- ・なお、本授業では実技だけでなく、スポーツの歴史（古代～近代）や各競技・種目の特徴、および健康科学の理論に関する講義も行う。

■受講に当たっての留意事項

- ・週一回、通年で授業を開講する。
- ・運動に適した服装、シューズを準備すること。
- ・基本的には学生が自由に選択する科目であるが、定員を超えた場合にはやむを得ず抽選を行うこともある。
- ・詳細については4月の体育授業ガイダンス時に説明する。

■成績評価方法

- ・一年間を通した出席状況及び、積極的な受講態度を評価する。

■教科書／参考書

特に指定しない。

■備考（オフィスアワー）

- ・月、水、金：13時00分～17時00分（上野校地体育館教員室）

授業科目名	体育 I (球技等スポーツ) Physical Education 1(Sport)			
教員名	数馬 広二			
開講時期	通年	水曜 3	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

「身体を育む」ことの意義や価値の理解を深める。様々なスポーツ種目の基礎的な動きの習得を通して、自己の健康や体力に対する認識を深めるとともに、健康・体力づくりの方法を理解する。また、自らが備えている身体感覚を高める。

■授業計画及び内容

- 実技だけでなく、各種目の歴史、ルール、競技特性等を踏まえながら、講義も行う。
- ・バドミントンの歴史とルール、シングルス・ゲーム、ダブルス・ゲーム
 - ・バレーボールのルール、基礎技能（トス、レシーブなど）、応用技能（レシーブからスパイクへ）、ゲーム
 - ・卓球の歴史とルールと基礎技能（ラケットの握り方、ドライブ、バックspin）、シングルス・ゲーム、ダブルス・ゲーム
 - ・ユニホックの歴史とルールおよびゲーム（5対5）
 - ・アルティメットのルールとゲーム
 - ・まとめ

■受講に当たっての留意事項

- ・週1回、通年で授業を開講する。
- ・運動シューズ、運動に適した服装を準備すること。
- ・基本的には学生が自由に選択する科目であるが、定員を超えた場合はやむを得ず抽選を行うこともある。
- ・詳細については4月の体育授業ガイダンス時に説明する。

■成績評価方法

- ・1年間を通した出席状況及び、積極的な受講態度を評価する。

■教科書／参考書

特に指定しない。

■備考（オフィスアワー）

- 月、水、金：13時00分～17時00分（上野校地体育館教員室）

授業科目名	体育 I (球技等スポーツ・体操) Physical Education 1(Sport/Gymnastic exercises)			
教員名	数馬 広二、鈴木 由起子			
開講時期	通年	水曜 4	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

「身体を育む」ことの意義や価値の理解を深める。
様々なスポーツ種目の基礎的な動きの習得を通して、自己の健康や体力に対する認識を深めるとともに、健康・体力づくりの方法を理解する。また、自らが備えている身体感覚を高める。

■授業計画及び内容

実技だけでなく、各種目の歴史、ルール、競技特性等を踏まえながら、講義も行う。

- ・バドミントンの歴史とルール
- ・バドミントン (シングルス・ダブルス ゲーム)
- ・卓球の歴史とルールと基礎技能 (ラケットの握り方、ドライブ、バックspin)
- ・卓球 (シングルス・ダブルス ゲーム)
- ・バレーボールのルール、基礎技能 (トス、レシーブなど)
- ・バレーボールの応用技能 (レシーブからスパイクへ) ゲーム
- ・ユニホックの歴史とルールおよびゲーム
- ・ユニホックのゲーム (5対5)
- ・コミュニケーションプログラム
- ・柔軟性のチェック、ボールを使った動き
- ・G ボールを使った動き
- ・棒とボールを使った動き
- ・輪や縄を使った動き
- ・姿勢のチェック、ステップ・ワルツ

履修状況に応じて講義内容を変更する場合があります。

■受講に当たっての留意事項

- ・週 1 回、通年で授業を開講する。
- ・運動シューズ、運動に適した服装を準備すること。
- ・基本的には学生が自由に選択する科目であるが、定員を超えた場合は抽選を行う。詳細については 4 月の体育授業ガイダンス時に説明する。

■成績評価方法

出席状況及び受講態度

■教科書／参考書

特に指定しない。

■備考 (オフィスアワー)

月、水、金：13 時 00 分～17 時 00 分 (上野校地体育館教員室)

授業科目名	体育 I (体操・球技) Physical Education 1(Gymnastic exercises/ Ball game)			
教員名	鈴木 由起子			
開講時期	通年	水曜 5	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

身体運動の実践を通じて、自己の健康や体力に対する認識を深めるとともに、健康・体力づくりの方法を理解する。また、様々なスポーツ種目の基礎的な動きなどを習得する。さらに、講義を通して、「身体を育む」ことの意義や価値の理解を深める。

■授業計画及び内容

・実技だけでなく、各種目の歴史、ルール、競技特性等を踏まえながら、講義も行う。

前期

1. ボールを使った動き①、バレーボール①
2. コミュニケーションプログラム、バレーボール②
3. 柔軟性のチェック、バレーボール③
4. ボールを使った動き②、バレーボール④
5. 棒とボールを使った動き、バレーボール⑤
6. G ボールを使った動き①、バレーボール⑥
7. G ボールを使った動き②、バレーボール⑦
8. 姿勢のチェック、ステップ・ワルツ①、バドミントン①
9. ステップ・ワルツ②、バドミントン②
10. ステップ・ワルツ③、バドミントン③
11. トレーニング機器の使い方①、バドミントン④
12. トレーニング機器の使い方②、バドミントン⑤
13. バドミントン⑥
14. バドミントン⑦

後期

1. フリスビー
2. 輪を使った動き①、バスケットボール①
3. 輪を使った動き②、バスケットボール②
4. なわを使った動き①、バスケットボール③
5. なわを使った動き②、ユニホック①
6. 長縄を使った動き、ユニホック②
7. コーディネーショントレーニング、ユニホック③
8. G ボールを使った動き③、卓球①
9. G ボールトレーニング①、卓球②
10. G ボールトレーニング②、卓球③
11. サーキット・エクササイズ①、卓球④
12. サーキット・エクササイズ②、卓球⑤
13. 卓球⑥
14. 卓球⑦
15. まとめ

都合により変更することがある。

■受講に当たっての留意事項

週 1 回、通年で授業を開講する。基本的には学生が自由に選択する科目であるが、定員を超えた場合は抽選を行う。詳細については 4 月の体育授業ガイダンス時に説明する。

■成績評価方法

出席状況及び受講態度

■教科書／参考書

特に指定しない。

■備考 (オフィスアワー)

月、水、金：13 時 00 分～17 時 00 分 (上野校地体育館教員室)

授業科目名	体育 I (体操・球技) Physical Education 1(Gymnastic exercises/ Ball game)			
教員名	亀田 まゆ子			
開講時期	通年	金曜 3・4	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

身体運動の実践を通じて、自己の健康や体力に対する認識を深めるとともに、健康・体力づくりの方法を理解する。また、様々なスポーツ種目の基礎的な動きなどを習得する。さらに、講義を通して、「身体を育む」ことの意義や価値の理解を深める。

■授業計画及び内容

- ・実技だけでなく、各種目の歴史、ルール、競技特性等を踏まえながら、講義も行う。
- ・それぞれの種目特性を捉えて、各種スポーツ（バレーボール、バスケットボール、バドミントン、インディアカ、アルティメット、テニス、卓球、G ボール等）を実践する。
- ・なわ、フープ、ボール等の手具を使った運動を行なう。
- ・ヒトのからだの構造を、自分のからだを通して覚え、日常動作からそれぞれの専門分野における動作まで、その「動き」の捉え方（動かし方）について考え、各々に応じたセルフコンディショニング法を学ぶ。

■受講に当たっての留意事項

週 1 回、通年で授業を開講する。基本的には学生が自由に選択する科目であるが、定員を超えた場合は抽選を行う。詳細については 4 月の体育授業ガイダンス時に説明する。

■成績評価方法

出席状況及び受講態度

■教科書／参考書

特に指定しない。

■備考（オフィスアワー）

月、水、金：13 時 00 分～17 時 00 分（上野校地体育館教員室）

授業科目名	体育 I (剣道) Physical Education 1(Sport/Gymnastic exercises/Dance)			
教員名	高橋 亨			
開講時期	通年	月曜 4・5 水曜 3・4 金曜 4	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

1. 「一眼二足三胆四力」

技術を自分のものにする為には、常に自分自身の目付けを安定させ、足さばきを中心とした姿勢を正し、そして意図的に呼吸をコントロールしていく訓練が必要である。

2. 「調身→調息→調心」

どっしりと柔軟な身構えをつくりながら、吐く息を長く繰り返し、息詰まらない心の置きどころを求めていく。その過程で相手とのコミュニケーションの糸口が見えてくる。

■授業計画及び内容

- ・稽古衣と袴の着用を合理的に美しく装う。
- ・身体軸を大事にした歩き方を学ぶ。
- ・基本的な木剣の構え方、振り方を学ぶ。
- ・「日本剣道形」を通して、伝統的な「型」を理解する。
- ・発声の種類と意味を理解する。
- ・相手との「気」のぶつかり合いを実感する。
- ・残心とは何か。
- ・姿勢をかえることによって技が変わることを知る。

■受講に当たっての留意事項

- ・稽古衣、袴、木剣、竹刀は貸与する。
- ・週 1 回、通年で授業を開講する。基本的には学生が自由に選択する科目であるが、定員を超えた場合は抽選を行う。詳細については 4 月の体育授業ガイダンス時に説明する。

■成績評価方法

出席状況及び受講態度

■教科書／参考書

特に指定しない。

■備考（オフィスアワー）

月、水、金：13 時 30 分～17 時 00 分（上野校地体育館教員室）

授業科目名	体育Ⅰ (球技等スポーツ・体操・ダンス) (取手) Physical Education 1 (Sport/Gymnastic exercises/Dance)			
教員名	熊谷 紀子			
開講時期	通年	木曜 1	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生 ・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

身体運動の実践を通じて、自己の健康や体力に対する認識を深めるとともに、健康・体力づくりの方法を理解する。また、様々なスポーツ種目の基礎的な動きなどを習得する。さらに、講義を通して、「身体を育む」ことの意義や価値の理解を深める。

■授業計画及び内容

- ・室内にて、音楽を使いながら気軽に取り組めるダンスムーブメントやステップ、エクササイズを初歩から段階的に行っていく。よりよい動き、よりよい姿勢、そして身体作りの為の運動プログラム（呼吸法、身体調整法、ストレッチング、種々トレーニング、リラクゼーション、マッサージ法）を身につけていく。
- ・屋外グラウンドにて、各種スポーツ（サッカー、バレーボール、バスケットボール、ソフトボール、ハンドボール、アルティメット等）を実践する。雨天時には、室内でヨガやピラティス、ストレッチ等を行う。
- ・実技だけでなく、各種目の歴史、ルール、競技特性等を踏まえながら、講義も行う。

■受講に当たっての留意事項

週 1 回、通年で授業を開講する。基本的には学生が自由に選択する科目であるが、定員を超えた場合は抽選を行う。詳細については 4 月の体育授業ガイダンス時に説明する。

■成績評価方法

出席状況及び受講態度

■教科書／参考書

特に指定しない。

■備考（オフィスアワー）

- ・授業はすべて取手キャンパスにて行う。
- ・月、水、金：13 時 30 分～17 時 00 分（上野校地体育館教員室）

授業科目名	体育Ⅱ Physical Education 2			
教員名	月 3・4 限：林 久仁則 月 5 限：大林 太朗 水 3・4 限：数馬 広二 水 4・5 限：鈴木 由起子 金 3・4 限：亀田 まゆ子			
開講時期	通年	月曜 3・4・5 水曜 3・4・5 金曜 3・4	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生 ・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

アーティストとしての技術を習得していく過程と同様に、各種スポーツの実践を捉えてみることによって、人と技、人と人との間柄を深く追及する契機としてほしい。各自が作成する授業記録を活用しながら、より多様な視点から自己の「身体を育む」ことについて認識するとともに、スポーツに対する多角的な態度を養う。

■授業計画及び内容

- ・球技、体操、ダンスを中心として、各種スポーツを実践する。（バレーボール、バスケットボール、バドミントン、テニス、卓球、ハンドボール、フットサル、ユニホック、アルティメット、体操、ダンス、器械体操、筋力トレーニング等）
- ・実技だけでなく、各種目の歴史、ルール、競技特性等を踏まえながら、講義も行う。
- ・各種スポーツ実践及び、講義の内容を踏まえて、授業記録を作成する。

■受講に当たっての留意事項

体育Ⅰの単位取得者に限る。各授業の定員を超えた場合には、抽選を行うことがある。

■成績評価方法

出席状況及び受講態度

■教科書／参考書

特に指定しない。

■備考（オフィスアワー）

月、水、金：13 時 30 分～17 時 00 分（上野校地体育館教員室）

授業科目名	体育Ⅱ（剣道） Physical Education 2(Kendo)			
教員名	高橋 亨			
開講時期	通年	月曜 4・5 水曜 3・4 金曜 4	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

自分にとっての「自然体」を作るには

1. 身体意識（身体軸の作り方）と身体感覚
身体のあるあらゆる分野に対する気の配りからカンやコツを養う。
2. 「先をとる」一連の動作
自分自身の内面からでる「気」の充実をはかる。
3. 「上虚下実」の自然体
「合気」となって相手を受け入れ、自分のリズム感や拍子の感覚を磨く。

■授業計画及び内容

- ・「五行の形」を通して「無声」で技を決めることの深さを知る。
- ・技と技のつながりに位置する「間」の感覚をつかむ。
- ・「合気」になって相手の心を予測する。
- ・『五輪書』（水の巻）にみる身体（腰肚）観を実践してみる。
<心が動作に引きずられることなく、動作が心にとらわれない。>
<平常の身のこなし方と戦いの時の身のこなし方>
- ・「四病」（驚、恐、疑、惑）からの脱出をどう図るかについて考える。
- ・「守破離」の意味を理解し、基本練習の大切さに気づく。

■受講に当たっての留意事項

- ・稽古衣、袴、木剣、竹刀は貸与する。
- ・体育Ⅰの単位取得者に限る。各授業の定員を超えた場合には、抽選を行うことがある。

■成績評価方法

出席状況及び受講態度

■教科書／参考書

特に指定しない。

■備考（オフィスアワー）

月、水、金：13時30分～17時00分（上野校地体育館教員室）

授業科目名	体育Ⅱ（取手） Physical Education 2			
教員名	熊谷 紀子			
開講時期	通年	木曜 1	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

アーティストとしての技術を習得していく過程と同様に、各種スポーツの実践を捉えてみることによって、人と技、人と人との間柄を深く追及する契機としてほしい。各自が作成する授業記録を活用しながら、より多様な視点から自己の「身体を育む」ことについて認識するとともに、スポーツに対する多角的な態度を養う。

■授業計画及び内容

- ・室内にて、音楽を使いながら気軽に取り組めるダンスムーブメントやステップ、エクササイズを初歩から段階的に行っていく。よりよい動き、よりよい姿勢、そして身体作りの為の運動プログラム（呼吸法、身体調整法、ストレッチング、種々トレーニング、リラクゼーション、マッサージ法）を身につけていく。
- ・屋外グラウンドにて、各種スポーツ（サッカー、バレーボール、バスケットボール、ソフトボール、ハンドボール、アルティメット等）を実践する。雨天時には、室内でヨガやピラティス、ストレッチ等を行う。
- ・実技だけでなく、各種目の歴史、ルール、競技特性等を踏まえながら、講義も行う。
- ・各種スポーツ実践及び、講義の内容を踏まえて、授業記録を作成する。

■受講に当たっての留意事項

体育Ⅰの単位取得者に限る。各授業の定員を超えた場合には、抽選を行うことがある。

■成績評価方法

出席状況及び受講態度

■教科書／参考書

特に指定しない。

■備考（オフィスアワー）

授業はすべて取手キャンパスで行う。
月、水、金：13時半～17時（上野校地体育館教員室）

專門基礎科目

授業科目名	古美術研究（日本画） Ancient Art Researches		
教員名	日本画科教員		
開講時期	集中	単位	10
履修対象	学部生		
特記事項	学事暦参照		

■授業テーマ

近畿地方（主に京都・奈良）を中心に、2週間の古美術研究旅行を行う。

■授業計画及び内容

実施時期は。

【3年次に実施】

日本画
油画
工芸
デザイン
建築
先端芸術表現

【2年次に実施】

彫刻
芸術学

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	古美術研究（油画） Ancient Art Researches		
教員名	油画科教員		
開講時期	集中	単位	10
履修対象	学部生		
特記事項	学事暦参照		

■授業テーマ

近畿地方（主に京都・奈良）を中心に、2週間の古美術研究旅行を行う。

■授業計画及び内容

実施時期は。

【3年次に実施】

日本画
油画
工芸
デザイン
建築
先端芸術表現

【2年次に実施】

彫刻
芸術学

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	古美術研究（彫刻） Ancient Art Researches		
教員名	彫刻科教員		
開講時期	集中	単位	10
履修対象	学部生		
特記事項	学事暦参照		

■授業テーマ

近畿地方（主に京都・奈良）を中心に、2週間の古美術研究旅行を行う。

■授業計画及び内容

実施時期は。

【3年次に実施】

日本画
油画
工芸
デザイン
建築
先端芸術表現

【2年次に実施】

彫刻
芸術学

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	古美術研究（工芸） Ancient Art Researches		
教員名	工芸科教員		
開講時期	集中	単位	10
履修対象	学部生		
特記事項	学事暦参照		

■授業テーマ

近畿地方（主に京都・奈良）を中心に、2週間の古美術研究旅行を行う。

■授業計画及び内容

実施時期は。

【3年次に実施】

日本画
油画
工芸
デザイン
建築
先端芸術表現

【2年次に実施】

彫刻
芸術学

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	古美術研究（デザイン） Ancient Art Researches		
教員名	デザイン科教員		
開講時期	集中	単位	10
履修対象	学部生		
特記事項	学事暦参照		

■授業テーマ

近畿地方（主に京都・奈良）を中心に、2週間の古美術研究旅行を行う。

■授業計画及び内容

実施時期は。

【3年次に実施】

日本画
油画
工芸
デザイン
建築
先端芸術表現

【2年次に実施】

彫刻
芸術学

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	古美術研究（建築） Ancient Art Researches		
教員名	建築科教員		
開講時期	集中	単位	10
履修対象	学部生		
特記事項	学事暦参照		

■授業テーマ

近畿地方（主に京都・奈良）を中心に、2週間の古美術研究旅行を行う。

建築科所属学生においては、絵画・彫刻・工芸などの様々な領域の古美術自体を鑑賞するのみならず、建築との関係でその魅力を体得して欲しい。

■授業計画及び内容

建築科所属学生は、3年次の10月第1週及び第2週に実施する（日程の都合で9月末開始となる場合もある）。

■受講に当たっての留意事項

9月中に、事前説明会を実施するので必ず参加すること。なお見学先の社寺等に十分配慮し、適切な服装や持参品などに心がけること。

■成績評価方法

出席及びレポートによる。

■教科書／参考書

旅行中は、配布する『古美術研究手引』を常時携帯し、必要に応じて参照すること。

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	古美術研究（先端芸術表現） Ancient Art Researches		
教員名	先端芸術表現教員		
開講時期	集中	単位	10
履修対象	学部生		
特記事項	学事暦参照		

■授業テーマ

近畿地方（主に京都・奈良）を中心に、2週間の古美術研究旅行を行う。

■授業計画及び内容

実施時期は、

【3年次に実施】

日本画
油画
工芸
デザイン

建築

先端芸術表現

【2年次に実施】

彫刻
芸術学

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	古美術研究（芸術学） Ancient Art Researches		
教員名	芸術学科教員		
開講時期	集中	単位	10
履修対象	学部生		
特記事項	学事暦参照		

■授業テーマ

近畿地方を中心とする古美術研究旅行、見学作品の研究発表。

■授業計画及び内容

2年次の秋に近畿地方（主に京都・奈良）を中心とする古美術研究の旅行を実施する。また、旅行に先立ち、前期金曜2時限に、見学予定作品の中から学生が各自テーマを選び、順次発表を行って、教員が指導する。

■受講に当たっての留意事項

- 1、芸術学科2年生は必ず履修すること。
- 2、単位数は現地旅行を含む「古美術研究」全体のもの。
- 3、出席重視。遅刻厳禁。

■成績評価方法

演習発表の内容、現地旅行、レポート（2回）、及び平常点。

■教科書／参考書

東京芸術大学美術学部編『近畿地方を中心とする古美術見学手引き』

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	図学 I Graphic Science I			
教員名	面出 和子			
開講時期	通年	木曜 3	単位	4
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

ある形を言葉で説明しようとするのが大変ですが、図では容易に伝達できることがあります。言語に対して語学があるように、図学は図のための学問です。図学は理論的に形を追求しながら、3次元の立体を2次元の平面に移すことを主な課題としています。形の表現は、造形制作では主観的になりがちですが、図学では客観的にあらわします。この授業では、造形の視点から様々な平面図形や各種立体・空間を取り上げ、作図を通して、それらの形態の性質、作図法、表示法を考えていきます。また、立体の表示法の観点から、製図の基礎と、空間表現の各種方法、透視図の基礎を取り上げます。様々な図形・形態や空間について考え理解することと、それらを表現し伝達する手法を学ぶことが、この授業の目的です。

■授業計画及び内容

〈前期〉図学の考え方について／作図の基本／投象の概念／直線・多面体・曲面の投象／展開／切断と断面／立体の相関 等
 〈後期〉単画面投象について／軸測投象／斜投象／透視投象／絵画空間とその表現について 等

上記の各項目について、作図を通して関係する問題について考察します。また、各項目に関わる美術作品を紹介し解説します。

■受講に当たっての留意事項

この科目は、作図を通して理解を深めることになるので、作図のための用具（作図に適した鉛筆、消しゴム、コンパス、三角定規等）を毎回持参すること。
 毎回の授業は、前回からの積み上げになるので、できるだけ復習をすること。また遅刻しないこと。

■成績評価方法

出席状況と、授業中の作図を平常点として評価する。その平常点と、前期試験と後期試験の成果を総合して、通年の成績評価とする。
 また授業回数の2/3の出席を単位取得の最低条件とする。

■教科書／参考書

テキスト：面出和子・齋藤綾・佐藤紀子 『造形の図学』（日本出版サービス）

また、必要に応じてプリントを配布します。

参考書：日本図学会編『図形科学ハンドブック』（森北出版）

日本図学会編『図学用語事典』（森北出版）

面出和子、他『遠近法と絵画』（美術出版社）

■備考（オフィスアワー）

授業後に質問を受け付けます。

授業科目名	図学 II（取手） Graphic Science II			
教員名	たほ りつこ			
開講時期	集中	単位	4	
履修対象	美術・音楽学部生			
特記事項				

■授業テーマ

図は美術のみならず視覚言語の重要な位置を占めている。図は描かれたものの形・位置・関係を人に伝えるとともに、解釈を通じて内容や意味を伝える。現代においては科学や技術による多様な図の表現が展開されている。人間の視覚・知覚の科学的分析、認知のメカニズムと心理、視覚情報と図法、多様な図法など、現代科学技術の変化とともにひろがる図の在り方を紹介する。また、現在の領域横断研究から、さまざまな時代の芸術にみられる美と図について触れると共に、同じ図が条件や時間、環境変化によって異なる知覚と心理的効果をもたらす芸術表現となるかを学ぶ。演習課題として、基本的な幾何学及び図法と製図、2次元と3次元の演習をおこなう。

■授業計画及び内容

第一日 講義1：視覚と知覚、生態学的視覚 演習課題

第二日 講義2：幾何学図形（平面）錯視 演習課題

第三日 講義3：幾何学図形（立体）不可能な図形 演習課題

第四日 講義4：投影図、遠近法、透視図法 演習課題

第五日 講義5：多次元の変化を包摂する図法 パラドックス 演習課題

第六日 講義6：図と多様な芸術表現 I 演習問題

第七日 講義7：図と多様な芸術表現 II 演習問題

■受講に当たっての留意事項

- ・筆記用具、製図道具（定規、三角定規、コンパス、シャープペンシル、消しゴム等）持参のこと。
- ・受講参加者でメールアドレスがある人は登録すること。
- ・事前に説明会を開きますので必ず参加すること。
- ・材料費を徴収します。
- ・課題はすべて授業日に終了し、自宅作業はありません。

■成績評価方法

授業での課題提出物によって評価します。

■教科書／参考書

脳は絵をどのように理解するか（ロバートソルソ 新潮社）、図形科学（朝倉書店・宮崎・小高著）美を脳から考える（共著 新曜社）美の図学（日本図学会編）、エッシャーの宇宙（ブルーノエルンスト朝日新聞社出版局）

■備考（オフィスアワー）

授業終了後、コンタクトを取ってください。

授業科目名	塑造（取手） Modeling (Intensive course)		
教員名	本郷 寛		
開講時期	集中	単位	4
履修対象	学部生		
特記事項			

■授業テーマ

塑造による頭像制作。
石膏取りを行い、期間内に石膏像として完成する。

■授業計画及び内容

塑造実習

- ・彫刻について
- ・デッサンについて
- ・心棒について
- ・塑造について
- 石膏取り
 - ・用具について
 - ・石膏取り（雌型）
 - ・ " （雄型）

■受講に当たっての留意事項

- ・出席を重視します。
- ・6月下旬に行われるガイダンスに必ず出席すること。
- ・履修希望が多い場合、抽選になることが有ります。

■成績評価方法

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

美術教育研究室 050-5525-2266（内 3910）

授業科目名	工芸制作実習 Craft Work Making		
教員名	豊福 誠、篠原 行雄、原口 健一		
開講時期	集中	単位	6
履修対象	学部生・大学院生		
特記事項			

■授業テーマ

鍛金・陶芸・木工の実習制作

■授業計画及び内容

- ・鍛金：当て金、金錠等を用いた銅板による器物などの制作
- ・陶芸：手びねりによる器の成形・素焼・絵付け・施釉・本焼成
- ・木工：「くりもの」による器などの制作

■受講に当たっての留意事項

6月中に行うガイダンスに出席すること。
履修希望が多数の場合、抽選等になることも有ります。（鍛金、木工）

■成績評価方法

出席、学習評価、提出作品

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

毎週月曜 14:00～16:00 美術教育研究室、木工室

授業科目名	日本美術史概説 Introduction to Japanese Art History			
教員名	松田 誠一郎			
開講時期	通年	水曜 4	単位	4
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

日本彫塑史概説

■授業計画及び内容

飛鳥時代前期から平安時代後期にいたる仏教彫塑の歴史を概観する。講義は、毎回史料を講読して各作品の制作背景をあとづける一方、造形・技法の特徴や変遷について解説する。
また、中国や朝鮮半島の作品との比較を通して、日本的な美意識の問題についても論及する。

【前期】

- 01 ガイダンス
- 02-03 法隆寺金堂の釈迦三尊像
- 04-05 救世観音像と百済観音像
- 06-07 中宮寺の半跏思惟像
- 08-09 興福寺仏頭と薬師寺金堂本尊像
- 10-11 法隆寺五重塔の塑像群
- 12-13 興福寺の八部衆・十大弟子像
- 14-15 予備日

【後期】

- 01-02 東大寺法華堂の不空罽索観音像
- 03-04 唐招提寺の乾漆像・木彫像
- 05 神護寺の薬師如来像
- 06-07 東寺講堂の諸像
- 08-09 観心寺の如意輪観音像
- 10-11 室生寺金堂の本尊像
- 12-13 平等院鳳凰堂の阿弥陀如来像
- 14-15 予備日

■受講に当たっての留意事項

- 01. 毎回出席をとる。
- 02. 講義内容は、古美術研究旅行と関係する。
- 03. 講義は教科書にそって進め、試験も教科書から出題する。

■成績評価方法

後期末（1月）に実施する試験の成績を基準に、出席率を考慮して総合的に評価する。

■教科書／参考書

教科書＝水野敬三郎著『奈良・京都の古寺めぐり ― 仏像の見かた一』、1985年、岩波書店。
参考書＝水野敬三郎監修『カラー版 日本仏像史』、2001年、美術出版社。

■備考（オフィスアワー）

水曜日 16:30～18:00 上野校地中央棟3F 松田研究室

授業科目名	日本美術史概説（取手） Introduction to Japanese Art History			
教員名	松田 誠一郎			
開講時期	通年	木曜 2	単位	4
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

日本彫塑史概説

■授業計画及び内容

飛鳥時代前期から平安時代後期にいたる仏教彫塑の歴史を概観する。講義は、毎回史料を講読して各作品の制作背景をあとづける一方、造形・技法の特徴や変遷について解説する。
また、中国や朝鮮半島の作品との比較を通して、日本的な美意識の問題についても論及する。

【前期】

- 01 ガイダンス
- 02-03 法隆寺金堂の釈迦三尊像
- 04-05 救世観音像と百済観音像
- 06-07 中宮寺の半跏思惟像
- 08-09 興福寺仏頭と薬師寺金堂薬師三尊像
- 10-11 法隆寺五重塔の塑像群
- 12-13 興福寺の八部衆・十大弟子像
- 14-15 予備日

【後期】

- 01-02 東大寺法華堂の不空罽索観音像
- 03-04 唐招提寺の乾漆像・木彫像
- 05 神護寺の薬師如来像
- 06-07 東寺講堂の諸像
- 08-09 観心寺の如意輪観音像
- 10-11 室生寺金堂の本尊像
- 12-13 平等院鳳凰堂の阿弥陀如来像
- 14-15 予備日

■受講に当たっての留意事項

- 01. 毎回出席をとる。
- 02. 講義内容は、古美術研究旅行と関係する。
- 03. 講義は教科書にそって進め、試験も教科書から出題する。

■成績評価方法

後期末（1月）に実施する試験の成績を基準に、出席率を考慮して総合的に評価する。

■教科書／参考書

教科書＝水野敬三郎著『奈良・京都の古寺めぐり ― 仏像の見かた一』、1985年、岩波書店。
参考書＝水野敬三郎監修『カラー版 日本仏像史』、2001年、美術出版社。

■備考（オフィスアワー）

水曜日 16:30-18:00 上野校地中央棟3F 松田研究室

授業科目名	美学史概説 Introduction to History of Aesthetics			
教員名	川瀬 智之			
開講時期	通年	月曜 3	単位	4
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

西洋の美学史と芸術

■授業計画及び内容

この授業では、西洋の美学の歴史を、古代ギリシャから現代のドイツやフランスに至る代表的な哲学者、美学者、芸術家の思想を紹介、解説することによって迎える。また場合によっては、それらの思想と、特に近現代の美術作品との関連についても論じていく。それによって、西洋の古代以来の美学思想が、いかに芸術の制作や鑑賞に対して大きな影響を及ぼしてきたかを理解することができる。年度終盤には、近年の美学思想の動向を紹介する内容の授業を行うことも考えている。

■受講に当たっての留意事項

特になし。

■成績評価方法

平常点（出席）とレポート

■教科書／参考書

必要に応じてプリントを配布する。

■備考（オフィスアワー）

質問等があれば授業後に受ける。

授業科目名	東洋美術史概説 Introduction to East Asian Art History			
教員名	片山 まび			
開講時期	通年	火曜 5	単位	4
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

中国絵画の展開を基本とし、韓国・朝鮮、日本との関係についても学ぶ。

■授業計画及び内容

[前期] 原始～10世紀の東アジアの美術の展開を概観し、基礎知識を学ぶ。

- 1：ガイダンス
- 2：原始時代の土器
- 3：青銅器と動物表現
- 4：樹木表現の登場
- 5：漆絵と時間表現
- 6：兵馬俑と秦代の美術
- 7：昇仙図と漢代の美術
- 8：孝子図と南北朝時代の美術
- 9：高句麗壁画古墳
- 10：高句麗・百濟美術の山水表現
- 11：唐代における樹石と山水（1）
- 12：唐代における樹石と山水（2）
- 13：五代と契丹の山水画
- 14：予備日
- 15：予備日

[後期] 11～14世紀の東アジア美術の展開を概観し、基礎知識を学ぶ。

- 1：ガイダンス
- 2：五代と契丹の山水画・花鳥画
- 3：北宋時代の山水画（1）
- 4：北宋時代の山水画（2）
- 5：北宋時代の文人画
- 6：北宋時代の花鳥画・人物画
- 7：南宋時代の山水画（1）
- 8：南宋時代の山水画（2）
- 9：南宋時代の絵画と日本
- 10：元代の山水画
- 11：元代の花鳥画・人物画
- 12：宋・元代の絵画と高麗・朝鮮時代の絵画
- 13：予備日
- 14：予備日
- 15：予備日

■受講に当たっての留意事項

授業中に複製品を用いることがあるので、ハンカチを持参すること。

■成績評価方法

出席とレポートによる。

■教科書／参考書

授業中に適宜指示。

■備考（オフィスアワー）

都度相談のこと。

授業科目名	西洋美術史概説Ⅰ Introduction to western art history I			
教員名	田邊 幹之助			
開講時期	前期	火曜 3	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

西洋美術史の前半、主として中世の美術を取り上げます。とりわけ中世美術が古代美術をどのように取り込み、どのように独自の変容を遂げたかを中心に作品を見てゆきます。

■授業計画及び内容

- 1) ガイダンス
- 2) 初期キリスト教美術Ⅰ
- 3) 初期キリスト教美術Ⅱ
- 4) ビザンチン美術Ⅰ
- 5) ビザンチン美術Ⅱ
- 6) ビザンチン美術Ⅲ
- 7) 6－8世紀の西欧の美術Ⅰ
- 8) 6－8世紀の西欧の美術Ⅱ
- 9) カロリング朝美術Ⅰ
- 10) カロリング朝美術Ⅱ
- 11) オットー朝美術Ⅰ
- 12) オットー朝美術Ⅱ
- 13) 盛期中世の始まり

■受講に当たっての留意事項

今年度は西洋美術史概説Ⅰ（前期）とⅢ（後期）が開講される（各2単位）。通年4単位相当が必要な場合には、年度当初の理由登録時に必ず両方を登録しておくこと。後期分の登録を忘れても、あとから追加登録できないので注意すること。なお、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのうち二つを複数年度にまたがって履修することも可能だが、同一教員の担当授業を2度重複して単位を取ることはできない。

■成績評価方法

出席とレポート

■教科書／参考書

千足伸行『西洋美術史』西村書店、1999年

■備考（オフィスアワー）

メールで予約を取ってください。
tanabe@fa.geidai.ac.jp

授業科目名	西洋美術史概説Ⅲ Introduction to western art history 3			
教員名	佐藤 直樹			
開講時期	後期	火曜 3	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

西洋美術史におけるルネサンス以降の美術を講義します。各時代の重要な作家、美術作品における様式的特徴、および芸術家同士の影響関係などを中心に見ていきます。

■授業計画及び内容

- 1) ルネサンスについて
 - 2) ジョット
 - 3) 北方ルネサンス（初期ネーデルラント絵画）
 - 4) ファン・エイク
 - 5) デューラー
 - 6) ラファエロ
 - 7) レオナルド
 - 8) カラヴァッジョ
 - 9) ブリュゲル
 - 10) フェルメール
 - 11) レンブラント
 - 12) ベラスケス
- ひとつの項目が2回に及ぶこともある。

■受講に当たっての留意事項

今年度は西洋美術史概説Ⅰ（前期）、Ⅲ（後期）が開講される（各2単位）。通年4単位相当が必要な場合には、年度当初の履修登録時に必ず両方に登録しておくこと。後期分の登録を忘れても、あとから追加登録はできないので、注意すること。なお、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのうち二つを複数年度にまたがって履修することも可能だが、同一教員の担当授業を2度重複して単位をとることはできない。

■成績評価方法

出席および試験（授業最終日）。試験には、ノート持ち込み不可。

■教科書／参考書

高階秀爾・三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館

■備考（オフィスアワー）

メールにて予約：sato.naoki@fa.geidai.ac.jp

授業科目名	西洋美術史概説Ⅰ（取手） Introduction to western art history I			
教員名	田邊 幹之助			
開講時期	前期	金曜 2	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

西洋美術史の前半、主として中世の美術を取り上げます。とりわけ中世美術が古代美術をどのように取り込み、どのように独自の変容を遂げたかを中心に作品を見てゆきます。

■授業計画及び内容

- 1) ガイダンス
- 2) 初期キリスト教美術Ⅰ
- 3) 初期キリスト教美術Ⅱ
- 4) ビザンチン美術Ⅰ
- 5) ビザンチン美術Ⅱ
- 6) ビザンチン美術Ⅲ
- 7) 6－8世紀の西欧の美術Ⅰ
- 8) 6－8世紀の西欧の美術Ⅱ
- 9) カロリング朝美術Ⅰ
- 10) カロリング朝美術Ⅱ
- 11) オットー朝美術Ⅰ
- 12) オットー朝美術Ⅱ
- 13) 盛期中世の始まり

■受講に当たっての留意事項

今年度は西洋美術史概説Ⅰ（前期）とⅢ（後期）が開講される（各2単位）。通年4単位相当が必要な場合には、年度当初の理由登録時に必ず両方を登録しておくこと。後期分の登録を忘れても、あとから追加登録できないので注意すること。なお、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのうち二つを複数年度にまたがって履修することも可能だが、同一教員の担当授業を2度重複して単位を取ることはできない。

■成績評価方法

出席とレポート

■教科書／参考書

千足伸行『西洋美術史』西村書店、1999年

■備考（オフィスアワー）

メールで予約を取ってください。
tanabe@fa.geidai.ac.jp

授業科目名	西洋美術史概説Ⅲ（取手） Introduction to western art history3			
教員名	佐藤 直樹			
開講時期	後期	金曜 2	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

西洋美術史におけるルネサンス以降の美術を講義します。各時代の重要な作家、美術作品における様式的特徴、および芸術家同士の影響関係などを中心にみていきます。

■授業計画及び内容

- 1) ルネサンスについて
- 2) ジョット
- 3) 北方ルネサンス（初期ネーデルラント絵画）
- 4) ファン・エイク
- 5) デューラー
- 6) ラファエロ
- 7) レオナルド
- 8) カラヴァッジョ
- 9) ブリュゲル
- 10) フェルメール
- 11) レンブラント
- 12) ベラスケス

ひとつの項目が2回に及ぶこともある。

■受講に当たっての留意事項

今年度は西洋美術史概説Ⅰ（前期）、Ⅲ（後期）が開講される（各2単位）。通年4単位相当が必要な場合には、年度当初の履修登録時に必ず両方に登録しておくこと。後期分の登録を忘れても、あとから追加登録はできないので、注意すること。なお、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのうち二つを複数年度にまたがって履修することも可能だが、同一教員の担当授業を2度重複して単位をとることはできない。

■成績評価方法

出席および試験（授業最終日）。試験には、ノート持ち込み不可。

■教科書／参考書

高階秀爾・三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』新書館

■備考（オフィスアワー）

メールにて予約：sato.naoki@fa.geidai.ac.jp

授業科目名	美術解剖学 A Artistic anatomy A			
教員名	布施 英利			
開講時期	通年	水曜 4	単位	4
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

人体についての講義である。
前期は骨について、後期は筋肉について学ぶ。
美術の創造のために、また美術作品の鑑賞や研究のための力をつけることを目指す。

■授業計画及び内容

1. 解剖学とは何か
2. ヒトの骨の概観
3. 脊柱の構造
4. 胸郭の形態
5. 下肢の骨と「立つ」こと
6. 上肢の骨と動き
7. 体幹の筋肉
8. 下肢の筋肉
9. 上肢の筋肉
10. 頭部の骨と筋肉、顔の表情

上記のような内容についての講義を行う。

■受講に当たっての留意事項

ノートは必携である。筆記具も充実したものを持参してほしい。

■成績評価方法

出席とレポート

■教科書／参考書

参考書として「イラストで学ぶ美術解剖学」(布施英利訳、グラフィック社) など

■備考 (オフィスアワー)

月・水・木

授業科目名	美術解剖学 B Artistic anatomy B			
教員名	布施 英利			
開講時期	通年	月曜 3	単位	4
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

人体や動物、植物、その他自然の形態についての授業である。美術解剖学 A のさらに応用的な内容となる。美術の創造のために、また美術作品の鑑賞や研究のための力をつけることを目指す。

■授業計画及び内容

1. ヒトの体についての復習
2. 霊長類の形態
3. 哺乳類の体
4. 魚の体と海
5. 無脊椎動物の魅力
6. 樹木の見方
7. 苔と庭園
8. 雲の観察
9. 空と光

上記の内容についての講義を行う。

■受講に当たっての留意事項

ノートは必携である。筆記具も充実したものを持参してほしい。

■成績評価方法

出席とレポート

■教科書／参考書

■備考 (オフィスアワー)

月・水・木

授業科目名	美術解剖学 A (取手) Artistic anatomy A			
教員名	宮永 美知代			
開講時期	通年	水曜 2	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

人間とは何か？

人体の外形と内部構造の関係の学びは、ルネサンス以降、美術に不可欠な素養とされてきた。

美術表現が多様化した現在においても、人が生み出すかたちは本質的にヒトとしての身体感に起因するものであろう。

人のかたちと動きの学び、進化の学びを通して、自らのものの見方を広げ、各々の造形表現の深化に結びつく内容としたい。

授業の内容は、人体の運動機構（骨格と筋）を柱としつつも、かたちの由来（進化・比較解剖学）、動きに伴う形態変化を講述する。さらに、造形表現された人体像の美性について論じる。

■授業計画及び内容

1. 美術解剖学とは何か？（＝美術解剖学小史）
2. 外貌学 差異（性）
3. 差異（年齢）
4. 差異（環境）
5. 運動機構総論 骨学総論
6. 筋学総論
7. 運動機構各論 体幹の動き（脊柱）
8. （胸郭）
9. 脊柱を動かす筋（脊柱起立筋・腹筋）
10. 呼吸に関与する筋
11. 上肢の動き（上肢帯）
12. （自由上肢骨）
13. 上肢を動きに関与する筋（体幹→上肢帯・上肢帯→上腕）
14. 上肢を動かす筋（上腕→前腕・前腕→手）
15. 手の動き
16. 下肢の動き（下肢帯）
17. （自由下肢骨）
18. 下肢を動かす筋（下肢帯→大腿骨）
19. （大腿骨→下腿・下腿→足）
20. 足の動き
21. 頭部の動き（頭蓋 構成と年齢差）
22. （頭蓋 性差、時代差、人種差）
23. （表情筋と表情）
24. まとめ

■受講に当たっての留意事項

解剖図を板書するので、ノートの際に色鉛筆が必要です。

この講義の単位を取得した者は、美術解剖学 A (上野) の単位は取得できません。

■成績評価方法

授業に臨む姿勢、及び、レポートによる評価。

■教科書／参考書

特に定めない。

参考書 ・中尾喜保・宮永美知代著、『美術解剖学アトラス』、南山堂、1986

・宮永美知代著、『美女の骨格』、青春出版新書、2009

■備考（オフィスアワー）

水曜日の授業後、もしくは上野校地で随時。

TEL : 050-5525-2273 fax 050-5525-2499

email : michiyo.miyanaga@gmail.com

授業科目名	彫刻概論 I (取手) History of Modern Sculpture I			
教員名	中西 麻澄			
開講時期	前期	月曜 2	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

古代から近世までのヨーロッパを中心とした地域および日本の彫刻を広く概説するとともに、それぞれの時代、地域における造形の本質について考察する。

■授業計画及び内容

毎回、テーマとする時代や作品データをまとめた資料を配布し、多くの作品をスライドで紹介しします。

- 1) ガイダンス及び参考文献案内
- 2) 原始の彫刻
- 3) 古代エジプト
- 4) 古代ギリシア (1)
- 5) 古代ギリシア (2)
- 6) 古代ローマ (1)
- 7) 古代ローマ (2)
- 8) 中世ヨーロッパ (ロマネスク)
- 9) 中世ヨーロッパ (ゴシック)
- 10) ルネサンス (1)
- 11) ルネサンス (2)
- 12) 日本1 (飛鳥、白鳳、天平)
- 13) 日本2 (平安)
- 14) 日本3 (鎌倉)

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

出席、授業中に課す小論文、期末テストにより総合的に評価

■教科書／参考書

授業中に適宜、紹介する

■備考（オフィスアワー）

授業終了後 / [mail]mnakani@fa.geidai.ac.jp[/mail]

授業科目名	彫刻概論Ⅱ（取手） History of Modern Sculpture II			
教員名	小泉 晋弥			
開講時期	後期	金曜 1	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

概要：ロダンから 20 世紀後半までの主要な彫刻作品と作家の思想を検討し、20 世紀彫刻を概観することを通して、彫刻芸術の特性について考察する。20 世紀彫刻家や作品の抱える問題から、21 世紀の芸術への視点についてのヒントを得ていきたい。
目標：主要な彫刻家がそれぞれの作品において何を実現しようとしたかを理解できる。彫刻を語る思想について 20 世紀前半と後半との違いを説明できる。

■授業計画及び内容

- 1 彫刻とは何か○絵画との比較の歴史
- 2 19 世紀彫刻とロダン
- 3 ロダンへの新しい視点
- 4 20 世紀彫刻の転換 1 形態そのものの造型原理
- 5 20 世紀彫刻の転換 2 表現主義とキュビズム
- 6 20 世紀彫刻の転換 3 未来派と構成主義 空間と時間の統合＝分裂
- 7 近代「彫刻」の始まりと消えた生人形
- 8 ダダイズム 理性への疑念
- 9 レディメイド＝20 世紀の造形とデュシャン、ブランクーシ
- 10 シュルレアリスム ジャコメッティ・カルダー・ムーア
- 11 再興院展と木彫の再認識
- 12 戦前－戦後の具象彫刻
- 13 ムーア、ジャコメッティの場所
- 14 アースワークとボイス以後
- 15 まとめ：モダニズム、ポスト・モダニズムを超えて

■受講に当たっての留意事項

授業の最後に感想や疑問等を書く小レポート用紙を配布するが、それについて ABCD の採点をして最後のレポートと合算するのだからちゃんと記入すること。

■成績評価方法

レポート（60%）授業での小レポート（40%）

■教科書／参考書

ハーバート・リード『彫刻とは何か』（日貿出版）、同『近代彫刻史』（藤原えりみ訳、言叢社）、Rosalind E. Krauss “Passages in Modern Sculpture

■備考（オフィスアワー）

メールで対応 [mail]koizumi@mx.ibaraki.ac.jp[/mail]

授業科目名	絵画創作概論 The Theory of Picture Creating			
教員名	油画教員			
開講時期	前期	水曜 5	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

油画の創作の基礎となる「絵画」「表現」についての授業を、油画教員の実際の制作に即して各教員の考えや作品を紹介しながら、開講科目のなかで毎年続けて実施する。油画の創作における、表現の展開、実験的な例、ドローイングから制作までのプロセス等、思考や活動の変遷を示し、創作の基礎（ベース）となる考え方を述べる。油画の学生だけでなく、広く他科の学生も受講できる。

■授業計画及び内容

- 1) 東谷武美 黒の系譜・ポップアートと現代版画（4/16・4/23）
- 2) 坂口寛敏 ドローイングから空間へ拡張する表現一場のパワー・特性に接続してー（4/30・5/7）
- 3) 秋本貴透 絵画について I II（5/14・5/21）
- 4) 齋藤芽生 第一回「色の旅」 第二回目「歌の旅」（5/28・6/4）
- 5) 工藤晴也 1 日目 壁画の歴史と絵画について 2 日目 壁画の思考（6/11・6/18）
- 6) 坂田哲也 平らな奥行き - 具象絵画の事物と発想 その色彩と変容 I II（6/25・7/2）
- 7) 保科豊巳 第 1 回、インスタレーションとは何か、第 2 回「場」に関わる作品制作について（7/9・7/16）

■受講に当たっての留意事項

授業中に指示

■成績評価方法

出席・レポート提出 油画教員室へ 8 月末に提出

■教科書／参考書

授業中に指示

■備考（オフィスアワー）

授業中に指示

授業科目名	絵画技法史・絵画材料論（取手） History of painting technique and use of materials			
教員名	秋本 貴透、木島 隆康			
開講時期	通年	火曜 1・2	単位	8
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

絵画材料論は西欧絵画技法史を踏まえて、支持体・地塗り・絵具層・ワニスと積み重なる油画の重層構造と、それらを構成する絵画材料について考察する。その前提となる「見ることの構造」を探り、光と色、形と空間について述べる。

絵画技法史は、テンペラから油彩への古典的絵画技術の展開を考察し、絵画技術・材料と表現の関わりについて述べ、絵具作り（顔料、油絵具）を実習する。絵画作品に対する保存と修復の実際を述べ近代日本の油画の特徴を考察する。

■授業計画及び内容

（前期）

佐藤

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 見ること描くこと ①画の六法
- 第3回 見ること描くこと ②アリストテレスの形而上学
- 第4回 見ること描くこと ③浅井忠「写真の位置」
- 第5回 見ること描くこと ④フォンタネージ講義
- 第6回 光と色 ①ゲーテの色彩論
- 第7回 光と色 ②構図（コンポジション）
- 第8回 形と空間 ①色価（ヴァールール）
- 第9回 形と空間 ②比例（プロポーション）・遠近法（パースペクティヴ）
- 第10回 形と空間 ③明暗法（キアロスカーロ）
- 第11回 顔料 ①着色力・被覆力
- 第12回 顔料 ②白色顔料・有色顔料・地塗り顔料
- 第13回 顔料 ③乾性油・吸油量・屈折率
- 第14回 顔料 ④乳濁液（エマルジョン）・テンペラ絵具
- 第15回 期末試験
- 第16回（予備）

（後期）

秋本

- 第1回 絵画技法史 ①絵画の歴史
- 第2回 絵画技法史 ②15世紀フランドル派 ヴァン・エイク
- 第3回 絵画技法史 ①16世紀ヴェネツィア派 ティツィアーノ
- 第4回 絵画技法史 ②17世紀フランドル派 ルーベンス/レンブラント
- 第5回 絵画材料 ①顔料製造実習 1/2
- 第6回 絵画材料 ②顔料製造実習 2/2
- 第7回 絵画材料 ①油絵具製造実習 1/2
- 第8回 絵画材料 ②油絵具製造実習 2/2
- 第9回 絵画材料 ③油絵具と溶き油
- 第10回 絵画材料 ④エマルジョン絵具
- 第11回 絵画材料 ⑤日本画の絵具

木島

- 第12回 絵画保存学 ①膠の製造
- 第13回 絵画保存学 ②絵画の修復 1/2
- 第14回 絵画保存学 ③絵画の修復 2/2
- 第15回 絵画保存学 ④明治前期（脂派）/後期（紫派）の絵画
- 第16回 学年末筆記試験

■受講に当たっての留意事項

資料プリントを配布する。前期筆記試験の時プリント・ノートを持参してかまわない。参考書等は持込み不可。

■成績評価方法

平常点と、前期および後期筆記試験によって評価する。

■教科書／参考書

(参)「絵画技術入門」佐藤一郎著、美術出版社・「絵画技術体系」マックス・デルナー著・佐藤一郎訳、美術出版社・「絵画技術全書」クルト・ヴェールテ著 佐藤一郎+戸川英夫+真鍋千絵、美術出版社・「絵画学入門」クヌート・ニコラウス著・黒江光彦監修、美術出版社・「絵画材料辞典」グッテンス、スタウト共著 森田恒之訳、美術出版社・「画材の博物誌」森田恒之著、中央公論美術出版・「The painter's Methods and Materials」A.P.Laurie 著、Dover「トンプソン教授のテンペラ画の実技」佐藤一郎監訳・三好企画

■備考（オフィスアワー）

水曜 午後1：30～3：30 油画技法材料研究室（上野校地）

授業科目名	日本工芸史概説 Outline of Japanese craft works history			
教員名	原田 一敏			
開講時期	通年	火曜 4	単位	4
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

日本の工芸史のなかで、とくに飛鳥時代にはじまる仏教工芸から明治時代の博覧会まで、それぞれの時代の特徴を示す工芸品について授業計画に添って概説する。

■授業計画及び内容

- ① 仏教工芸の世界
- ② 正倉院宝物
- ③ 武士の装い
- ④ 工芸の図案 — 和鏡を中心に—
- ⑤ 茶の湯の道具 — 唐物賞玩から侘び数寄へ—
- ⑥ 江戸の工芸
- ⑦ 近代工芸 博覧会と明治の工芸

■受講に当たっての留意事項

大学美術館で作品実見、東京国立博物館での展示見学を行います。授業中に、また掲示で伝えます。

■成績評価方法

出席率とテスト、レポートを主体とする。

■教科書／参考書

テキストは授業時に配布する。

■備考（オフィスアワー）

随時 大学美術館 原田研究室（内線 2 6 5 0）

授業科目名	日本・東洋建築史 I History of Japanese and Asian architecture I			
教員名	光井 渉			
開講時期	前期	金曜 3	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

「日本・東洋建築史」は、日本列島で展開した建築と都市・集落について概観するもので、前期開講の I では、主に中世以前の宗教建築と都市について扱います。講義はおおむね時代順に沿ったテーマを各回毎に設定し、代表的な建築作品等の紹介を通じて、多種多様な建築の形の意味とその背景にある技術の在り方を考えていきます。

■授業計画及び内容

各回のテーマは下記のものを用意しますが、進行状況に応じて適宜変更する可能性があります。

- 1 日本の建築（ガイダンス）
- 2 建築の誕生（原始住居の住居）
- 3 美意識の誕生（神社建築の形式）
- 4 技術と空間（飛鳥・奈良時代の寺院 1）
- 5 空間の大型化と建築群（飛鳥・奈良時代の寺院 2）
- 6 都市の誕生（平城京と平安京）
- 7 都市住宅の形（御所と寝殿造）
- 8 和様の感覚（平安時代の建築）
- 9 災害と復興（大仏様）
- 10 禅宗の建築（禅宗様）
- 11 中世的世界の建築（密教建築）
- 12 上野台地に残る歴史的建築
- 13 試験

■受講に当たっての留意事項

「日本・東洋建築史 I」と「日本・東洋建築史 II」は連続した内容であるので、二つを連続して受講することが望ましい。なお、デザイン科の選択必修単位にあてるときには、I と II をともに履修すること。

■成績評価方法

出席状況及び学期末の試験による。

■教科書／参考書

教材（講義中に使用）：『カラー版 建築と都市の歴史』（光井渉・太記祐一著、井上書院）、毎回必ず持参。
参考図書：『建築デザイン用語辞典』（建築デザイン研究会編、井上書院）

■備考（オフィスアワー）

月曜日 17：30～ 総合工房 B 棟 4階 光井研究室（B-412 室）

授業科目名	日本・東洋建築史Ⅱ History of Japanese and Asian architecture II			
教員名	光井 渉			
開講時期	後期	金曜 3	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

「日本・東洋建築史」は、日本列島で展開した建築と都市・集落について概観するもので、後期開講のⅡでは、主に中世以後の住宅建築と都市・集落、庶民住居について扱います。講義はおおむね時代順に沿ったテーマを各回毎に設定し、社会的・技術的な背景とともに代表的な建築作品等を紹介し、現代の生活空間に継承されている多種多様な建築の形の意味を考えていきます。

■授業計画及び内容

各回のテーマは下記のを予定しますが、進行状況に応じて適宜変更する可能性があります。

- 1 舗設から部屋へ（中世住宅）
- 2 もてなしの空間（座敷飾りと書院造）
- 3 綺麗と数寄（茶室）
- 4 近世住宅の完成（数寄屋）
- 5 戦乱と惣構（中世京都と土豪屋敷）
- 6 権力の象徴（城郭建築）
- 7 現代都市の起源（城下町）
- 8 町に暮らす（町並と町家）
- 9 村に暮らす（農村と農家）
- 10 専用住居の誕生（武家住宅）
- 11 賑わいの空間（近世寺社境内）
- 12 芸大周辺の歴史的建築見学
- 13 試験

■受講に当たっての留意事項

「日本・東洋建築史Ⅰ」と「日本・東洋建築史Ⅱ」は連続した内容であるので、二つを連続して受講することが望ましい。なお、デザイン科の選択必修単位にあてる場合には、ⅠとⅡをともに履修すること。

■成績評価方法

出席状況及び学期末の試験による。

■教科書／参考書

教材（講義中に使用）：『カラー版 建築と都市の歴史』（光井渉・太記祐一著、井上書院）、毎回必ず持参すること。
参考図書：『建築デザイン用語辞典』（建築デザイン研究会編、井上書院）

■備考（オフィスアワー）

月曜日 17:30～ 総合工房 B 棟4階 光井研究室（B-412室）

授業科目名	西洋建築史Ⅰ History of European architecture I			
教員名	野口 昌夫			
開講時期	前期	月曜 3	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

古代ギリシャ、ローマの壮大な建築の規準となっていたオーダーがルネサンス期以降になって再び力強く継承され、古典建築の言語体系が再構築されていく過程をバロック期まで見届ける。一方、キリスト教聖堂建築の流れとして、初期キリスト教建築とビザンティン建築からプレロマネスクまでを概説する。

■授業計画及び内容

- 1 西洋建築史を学ぶにあたって
- 2 古代ギリシャ建築：神殿とオーダー
- 3 古代ギリシャ建築：アゴラの構成
- 4 古代ギリシャ建築：都市計画
- 5 古代ローマ建築：概説
- 6 古代ローマ建築：パンテオンとコロセウム
- 7 古代ローマ建築：ヴィラ・アドリアーナ
- 8 初期キリスト教建築：概説
- 9 初期キリスト教建築：ラヴェンナの聖堂
- 10 ビザンティン建築：概説
- 11 ビザンティン建築：ハギア・ソフィア
- 12 プレ・ロマネスク建築：概説

■受講に当たっての留意事項

授業で渡すプリント（B4サイズ）をファイルして保存すること。

■成績評価方法

出席回数と、前期のレポートおよび後期末の試験

■教科書／参考書

(参)「西洋建築史図表」 日本建築学会編 彰国社

■備考（オフィスアワー）

月曜日 15時～16時 建築理論第二 野口研

授業科目名	西洋建築史Ⅱ History of European architecture II			
教員名	野口 昌夫			
開講時期	後期	月曜 3	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

1000年以降のロマネスク、ゴシックに至る過程を追う。後期のルネサンス建築以降は、その主流をなすイタリア建築に重点を置き、ブルネレスキ、アルベルティ、ミケロツォから、ブラマンテ、ミケランジェロを経て、マニエリスム期のバラディオとジュリオ・ロマーノ、そしてバロック期のボロミーニ、ベルニーニ、ガッリーニにいたる作品を概説する。

■授業計画及び内容

- 1 ロマネスク建築：概説
- 2 ロマネスク建築：イタリアのロマネスク聖堂
- 3 ゴシック建築：概説
- 4 ゴシック建築：フランスのゴシック聖堂
- 5 ゴシック建築：イタリアのゴシック聖堂
- 6 ルネサンス建築：初期ルネサンス
- 7 ルネサンス建築：盛期ルネサンス
- 8 マニエリスム：アンドレア・パラディオ
- 9 マニエリスム：ジュリオ・ロマーノ
- 10 バロック建築：フランチェスコ・ボロミーニ
- 11 バロック建築：ジャンロレンツォ・ベルニーニ
- 12 バロック建築：ガッリーノ・ガッリーニ

■受講に当たっての留意事項

授業で渡すプリント（B4サイズ）をファイルして保存すること。

■成績評価方法

出席回数と、前期のレポートおよび後期末の試験

■教科書／参考書

(参)「西洋建築史図表」 日本建築学会編 彰国社

■備考（オフィスアワー）

月曜日 15時～16時 建築理論第二 野口研

授業科目名	現代芸術論Ⅰ（美学特講） Lecture on Modern Art I (Special studies in aesthetics)			
教員名	鈴木 賢子			
開講時期	後期	金曜 4	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項	振替措置			

■授業テーマ

本講義では、アートや文芸、メディア文化における事例を中心に取上げながら、現代社会を捉え直すための方法を探します。

まずは導入として歴史を辿り、現代とのつながりを確認することで、われわれに埋め込まれたパースペクティブを意識化します。意識と無意識、物質と精神、イメージと知の関係性が主要なテーマ系となります。次に、アートや文芸、メディア文化において、前半で考察したテーマ系がいかにかに作品に現れるのか、ジェンダーの観点を導入しながら分析します。

■授業計画及び内容

- 1 ガイダンス
- 2 近代における意識と身体の問題
- 3 ダーウィン・ショック
- 4 19世紀の心霊主義
- 5 心霊写真
- 6 ヴェルター・ベンヤミン、ロラン・バルトの写真論
- 7 ディスカッション——物質と精神について
- 8 近代社会と一望監視システム、パノプティコン
- 9 レベッカ・ホルン《牢獄》の母胎空間
- 10 E. T. A. ホフマン「砂男」における女性機械
- 11 フロイト「不気味なもの」——エロスと死の欲動をめぐって
- 12 ヴィクトル・エリセ『ミツバチのささやき』作品分析
- 13 『ミツバチのささやき』における少女と怪物
- 14 総合演習とテスト
- 15 マヤ・デレン『魔女のゆりかご』における〈美術史〉の読み変え

■受講に当たっての留意事項

授業中に触れたテーマについて、ときどきリアクション・ペーパーを提出していただきます。リアクション・ペーパーも評価の対象となります。

■成績評価方法

出席が3分の2に満たない場合は単位認定をしません。課題提出を含めた平常点50%、テスト50%で評価します。

■教科書／参考書

そのつど指示します。

■備考（オフィスアワー）

授業その他に関する質問は中央棟3階芸術学科美学研究室に問い合わせること。

授業科目名	工芸理論 Matters on craft and design			
教員名	片山 まび			
開講時期	通年	火曜 3	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

今日の工芸における「伝統」を守る制度・人・モノについて概観する。

■授業計画及び内容

各テーマについて1～3回ほどの講義を主体に進めます。

- 1 「伝統」とは何か
- 2 皇室技芸員
- 3 帝展と工芸
- 4 民藝運動
- 5 重要無形文化財制度
- 6 選定保存技術制度
- 7 伝統的工芸
- 8 CCJ
- 9 コミュニティデザインと工芸

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

出席6割、レポート4割とする。

■教科書／参考書

特に指定なし。

■備考（オフィスアワー）

都度相談。

授業科目名	デザイン概説 Design overview			
教員名	藤崎 圭一郎			
開講時期	通年	金曜 4	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

21世紀のデザインを考える。

「エシカル」（倫理的）と「クリティカル」（批評的）という2つの軸から、デザイン思想とデザインの歴史を考察し、デザインの新たな社会的役割を受講者とともに考える。

■授業計画及び内容

1. デザインの定義 1
 2. デザインの定義 2
 3. ソーシャルデザイン
 4. オリビエーロ・トスカニーニ
 5. 正直さとスタイリング
 6. ブランディング 1 - 無印良品とスウォッチ
 7. ブランディング 2 - 記号論
 8. 地場産業とデザイン（ゲスト講師）
 9. フラットランドとアブダクション
 10. 未来身体：サイボーグとユニバーサルデザイン
 11. インタラクションデザイン
 12. アフォーダンスと『茶の本』
 13. 遊びとデザイン
 14. スタイルとテイスト
 15. 二項対立
 16. 第三項（コモンについて）
 17. 第三項（PINK, ルイス・バラガン）
 18. デザインのミニマリズム（90年代のデザイン）
 19. ポストモダン（80年代のデザイン）
 20. イームズ
 21. 近代デザイン誕生 1
 22. 近代デザイン誕生 2
 23. バウハウス
 24. 日本デザイン史（戦後～）
 25. バッドデザイン 1（ゲスト講師）
 26. バッドデザイン 2（講評）
 27. ガンジーとアーツ&クラフツ
 28. AK-47
- 講義順は適宜入れ替えあり。

■受講に当たっての留意事項

デザイン科学部2年必修。

■成績評価方法

レポートと出席日数。出席重視。出席率50%以上に達しない者は原則として不可とする。

■教科書／参考書

なし

■備考（オフィスアワー）

火曜 12時～18時

金曜 13時～17時

授業科目名	色彩学 Science of Colours		
教員名	日比野 克彦		
開講時期	集中	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生		
特記事項			

■授業テーマ

色彩には、さまざまな側面がある。科学的側面、心理的側面、絵画材料的側面、色彩光学の側面、また工学的側面などがある。特に近年は、色彩の再現技術がデジタルの技術によって進化したために、従来型の絵の具を中心とした色彩の扱いとは異なった問題が出てきているこれらの問題点についても検討を加えていく。

■授業計画及び内容

各分野で研究実践を進めるアーティスト、研究者を講師として招き、色彩学を多角的に捉える。

■受講に当たっての留意事項

予定：トータルカラー、スケッチブック、のり、はさみ等
 *詳細は、集中講義履修登録時に確認のこと。
 *詳細は、教務掲示板を確認のこと。
 *授業内容によって教材費を徴収することがあります。

■成績評価方法

出席、提出物等で総合的に判断を行う

■教科書／参考書

授業中に適宜指示する。

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	日本金工史 Japanese metalwork history			
教員名	黒川 廣子、原田 一敏			
開講時期	通年	金曜 5	単位	4
履修対象	学部生			
特記事項	通年で4単位 前期：原田、後期：黒川			

■授業テーマ

日本金工の歴史を概説する。前期は飛鳥時代から江戸時代まで、各時代を代表する金工作品を概観し、時代的な特質、技術の変化などを講義する。後期は明治維新以降の社会情勢の中で変化した金工家の活動の展開を追う。

■授業計画及び内容

前期：日本金工の歴史、技法などをスライド使用して講義するほか、芸大美術館所蔵の作品や東京国立博物館の展示品を見ながら具体的に時代的な特質、様式的変化をとらえ、造形や技法について講義する。後期：明治時代から武家社会の崩壊と生活の洋風化の中で方向転換を迫られた金工家たちの活動を様々な観点から捉える。昭和までの近代金工史上の代表的な出来事や作家について、できるだけ実物の作品を見ながら講義する。

■受講に当たっての留意事項

大学の教室のほか、東京国立博物館でも行うことがあるので、教務の掲示板をよく見ること。

■成績評価方法

平常点とレポートを主体とする。

■教科書／参考書

テキストは授業開始時に配布。

■備考（オフィスアワー）

前期：大学美術館 原田
 後期：大学美術館 横溝

授業科目名	漆工史 Lacquer history			
教員名	奥窪 聖美			
開講時期	通年	木曜 4	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

縄文時代から明治時代に至るまでの日本の漆工芸の歴史を漆芸技法の理解を深めながら概観する。各時代の他のジャンルの美術の変遷を合わせて眺めることで、時代ごとの漆工芸の存在位置を再認識できるようにする。また中国との交易が日本に与えた影響や16世紀半ば以降、西洋で日本の漆芸がどのように受容されていったのかについても見ていく。

■授業計画及び内容

以下の区分に沿って通史を追った後、関連項目を掘り下げていく。

- (1) 漆とは何か
- (2) 太古
- (3) 奈良時代
- (4) 平安時代前期
- (5) 平安時代後期
- (6) 鎌倉時代
- (7) 南北朝時代
- (8) 室町時代
- (9) 桃山時代
- (10) 南蛮美術
- (11) 江戸時代初期
- (12) 琳派
- (13) 輸出漆器
- (14) 江戸時代後期
- (15) 明治時代

■受講に当たっての留意事項

漆芸専攻学生は必修

■成績評価方法

出席率と試験またはレポートによる

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	東洋陶磁史 History of Oriental Ceramics			
教員名	片山 まび、唐沢 昌宏			
開講時期	通年	金曜 5	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

(前期) 中国陶磁を中心としつつ、その装飾技法について概観する。

(後期)

近現代陶芸の歴史を学ぶとともに、近現代の動向および造形的思考を確認しつつ、「表現の工芸（陶芸）」についての理解を深める。

■授業計画及び内容

(前期) 中国陶磁史をメインとし、その装飾技法について概観する。実際の作品見学も交える。

(後期)

以下のテーマを設定し、各2～3回ほどで学んでいく。

- 1: 「陶芸（工芸）」とは何か。
 - 2: 縄文時代の土器から現代まで、約1万3千年の歴史。
 - 3: 幕末から現代までの工芸概念の変遷。
 - 4: 近現代陶芸の歴史を築き上げた主要な陶芸家とその作品
 - 5: 現役作家の造形思考とその作品
- その他、東京国立近代美術館工芸館にて展覧会鑑賞および熟覧（作品に触って鑑賞する）。

■受講に当たっての留意事項

専門用語など、わかりにくいことはできるだけ積極的に質問すること。

■成績評価方法

(前期)

出席とレポート

(後期)

出席とレポート

■教科書／参考書

(前期)

参考書：『アジア陶芸史』昭和堂

(後期)

『工芸の見かた・感じかた』淡交社

■備考（オフィスアワー）

相談については都度相談のこと。

(前期担当) 片山まび 教員

(後期担当) 唐澤昌宏 教員

授業科目名	染織工芸史 History and techniques of Asian textiles			
教員名	沢尾 絵			
開講時期	通年	木曜 3	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

前期:日本染織史 ”日本の染と織の歴史通観と技術の理解”が本講義の到達目標である。技術の理解に必要な西洋の染色技法等を含む。

後期:日本服飾文化史とアジアの民族衣装 染織品が服飾・服装を形作る要素であるという視点から日本の服飾文化史を学ぶ。後半はアジアにも視野を広げることで、アジアにおける日本の服飾・染織文化の独自性・共通性をより深く理解することが目標である。授業では多くの資料(写真・映像・実物)を使用する。

■授業計画及び内容

(前期)

- 第1回 ”日本の染織史”概観
- 第2回 原始の繊維
- 第3回 シルクロードの染織
- 第4回 正倉院の染織……織物
- 第5回 正倉院の染織……染物
- 第6回 繊維: 絹
- 第7回 平安・鎌倉時代の染織
- 第8回 有職の織物・模様
- 第9回 舶載の染織
- 第10回 “衣”の形式と小袖の成り立ち/辻が花
- 第11回 小袖を読み解く
- 第12回 西洋の更紗……模様染色技法と顔料・染料
- 第13回 友禅/江戸時代以降の染色技法
- 第14回 近現代の染織(自動紡糸機/自動織機等)
- 第15回 試験

(後期)

- 第1・2回 日本古代の服飾(縄文・弥生・古墳時代)
- 第3・4回 日本上代の服飾(飛鳥・奈良・平安時代)
- 第5・6回 日本中世の服飾(鎌倉・室町時代)
- 第7~9回 日本近世の服飾(桃山・江戸時代)
- 第10回 日本近代の服飾(明治以降)
- 第11回 アジアの民族衣装 導入編
- 第12回 アジアの民族衣装(イスラム圏)
- 第13回 アジアの民族衣装(ヒンズー圏)
- 第14回 アジアの民族衣装(仏教圏ほか)
- 第15回 試験

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

平常点・レポートと試験

■教科書/参考書

最初の授業で各テーマ別の参考図書一覧を配布予定
前期 教科書は使用しない/適宜ハンドアウトを配布
参考図書は講義内で適宜紹介

後期 教科書なし/適宜プリント配布・図書紹介

■備考(オフィスアワー)

授業科目名	建築概論 I Introduction to Architecture I			
教員名	中山 英之			
開講時期	前期	金曜 2	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

建築設計を組み立てていく思考の多様性を、いろいろな角度から考えていく講義です。

■授業計画及び内容

毎回具体的な設計事例を採り上げて、それがどのような考え方で設計されてきたのかを、プロダクト、グラフィック、タイポグラフィ、ファッションといった様々な分野におけるデザイン史上のトピックや、絵画、音楽、映画、ダンス、文学などの表現分野における特徴的な実践を参照しながら解明していきます。

- 1, アートと建築
 - 2, デザインと建築 1
 - 3, デザインと建築 2
 - 4, 写真や映画と建築 1
 - 5, 写真や映画と建築 2
 - 6, タイポグラフィと建築
 - 7, ダンスや演劇と建築
 - 8, ファッションと建築
 - 9, 音楽や映像と建築
 - 10, あそびや日常と建築 1
 - 11, あそびや日常と建築 2
 - 12, 科学や数学と建築 1
 - 13, 科学や数学と建築 2
 - 14, ことばと建築 1
 - 15, ことばと建築 2
- (順番は変動します)

■受講に当たっての留意事項

次週までに特定の展覧会や映画を鑑賞しておくことやレポートなどの課題が出されます。

■成績評価方法

レポート×出席率

■教科書/参考書

■備考(オフィスアワー)

授業科目名	建築概論Ⅱ Introduction to Architecture II			
教員名	トーマス アンソニー ヘネガン			
開講時期	後期	金曜 2	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

建築の歴史はフォームメイキングの歴史ではなく、アイデアの歴史である。この講義では、影響力の大きな、かつ全く全くタイプの異なる建築家を日本及び海外から取り上げ、その主要建築物に具現化されたアイデアを検証するものである。

■授業計画及び内容

- 1 Sigurd Lewerentz
- 2 Sverre Fehn
- 3 Archigram / Cedric Price / Richard Rogers
- 4 Norman Foster
- 5 Glenn Murcutt
- 6 Tadao Ando / Jorn Utzon
- 7 Ivan Leonidov / Bernard Tschumi
- 8 James Stirling
- 9 Arata Isozaki
- 10 Britt Andersen / Richard Leplastrier
- 11 student presentation 1 + discussion
- 12 student presentation 2 + discussion
- 13 Summary

■受講に当たっての留意事項

講義は英語で行われる。

■成績評価方法

出席率とプレゼンテーションによる。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

金曜日 17:00 建築科 ヘネガン研究室

授業科目名	金属材料学 Metallic materials			
教員名	桐野 文良			
開講時期	通年	水曜 4	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

制作で金属を扱う学生や金属を使おうとしている学生を主な対象とする。金属の結晶構造、結晶中の欠陥、原始の拡散、変形と転位、金属の破壊現象、焼なましと再結晶、金属の変態と状態図、析出と時効、金属の反応、環境と金属、生体内の金属の役割について基礎的事柄を述べ、これらの現象と関連する美術工芸材料用の実用金属材料について制作の視点から解説する。

■授業計画及び内容

- (1) テキスト：「初級金属学」（内田老鶴圃）を使用
テキストの上記テーマに沿って進める。
- (2) 実用金属材料
参考資料配布
- (3) 金属材料実験
金属の物理・化学特性を知るための簡単な実験

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

講義中の小テストと出席率で評価する。

■教科書／参考書

北田正弘著 初級金属学（内田老鶴圃）（講義の初日に指示する）

■備考（オフィスアワー）

fkirino@fa.geidai.ac.jp 水曜日 10:00～12:00（保存科学研究室 桐野）

授業科目名	化学塗装学 Chemistry coating studies			
教員名	鈴木 伸吾			
開講時期	通年	木曜 3	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

(天然・合成樹脂塗料の基礎知識の取得)
天然・合成樹脂塗料についての基礎知識(概要、分類、塗料用具、機器設備、各種塗装)を取得する。天然・合成樹脂塗料の選択、塗装計画、塗装の環境設備、塗装管理の必要条件に触れて説明する。塗料・塗装の歴史と併せて環境保全の重要性、安全衛生も取り上げ、美術、デザインの展開を探る。

■授業計画及び内容

- I 塗料・塗装概論(序論)
- II 塗料概論及び各論
 - 塗料の歴史、役割と効用
 - 塗料の種類及び用途
 - 塗料の構成
 - 塗料の乾燥とその機構
- III 塗装概論及び各論
 - 塗装目的と意義
 - 塗装の方法
 - 塗装、乾燥の設備
 - 最近に於ける塗装の動向
- IV 自然塗料と環境
- V 塗装表現 絵画
 - 塗装表現 彫刻
 - 塗装表現 工芸
 - 塗装表現 建築
 - 塗装表現 FRP(乾漆を含む)
 - ・視覚教材(スライド、ビデオ等)

■受講に当たっての留意事項

漆芸専攻学生は必修

■成績評価方法

出席平常点とレポート評価

■教科書／参考書

■備考(オフィスアワー)

毎週・木3 化学塗装学(中央棟第1演習室)

授業科目名	化学塗装実験(取手) Chemical coating experiment			
教員名	鈴木 伸吾			
開講時期		集中	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

天然・合成樹脂塗料の特性を活用し、制作に関連した実験と実習を行う。

■授業計画及び内容

9月中旬約7日間を予定
詳しい授業内容、日程等は履修者決定後ガイダンスにて説明する。
(ガイダンス出席は必須)

■受講に当たっての留意事項

材料費が必要である。
※受講者数は10名程度、超えた場合は抽選とし後日ガイダンス日時と合わせて掲示する。
漆芸専攻学生は必修。

■成績評価方法

出席平常点と実験作品の提出

■教科書／参考書

■備考(オフィスアワー)

毎週・木3 化学塗装学(中央棟第1演習室)

授業科目名	陶磁原料学 Glaze and Ceramic Raw Materials			
教員名	滝 次陽			
開講時期	通年	木曜 4	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

陶磁器の釉や素地について基礎的な知識を紹介する。また、釉薬の開発と利用を目的とした試験（実験）を行い、陶磁器原料の一般的特性を学習する。

■授業計画及び内容

- 陶磁器の種類と分類
- テストピース用石膏型の作製
- 陶磁器の主な原料について
- 素地について
 - 素地の原料
 - 素地の特性（日本、中国、ヨーロッパの磁器素地の比較）
- 釉について
 - 灰釉と石灰釉
 - （灰釉の調製試験）
- 釉の分類
 - 釉性状について
- 釉の操作（ゼーゲル式に基づく釉の調製）
- 色釉及び顔料
- 呉須について
 - （染付の試験）
 - 簡単な呉須の調製試験
 - 調製呉須による染付の発色試験
- 低火度釉について
- 窯の変遷

試験（実験）：テストピースの作製。伝統釉（灰釉）の調合。ゼーゲル式による基礎釉および色釉の調合。呉須の合成。調製呉須による下絵付試験。

■受講に当たっての留意事項

- 座学と平行して実験を行う。実験は時間的に宿題になることが多い。
- 実験実費として年間¥3,000.-程度かかる。

■成績評価方法

規定の出席日数、実験結果とレポートによる総合評価。

- 前期：1. 灰釉調製試験。
2. レポート。
後期：1. ゼーゲル式に基づく釉調製試験。
2. 呉須の調製と発色試験。

■教科書／参考書

- 講義に必要な資料を毎回配布する。
- 次のものを各自で準備してもらいが、必要な時に案内する。
- 1. 石膏（自費：テストピース型作製用）。
- 2. 粘土 2kg（自費：テストピース用：陶器素地と磁器素地）。
- 3. 磁製乳鉢（自費：内径 125mm）。
- 4. 電卓（自費：卓上計算機）。
- 5. 参考書（自費：「釉調合の基本：改訂増補版」加藤悦三著、発行：陶工房鳴海）

■備考（オフィスアワー）

木曜日講義前後

授業科目名	染色化学 Chemistry of dyeing and printing			
教員名	原田 ロクゴー			
開講時期	通年	月曜 3	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

染色のメカニズムを理解することが染色化学の目的である。その上で、防染技法を含めた染色工程を把握し、制作に必要な技法・素材・色材・染色環境をいかに選択していくかを見極める力を養ってほしいと考えている。

■授業計画及び内容

- 前期（適宜実験実習を行う）
- *染色平衡と染色速度 / 染色
 - *繊維の鑑別
 - *タンパク質繊維とセルロース繊維
 - *酸性染料・直接染料・反応染料 実験と考察
 - *合成繊維総論 …… 重合反応による高分子の生成
 - *染色助剤
- 定期試験

- 後期（実験実習からの理解を中心とする）
- *天然染料 更紗の染色方法から見る染料
 - *天然染料 媒染のメカニズム
 - *天然染料 紅花色素抽出と染色のメカニズム
 - *天然染料 藍染色のメカニズム
 - *天然染料の色素
 - *酸と塩基
 - *糊材
 - *染料の廃棄
- 定期試験

■受講に当たっての留意事項

ラテックスなどのディスボーズブル手袋 1 双とタオル 1 枚を実験時に各自用意する。

■成績評価方法

実験実習への取り組み等平常点と試験

■教科書／参考書

- 参考書
『染色機能加工要論』 日本学術振興会 繊維・高分子機能加工工業 120 委員会（編）
『染色ノート 第 24 版（第何版でも可）』 色染社
大学生の化学 大野惇吉著 三共出版

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	舞台美術 Theatrical Art			
教員名	島 次郎、服部 基			
開講時期	前期	金曜 2	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項	前期+集中で4単位			

■授業テーマ

広義の意味で「舞台美術」とは舞台上の視覚的表現の全てを指しています。舞台装置、衣裳、照明、小道具、アクセサリー等、実に多岐に渡っています。舞台装置と舞台照明の役割も最近は特に重要になって来ました。舞台装置と照明は切っても切れない関係です。舞台には実に多くの人々が有機的に絡み合っています。初日までを時間軸をキーとして創造スタッフの職能を理解します。又、実習では実際に舞台装置（模型等）を作り、照明を照らし、その関係を多角的に考察します。

■授業計画及び内容

講義

- 1 劇場とは
- 2 すぐにも使える舞台用語
- 3 舞台美術が出来るまで
- 4 様々な舞台美術（凡例）
- 5 舞台を構成する人々（初日まで）
- 6 舞台美術
- 7 舞台照明
- 8 照明デザイン

実習

- 1 絵画作成
- 2 大きな画面へ
- 3 立体化
- 4 照明デザインを考え、光を当てる
- 5 発表と批評

見学

- 1 劇場見学

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

出席、創作物の提出。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	写真映像論 Photograph image theory			
教員名	伊藤 俊治、北澤 ひろみ、鈴木 理策、 土屋 誠一、小原 真史			
開講時期	前期	火曜 4	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

170年にも渡る歴史的遺産を再構築し続ける写真表現は、現代美術や映像映画といった他ジャンルと関係しつつ、テクノロジーの変容と共振しながら、大きな広がりを見せています。この写真映像論では、そうした21世紀の写真状況を、記録、複製、歴史、境界、記憶、無意識、知覚といった様々な視点から読みときながら、“写真の現在性”とは何かを考えてゆきます。

■授業計画及び内容

伊藤俊治先生

第1回 写真以前への新たな眼差し－絵画、カメラオブスキュラ、パノラマ、ジオラマ－

第2回 FILM UND FOTO－映画と写真のアルケオロジー

第3回 映像の歴史哲学－写真／映像へのアプローチ－（今福、多木、伊藤）

第4回 イメージの通路－絵画／写真／映画、そしてデジタル統合－

北澤ひろみ先生

第5回 未定

第6回 未定

第7回 未定

鈴木理策先生

第8回 写真のリテラシーとその実践：ゲストを招き、講評会形式で進める。見る側の任意性が強いメディアである写真を、表現としていかに成立させてゆくか、実践的に考えてゆく

第9回 現代写真家研究：明解な視座を持ち活躍する写真家を招き、映像表現が多層化する現代において「写真」という作業を進めることの可能性を探る

土屋誠一先生

第10回 現代美術と写真（1）：ポストミニマリズム（ロバート・スミッソンなど）以降における、現代美術の写真使用について

第11回 現代美術と写真（2）：ゲルハルト・リヒターとジェフ・ウォールを例として

第12回 美術史と写真：美術作品の分析ツールとしての写真使用と美術史の言説形成について

小原真史先生

第13回 写真と共同体：ダムに沈んだ村を撮影した増山たづ子とナチスによって消滅の危機にあったユダヤ人共同体を撮影したローマン・ヴィシユニアックの写真について紹介します。

第14回 写真の政治学：欧米と日本の博覧会で行われていた「ヒトの展示」についてや戦前と戦後の天皇の肖像写真について紹介します。

第15回 写真と死：日本における典型的な遺影の在り方や亡き妻の写真を発表し続けている古屋誠一の写真、無名の職人たちによって制作されてきたヴァナキュラー写真、ボル・ポト派のカメラマンが撮影した囚人たちの写真などを紹介します。

■受講に当たっての留意事項

授業内容等変更の可能性あり。詳細授業初回時に指示。

■成績評価方法

出席点、平常点、レポート。

■教科書／参考書

特になし。必要な際は、都度指示をする。

■備考（オフィスアワー）

E-mail: [mailto:[mailto:pc@ml.geidai.ac.jp/mail]]

URL: [link]http://www.geidai.ac.jp/pc/[/link]

授業科目名	現代写真論 Modern photography theory			
教員名	飯沢 耕太郎、山本 和弘			
開講時期	後期	木曜 4	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

私は現役の写真評論家なので、日本の写真表現の「現場」にかかわるトピックスを、なるべく新鮮にパッケージしてお伝えしたい。もし、写真を使った作品（ポートフォリオ）を作っている方がおられたら、講評の時間も設けたいと思う。（飯沢耕太郎）

デュッセルドルフ芸術アカデミーKunstakademie Dusseldorfのアーティストを中心に、いわゆる“アーティスト・フォトグラファー Artist Photographer” [写真を主要メディアとして用いるアーティスト] の作品構造・その歴史的意義について批評的に考察することを中心に、写真をピクチャー改革メディアとしてとらえるアーティスト（一部思想家）を考察します。（山本和弘）

■授業計画及び内容

飯沢耕太郎 写真評論家/きのこ文学研究家第1回10/2 ポートフォリオを作る
 第2回 10/9 写真集を読む
 第3回 10/16 写真展を歩く
 第4回 10/23 写真をコレクションする
 第5回 10/30 震災後の写真について
 第7回 11/13 日本の現代写真
 第8回 11/27 ポートフォリオ講評

山本和弘 美術評論家/栃木県立美術館シニア・キュレーター
 第6回 11/6 アタナシウス・キルヒャー Athanasius Kircher (1601-1680)
 第9回 12/4 山中信夫 Nobuo Yamanaka (1948-1982)
 第10回 12/11 デイヴィッド・ホックニー David Hockney (1937-)
 第11回 12/18 ゲルハルト・リヒター Gerhard Richter (1932-)
 第12回 12/25 ジグマール・ボルケ Sigmar Polke (1941-2010)
 第13回 1/8 アンドレアス・グルスキー Andreas Gursky (1955-)
 第14回 1/15 トーマス・ルフ Thomas Ruff (1958-)
 第15回 1/22 オラファー・エリアソン Olafur Eliasson (1967-)

■受講に当たっての留意事項

授業内容等変更の可能性あり。詳細授業初回時に指示。

■成績評価方法

出席点、平常点、レポート。

■教科書／参考書

『写真を愉しむ』飯沢耕太郎（岩波新書、2007）
 『写真美術館へようこそ』飯沢耕太郎（講談社現代新書、1996）
 『深読み！ 日本写真の超名作1000』（バイインターナショナル）

■備考（オフィスアワー）

E-mail: [mailto:pc@ml.geidai.ac.jp/mail]
 URL: [http://www.geidai.ac.jp/pc/link]

授業科目名	写真史 History of Photography			
教員名	倉石 信乃、橋本 一径			
開講時期	前期	火曜 5	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

前半（第1回～第7回）の授業では、ヨーロッパで1839年に「発明」された写真が、様々な方面にもたらしたインパクトを、具体的な事例を通して検証する。今日の私たちは、自分や他人が誰であるのかを証明するのに写真を求め、ニュースの真偽を写真で判断し、旅先などで見たものを撮影することで、写真に記憶を肩代わりさせる。写真の「発明」は、単なる一つの技術の発明という枠組みを超えて、私たちの生活に深く根を張っており、写真のなかった世界は、もはや想像することも困難なほどだ。写真に対する私たちの信頼はかくも大きく、それだけに写真に裏切られたときの絶望もまた深刻である。現代の私たちは、「写真的信仰」の敬虔な信徒であると言っても過言ではないだろう。こうした「信仰」を客観的に見つめなおし、その過去・現在そして未来——写真の滅亡？——を想像して見ることが、この授業の最終的な目標となる。（橋本一径）

後半（第8回～15回）の授業では、「日本写真史」の再考を試みる。近代日本において、一般の人々が「内国」と「外国」の地理的な境界や分離をはっきりと知るようになるのは、おおむね日清戦争（1894-95）の時代と見られる。その頃より、中央から離れた「地方」や他の東アジア諸国に対する「国民」的な差別感情もいっそう根付いていった。こうした「日本」の地政学的な観念の形成に、写真というメディアが深く関与した事績を踏まえつつ、当の地政学に対する批判の可能性を、いくつかの作例・資料例から探りたい。（倉石信乃）

■授業計画及び内容

橋本一径 早稲田大学文学学術院准教授
 第1回 イントロダクション：写真—芸術と記録の間で
 第2回 写真と指紋—顔、アイデンティティ、複製
 第3回 写真と著作権—写真の「私」は誰の「もの」か？
 第4回 定点観測写真—すでにないものの痕跡
 第5回 心霊写真—アウラ、プンクトゥム、ノスタルジー
 第6回 写真と科学—稲妻はジグザグか
 第7回 写真と修整—写真的信仰を超えて

倉石信乃 明治大学大学院理工学研究科教授

第8回 植民—北海道、中国、朝鮮
 第9回 反復—沖縄戦、以前と以後
 第10回 災厄—関東大震災、東日本大震災
 第11回 現実—土門拳、木村伊兵衛
 第12回 占領—東松照明、伊志嶺隆
 第13回 観光—中平卓馬1
 第14回 国境—中平卓馬2
 第15回 まとめ

■受講に当たっての留意事項

遅刻は2回で欠席1回に数える。授業内容等変更の可能性あり。詳細授業初回時に指示。

■成績評価方法

平常点（出席点を含む）20%、中間レポート40%、期末試験40%を内訳として、合計して60%以上の評点を得た者を合格とする。

■教科書／参考書

教科書は使用しない。参考書は授業内に指示する。

■備考（オフィスアワー）

E-mail: [mailto:pc@ml.geidai.ac.jp/mail]
 URL: [http://www.geidai.ac.jp/pc/link]

授業科目名	メディア音楽演習（取手） Music Media Workshop			
教員名	柴田 悠基			
開講時期	前期	月曜 1・2	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

音、映像を使った作品をコンセプトをたてるところから始め、順次制作していく。
音、映像を扱う基礎的な技術を実習を通して修得する。

■授業計画及び内容

コンピュータをインターメディアとした音や映像を構成素材として扱う作品はそれらの仕組みを理解するところから制作が始まります。この講義ではコンピュータ内で処理・発生する音や映像の仕組みを演習を通じて理解を深めます。後半は各自のコンセプトに沿って、それらを編集、プログラミング、構成し、作品を制作する。
※ 本演習では、プログラミング言語「Max/MSP Jitter」を使用し、音や映像に関連するさまざまな技法を学ぶ。プログラミングに限らず音や映像を使用したインスタレーション作品の制作も可能であるが、プログラミングに関する演習内容が多くを占めるため留意すること。
履修上の指示事項を確認すること。

■受講に当たっての留意事項

学部2年以上対象。
実習授業のため参加可能人数に制限がある。
参加可能人数を超えた場合は抽選を行う。
コンピュータの基本的操作に習熟していること。段階的に実習していくので、全日程に参加できる者だけ受講すること。途中参加、欠席は不可。

■成績評価方法

出席、課題提出

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

水曜日 13時30分～ メールで連絡してください。
[mail]shibata.yuki@fa.geidai.ac.jp[/mail]

授業科目名	プログラミング演習 I（取手） Programming I			
教員名	田中 孝太郎			
開講時期	前期	水曜 1・2	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

コンピュータプログラミングに関する基礎的な概念を理解し、コンピュータを使った作品制作や、インタラクティブなコンテンツ制作に必要な技術を身につける。

■授業計画及び内容

プログラミングの演習に「Processing (<http://processing.org/>)」を用いる。プログラミングによるグラフィック描画、アニメーションの方法、マウスやキーボードからの入力を使ったインタラクションなどを学習して、課題作品を制作する。

■受講に当たっての留意事項

基本的なコンピュータの操作や設定方法に慣れていること。コンピュータプログラミングの言葉の意味を知っていること。なお、機材の都合により、人数調整を行う場合がある。授業外でも制作が進められるよう、自宅のコンピュータやマシンルームが活用できることが望ましい。

■成績評価方法

出席、課題提出、制作物により、総合的に評価する。

■教科書／参考書

テキストは適宜配布する。以下の参考文献に沿って進行する。
『Built with Processing デザイン／アートのためのプログラミング入門』（BNN 新社）

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	プログラミング演習Ⅱ (取手) Programming II			
教員名	田中 孝太郎			
開講時期	後期	水曜 1・2	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

前期「プログラミング演習Ⅰ」での基礎的なプログラミングスキルをベースに、より高度なプログラミングを体験し、各個人のテーマに応じたプログラム作品を制作する。

■授業計画及び内容

オブジェクト指向、ネットワークプログラミング、スマートフォンアプリなど、より高度なプログラミング技術の演習を、前期と同様にプログラミング環境「Processing」を用いて行う。

授業後半では、各個人の企画でプログラム作品の個人制作を行う。

スマートフォン向けアプリケーション開発環境を用いてコンピュータ上のシミュレータでの動作確認を基本とするため、個人でスマートフォンを持っていなくても受講は可能です。

■受講に当たっての留意事項

原則として前期「プログラミング演習Ⅰ」を受講していること。なお、機材の都合により、人数調整を行う場合がある。授業外でも制作が進められるよう、自宅のコンピュータやマシンルームが活用できることが望ましい。

■成績評価方法

出席、課題提出、制作物により、総合的に評価する。

■教科書／参考書

テキストは適宜配布、紹介する。

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	メディアデザイン演習Ⅰ (取手) Design Media Workshop I			
教員名	森垣 賢			
開講時期	前期	木曜 1・2	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

複合的なメディア環境での研究制作活動の基盤づくりとして、グラフィックデザインの基礎について講義と演習を通して学ぶ。

■授業計画及び内容

書体、文字組版、レイアウトなどの講義とともに、DTP アプリケーションを使用した演習を行う。

- DTP (desktop publishing) 基礎知識
- DTP アプリケーション (Illustrator、Photoshop) の使用法
- 欧文書体 (欧文書体の歴史と背景、セリフ体、サンセリフ体)
- 和文書体 (和文書体の歴史と背景、活字、写植、デジタルフォント)
- 組版・レイアウト基礎
- 画像処理 (DTPにおける画像の取り扱い)
- インフォグラフィック

■受講に当たっての留意事項

基本的なコンピュータの操作法を修得していることを前提とする。メディアデザイン演習Ⅰ・Ⅱは、それぞれ独立科目として開設するが、合わせて履修することが望ましい。なお、機材の都合により定員は30名前後。超過した場合は抽選となるので、受講希望者は必ず初回ガイダンスに出席する事。聴講不可。

■成績評価方法

出席、課題提出、制作物による総合評価。

■教科書／参考書

授業の中で適宜紹介する。

■備考（オフィスアワー）

E-mail : [mail]ken_morigaki@mac.com[/mail]

授業科目名	メディアデザイン演習Ⅱ（取手） Design Media Workshop II			
教員名	森垣 賢			
開講時期	後期	木曜 1・2	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

複合的なメディア環境での研究制作活動の基盤づくりとして、グラフィックデザインの基礎について講義と演習を通して学ぶ。

■授業計画及び内容

メディアデザイン演習Ⅰを基礎として、印刷表現などを中心に演習を行う。

- 印刷について（印刷版式、印刷方式、インキなど）
- 用紙について（サイズ、単位、印刷用紙の種類など）
- 入稿について（見積もり→制作→入稿→色校正→納品の一連の流れを体験）
- 印刷博物館見学
- DTPアプリケーション（InDesign）の使用法
- 欧文書体制作

■受講に当たっての留意事項

メディアデザイン演習Ⅰの単位取得者、または相応程度のスキルを修得していることを前提とする。なお、機材の都合により定員は30名前後。聴講不可。

■成績評価方法

出席、課題提出、制作物による総合評価。

■教科書／参考書

授業の中で適宜紹介する。

■備考（オフィスアワー）

E-mail: [mailto:ken_morigaki@mac.com/mail]

授業科目名	写真表現演習Ⅰ（取手） Photography Workshop I			
教員名	佐藤 時啓、鈴木 理策、佐野 陽一			
開講時期	前期	金曜 1・2	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

見ること、見えること、フレーミングすること、写真は外界を鏡のように映し出す。あなたは何を見ようとするのか。撮影行為から暗室作業まで銀塩写真の一連の制作過程を通して、写真表現の可能性について実践的に考察する。それは、自身の外側の世界とかわることから、自らを見つめる作業を繰り返していくことでもある。

■授業計画及び内容

デジタル時代になっても決して変わる事のない“光が孔を通じて結像する仕組み”を体験することから始まり、写真が成立する過程を学ぶのに相応しいアナログ銀塩写真を中心に授業を行う。撮影や暗室作業そして作品の講評を繰り返しながら、最終的に展示形式の講評会を行い普遍的な写真のありようを学ぶ。具体的には35mmカメラを用いたモノクロフィルムと印画紙による表現となる。

- ・カメラオブスキュラの体験により写る事の仕組みを学ぶ
- ・モノクロフィルム現像と印画紙へのプリントから、ネガとポジの関係を学ぶ
- ・暗室作業から、フィルム、印画紙と光の関係を学ぶ（フォトグラム実習を含む）
- ・写真展等の見学をする
- ・展示形式の講評会とポートフォリオの制作を最終的に行う

■受講に当たっての留意事項

自らの積極的な意志をもって受講することが求められる。材料費¥15000の他、各自が使用するフィルムカメラを用意すること。また、制作にあたって必要となるフィルム、印画紙等の消耗品は初回支給分を除いて個人負担となる（但し、処理薬品は材料費で賄う）。尚、暗室機材の台数の都合により前期、後期ともに各14名を定員とする。超過した場合は抽選（前期、後期ともに4月初回授業時に行なう）となるので必ず出席すること。よって、授業の途中棄権は認められない。

■成績評価方法

出席状況と作品（講評会、ポートフォリオ）による総合評価。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	写真表現演習Ⅰ（取手） Photography Workshop I			
教員名	佐藤 時啓、鈴木 理策、佐野 陽一			
開講時期	後期	金曜 1・2	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

見ること、見えること、フレーミングすること、写真は外界を鏡のように映し出す。あなたは何を見ようとするのか。撮影行為から暗室作業まで銀塩写真の一連の制作過程を通して、写真表現の可能性について実践的に考察する。それは、自身の外側の世界とかわるることから、自らを見つめる作業を繰り返していくことでもある。

■授業計画及び内容

デジタル時代になっても決して変わる事の無い“光が孔を通じて結像する仕組み”を体験することから始まり、写真が成立する過程を学ぶのに相応しいアナログ銀塩写真を中心に授業を行う。撮影や暗室作業そして作品の講評を繰り返しながら、最終的に展示形式の講評会を行い普遍的な写真のありようを学ぶ。具体的には35mmカメラを用いたモノクロフィルムと印画紙による表現となる。

- ・カメラオブスキュラの体験により写る事の仕組みを学ぶ
- ・モノクロフィルム現像と印画紙へのプリントから、ネガとポジの関係を学ぶ
- ・暗室作業から、フィルム、印画紙と光の関係を学ぶ（フォトグラム実習を含む）
- ・写真展等の見学をする
- ・展示形式の講評会とポートフォリオの制作を最終的に行う

■受講に当たっての留意事項

自らの積極的な意志をもって受講することが求められる。材料費¥15000の他、各自が使用するフィルムカメラを用意すること。また、制作にあたって必要となるフィルム、印画紙等の消耗品は初回支給分を除いて個人負担となる（但し、処理薬品は材料費で賄う）。尚、暗室機材の台数の都合により前期、後期ともに各14名を定員とする。超過した場合は抽選（前期、後期ともに4月初回授業時に行なう）となるので必ず出席すること。よって、授業の途中棄権は認められない。

■成績評価方法

出席状況と作品（講評会、ポートフォリオ）による総合評価。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	写真表現演習Ⅱ Photography Workshop II			
教員名	佐藤 時啓、小山 穂太郎			
開講時期	前期	月曜 3・4	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

写真の基礎的な銀塩写真過程経験者を対象に、カメラの構造やその扱い方を詳しく学び、写真における実践的な制作とその表現の可能性を探る。大判カメラのあおりの使用を中心に、4×5inchサイズのフィルムを使用して、屋外撮影やスタジオワークなどの実習を行い、表現者としての強度を身に付ける。各自がテーマを持ち、それに向けてどのように取り組むべきかを主体的に考える積極性が求められる。

■授業計画及び内容

実習と平行して各自が課題制作に取り組み、中期講評会（プレゼンテーション形式）と学期末講評会（展示形式）を行う。

【日程】

- ・ガイダンス（4月）
- ・カメラのメカニズム―大判カメラのアオリ（1）
- ・カメラのメカニズム―大判カメラのアオリ（2）
- ・シートフィルム現像―皿現象と自動現像機（JOB0）
- ・撮影、シートフィルム現像
- ・白黒プリント（パライタ紙）
- ・撮影、フィルム現像、プリント
- ・中期講評会（プレゼンテーション形式）
- ・スタジオワーク―ライティング、接写撮影など
- ・撮影（スタジオ、屋外）フィルム現像プリント
- ・白黒大伸ばしプリント―壁面投影による
- ・中期講評会（プレゼンテーション形式）
- ・ゲスト講習会
- ・大型プリンター講習／マウントについて
- ・学期末講評会（展示形式）

■受講に当たっての留意事項

教材費として初回に7500円（予定）が必要です。4月にガイダンスを設け、そこで受講者を決定する。よって、ガイダンス出席は必須。また、履修条件として「写真表現演習Ⅰ」または、各科の写真授業の単位取得者、あるいは写真センター講習会の「白黒フィルム現像」と「白黒プリント」を受講した者に限る。前期、後期ともに10名を限度とする。スケジュールは変更の可能性あり。その都度、指示する。

■成績評価方法

出席と作品による総合評価。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

E-mail：[mail]pc@ml.geidai.ac.jp[/mail]

URL：[link]http://www.geidai.ac.jp/pc/[/link]

授業科目名	写真表現演習Ⅱ Photography Workshop II			
教員名	佐藤 時啓、小山 穂太郎			
開講時期	後期	月曜 3・4	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

写真の基礎的な銀塩写真過程経験者を対象に、カメラの構造やその扱い方を詳しく学び、写真における実践的な制作とその表現の可能性を探る。大判カメラのあおりの使用を中心に、4 × 5 inch サイズのフィルムを使用して、屋外撮影やスタジオワークなどの実習を行い、表現者としての強度を身に付ける。各自がテーマを持ち、それに向けてどのように取り組むべきかを主体的に考える積極性が求められる。

■授業計画及び内容

実習と平行して各自が課題制作に取り組み、中期講評会（プレゼンテーション形式）と学期末講評会（展示形式）を行う。

【日程】

- ・ガイダンス（4月）
- ・カメラのメカニズム -- 大判カメラのアオリ（1）
- ・カメラのメカニズム -- 大判カメラのアオリ（2）
- ・シートフィルム現像 -- 皿現象と自動現像機（JOB0）
- ・撮影、シートフィルム現像
- ・白黒プリント（パライタ紙）
- ・撮影、フィルム現像、プリント
- ・中期講評会（プレゼンテーション形式）
- ・スタジオワーク -- ライティング、接写撮影など
- ・撮影（スタジオ、屋外）フィルム現像プリント
- ・白黒大伸ばしプリント -- 壁面投影による
- ・中期講評会（プレゼンテーション形式）
- ・ゲスト講習会
- ・大型プリンター講習 / マウントについて
- ・学期末講評会（展示形式）

■受講に当たっての留意事項

教材費として初回に 7500 円（予定）が必要です。4月にガイダンスを設け、そこで受講者を決定する。よって、ガイダンス出席は必須。また、履修条件として「写真表現演習Ⅰ」または、各科の写真授業の単位取得者、あるいは写真センター講習会の「白黒フィルム現像」と「白黒プリント」を受講した者に限る。前期、後期ともに10名を限度とする。スケジュールは変更の可能性あり。その都度、指示する。

■成績評価方法

出席と作品による総合評価。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

E-mail : [mailto:pc@ml.geidai.ac.jp/mail]

URL : [http://www.geidai.ac.jp/pc/link]

授業科目名	映像演習Ⅰ（取手） Seminar in Image Design I			
教員名	山川 冬樹			
開講時期	前期	火曜 1・2	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

実制作を通して映像の基礎的な技術と理論を修得する。映像において最も基本的な原則である「視点」を主要なテーマに据えて授業を進める。

■授業計画及び内容

- ・ディスカッション・作品プランのプレゼン。コンテの制作。
- ・撮影技術と機材の基礎。照明と光学の基礎。
- ・素材リスト、編集シートの作成・ノンリニア編集の実際。

・講評会・上映会（取手校地メディア教育棟にて）。上記制作と平行して、小課題の出題、レクチャーを行う。

■受講に当たっての留意事項

履修希望者多数の場合、抽選となる場合がある。

■成績評価方法

出席と作品評価。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	映像演習Ⅱ（取手） Seminar in Image Design II			
教員名	山川 冬樹			
開講時期	後期	火曜 1・2	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

現在ほど映像が生活環境の一部を成し、氾濫している時代は未だかつてない。
そんな今日の状況において、我々はいかなる映像表現が可能なのだろうか。
この授業では、前期で学ぶ映像の基礎を踏まえつつ、音声や言語といった、周辺領域との接点から「映像」というものを捉え直す。

■授業計画及び内容

- ・レクチャー：様々な事例を取り上げながら、視覚と聴覚について考察する。
- ・收音と機材の基礎。
- ・作品制作
- ・発表：講評会、上映会（取手校地メディア教育棟にて）。

■受講に当たっての留意事項

履修希望者多数の場合、抽選となる場合がある。
コンピューターを使用した映像編集の基礎を習得していることを条件とする。

■成績評価方法

出席と作品評価。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	ドローイング演習（取手） Drawing			
教員名	小沢 剛			
開講時期	前期	水曜 1・2	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

線を描くという事は、何かを選ぶ事であり、平面を区切る事であり、時間を刻み付ける事であり、身体の痕跡でもあり、思考の足跡を残す事ことではないだろうか。
有史以来、人が行って来た線を描くということを学んでみよう。

■授業計画及び内容

- 線をテーマに、先人の描いて来たあらゆるドローイングを参照しつつ、毎時間、異なるテーマで描く。
- ・線を知る ・触覚を研ぎすます ・身にまとう作品を考える ・植物の構造を捉える
 - ・チームでパノラマを作る ・直感を磨く ・音を描く など

■受講に当たっての留意事項

定員を 20～24 名とし、先端学部生を優先として抽選を行う。途中で放棄するような学生は受けられなかった学生に迷惑がかかるので熟慮してから希望をだすこと。
ドローイングに必要な材料は、各自用意すること。詳細は授業内で指示。

■成績評価方法

出席は厳しくおこなう。
課題ごとの作品によって評価する。

■教科書／参考書

線の演習 章国社 著者 小沢剛+塚本由晴 2200円

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	映像芸術論 Introduction to Image Art		
教員名	伊藤 俊治		
開講時期	集中	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生		
特記事項			

■授業テーマ

写真や映画からビデオやCGに至る人間の映像体験の意味を再検証する。過去2世紀あまり大きく変化してきた映像の歴史をたどりながら、「映像を見る」とはどのような営みなのかを自分の身体感覚を通じて問い直してゆく。映像の変容が新しい表現を生み出してゆくばかりではなく、映像の見方に本質的な変化を与え、世界の認識法や世界の感じ方に大きな変質をもたらしてきたことを実感させる。

■授業計画及び内容

こうした視覚メディアの考古学を試みながら映像表現や映像芸術の構造や形式について多面的な角度から考察し、映像という魔術の輪郭を浮かび上がらせる。

まず見ることを徹底的に意識化し、集中的に見続けることからこの講義は始まる。多様な映像の運動に身をまかせながら、それらの映像を見ている自分自身にも注意を向け、自己の意識が映像の流れの中でどのように変化してゆくのか、映像と自己の関係の変容を感じ取って欲しい。

さらに次の段階ではただ見るだけではなく、映像の作り手の思考にも手を伸ばして行って欲しい。映像を漠然と見るのではなく、なぜこんな表現をしたのか、どうしてこのようなカットなのか、この編集の流れや構成をとったのはどのような意図なのか、この色彩や言葉やキャラクターはどのような効果を持つのか、という具合にさまざまな設問を発し、映像の組織に深く入り込んでほしい。

そのことは必ず自分の表現や作品づくりと重なってゆくはずである。絵を描いたり、研究しようとする時、古今東西の優れた名作をたくさん見たり、模倣したりするように、映像芸術も名作をなるべく多くじっくり吟味して鑑賞することが重要である。ここでは厳選された映像作品を集中的に見ながら記憶や身体、無意識や感情と密接に結びついた未来の映像の見取り図を描き出したい。

■受講に当たっての留意事項

集団で集中して見るという共通体験を重視したいので時間は厳守すること。上映中は私語はもちろん厳禁。

■成績評価方法

出席・レポート

■教科書／参考書

伊藤俊治「ジオラマ論」ちくま学芸文庫 1350円

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	音表現論（取手） Theory of sound expression		
教員名	川崎 義博		
開講時期	通年	木曜 2	単位 4
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生		
特記事項			

■授業テーマ

音（環境音、音楽等あらゆる音が対象）を主体に、サウンドスケープ概念を軸にして、我々を取り巻く環境、社会、歴史、文化などを捉えて行くこと、そこから〈音〉で表観していく方法論を学び、音の表現の多様性を学んでいきます。

具体的には、我々にとって〈音〉とは何か？〈音〉を聴く行為とは？などから始め、そこから生まれてくる「表現」、「作品」に触れつつ、〈音〉をメインの素材として、どのように表現していくのか？を学びます。また、映像作品（ビデオインスタレーションや映画など）に置ける「音と映像の関係」を構造的に捉え、映像作品の実例などを見つつ、音の持つ可能性を探って行きます。さらに、絵画、写真、身体表現、文学作品、WEB上の作品など、他の表現領域に分け入り、〈音〉の存在、役割を探って行きます。音が〈在る〉こと、音が〈無い〉こととは？

■授業計画及び内容

前期授業計画 Input = 聞く、聴く、聴かぬ事

まず、サウンドスケープという概念を通じて〈音〉で物事をとらえていくことを学びます。実際にはワークショップ等を交えながら、「聴く事」を体験しつつ、音の物理的特性、我々の音に対する生理的特性にも触れ、我々が環境情報を「音」としてどう認知しているのか？聞きながらも何故認知していないのか？などを学んで行きます。そして、サウンドアートからのアプローチとして、「聴く事＝表現」と言う方法論の作品に触れ、作品として成り立っていく過程を検証し、新たな表現の領域へと進んで行きます。また、文学作品、絵画、写真などの他の表現領域において、〈音〉でどのような表現がなされるのか？なども検証して行きます。

後期授業計画 Output = 聴く事から表現する事へ

様々なアプローチを持つサウンドアートの作品を探る中から、新たな音の表現方法を学びます。また、新しいメディアにも積極的にアプローチし、WEB上の作品などにも触れ、その中の〈音の位置〉を確認して行きます。そして何よりも、映像作品に置ける〈音の役割〉、〈音と映像の関係〉を構造的に捉え、実際の作品（映画、ビデオ作品）を見つつ、その関係性、表現方法の変遷を検証します。

前期後期通じて

- ・音とは？
- ・サウンドスケープ
- ・聞く事、聴く事、聴かぬ事
- ・聴く＝表現
- ・サウンドアートとは、その方法論
- ・映像と音の関係
- ・サウンドデザイン
- ・変わりゆくメディアより

以上の事項を関連持たせつつ、進めて行きます。

基本的には講義形式ですが、時に理解を深めるためワークショップ等も行いつつ進めていきます。

定まった教科書は使用しませんので、折に触れコピー等を使用します。また実例としての、「音」「映像」の作品を多用して行きます。

■受講に当たっての留意事項

通年出席できる人。自らの作品の中で音を思考していける人。

■成績評価方法

出席・課題提出

■教科書／参考書

特定の教科書は使いません。参考文献等は開講時等、随時指示します。また必要資料はコピーで配布します。

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	環境表象論（取手） Environment and Representation			
教員名	銅金 裕司			
開講時期	通年	水曜 2	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

世界には多様な生命や物質が満ち溢れ、それらが互いに呼応し、私達の想像も及ばない未知なる生命のネットワークを形成しています。たとえばランとミツバチの知られざる世界。それらの生命と環境世界の（ダーウィン、ドゥルーズあるいはベイトソンの）精神やいろいろな生命の「知性」をいかにして感じとり、知って、さらに考察して芸術や科学において実践できるのでしょうか？そして生命と環境の生理・生態から有機的・無機的な表象・表現に向かう私たちの創造とは？このように（自然科学全般から）科学、民俗学～現代思想の成果をもとに総合芸術の理論と実践に繋がる「創造の秘密」（アートとしてのテーマ性）に迫りたいと思います。

■授業計画及び内容

【授業計画及び内容】

・前期授業計画（環境表象論基礎）

- 第1回 環境表象とは マルチメディアにおける環境表象のガイダンス
- 第2～3回 環境表象と絵画・映像 視覚芸術に見られる生命観・環境表象の変遷
- 第5～8回 環境表象と音楽 さまざまな音楽による生命観と環境表象の連鎖
- 第4～6回 環境表象と文学 外国・日本文学に見られる生命観と環境表象の変遷
- 第9～11回 環境表象と生命論 古典から現代に至る生命史論と環境表象の変遷
- 第11～13回 環境表象と自然科学 数学・物理学からみた生命観と生物情報科学の変遷
- 第14～15回 環境表象演習 全員でいくつかの課題に取り組み実践する

・後期授業計画（環境表象論各論）

- 第1回 環境表象（1）海洋学とメルヴィルの精神
- 第2回 環境表象（2）数理的精神と2人のフランシス・ベーコン
- 第3回 自然と人工 バジューラルと三木成夫の世界
- 第4回 地球生態学（1）生態学と生理学（カオスと複雑系の理論から）
- 第5回 地球生態学（2）公害、人為、民意（長良川河口堰と神戸空港などの問題から）
- 第6回 環境表象（3）ラン科植物の生物学とオートポイエーシス
- 第7回 環境表象（4）古典園芸文化の現代性あるいは園芸という人について
- 第8回 植物の声を聞く プラントロントメスメリズム
- 第9回 アフォーダンス ダーウィンと植物の精神生理学
- 第10回 若沖の生命世界若沖が京都石峯寺五百羅漢像作成で考えたこと
- 第11回 箱庭論（1）フランシスイェーツらワールブルグ学派のオカルト哲学
- 第12回 箱庭論（2）ユング心理学と南アジアの風水について
- 第13回 箱庭論（3）世界劇場とインターネットあるいは組み合わせ術
- 第14回 バイオメディアアート バイオメディアアートはいかに可能か
- 第15回 課題発表

■受講に当たっての留意事項

ときにレポートを課す。

■成績評価方法

課題発表会、展示参加などで評価を定める。

■教科書／参考書

なし

■備考（オフィスアワー）

dougane@gmail.com

授業科目名	身体言語論（取手） Language and body			
教員名	長谷部 浩			
開講時期	通年	月曜 2	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

身体芸術を深く理解するためには、コードを読み解く技法が必要です。

ピナ・バウシュや坂東玉三郎の舞踊、蜷川幸雄、野田秀樹の演出の舞台について、映像資料を参照しながらその作品がいかに世界に向かって開かれているかを考えつつ、パフォーマンスアーツの基礎的な理論を学びます。また、講義のみならず、実際にパフォーマンスの制作を平行して行い、個人制作ではなく、集団によって作品を創造する喜びを体験してもらいます。

また、後期は、前期に続いてパフォーマンスの制作を続行するとともに、クリエイティブな文章の成り立ちについて、基礎から指導を行います。作文でもない、論文でもない。読み手を意識した文章を書くための技芸を鍛えていきます。

取手に在籍する多くの科、及び大学院からの「参加」を期待しています。

■授業計画及び内容

- 第一回 ピナ・バウシュ 1 ダンスとは何か？
- 第二回 ピナ・バウシュ 2 ダンスと演劇のあいだ
- 第三回 野田秀樹「パンドラの鐘」を分析する 1 天皇と政治責任
- 第四回 野田秀樹「パンドラの鐘」を分析する 2 日本人の精神性
- 第五回 野田秀樹「パンドラの鐘」を分析する 3 アメリカと日本の関係
- 第六回 蜷川幸雄演出『マクベス』1 舞台における権力の描かれ方
- 第七回 蜷川幸雄演出『マクベス』2 時間と空間をまたぎこすための技法
- 第八回 蜷川幸雄演出『マクベス』3 スペクタクルな演出とはなにか。
- 第九回 坂東玉三郎『京鹿子娘道成寺』を分析する 1 女形と性の横断
- 第十回 坂東玉三郎『京鹿子娘道成寺』を分析する 2 伝説と神話
- 第十一回 坂東玉三郎『京鹿子娘道成寺』を分析する 3 イメージの描出とは何か。
- 第十二回 （以降は授業開始時に発表する）

■受講に当たっての留意事項

身体と言語、表現の根底にあるふたつの大切な概念を、理論と実践の両輪で学んでいく意欲的な学生を求めます。

■成績評価方法

作品評価（50%）、出席（50%）

■教科書／参考書

教科書 長谷部 浩 『傷ついた性 デヴィッド・ルヴォー演出の技法』（紀伊國屋書店）、『演出術』（ちくま文庫）、『野田秀樹論』（河出書房新社）、『坂東三津五郎 踊りの愉しみ』（岩波書店）。

■備考（オフィスアワー）

月曜日の午後。事前にコンタクトを取ってください。

授業科目名	空間映像演習（取手） Exercise Video Space		
教員名	風袋 宏幸		
開講時期	集中	単位	2
履修対象	学部生（先端芸術表現科のみ）		
特記事項			

■授業テーマ

「イメージを投影する立体スクリーン」という簡易な表示装置をもちいて、空間と映像の相互作用に着目した映像インスタレーションの制作を行ないます。

■授業計画及び内容

授業は課題制作を中心とした、ワークショップ形式です。

- 1) テーマの理解を目的としたレクチャーとディスカッション
- 2) イメージの発見とその変容（静止画と動画の制作）
- 3) 課題作品のレビュー

■受講に当たっての留意事項

場所：取手 メディア教育棟 各教室

■成績評価方法

課題作品の内容、プレゼンテーション、及び制作過程を総合的に評価します。

■教科書／参考書

必要に応じて、授業前に配布または告知をします。

■備考（オフィスアワー）

授業終了時にコンタクトを取ってください

授業科目名	複合表現演習 I Seminar in Compound Expression I		
教員名	八谷 和彦、鴻池 朋子		
開講時期	集中	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生		
特記事項			

■授業テーマ

各自が東京の家を出た時から、この授業がスタートしている。独自のルートを辿って秋田県の森吉山麓の小さな町、阿仁合（あにあい）に集合する。

1日目は「里」。独自の言葉遊びを仕掛けて、歴史探訪とは違った方法で、町の知られざる場所を探索し人と出会い、人間社会の里をフィールドワークする。

2日目は「山」。森吉山へトレッキングし森吉避難小屋でアートワーク見学と一泊。天候によっては夜のフィールドワークも行う。

3日目は下山し、里のロッジで講師と学生の1対1の作品なんでも相談会と、最後に阿仁合の人々の手料理を囲んで報告&交流会をする。東北を移動し山小屋に宿泊することによって、昼や夜のこと、見えること見えないことを考え、肉体で地形をデッサンし、人と会って物語り、構想力を鍛え、体内の奥よりから起こってくる何ものかに耳を傾け、誠実に作品として表現できる力を遊びで鍛えてゆく。

■授業計画及び内容

講師：鴻池朋子（アーティスト）

開催期間：9月中旬以降で5日間の演習を予定。現地集合、現地解散。（※詳細は6月上旬に決定）

開催場所：秋田県北秋田市阿仁合町と森吉山（※詳細は集中講義受講者に対して6月下旬頃説明会を行う。）

■受講に当たっての留意事項

学部二年生以上であれば、全学部・全学科受講可能。ただし人数制限による抽選の可能性、実習費の徴収の可能性がある。複合表現演習 I、IIIと合わせて履修することを勧める。

■成績評価方法

■教科書／参考書

山小屋で一泊するので秋山登山装備および寝袋を準備すること。

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	複合表現演習Ⅱ Seminar in Compound Expression II		
教員名	八谷 和彦、清水 寛二		
開講時期	集中	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生		
特記事項			

■授業テーマ

能は、能舞台という空間が、能装束というコスチュームが、面という顔が、謡や囃子などの音楽が、そしてその戯曲が、その中に居る能役者をがんじがらめにするのですが、さてそこからどう自由になっていくのでしょうか？

■授業計画及び内容

講師：清水寛二（観世流シテ方、缺仙会理事、能楽協会会員、日本能楽会会員、重要無形文化財総合指定、沖縄県立芸術大学非常勤講師）

この講義では、能について包括的に学ぶ。能の基本的事項に続き、古典と新作についての解説などへ広げる。また、謡の実習および本物の装束着けの見学も行う。最終日には学生ひとりひとりが実際に面を着けて摺り足で動き、どのように身体と声が使われるのかを体感する。

この講義はパフォーマンスを志す学生はもちろん、絵画、音楽、写真、彫刻、デザイン、インスタレーション、などなどあらゆる方向性を持った学生にも広く開かれている。パフォーマンスや身体表現の経験は不要であり、ただ好奇心と意欲を持って参加して頂きたい。

■受講に当たっての留意事項

開講予定日と場所は集中講義履修登録時に確認する事。適切な木の床が必要なため、期間中の場所変更がある。実習費を徴収する。「複合表現演習Ⅰ、Ⅲ」と合わせて履修することを勧める。

■成績評価方法

出席と課題による総合評価。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	複合表現演習Ⅲ（取手） Seminar in Compound Expression III		
教員名	八谷 和彦、野口 実		
開講時期	集中	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生		
特記事項			

■授業テーマ

「耳と心の森に入る — 音楽表現とその領域」

西洋クラシック音楽の呪縛を解き、種々の社会、生活、労働、遊び、美意識を背景に生まれた民俗、民衆の音楽を題材に、音楽表現のコアを探る。100点余りの音源と映像により、社会環境の変容、美意識の変遷による表現の変貌と、交差する表現領域との確執を検証、音楽表現の領域について分析、考察し、音楽を軸とする複層的な表現演習を体感する。

■授業計画及び内容

講師：野口実（音楽家、開成高校講師）

※ 開講予定日と場所は集中講義履修登録時に確認する事。

I … 変貌する音楽表現

- 1) . エスニック・ミュージックの位相と表情
- 2) . クラシック音楽の系譜と表現
- 3) . 北米黒人音楽の発生とロック・ミュージックの潮流

II … 音楽表現の技法

- 1) . 時間感覚への介入
- 2) . 構造と形成プロセスの認知
- 3) . 情動・知覚のモデリング
- 4) . 記号と概念提示

III … 複層メディアの諸様態

IV … 創作演習に向けて（最終日に短いパフォーマンス／プレゼンテーションを予定）

■受講に当たっての留意事項

「複合表現演習Ⅰ、Ⅱ」と合わせて履修することを勧める。

■成績評価方法

出席と課題による総合評価。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	メディア概論 (取手) Media Studies Basics			
教員名	樽沼 範久			
開講時期	通年	金曜 2	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生 ・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

「あらゆるメディアは私たちが完全に打ちのめす」(マーシャル・マクルーハン『メディアはマッサージである』1967年)。しかしながら、いわゆる「メディア」も「メディア論」も飽和状態にあるのかも知れません。もちろん、「メディア」や「メディア論」は更新され続け、「メディア」に関係する社会的出来事は生まれていくでしょうが、もはや私たちが心の底から興奮させたり、何か重要な兆を伝えたりする響きを持っていくのかは、まだ見えません。では現在、「メディア概論」の意味はどこにあるのでしょうか。「樽沼概論」と呼ばれることもある「メディア概論」。しかし自分の知っていることよりむしろ、自分が知りたいことに向けて話をしたいと思っています。また、この授業の場所・時間自体を受講者たちの制作・行為へのメディア(媒介・触媒)に変容させたいという欲望も、毎年変わりません。私たちの心を心の底から、私たちの体を体の底から動かすもの、という意味でのメディア(媒介・触媒)。それが「メディア概論」の、ひとつの大きな主題だと考えています。また、「媒質」「生存環境」の意味での「メディア」は、いかなる現代の変容のものであれ、われわれ人類を含む生きものにとって不可欠であることに変わりはなく、その歴史的「条件・状況」を思考することは、生と世界への関係を生き直すことにつながるのではないのでしょうか。

■授業計画及び内容

いろいろな困難が待ち構えているでしょうが、それでもなお、「様々な分野」の作品・言葉・事象を媒介に、「常に世界へと向う新たな視点」(取手 ART PATH 2012 ゲスト討論会 [畠山直哉 × 樽沼範久] 案内より)を受講者の皆さんとともに探求したいと願っています。私たち自身がこの世界に生きものとして存在する という基礎から出発して、芸術を表現をメディアを考えていくのが基本姿勢です。一昨年度/昨年度は(年度による違いはあれど)概ね、次のような授業を展開していきました(ひとつの主題が複数回にわたるときがあります)。「サンバとは何か」「メディアの定義〜アルヴィン・ルシエの音実験を聴く」「人工—自然、複製について：自然史、ダーウィンの視座から」「塵埃について(1)(2)」「ルクレティウス、デュシャン、バタイユ、ギブソン、寺田寅彦、中谷宇吉郎、パイク、ラウシェンバーグ、野坂昭如、ももいろクローバーZなどを素材に)」「ひとはいかにして作曲家になるか」「ひとはいかにして写真家になるか」「地球物理学者・寺田寅彦のサウンドトラック」「現代芸術は何と闘ってきたのか/何を求めてきたのか」、「ダンス(1)(2)：行為論からフォーサイス、ボロックへ」「ダンス(3)：インプロヴィゼーションについて」「ダンス(4)(5)：土方巽」、「日記を考える：第五回恵比寿映像祭に向けて」(カント、内田百閒、ソング、メカス、バルト、河原温などを媒介に)「表現のくふるさと」について—坂口安吾の視座から「表現と不可能性」(イサム・ノグチ、ドゥルーズ、リルケなどを媒介に)「表現と社会(1)：民主主義をめぐる」(チョムスキー、フーコー、ピンク・フロイドの言葉、そして衆議院議員総選挙を媒介に)「表現と社会(2)：Dumb Type [pH]、土本典昭『原発切抜帖』を観る」「放射性物質と人間の尺度の乖離について」「芸術における否定性：アルヴォ・ペルトとジョン・ケージの場合」「ルイス・カーンの建築」「高嶺格のクールジャパン」(本人を招いての特別授業 [昨年度のゲストは集団「悪魔のしるし」の危口統之さん])。一昨年度・昨年度と同じ内容の反復もあるでしょうが、今年度は「メディア概論」の進めかたを見直し、「教科書」を指定することで、ある程度の安定したフレームを履修者が自分で得られるようにしたいと考えています。前期は「インスタレーション・アート」「環境美学」「空間構築」をめぐる諸問題を軸に展開していく予定です。

■受講に当たっての留意事項

意味を頭で理解するだけでなく、授業に対して感覚・情動のレベルで反応したり、授業を契機に制作に新たに向かったりすることも理解のひとつだと考えています。各自の制作・探求における問いを持ちこんできてほしいと思います。願うことならば、この講義を各自の制作・探求のための触媒にしてみたい。「探究者の社会では、人間は考えている。探究者としての人間(…)は無数の問題が出来る

可能性の海に投げられるのだ」(マイケル・ポラニー『暗黙知の次元』1966年)。また、簡単に理解してしまうのは止めようと思います。「大体、私たちは理解しすぎて間違える」(ジャック・ラカン『フロイト理論と精神分析 技法における自我』1954-55年)。

■成績評価方法

出席(40%)、学期末レポート(40%)を予定。授業後に提出する紙も参考にします(20%)。なお、学期末レポートは「言葉採集(語録作成)」を構想中です。「メディア概論」の授業を踏まえつつ、先人たちが「個々」の生のために「個」として表現してきた言葉を、自分の視座から採集し(分野は問いません)、採集者自身の言葉や編集も加味しながら、ひとつの方向性(意味)を備えた「語録」を制作する。表現媒体は文字のみならず映像・音声なども可能です。この作業は、過去の言葉のなかに未来の幻像を見つめることであり、過去の言葉や時代への認識を未来の言葉や認識に転じる準備をすることだと考えています。

■教科書/参考書

指定教科書(各自で事前に入手のこと)

1) Claire Bishop

■備考(オフィスアワー)

オフィスは横浜国立大学にあるため、質問などは当日に。

授業科目名	IMA 概論 A (取手) Inter Media: General Introduction A			
教員名	長谷部 浩、八谷 和彦、 日比野 克彦、佐藤 時啓			
開講時期	前期	水曜 1・2	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

先端芸術表現科常勤教員が、順次、それぞれの活動の紹介と共に、その背景となっている思想、考え方、方法論などについて講義する。

■授業計画及び内容

[長谷部 浩]

舞台芸術において、現在、直面しているさまざまな問題について考えます。

第一回：「リアリズムと様式について」

第二回：「演出権とはなにか 歌舞伎をめぐる諸問題」

第三回：「批評の果たすべき役割とはなにか」

[八谷和彦]

美術、デザイン、エンジニアリング、それぞれの違いと、それを横断するような活動について考えていきます。

[日比野 克彦]

自分自身の現在進行中の作品・アートプロジェクトを中心にその成り立ち、背景について語る。また過去に於いて行ってきた活動に関して、今との繋がりを含め、時代と共に移り変わってきたアートの社会における役割を検証していく。

[佐藤 時啓]

美術の制度から、制度を越えた表現への展開について、その歴史性と意味合いを考え我々の表現をさぐる。

第一回：自作を中心に、2次元と3次元の間を往来する表現とともに、現実の社会空間における芸術行為について、その可能性を考える。

第二回：美術館、画廊から野外空間、パブリックスペースへのアートの展開、そして写真のありようとの交差点について。

第三回：写真を中心とした今日の表現について。

■受講に当たっての留意事項

先端芸術表現科必修科目。他科、大学院生の履修、飛び入り受講も歓迎する。

■成績評価方法

出欠席を重視する。単位認定にあたっては、授業日数の2/3以上を必要とする。

■教科書／参考書

教員により、授業中、適宜指示する。

■備考（オフィスアワー）

授業終了後、直接教員と連絡をとること。

授業科目名	IMA 概論 B (取手) Inter Media: General Introduction B			
教員名	伊藤 俊治、たほ りつこ、古川 聖			
開講時期	前期	木曜 1・2	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

先端芸術表現科常勤教員が、順次、それぞれの活動の紹介と共に、その背景となっている思想、考え方、方法論などについて講義する。

■授業計画及び内容

[古川 聖]

新しいメディアと音楽：

アートと科学技術との接点においてどのような表現、感性が開かれつつあるのか作品や実践例を見ていく。

現在の音楽のかたち：

今日我々は実に様々な音楽に接することができるが、それらの音楽を共時的、継時的に見ていった時に、創作者としての自分の立ち位置も見えてくるかもしれない。現在の音楽のありようと自分との関係、距離について話す。

[たほ りつこ]

地域における現代アートの始まりと展開の中から重要な概念を抽出しながら現代のアースワーク、環境芸術がもつ重要性和可能性を考察していく。

過去の作品や事例と共に作品の喚起力とリアリティ、現在の環境や状況における課題と芸術表現を具体的な実践の場を考える。

[伊藤 俊治]

アウトサイダーアートとプリミティブアートという2つの視点から20世紀、21世紀美術を再考する。

1. アウトサイダーアートの起源を求めて
2. プリミティブアートと民族学

■受講に当たっての留意事項

先端芸術表現科必修科目。他科、大学院生の履修、飛び入り受講も歓迎する。

■成績評価方法

出欠席を重視する。単位認定にあたっては、授業日数の2/3以上を必要とする。

■教科書／参考書

教員により、授業中、適宜指示する。

■備考（オフィスアワー）

授業終了後、直接教員と連絡をとること。

授業科目名	IMA 概論 C (取手) Inter Media: General Introduction C			
教員名	鈴木 理策、小谷 元彦、小沢 剛			
開講時期	後期	木曜 1・2	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

先端芸術表現科常勤教員が、順次、それぞれの活動の紹介と共に、その背景となっている思想、考え方、方法論などについて講義する。

■授業計画及び内容

[鈴木 理策]

写真と映画、写真と絵画、それぞれの境界線を意識して見ていくことで、写真とは何なのか、その魅力を考えて行きます。

[小谷 元彦]

彫刻というメディアに立脚点を置き、活動してきた経緯について。実制作の紹介とその背景。

「彫刻」メディアの遠心力・拡張と求心力・深部について。

■受講に当たっての留意事項

先端芸術表現科必修科目。他科、大学院生の履修、飛び入り受講も歓迎する。

■成績評価方法

出欠席を重視する。単位認定にあたっては、授業日数の2/3以上を必要とする。

■教科書／参考書

教員により、授業中、適宜指示する。

■備考（オフィスアワー）

授業終了後、直接教員と連絡をとること。

授業科目名	現代芸術概論 (取手) Introduction to Contemporary Art			
教員名	小沢 剛			
開講時期	通年	火曜 2	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

現代芸術は流動的でその中の領域それぞれの輪郭も柔らかい。そして次々と新しい作品や新しい考え方が生まれ続け変化は止まらない。芸術と観客の関係、見せる場所や流通のありようまでも常に更新されてゆく。それらを紹介しつつ、芸術の精神、根源を探ってゆきたい。

■授業計画及び内容

【前期】ほぼ毎回、様々なジャンルで活躍するゲストを迎え、それぞれジャンルの門を開けてゆく。

【後期】自主研究、発表、編集。

このほか通年、指定する展覧会、講演会、舞台に行き、レポートを提出する。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

出席率。自主研究、レポートの評価。

■教科書／参考書

授業中に適宜指示

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	アートプロジェクト運営論 Theory of Art project management		
教員名	伊藤 達矢		
開講時期	集中	単位	2
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生		
特記事項			

■授業テーマ

東京都美術館と東京藝術大学でおこなわれている「アートコミュニティー形成事業」（とびらプロジェクト）を授業の題材として取り上げる。

地域やアーティストが主体となって行われるアートプロジェクトの運営方法やその目的などについて理解を深め、オルタナティブスペースにおける展覧会開催に必要な知識を身につける。

また、表現行為そのものが一つの活動体として社会に接点を持つことを試みた様々な事例を紹介し、考察することで、アートの社会的役割についても見識を深める。

少人数で対話を通しながら授業を進めていきたいと考えています。具体的なプロジェクトの運営に携わっている学生については、活動の相談などにも乗ります。

■授業計画及び内容

アーティストが新しい表現の場と形を求めて地域社会を舞台に活動を展開している。

この授業ではこうしたアーティストの活動やその意味、またはそれを支える仕組みに焦点を当てる。

東京都美術館 × 東京芸術大学「とびらプロジェクト」との連携をはかり、美術館見学なども視野に入れる。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

出席点とレポートの総合評価でおこなう。

■教科書／参考書

授業内で指示。

■備考（オフィスアワー）

[mail]t-ito@tobira-project.info[/mail]

質問等については上記アドレスで受け付ける。

授業科目名	プレゼンテーション演習（取手） Presentation workshop		
教員名	八谷 和彦		
開講時期	後期	水曜 1・2	単位 4
履修対象	学部生・大学院生 (映像研究科生も受講可能)		
特記事項			

■授業テーマ

プレゼンテーションの基礎と手法について講義と演習を通して学ぶ。

[授業計画及び内容]

コンピュータによるプレゼンテーション、手描きによるプレゼンテーションなどを実施し、個人の制作活動とリンクしたプレゼンテーション能力を身につけることを目標とします。

演習授業なので、期間中最低2回は、全員の前で発表する機会を設けます。

(コンピュータを使った演習では、Keynote もしくは PowerPoint を使います。

それらの操作に習熟している必要はありませんが、基本的なコンピュータの操作は修得しているほうが望ましいです)

■授業計画及び内容

コンピュータによるプレゼンテーション、スケッチブックによるプレゼンテーションなどを実施し、個人の制作活動とリンクしたプレゼンテーション能力を身につけることを目標とします。

演習授業なので、期間中2回、全員の前で発表する機会を設けます。

(コンピュータを使った演習では、Keynote もしくは PowerPoint を使います。

それらの操作に習熟している必要はありませんが、基本的なコンピュータの操作は修得しているほうが望ましいです)

■受講に当たっての留意事項

履修希望者多数の場合、抽選となる場合があります。

■成績評価方法

授業期間中、各人最低2回はプレゼンテーションの機会を設けます。その2回のプレゼンテーションの実施を採点上最も重視します。

また、出席および他者のプレゼンテーションへの質問なども評価します。

(プレゼンテーションの内容もちろん評価しますが、誠実に取り組むかどうかを重点的に見ます。)

■教科書／参考書

授業の中で適宜紹介します。

■備考（オフィスアワー）

[mail]hachiya@petworks.co.jp[/mail]

授業の後に質問に来てもらってもかまいません。

授業科目名	工芸制作論（取手） Theory of Craft production			
教員名	工芸基礎担当教員			
開講時期	通年	火曜 2	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項	工芸科1年必修			

■授業テーマ

工芸を制作の現場より考察する。各教員が自己の創作を通して工芸の本質を語る。

■授業計画及び内容

前期

- 第1回 ガイダンス 漆芸（1）
- 第2回 鍛金（1）
- 第3回 彫金（1）
- 第4回 鋳金（1）
- 第5回 漆芸（1）
- 第6回 染織（1）
- 第7回 木工芸（1）
- 第8回 ガラス造形（1）
- 第9回 彫金（2）
- 第10回 鍛金（2）
- 第11回 鋳金（2）
- 第12回 漆芸（2）
- 第13回 陶芸（2）
- 第14回 染織（2）
- 第15回 まとめ

後期

- 第16回 工芸基礎（1）
- 第17回 彫金（3）
- 第18回 鍛金（3）
- 第19回 鋳金（3）
- 第20回 漆芸（3）
- 第21回 陶芸（3）
- 第22回 染織（3）
- 第23回 木工芸（2）
- 第24回 ガラス造形（2）
- 第25回 工芸基礎（2）
- 第26回 工芸基礎（3）
- 第27回 工芸基礎（4）
- 第28回 まとめ
- 第29回 まとめ
- 第30回 まとめ・レポート

■受講に当たっての留意事項

単位認定にあたっては出席を重視する。

■成績評価方法

出席とレポートによる総合評価。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

質問等は取手校地工芸合同教員室213B（工芸基礎教員室）にて受け付ける。TEL 050-5525-2575

授業科目名	素材表現演習Ⅰ（金工）（取手） Seminar of expressions with materials(Metal working)			
教員名	篠原 行雄、坂本 至、田中 航			
開講時期	前期	木曜 1・2	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

作品制作を通じて金属加工についての基礎知識と、造形表現を行うための総合的な技術と感覚を養うことを目標とする。授業内容は、各種金属の特性や材料の製造規格等の説明から、実作業を通しての「切断・折り曲げ・接合（溶接・溶断含む）」等の基礎的金属加工技術の習得。素材としての可能性を探りながらのテーマに沿った作品制作。

■授業計画及び内容

○金属、加工概論

- ・概要
- ・金属素材について
 - ・種類
 - ・特性
 - ・規格
- ・金属加工法について
 - ・切断
 - ・折り曲げ
 - ・電気溶接／溶断
 基本となる加工法の説明
- ・その他
 - 仕上げ処理等の説明

○実材実習

- ・基本加工実習
- ・課題制作

- 第1週 ガイダンス、工具取扱い説明、及び安全講習会
- 第2週 基本加工実習、材料切り出し、テストピース制作開始
- 第3週 ↓
- 第4週 制作プラン検討、ラフスケッチチェック
- 第5週 制作
- 第6週 ↓
- 第7週 ↓
- 第8週 ↓
- 第9週 ↓
- 第10週 ↓（最終仕上げの検討、金属表面仕上げ処理等説明）
- 第11週 ↓
- 第12週 ↓
- 第13週 ↓（仕上げ加工段階）
- 第14週 組み立て、仕上げ加工
- 第15週 講評（作品プレゼンテーション及びディスカッション）

■受講に当たっての留意事項

実習費が必要。受講者数10名。第1回目授業では、ガイダンス及び安全講習を行うので、必ず出席すること。また無断欠席・遅刻等は厳禁。授業詳細等は履修登録期間中に対応します。

■成績評価方法

出席、平常の学習評価、提出作品の評価。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

月～金 13時～17時 取手校地・共通工房棟2F / 金工工房・金工機械室まで（内線7401・外線050-5525-2632）

授業科目名	素材表現演習Ⅱ（铸造）（取手） Seminar of expressions with materials (Modeling&MetalCasting)			
教員名	橋本 明夫、見目 未果、小椋 聡子			
開講時期	前期	水曜 1・2	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

铸造により金属に置換された各自の思考や感覚またその表象等を照合する事で、表現における素材の意味や作品制作時の認識等について再考察を試みる。

授業の形態としては、各々の表現意図及び製作条件等を考慮した上での原形制作と铸型製作及び金属の溶解と铸造、更に仕上げ加工等の実作業を通じた作品制作を行う。

■授業計画及び内容

○铸造概論

- ・概要
- ・铸造技法について
- ・铸型材料について
- ・金属素材について
- ・その他

○実習

「铸造（铸物）を表現手段に用いた作品制作」

- ・石膏等による原形の制作法
- ・生砂による铸型製作技法
- ・銅合金の溶解と铸造作業
- ・铸物の仕上げ加工と表面処理法

○作品素材

- ・青銅、黄銅、等

第1週	ガイダンス、铸造概論、铸造法実演
第2週	テスト铸造（素材の観察と製作法の体験）
第3週	↓
第4週	制作プランの検討（エスキース）
第5週	制作プランの決定（レンダリング）
第6週	原形制作
第7週	↓
第8週	↓
第9週	铸型製作、铸造
第10週	↓
第11週	↓
第12週	仕上げ加工、表面処理
第13週	↓
第14週	提示方法等の検討
第15週	プレゼンテーション／講評

（休日や学事暦等により授業日程に変更有り）

■受講に当たっての留意事項

実習費が必要である。受講者10名程度とする。

■成績評価方法

平常の学習評価と提出作品の評価。

■教科書／参考書

資料及び参考書籍等がある場合は実習時に適宜配布、又は提示する。

■備考（オフィスアワー）

月～金曜日 9:30～16:40 取手校地共通工房 金工工房・铸造室 内線（取手校地）7404 外線 050-5525-2635

授業科目名	素材表現演習Ⅲ（七宝）（取手） Seminar of expressions with materials (Metal enameling)			
教員名	前田 宏智、井上 菜恵子、前田 恭兵			
開講時期	前期	月曜 1・2	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

七宝素材（金属にガラス粉を焼き付けること）による実習を通じ、基礎知識、各種技法の習得・色彩造形を体験・探求する。

■授業計画及び内容

○七宝技法概論

- ・概要
- ・胎について（種類、加工方法）
- ・釉薬について（種類、色の合わせ方）
- ・各種技法について（種類、工程）
- ・作品の実際（スライド等）
- ・その他

○実材実習

「七宝技法による平面作品の制作」

- ・与えられた材料を使用し、有線七宝技法による平面作品を制作。テーマ等は自由。

材料 純銅板（約150×100mm）、七宝釉薬、銀線

第1週	ガイダンス、七宝技法概論
第2週	エスキースチェック、素地作り、下地焼成
第3週	銀線植線
第4週	〃
第5週	〃 焼成
第6週	釉薬施釉
第7週	〃
第8週	〃 焼成
第9週	釉薬施釉
第10週	〃 焼成
第11週	釉薬施釉
第12週	〃 焼成
第13週	研磨
第14週	〃
第15週	仕上げ、終了、講評

（休日や学事暦等により授業日程に変更あり）

■受講に当たっての留意事項

実習費が必要である。受講者13名とする。

■成績評価方法

平常の学習評価と提出作品の評価。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

月～金曜日 10:00～17:00 取手校地共通工房 金工工房金属表面処理室 内 7405（上野からかける時は）# 9 2636 外線 050-5525-2636

授業科目名	素材表現演習Ⅳ（木材）（取手） Seminar of expressions with materials(Wood Working)			
教員名	菌部 秀徳、藤原 洋人、滝澤 水瑠			
開講時期	前期	水曜 1・2	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

与えられた木材を出発点とし、素材的、工作的特性を理解しながら、それぞれ自由に木材造形作品を制作する。様々な工程を通して、木材の性質、技術の意味、作品表現について認識を深めることを目的とする。

■授業計画及び内容

○木材加工概論

- ・材料について
- ・工具・道具について
- ・機械について

○実材実習

- ・刃物研磨技法
- ・木材切削技法
- ・鋸挽き技法
- ・彫刀技法
- ・仕上げ技法

- 第1週 ガイダンス スライドレクチャー
 第2週 安全講習 材料の選択 モデルエスキース
 第3週 モデルエスキース（図面チェック）
 第4週 制作
 第5週 〃
 第6週 〃
 第7週 〃
 第8週 中間エスキース
 第9週 制作
 第10週 〃
 第11週 〃
 第12週 〃
 第13週 〃
 第14週 〃
 第15週 清掃ののち講評

■受講に当たっての留意事項

実習のため別途材料費が必要となります。受講者数は10名とします。なお、詳細に関しては、履修登録期間中のガイダンス及びオフィスアワーに指示します。

■成績評価方法

平常の学習評価と提出作品の評価。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

月～金（10：00～12：00）取手校地共通工房 木材造形工房 内線7406 外線050-5525-2637

授業科目名	素材表現演習Ⅴ（塗装）（取手） Seminar of expressions with materials(URUSHI technique)			
教員名	小椋 範彦、青木 伸介、玉川 みほの			
開講時期	前期	月曜 1・2	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

天然の素材である漆の基本的な知識・性質・扱い方・技法を学ぶ。色彩、質感の表現を研究、模索し、平面作品として完成させる。

■授業計画及び内容

○漆芸技法概論

- ・概要
- ・漆について（特性、取り扱い方）
- ・加飾について（技法・工程）
- ・その他

○実材実習

- 「漆芸法による平面作品の制作」
 ・平面（漆塗り板）に研出し蒔絵、螺鈿、卵殻などの技法で自由に表現する。

○材料

漆塗り板、漆、顔料、漆芸素材、その他

- 第1週 ガイダンス、漆芸技法概論、課題説明
 第2週 色漆作り、エスキースチェック
 第3週 下絵作り
 第4週 漆塗面研ぎ、下絵写し
 第5週 下地作り
 第6週 各自デザインに合わせ制作
 第7週 蒔絵、螺鈿、卵殻など
 第8週 ↓
 第9週 ↓
 第10週 ↓
 第11週 ↓
 第12週 ↓
 第13週 ↓
 第14週 磨き、仕上げ
 第15週 清掃、講評

■受講に当たっての留意事項

実習費が必要である。受講者10名とする。

■成績評価方法

平常の学習評価と提出作品の評価。

■教科書／参考書

漆の知識に関するレジュメを配布

■備考（オフィスアワー）

月～金曜日 10：00～17：00 取手校地共通工房 塗装造形工房
 内7408 外線050-5525-2639

授業科目名	素材表現演習Ⅵ（石材）（取手） Seminar of expressions with materials (Stone working)			
教員名	工藤 晴也、武田 充生、三矢直矢			
開講時期	前期	水曜 1・2	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

石材に関わる加工技術の習得と各自のエスキースに基づいた小品の制作。

■授業計画及び内容

○石材基礎概論

- ・石の種類について
- ・石の性質について
- ・道具と加工技術について
- ・大型機械の説明

○石材実習

- ・各自のエスキースに基づいた制作
- ・原石の割り方
- ・電動・エア工具による石材加工方法

※ 作品完成後、作品の撮影を行い、ファイルの制作までを課題とする。

第1週	ガイダンス・講義
第2週	大型機械安全講習
第3週	電動・エア工具安全講習
第4週	エスキースの制作と材料の選択
第5週	エスキースに基づいた制作
第6週	↓
第7週	↓
第8週	↓
第9週	↓
第10週	↓ 中間講評
第11週	↓
第12週	↓
第13週	講評

■受講に当たっての留意事項

実習費が必要である。受講者12名とする。

■成績評価方法

平常の学習評価と提出作品の評価。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

月～金曜日 13:30～17:00 取手校地共通工房 石材工房 内 7409 外線 050-5525-2640

授業科目名	ガラス工芸演習（取手） Exercise of P_te de verre			
教員名	藤原 信幸、海藤 博、榎本 夏帆			
開講時期	前期	水曜 1・2	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

ガラスの成形技法の一つであるパート・ド・ベールの演習を行う。パート・ド・ベールとは粉末や粒状のガラスを耐熱石膏の鋳型に詰め、電気炉の中で加熱溶解して成形し、徐冷後、石膏型から取り出して仕上げる方法である。これに附随して必要な「ガラスの歴史概要」「ガラスの製法」等について講義する。

■授業計画及び内容

前期

第1週 オリエンテーションの授業を行うため、できるだけ参加すること。

自己紹介、この授業で制作したい作品のイメージをプレゼンテーションしてもらう。

パート・ド・ベールの技法工程説明

ガラスについての概要

第2週 実材実習

課題に沿ったエスキース（着彩）

色サンプルよう型作りー石膏の扱い方

第3週 エスキースに基づく制作

↓

第12週

第13週 プレゼンテーション／講評 レポート提出

■受講に当たっての留意事項

- ・実習費が必要。受講者10名。無断欠席不可。
- ・工芸基礎1年の実習室を使用させていただくため、実習後は清掃すること。

■成績評価方法

平常の学習評価及び提出作品、レポートの評価。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

月～金曜日 14:00～16:00 ガラス造形教員室 内 7355 外線 050-5525-2578

授業科目名	ステンドグラス実習（取手） Practice in Stained-Glass			
教員名	鶴身 美友、中野 竜志			
開講時期	前期	木曜 1・2	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

- *ステンドグラス古典技法の修得
- *建築空間と光による表現について

■授業計画及び内容

○ステンドグラス技法概論

- ・ステンドグラスの定義
- ・ステンドグラスの歴史
- ・建築様式との関わりについて
- ・アンティークガラスの素材と製法
参考映像 DVD「サンジェスト・ガラス工場」
- ・制作に使用する道具について
- ・制作工程説明

○ステンドグラス制作

- ・原画選定（12世紀～15世紀の作品資料より）
- ・ガラスのカット方法説明
- ・焼絵付け技法の修得
線描き：グリザイユ（酢溶き）
調子付け：グリザイユ（水溶き）
部分着色：シルバーステイン
- ・焼成窯使用説明
- ・鉛栈による組立工程、半田付け、パテ詰め、磨き、完成に至る一連の作業。
- ・ステンドグラスによる光と空間を考察する。
- ・現代建築における表現の可能性について考察する。

第1週 ガイダンス、スライドレクチャー

第2週 原画選定、トレース、型紙作成

第3週 ガラス切り開始

第4週 ガラス切り終了

第5週 グリザイユ線描き

第6週 グリザイユ線描き焼成

第7週 窯出し、グリザイユ調子付け

第8週 グリザイユ調子付け焼成

第9週 窯出し、シルバーステイン焼成

第10週 窯出し、鉛栈組み作業開始

第11週 鉛栈組み作業

第12週 鉛栈組み作業終了

第13週 半田付け、パテ詰め

第14週 磨き、仕上げ

第15週 講評

■受講に当たっての留意事項

教材費が必要である。（約一万円。後日掲示します。）受講者は12名とする。
希望者が12名を超えた場合は抽選とします。

■成績評価方法

平常の学習評価と提出作品の評価。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

（月）～（金） 9：30～17：00 取手校地 壁画研究室

専門基礎科目（芸術情報センター）

授業科目名	芸術情報概論 A Introduction to Information Art A			
教員名	荻宿 俊文、矢代 友梨子、菊地 奈緒美			
開講時期	前期	金曜 5	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項	A, B いずれか1つを履修			

■授業テーマ

本授業のテーマは、芸術による教育、学校教育の芸術科目、情報としてのメディア表現の3つの重なり部分に現在の教育実践の課題を打開する糸口があるのではないかという仮説の共有である。打開すべき課題としては「思考停止社会」で起こっている学習からの逃走を挙げたい。そして、その打開策こそが芸術系科目に埋め込まれているコミュニティ形成につながる表現と対話としている。受講生は、「まなびを学ぶ」というコンセプトでデザインされた「体験－モニター省察－理論の意味づけ」の授業を通して、自らが学ぶべき「学び方」を経験してもらいたい。

授業の具体はメディア表現をグループワークで「体験」すること。「体験」したことを意味と仕組みをグループワークで「省察」すること。体験や省察での生成される事柄を教育的な視点で「意味づけ」をすること。の3つを3回繰り返してもらおう。

■授業計画及び内容

- 1、この講座の学び方
- 2、教養としての教育学－近代の学校とこれからの学校
- 3、「体験1」グループワークでメディア表現に取り組む。
- 4、「省察1」メディア表現の体験から見いだせることをグループワークで省察する。
- 5、「意味づけ1」体験－省察の関係をショーンの省察的实践として解説する。
- 6、「体験2」グループワークでメディア表現に取り組む。
- 7、「省察2」メディア表現の体験から見いだせることをグループワークで省察する。
- 8、「意味づけ2」ガーゲンの社会構成主義を通して相互作用を解説する。
- 9、「交流」リアルコミュニケーションツールを利用して受講生同士のコミュニケーションを深める。
- 10、「体験3」グループワークでメディア表現に取り組む。
- 11、「省察3」メディア表現の体験から見いだせることをグループワークで省察する。
- 12、「意味づけ3」体験－省察の関係をショーンの省察的实践として解説する。
- 13、この講座を学んだ自分を俯瞰する1
- 14、この講座を学んだ自分を俯瞰する2
- 15、この講座の振り返り

■受講に当たっての留意事項

*ワークショップ形式の授業のため履修者の定員を50名とする(履修登録に際して、芸術情報センターHP等で連絡を行うことがあるので、随時確認のこと)。

前向きな姿勢と批判的な姿勢のバランスを考えていくことを可能なら求めていきたい。

■成績評価方法

レポート、講義やグループワークへの貢献など総合的に評価する。

■教科書／参考書

下記以外の参考図書は授業で適宜紹介する
 荻宿俊文他編著『まなびほぐしのデザイン』(ワークショップと学び3) 東大出版会、2012年
 N. ベーリー『キッズ・サバイバル 生き残る子供たちの「アートプロジェクト」』フィルムアート社、2001年
 矢野智司『贈与と交換の教育学 漱石、賢治と純粹贈与のレッスン』東大出版会、2008年
 佐藤学他『子どもの想像力を育む アート教育の思想と実践』東大出版会、2003年

■備考 (オフィスアワー)

授業科目名	芸術情報概論 B Introduction to Information Art B			
教員名	荻宿 俊文、矢代 友梨子、中尾根 美沙子			
開講時期	後期	金曜 5	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項	A, B いずれか1つを履修			

■授業テーマ

本授業のテーマは、芸術による教育、学校教育の芸術科目、情報としてのメディア表現の3つの重なり部分に現在の教育実践の課題を打開する糸口があるのではないかという仮説の共有である。打開すべき課題としては「思考停止社会」で起こっている学習からの逃走を挙げたい。そして、その打開策こそが芸術系科目に埋め込まれているコミュニティ形成につながる表現と対話としている。受講生は、「まなびを学ぶ」というコンセプトでデザインされた「体験－モニター省察－理論の意味づけ」の授業を通して、自らが学ぶべき「学び方」を経験してもらいたい。

授業の具体はメディア表現をグループワークで「体験」すること。「体験」したことを意味と仕組みをグループワークで「省察」すること。体験や省察での生成される事柄を教育的な視点で「意味づけ」をすること。の3つを3回繰り返してもらおう。

■授業計画及び内容

- 1、この講座の学び方
- 2、教養としての教育学－近代の学校とこれからの学校
- 3、「体験1」グループワークでメディア表現に取り組む。
- 4、「省察1」メディア表現の体験から見いだせることをグループワークで省察する。
- 5、「意味づけ1」体験－省察の関係をショーンの省察的实践として解説する。
- 6、「体験2」グループワークでメディア表現に取り組む。
- 7、「省察2」メディア表現の体験から見いだせることをグループワークで省察する。
- 8、「意味づけ2」ガーゲンの社会構成主義を通して相互作用を解説する。
- 9、「交流」リアルコミュニケーションツールを利用して受講生同士のコミュニケーションを深める。
- 10、「体験3」グループワークでメディア表現に取り組む。
- 11、「省察3」メディア表現の体験から見いだせることをグループワークで省察する。
- 12、「意味づけ3」体験－省察の関係をショーンの省察的实践として解説する。
- 13、この講座を学んだ自分を俯瞰する1
- 14、この講座を学んだ自分を俯瞰する2
- 15、この講座の振り返り

■受講に当たっての留意事項

*ワークショップ形式の授業のため履修者の定員を50名とする(履修登録に際して、芸術情報センターHP等で連絡を行うことがあるので、随時確認のこと)。

前向きな姿勢と批判的な姿勢のバランスを考えていくことを可能なら求めていきたい。

■成績評価方法

レポート、講義やグループワークへの貢献など総合的に評価する。

■教科書／参考書

下記以外の参考図書は授業で適宜紹介する
 荻宿俊文他編著『まなびほぐしのデザイン』(ワークショップと学び3) 東大出版会、2012年
 N. ベーリー『キッズ・サバイバル 生き残る子供たちの「アートプロジェクト」』フィルムアート社、2001年
 矢野智司『贈与と交換の教育学 漱石、賢治と純粹贈与のレッスン』東大出版会、2008年
 佐藤学他『子どもの想像力を育む アート教育の思想と実践』東大出版会、2003年

■備考 (オフィスアワー)

授業科目名	CAD 図法演習 I Computer Aided Design Drawing I			
教員名	永田 康祐			
開講時期	前期	金曜 4	単位	2
履修対象	学部生・大学院生 (建築科 1 年必修)			
特記事項				

■授業テーマ

本講義の目的は、3次元モデリングソフト Rhinoceros の基本的なオペレーションに習熟し、コンピュータを用いたデザインプロセス及び思考方法を学習することです。モデリングソフトの基本機能を駆使し、デジタルな作業環境を用いた設計から制作までのプロセスを学びつつ、後半ではプログラミングを用いた発展的な機能拡張への導入も行います。

■授業計画及び内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：基本操作
- 第3回：モデリング基礎
- 第4回：モデリング基礎
- 第5回：モデリング基礎
- 第6回：3Dプリンタを用いた制作
- 第7回：レーザーカッターを用いた制作
- 第8回：講評
- 第9回：拡張機能によるモデリング自動化
- 第10回：拡張機能によるモデリング自動化
- 第11回：アルゴリズムによる造形
- 第12回：アルゴリズムによる造形
- 第13回：課題制作及びエスキス
- 第14回：課題制作及びエスキス
- 第15回：講評

■受講に当たっての留意事項

*建築学科必修科目であり、定員を超えた場合、建築学科の学生を優先的に履修させます。

本講義は、3Dモデリングの初学者を対象としているので、モデリングやプログラミングの基礎知識は必要ありません。コンピュータの基本操作は習得済みである前提で授業を行います。必要な場合は随時フォローアップも行います。

■成績評価方法

出席と提出課題によって評価する。

■教科書／参考書

Siteless: 1001 Building Forms / Francois Blanciak 著
Operative Design: A Catalog of Spatial Verbs / Anthony Di Mari, Nora Yoo 著
Rhinoceros + Grasshopper 建築デザイン実践ハンドブック / ノイズアーキテクト著

■備考 (オフィスアワー)

授業科目名	CAD 図法演習 II Computer Aided Design Drawing II			
教員名	豊田 啓介、大野 友資			
開講時期	後期	金曜 4	単位	2
履修対象	学部生・大学院生 (建築科 1 年必修)			
特記事項				

■授業テーマ

CAD 図法演習 II では、Rhinoceros と Grasshopper を基本ソフトウェアとして、建築設計における実践的なモデリング手法や、それらをプラットフォームとした最新の応用的なデジタルデザイン手法を学ぶ。

■授業計画及び内容

- 第1回：総論：デジタルデザイン・ファブリケーション概論、授業概要
- 第2回：ライノセラス復習：ライノの基本操作確認、モデリング演習
- 第3回：グラスホッパー①：グラスホッパーの基本操作 (グラスホッパーの動かし方)
- 第4回：グラスホッパー②：グラスホッパーの基本操作 (グラスホッパーを使ったモデリング)
- 第5回：課題①：授業内で演習
- 第6回：グラスホッパー③：グラスホッパーの基本操作 (データの取扱い)
- 第7回：グラスホッパー④：グラスホッパーの基本操作 (データツリー 1)
- 第8回：グラスホッパー⑤：グラスホッパーの応用操作 (データツリー 2)
- 第9回：グラスホッパー⑥：グラスホッパーの応用操作 (パラメトリックデザイン)
- 第10回：課題②-1：授業内で演習、宿題
- 第11回：課題②-2：宿題提出、講評
- 第12回：グラスホッパー⑦：グラスホッパーの応用操作 (プラグイン等)
- 第13回：課題③-1：グループ課題発表／グループ登録、ライノを使ったダイアグラムの作り方
- 第14回：課題③-2：授業内で演習、エスキス
- 第15回：課題③-3：グループ課題講評

■受講に当たっての留意事項

*建築学科必修科目であり、定員を超えた場合、建築学科の学生を優先的に履修させます。

アプリケーションを習得するにあたり、講義時間以外にも演習課題に取り組める時間的余裕を考慮することが望ましい

■成績評価方法

出席および設計製作演習での成果

■教科書／参考書

ノイズアーキテクト著『Rhinoceros + Grasshopper 建築デザイン実践ハンドブック』彰国社、2011年
*コマンドなどを詳しく説明する時間がないので、授業には必ず持ってくる。

■備考 (オフィスアワー)

授業科目名	芸術情報演習 (デザイン) Seminar in Information Art			
教員名	小川 裕子、田所 淳			
開講時期	通年	木曜 4	単位	4
履修対象	学部生 (デザイン科 2年必修)			
特記事項				

■授業テーマ

(DTP) 小川裕子

DTP (Desktop Publishing) の基礎的な技術と知識を習得する授業です。印刷物を制作するには DTP ソフトの習得だけでなく、文字組、画像加工、入稿データの作成方法など印刷に関する知識が必要となります。この授業では、印刷物の制作を通して DTP に必要な一連の基礎的な知識の習得を目的とします。DTP の現場で主に使用されている Adobe Illustrator, Photoshop を使って授業を行います。前半に DTP の基礎を習得し、後半はその応用としての制作になります。

(WEB) 田所淳

HTML と CSS で作る、Web サイト制作の基礎。

HTML (= Hyper Text Markup Language) は、Web の文書の構造を記述するための言語です。また、CSS (Cascading Style Sheet) は HTML で構造化した文書の体裁やデザインを記述するための方式です。この授業はこの 2 つの仕組みを駆使して、Web サイトをデザインするための基礎技術の習得を目的とします。

HTML と CSS は、現在も様々な機能を取り入れながら進化しています。この授業では、HTML と CSS の基礎を押さえながら、今後の標準となっていくと思われる最新の機能 (HTML5 や CSS3) も紹介しながら、表面的な見た目だけの Web デザインではなく、その構造を深く理解した上で Web サイトを制作できるようになることを目標にしていきます。

講義の前半で、まず HTML と CSS について技術的な内容を理解します。後半は、Tumblr というマイクロブログサービスを使用して、オンラインポートフォリオを制作し、公開します。

■授業計画及び内容

(DTP)

第 1 回：印刷物の制作行程 / DTP の基礎知識

第 2 回：画像加工

第 3 回：画像加工

第 4 回：文字組

第 5 回：文字組

第 6 回：地図制作 (作図)

第 7 回：地図制作 (作図)

第 8 回：グリッドシステムについて

第 9 回：入稿データの作り方

第 10 回：制作物の企画 / ラフスケッチ

第 11 回：制作 (1)

第 12 回：制作 (2)

第 13 回：制作 (3)

第 14 回：制作 ((出力 / 校正) / 入稿データ作成)

第 15 回：課題提出

(WEB)

* ガイダンス、Web 概論

* HTML (1) : HTML とは何か、HTML の基本構造、段落、見出し

* HTML (2) : ハイパーリンク、インライン画像

* HTML (3) : リスト、テーブル、引用

* CSS (1) : CSS 入門

* CSS (2) : セレクタ詳細、ボックスモデル

* CSS (3) : CSS レイアウト、CSS によるデザイン実践

* 中間課題講評会 : 自己紹介のページを HTML と CSS でつくる

* Tumblr 入門 : Tumblr とは何か?

* 実践 : Tumblr でオンライン・ポートフォリオを作るプロジェクト企画と設計

* 実践 : Tumblr でオンライン・ポートフォリオを作るワイヤーフレームの制作、更新計画の策定

* 実践 : Tumblr でオンライン・ポートフォリオを作る Web サービスを利用、様々なメディアを扱う

* 実践 : Tumblr でオンライン・ポートフォリオを作るソーシャルメディアとの連携、ソーシャルグラフ

* 実践 : サイト制作実習

* 最終講評会

■受講に当たっての留意事項

本講義は美術学部デザイン科学部 2 年生を対象とした必修授業です。

Mac の基本操作 (マウスの操作、文字の入力、ファイルやフォルダの操作) は理解している前提で授業を行います。

■成績評価方法

出席数、履修態度、課題提出 (中間課題・最終課題) の内容を総合的に評価します。

■教科書 / 参考書

(DTP)

授業中に配布する資料

* 推薦図書などは授業中に紹介します

(Web)

授業資料は Web サイト (<http://yoppa.org/>) に掲載します。

参考図書 :

* 「Web デザインメソッド」矢野りん、ワークスコーポレーション

* 「IA100- ユーザエクスペリエンスデザインのための情報アーキテクチャ設計」長谷川敦士、ビー・エヌ・エヌ新社

* 「Designing Tumblr デザイニング・タンブラー」古屋 蔵人、高岡 謙太郎、ビー・エヌ・エヌ新社

■備考 (オフィスアワー)

(DTP)

質問等はメールでも受け付けます。

ogawa.hiroko@noc.geidai.ac.jp

授業科目名	芸術と情報 Art and Media			
教員名	桐山 孝司			
開講時期	後期	水曜 3	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

芸術と情報のかかわりについて、作品についてだけでなく創作活動を支える情報技術や思考という面での理論化について解説する。またこれから芸術活動を行っていくために、芸術のためのアーカイブの維持構築などの活動を知るとともに、現代の社会基盤を動かしている情報技術を意識して目に見えない部分にも問題意識を持つ。併せて情報について理解を深めるためのワークショップを行う。

■授業計画及び内容

芸術と情報入門 (1) インTRODクシヨン
 芸術と情報入門 (2) 創作活動を支える情報技術
 芸術と情報入門 (3) モノづくりの思考、特にエンジニアはどこを見ているか
 芸術と情報入門 (4) 芸術の歴史と情報の関係：対話
 ワークショップ (1) 砂と数理曲線：モノが作り出す情報
 現代社会と情報 (1) インフラストラクチャ：カメラ、センサ、認識
 ワークショップ (2) データの視覚化：情報から発見する
 現代社会と情報 (2) インタフェース
 ワークショップ (3) エンコーディング：モノと情報のマッピング
 現代社会と情報 (3) モノを扱う情報システム：見学
 ワークショップ (4) 暗号解読：情報から推測する仮説思考
 現代社会と情報 (4) 論理的思考の美しさ：公開鍵暗号を例に
 芸術情報の利用 (1) 芸術情報のアーカイブ：見学
 芸術情報の利用 (2) 芸術情報のオーガナイズ：対話
 芸術と情報 (最終回) まとめ

■受講に当たっての留意事項

授業の進捗状況等により授業計画及び内容は変更することがある。

■成績評価方法

出席数、履修態度、課題提出の内容を総合的に評価する。

■教科書／参考書

教科書、参考書は適宜、配布ないし指定する。

■備考 (オフィスアワー)

授業科目名	情報メディア学 Information and Media			
教員名	桂 英史			
開講時期	前期	水曜 3	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

メディアとは何か。それを考えるために Twitter や Facebook といったソーシャルメディアは必要ない。「本とは何か」を考えることから始めよう。なぜ本を考えるか。この 500 年余りで最強のメディアであり、未だに言論やコミュニケーションの基礎となっているからだ。もちろん歴史的には本はさまざまな芸術の発生源となってきた。情報メディアとしての本はどのように市場や学問を形成し、芸術や文化を支えてきたのか。さらに近代社会がどのように複製技術と寄り添いながら成熟してきたか。それらの問いを検証しながら、情報メディアとしてのコンピュータやインターネットについて考察する。最終的には、アート、テクノロジー、アーバンイズムという 3 つのコンテキストがメディア表現の必要条件であることを理解しよう。

■授業計画及び内容

1. はじめに：メディアはどう語られるべきか
2. 本は読む物ではない：メディアとしての本
3. 本はどうして人間に影響を与えてきたのか：本の存在感
4. 印刷というテクノロジー：印刷革命がもたらしたもの
5. 誰が挿絵を描いたのか：エイク兄弟・ティツィアーノ・デューラー
6. 楽譜と図面：建築と音楽が必要としたドキュメント (資料)
7. イザベラ・デステの部屋：グロッタ・スタジオオーロ・ヴンダーカマー
8. 権威の誕生：著者と芸術家
9. 人間機械論としての複製技術：写真の誕生と近代社会
10. イメージは物理か心理か：アニメーション・映画・動画
11. 世界というインデックス：ムンダニウムとル・コルビュジェ
12. 知の森羅万象：ヴァネーバー・ブッシュとマンハッタン計画
13. ダイナブックの意味論：アラン・ケイのコミュニケーション論
14. ハックとナード：「メディアの破壊工作」という表現
15. 端末市民のゆくえ：距離と時間を改良し世界を構想する表現者であれ

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

出席とレポートの総合評価

■教科書／参考書

桂英史『メディア論的思考』(青弓社・1995年)
 桂英史『新版 インタラクティブ・マインド』(NTT出版・2002年)

■備考 (オフィスアワー)

授業後に時間を設ける予定

授業科目名	情報編集 (WEB) Web Design			
教員名	田所 淳			
開講時期	前期	金曜 3	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

Webの技術を駆使して、情報を表現し発信する。
現在、情報を伝達するための手段として Web は欠かすことのできないメディアとなっています。しかし、Web は単純な情報の伝達手段を越えた表現のためのメディアとしての大きな可能性を秘めています。Web ブラウザの進化、Web に関連する様々なテクノロジーの進歩によって、Web を用いた表現の幅は日々拡張されています。この授業では、Web を表現のためのメディアと捉え、様々な技術を学びながらその可能性を探っていきます。最終的に自分自身で Web を用いて表現し発信できることを目標とします。

■授業計画及び内容

- * オリエンテーション : HTML5 とは? Web をめぐるここ数年の状況
- * HTML、CSS の基礎についての確認
- * HTML5 : 文書の構造化のための新要素
- * CSS 3 : CSS3 による Web デザイン 1
- * jQuery (1) : jQuery とは、簡単なアニメーションを作成
- * jQuery (2) : jQuery のプラグインの活用
- * jQuery (3) : フォトギャラリーを作る
- * Processing.js (1) : 基本操作と、基本図形の描画
- * Processing.js (2) : アニメーション 1 基本
- * Processing.js (3) : アニメーション 2 配列、条件分岐
- * Processing.js (4) : アニメーション 3 アルゴリズムによる動き
- * ビジュアライゼーション (1) : データビジュアライゼーションとは
- * ビジュアライゼーション (2) : データを描画する
- * ビジュアライゼーション (3) : データで表現する
- * 最終課題講評会

■受講に当たっての留意事項

HTML と CSS の初歩について、理解していることを前提にします。また、Mac の基本操作 (マウスの操作、文字の入力、ファイルやフォルダの操作) は理解している前提で授業を行います。

■成績評価方法

出席数、履修態度、課題提出 (中間課題・最終課題) の内容を総合的に評価します。

■教科書／参考書

授業資料は Web サイト (<http://yoppa.org/>) に掲載します。

参考図書

- * 羽田野太巳『徹底解説 HTML5 マークアップガイドブック 最終草案対応版 全要素・全属性完全収録』秀和システム、2011 年
- * 西畑一馬『Web 制作の現場で使う jQuery デザイン入門』アスキー・メディアワークス、2013 年
- * 田中孝太郎、前川 峻志『Built with Processing[Ver. 1.x 対応版] - デザイン / アートのためのプログラミング入門』ビー・エヌ・エヌ新社、2010 年

■備考 (オフィスアワー)

授業科目名	インタラクティブ・ミュージック I Interactive Music I			
教員名	松村 誠一郎			
開講時期	前期	木曜 5	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

この講義では、オープンソースのグラフィカルプログラミング環境である Pure Data の拡張版、Pd-extended を使ってサウンドプログラミングの基礎を学びます。音のデータの取り扱いと加工、シンセサイザープログラムの制作、アルゴリズムを使った作曲などが主なテーマですが、後半は Pure Data+GEM による CG 映像や画像の生成を行ったり、MIDI キーボード、Web カメラ、ネットワーク、iPhone 等との連携を行なって、音以外の要素の表現やコンピュータの外部と内部のインタラクションを実現させる制作を行ないます。

■授業計画及び内容

1. ガイダンス、Pure Data の紹介
2. Pure Data の基本操作
3. サンプリングの基礎と応用
4. シンセサイザープログラムの制作 (音の合成と発振)
5. エフェクターを作る
6. アルゴリズムでシーケンスを作る
7. データの格納、保存、呼び出し
8. 中間課題発表
9. GEM で映像と画像を扱う - 入門編
10. GEM で映像と画像を扱う - 応用編
11. 物理モデルと映像を扱う
12. Web カメラを使う
13. ネットワーク接続 (Open Sound Control)
14. iPhone で Pure Data を動かす (MobMuPlat)
15. 最終講評会

■受講に当たっての留意事項

Mac の基本操作 (マウスの操作、文字入力、ファイルやフォルダの操作) は理解している前提で授業を行います。作曲のスキル、音楽経験はまったく問いません。

■成績評価方法

授業の履修態度、課題提出 (中間課題・最終課題) の内容を総合的に評価します。

■教科書／参考書

毎回の授業資料は Web に掲載し、サンプルプログラムはダウンロード可能とします。

<http://puredatlesson.blogspot.jp/>

参考書 :

- 松村誠一郎著『Pd Recipe Book Pure Data ではじめるサウンドプログラミング』BNN 新社、2012 年 (初級者向け)
- 美山千香土著『Pure Data - チュートリアル&リファレンス』ワークスコーポレーション、2013 年 (中上級者向け)

■備考 (オフィスアワー)

Pd-extended は最新版 (バージョン 0.43.4 : 2014 年 1 月 21 日時点) の Mac 版を使用します。

Windows 版、Linux 版もあり、無料です。<http://puredata.info> からダウンロードし、自宅の PC にインストール可能です。

Mac 版は XQuartz のインストールが必要です。

質問はメール sei@noc.geidai.ac.jp で受け付けます。

授業科目名	インタラクティブ・ミュージック II Interactive Music II			
教員名	田所 淳			
開講時期	後期	木曜 5	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

インタラクティブなサウンドプログラミングの応用と実践。
この講義では、前期に開講される「インタラクティブ・ミュージック I」の内容を踏まえて、さらに実践的にサウンドプログラミング技術の理解を深めます。演習は教室での講義と AMC ウッドデッキでのパフォーマンス実習を交互に行いながら、実践的にサウンドプログラミングを習得します。プログラミングの環境としては、フリーウェア (GPL ライセンス) として入手可能な音響合成用プログラミング環境および言語である SuperCollider を用います。演習の後半では、学外でのイベントを企画してライブパフォーマンスを発表します。

■授業計画及び内容

- * ガイダンス
- * SuperCollider 入門 1
- * SuperCollider 入門 2 関数と UGen
- * SuperCollider 入門 3 音を混ぜる (Mix)、楽器を定義 (SynthDef)
- * SuperCollider 入門 4 楽器を定義、変調合成 (RM, AM, FM)
- * SuperCollider 入門 5 時間構造をつくる
- * SuperCollider 入門 6 オリジナルの楽器を作ろう！
- * 中間講評会
- * SuperCollider 応用 1 SuperCollider と OSC (Open Sound Control)
- * SuperCollider 応用 2 SuperCollider と Processin 連携 1
- * SuperCollider 応用 3 SuperCollider と Processin 連携 2
- * SuperCollider 応用 4 SuperCollider と Processin 連携 3
- * ライブイベントの企画 1
- * ライブイベントの企画 2
- * 最終講評会

■受講に当たっての留意事項

Mac の基本操作 (マウスの操作、文字の入力、ファイルやフォルダの操作) は理解している前提で授業を行います。

■成績評価方法

出席数、履修態度、課題提出 (中間課題・最終課題) の内容を総合的に評価します。

■教科書／参考書

授業資料は Web サイト (<http://yoppa.org/>) に掲載します。

"The SuperCollider Book", James McCartney, Scott Wilson, David Cottle, Nick Collins, The MIT Press, 2011
Curtis Roads (著) 青柳龍也 (訳) 後藤真孝 (訳) 『コンピュータ音楽 - 歴史・テクノロジー・アート』東京電機大学出版局、2001 年
Nicolas Collins (著) 久保田晃弘 (監訳) 船田巧 (訳) 『Handmade Electronic Music 手作り電子回路から生まれる音と音楽』オライリージャパン、2013 年

■備考 (オフィスアワー)

授業科目名	デジタル・サウンド演習 Digital Sound			
教員名	野平 一郎、仲井 朋子			
開講時期	後期	火曜 4	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

作品「～の記憶」を創作する。

■授業計画及び内容

Pure Data あるいは、Max/MSP を使用して、音楽作品 (器楽+電子音響作品、電子音響作品、マルチメディア作品など) の創作を行なう。昨年度「サウンド・デザイン概論」(AMC) で演奏した野平「ベートーヴェンの記憶」にならって、各自が「～の記憶」という創作のテーマを設定する。勿論「～」に入るのは作曲者名だけではなく、他の分野の人物でも良いし、さらには人に限らず、物、歴史、時代等々、各自の自由な発想とする。作品の素材としての音資料、映像資料等々については最初の授業までに各自がそろえておくことが望ましい。作品は授業の範囲を考慮して、時間的にそれほど長くないものとする。1 月に発表会を予定している。

- 10 月 概論
- 11 月 創作 音楽面から技術面からのアドバイスを行なう (2 回は行う)
- 12 月 プレゼンと、創作の完成
- 1 月 2 回 リハーサルと発表会 ホールないしマルチチャンネルのスタジオ

■受講に当たっての留意事項

出席数、履修態度、課題提出の内容を総合的に評価する。

*使用機材の関係から履修者を限定する場合がある (履修登録に際して、芸術情報センター HP 等で連絡を行うことがあるので、随時確認のこと)。

授業の進捗状況等により授業計画及び内容は変更することがある。

■成績評価方法

創作実習の授業であり、各々の作品を最終的な発表会で判断する。

■教科書／参考書

随時授業内で指示する。

■備考 (オフィスアワー)

授業科目名	ジェネラティブ・デザイン Generative Design			
教員名	金田 充弘、市川 創太、永田 康祐			
開講時期	後期	月曜 4・5	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

ジェネラティブ・デザインとはどういうことか、を意識し文脈や基本的な原理を解説しつつ、クリエイターが手だけでは作りきれない(複雑性や量)を扱う術を紹介していきます。参加者は3Dスキャナ、3Dプリンタなどのファブリケーション実習を交えながら、CAD(作図)、モデリング、プログラミングが習得できます。今回はフラクタル(自己相似)の基礎で、植物など自然物の構造を記述・表現することができる Lindenmayer system(L-system)を中心に解説・演習し、各自の創作に応用していきます。基本的な説明以後は、それぞれのアイデアを制作に移し、エスキースを行いながら実践的に講師がサポート対応する形で進みます。

ワークショップホームページ：
http://gd.xx.com/

このコースに向いている人：
やる気や興味が強ければ、プログラミングの知識や経験は無くても可能。
論理思考が得意な人。
表現を裏打ちする数学に興味がある人。

最終アウトプット：
平面もしくは立体作品を各自(もしくは各グループ)一つ以上。

使用予定プログラミング言語：
主に python

使用予定ソフト：
ライノセララス + グラスホッパー + GH python
adobe 系グラフィックソフト

使用予定設備：
3D スキャナ
3D プリンタ
NC カッター

■授業計画及び内容

解説 ジェネラティブとは。
解説 Lindenmayer system(L-system) について。
演習 L-system 解説、記述演習、手書き
演習 L-system のルール作り
演習 ビジュアライジング、コーディング python
演習 CAD、モデリングソフト 演習 rhinoceros の基本的な使い方
演習 パラメトリック モデリング rhinoceros + グラスホッパー + python = GH python によるパラメトリックな操作
演習 パラメトリック / ジェネラティブ モデリング グラスホッパー + python = GH python L-system
演習 ファブリケーション演習 3D スキャン (Rexcan) rhinoceros
演習 ファブリケーション演習 3D プリント rhinoceros
演習 作品制作

■受講に当たっての留意事項

*使用機材の関係から履修者を限定する場合があります(履修登録に際して、芸術情報センターHP等で連絡を行うことがあるので、随時確認のこと)。

授業の進捗状況等により授業計画及び内容は変更することがある。

■成績評価方法

出席数、履修態度、課題提出の内容を総合的に評価する。

■教科書／参考書

教材、参考書は適宜、配布ないし指定する。

■備考(オフィスアワー)

授業科目名	コードとデザイン Design by Code			
教員名	鈴木 太朗、渡邊 淳司、藤木 淳			
開講時期	前期	水曜 4・5	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

本演習は、テクノロジーを使用した表現・コミュニケーションのための、技術習得及び感覚デザインに関する基礎原理を学ぶことを目的とする。具体的には、レーザーカッター、3Dプリンタ、Arduinoといった、近年、表現に使用されるテクノロジーによって生み出された物体・体験の質感(光、立体、触テクスチャ等)を体系的に分析し、表現の基盤にある感覚原理をより深く理解し、表現の視点を広げる契機とする。

*使用機材の関係から履修者は15名程度に限定する。
*履修申し込みを初回授業(履修登録の前)に行うので希望者は必ず出席のこと。

■授業計画及び内容

第1回：
イントロダクション、教員紹介

第2回-第5回：渡邊・鈴木
レーザーカッターで作った触覚テクスチャの体系的理解

第6回-9回：鈴木・渡邊
Arduinoを使った光の制御と素材感の体系的理解

第10回：(外部講師予定)
立体に関する、概念、3Dソフトウェアの基本的な使用法

第11回-14回：藤木
3Dプリンタを使った立体制作と立体構造のみえの体系的理解

担当教員：鈴木太朗、渡邊淳司、藤木淳

■受講に当たっての留意事項

授業の進捗状況等により授業計画及び内容は変更することがある。

■成績評価方法

出席数、履修態度、課題提出の内容を総合的に評価する。

■教科書／参考書

・渡邊淳司(編著)、田中浩也、藤木淳、丸谷和史、坂倉杏介、ドミニク・チェン
『生きるためのメディア 知覚・環境・社会の改編に向けて』(春秋社、2010年)
・『心理学研究法1 感覚・知覚』村上郁也編著(誠信書房、2011年)

■備考(オフィスアワー)

授業科目名	サウンド・デザイン概論 Sound Design			
教員名	長瀧 寛幸、古川 聖、野平 一郎、 久保田 晃弘、島中 実、松井 茂			
開講時期	前期	火曜 4	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

芸術と情報のかかわりについて、作品についてだけでなく創作活動を支える情報技術や思考という面での理論化について解説する。またこれから芸術活動を行っていくために、芸術のためのアーカイブの維持構築などの活動を知るとともに、現代の社会基盤を動かしている情報技術を意識して目に見えない部分にも問題意識を持つ。併せて情報について理解を深めるためのワークショップを行う。

■授業計画及び内容

◎長瀧寛幸（映像研究科）4月8、15、22日（3回）

- ・映画におけるサウンドデザインとは～ウォルター・マーチを出発点として
- ・自作解説：シニギワ『Roadside Picnic』（2013年）
- ・Buchla シンセサイザーとソフト／ハードウェア DSP を用いたリアルタイム・サウンドデザインの実演

◎古川聖（先端芸術表現科）5月13、20、27日（3回）

- ・「数による音楽：想像力のためのツールとしてのコンピュータ」1990年代から2006年にかけて、様々なアルゴリズム作曲（音楽をモデル化、数式化し音を生成する）をおこなった。それらをまとめCD「数による音楽」として出版したが、そこで使われた方法や作品を問題点とともに紹介、検証する。
- ・「sound travels by composer Hans Tutschku」ゲスト：Hans Tutschku
- ・「Brain dreams music」プロジェクトの紹介 ゲスト：濱野峻行
脳波の実時間解析と音楽的想起内容の分別、音響化、視覚化のためのシステムの開発プロジェクトとそれをつかった作品、「it's almost a song...」の解説、実演を行う。また、その技術の延長上にある複数の人間、つまり複数の脳波（現在は5台だが、もっと多数にする計画もある）を同時計測し、そのデータを実時間で分析し相互に比較、関係づけ、可聴化、視覚化しインスタレーションとして展示する現在進行中のプロジェクトを解説、実演する。

◎野平一郎（作曲科）5月27日、6月10、17日（3回）

- ・楽器と電子音響のミックス作品の歴史と魅力
- ・ピアノとコンピュータのための「ベートーヴェンの記憶」について
- ・サクソとコンピュータのための「息の道」について

◎久保田晃弘（多摩美術大学）7月1、8日（2回）

- ・code composition について
- ・live coding について

◎島中実（NTT インターコミュニケーション・センター）7月15、22日（2回）

- ・サウンド・アートをめぐる

■受講に当たっての留意事項

授業の進捗状況等により授業計画及び内容は変更することがある。

■成績評価方法

出席数、履修態度、課題提出の内容を総合的に評価する。

■教科書／参考書

教材、参考書は適宜、配布ないし指定する。

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	映像演習 I 映画 Film Production			
教員名	長瀧 寛幸			
開講時期	前期	火曜 5	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

現在のあらゆる芸術表現において、映像は表現の記録装置としても、表現の一部としても、あるいは表現そのものとしても不可欠な存在となった。本演習では20世紀の映像表現を牽引した「劇映画制作」の行程を学ぶことから、映像制作の実践的知識と技術の習得を目指す。具体的にはグループごとに数分間の短編劇映画作品を制作する。

■授業計画及び内容

第1回：オリエンテーション（長瀧寛幸）

第2回：映画脚本概論（大石三知子）

第3回：映画撮影／照明概論（柳島克己）

第4回：映画編集概論（筒井武文）

第5回：映画音響概論（長瀧寛幸）

第6回：映画美術概論（磯見俊裕）

第7回：映画撮影基礎 1（カメラ撮影の基本技術 1）（飯岡幸子）

第8回：映画撮影基礎 2（カメラ撮影の基本技術 2）（飯岡幸子）

第9回：映像編集基礎（ノンリニア編集について）（山崎梓）

第10回：作品制作準備（加藤直輝、酒井耕）

第11回：作品制作（加藤直輝、酒井耕）

第12回：作品制作（加藤直輝、酒井耕）

第13回：作品制作（加藤直輝、酒井耕、山崎梓）

第14回：講評会、総論

■受講に当たっての留意事項

学部、学科、学年、大学院を問わず参加可能。

授業の進捗状況等により授業計画及び内容は変更されることがある。

■成績評価方法

出席数、履修態度、課題提出の内容を総合的に評価する。

■教科書／参考書

教科書／参考書は適宜、配布ないし指定する。

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	映像演習 II アニメーション Animation			
教員名	岡本 美津子			
開講時期	前期	月曜 5	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

アニメーションは、様々な素材やキャラクター、ストーリー、音声等により成り立つ複合化された総合芸術である。本授業では、入門的な講義と演習を通じて、アニメーション表現の多様性と可能性を理解してもらう。

■授業計画及び内容

- 第1回：オリエンテーション（布山タルト）
- 第2回：アニメーション概論～技法とプロセス①（山村浩二）
- 第3回：アニメーション概論～技法とプロセス②（山村浩二）
- 第4回：アニメーション基礎技術演習①（布山タルト）
- 第5回：アニメーション基礎技術演習②（布山タルト）
- 第6回：平面アニメーション制作演習①（布山タルト）
- 第7回：平面アニメーション制作演習②（山村浩二）
- 第8回：平面アニメーション制作演習③（山村浩二）
- 第9回：立体アニメーション概論（伊藤有尨）
- 第10回：立体アニメーション制作演習①（伊藤有尨）
- 第11回：立体アニメーション制作演習②（伊藤有尨）
- 第12回：立体アニメーション制作演習③（伊藤有尨）
- 第13回：アニメーション研究概論（布山タルト）
- 第14回：企画・プロデュース講座①（岡本美津子）
- 第15回：企画・プロデュース講座②（岡本美津子）

■受講に当たっての留意事項

学部、学科、学年、大学院を問わず参加可能。
履修者数は40名を上限とする予定。

■成績評価方法

平常点

■教科書／参考書

参考文献は適宜、配布ないし指定する。

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	アーカイブ概論 Archive			
教員名	西澤 徹夫、上崎 千、松井 茂			
開講時期	前期	木曜 3	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

ポストモダニズムにおける「メディア論」の問題構制を念頭に置きつつ、主に「アーカイヴ」と呼ばれる知の在り方そのものを扱う。アーカイヴとはなにか。いかにしてアーカイヴは可能となるのか。アーカイヴはなにと異なり、またなにとどう似ているのか。本講座は資料体（corpus）の編成として実現される知のカルトグラフィを芸術学の範疇において捉え、アーカイヴをめぐる問いの束と、「芸術（芸術作品）とはなにか」という問いとの接続を試す知的実践の場である。アーカイヴを形成する思考／アーカイヴに内在する思考としてのいわば〈アーカイヴ的思考〉の所在を、然るべき芸術作品への視座の内に求めること——本講座の課題は、そのような〈思考〉の類推的かつ外延的な質の探求であり、アーカイヴ・モデルとしての芸術作品の分析である。

■授業計画及び内容

1. アーカイヴと芸術作品（導入と問題設定）
2. 分類について／一覧化について
3. 記録について／写真について／反復について
4. 断片について／類似について
5. 非永続性（儚さ ephemerality）と「エフェメラ」
6. 全体と部分（ワークショップ①）
7. アーカイヴと歴史的唯物論
8. 時間について／場所（Site/Nonsite）について
9. 「レイアウト」について
10. 内容と容器（ワークショップ ②）
11. コラージュとモンタージュ
12. アーカイヴの建築的条件
14. アーカイヴと隣接性
13. アーカイヴの界面 interfaces（ワークショップ③）
15. アーカイヴと出来事（結語と問題の再設定）

担当教員：上崎千、西澤徹夫、松井茂

■受講に当たっての留意事項

授業の進捗状況等により授業計画及び内容は変更することがある。

■成績評価方法

出席数、履修態度、課題提出の内容を総合的に評価する。

■教科書／参考書

教材、参考書は適宜、配布ないし指定する。

■備考（オフィスアワー）

デザイン科

授業科目名	デザイン原論 Principles of Design			
教員名	デザイン科教員			
開講時期	通年	火曜 3	単位	4
履修対象	学部生 (デザイン科 2年のみ)			
特記事項				

■授業テーマ

さまざまな創造行為の基礎基盤として設定される自然・風土・伝統・文化・生活経済の諸相および、素材・技術・情報などの側面から視覚、映像、機能、空間、環境、描画など異なるメディアをとおして考察することで、デザインのあるべき原点、及びこれからのデザインの道筋を示唆できればと考える。

■授業計画及び内容

オリエンテーション (橋本和幸)

伝える I (河北秀也)

- ・ 見るとはどういうことか
- ・ 情報社会について
- ・ 何々らしいデザインとは何か
- ・ 情報はどう流れるか

伝える II (箕浦昇一)

映像デザイン

・ 日本のCM誕生から現在までの50周年史を振り返りながら、日本と海外の映像デザイン表現の違いや社会との関わり等を講義する

用いる I (長濱雅彦)

プロダクトデザイン

・ 産業工芸からインダストリアルデザインへと移り変わる産業デザイン史を中心に、日本および世界の生活デザイン運動の変遷を講義する

住まう I (清水泰博)

室内から都市空間まで、それぞれの場所での関係のデザインについて講義する。テーマとしては「内と外」「感性に働きかける空間」「集まり住むかたち」など

広げる (鈴木太郎)

・ 立体造形を主としたテクノロジーアートや、動きを伴う作品表現の近年の事例を紹介しながら、今の社会に於いてデザインとしてのアート表現の可能性を探る

用いる II (尾登誠一)

- ・ デザインのメタマトリクス
- ・ 文化とデザイン
- ・ 生活とデザイン
- ・ デザインのアナログ的展開

伝える III (松下計)

グラフィックデザイン、アートディレクションという領域はメディア環境の変化に伴い拡張し続けているが、これらをあらゆる観点から思考し、いかなる未来予想が可能か検証する。

描く (押元一敏)

日本の美意識と描画装飾との関連性をデザインや絵画の観点から思考し、更に描く行為とその意味を探る。

住まう II (橋本和幸)

空間デザイン

デザイン、建築デザインの最低限知るべき基礎知識を中心に講義を行い、歴史的、文化的背景から家具、空間デザインの素となったモノやコトは何かを探る

まとめ I (橋本和幸)

各自の課題レポートの発表を行う

■受講に当たっての留意事項

デザイン科2年生のみ受講可能。

■成績評価方法

出席状況、課題レポートの評価による。

■教科書／参考書

随時指示する。

■備考 (オフィスアワー)

デザイン科合同研究室

授業科目名	ビジュアルデザイン I Visual Design I			
教員名	宮後 優子、山口 信博			
開講時期	前期	月曜 5	単位	2
履修対象	学部生 (デザイン科)			
特記事項				

■授業テーマ

デザイナーとして知っておきたいグラフィックデザインの活きた知識を学びます。

近年の代表的なデザイナー、印刷や文字の知識、ブックデザインの基本を習得します。

■授業計画及び内容

将来デザイナーとして仕事をしていく上で知っておきたい、今のデザイン業界のことや文字や印刷の知識など、デザインワークに役立つ内容を説明します。

1. オリエンテーション：現在のデザイン業界について。広がるグラフィックデザインの領域の話。
2. 日本のグラフィックデザイン：デザイナーごとに代表作を見ることで、デザイン史を体得します。
3. 海外のグラフィックデザイン：デザイナーごとに代表作を見ることで、デザイン史を体得します。
4. タイポグラフィ：書体の選び方、文字の組み方など実践的な知識を解説。
5. 紙と印刷：紙の種類と適性、印刷加工・製本の基本を学びます。
6. ブックデザイン1：造本が面白い本を紹介。
7. ブックデザイン2：自主制作の場合の印刷製本について。手製本実習。
8. ブックデザイン3：本の企画の立て方、編集の仕方、造本の基本。
9. 情報の見せ方：レイアウトとページネーション。印刷物、ウェブ、電子媒体での見せ方について。
10. プレゼンテーション
(授業の進み具合により、1テーマを2回に分けることもあります)
11. グラフィックデザイナー 山口信博による特別講義

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

出席率と課題 (制作物)

■教科書／参考書

「欧文書体 その背景と使い方」ほか。
授業時に指示します。

■備考 (オフィスアワー)

デザイン科合同教員室 050-5525-2206

授業科目名	ビジュアルデザインⅡ Visual Design II			
教員名	櫻井 稔、色部 義昭、渋谷 克彦、 城田 圭介、松下 計			
開講時期	後期	月曜 3・4	単位	2
履修対象	学部生 (デザイン科)			
特記事項				

■授業テーマ

デザイナーとして知っておきたいグラフィックデザインの活きた知識を学びます。
近年の代表的なデザイナー、印刷や文字の知識、ブックデザインの基本を習得します。

■授業計画及び内容

グラフィックデザインの社会的意義はもはや一つの観点からでは読み解きがむずかしくなっている。
しかしその役割は常に時代の最前線において情報にいかん「相応しい価値付け」がなされるかに関しては不可変であり、テクノロジーのハイ・ローを自由に横断しつつ専技と思考性を兼備する必要がる事変わらない。
本講義では論理的フェーズ、実践的フェーズ、双方の観点からグラフィック デザインのみなもとを引き出しそれを養分として総合力を向上させる事を目指している。
理論講義とともに各現場から第一級のデザイナー、ディレクターのリレーション講義を行う
・グラフィックデザインの歴史的観点からの解説
・印刷物から空間デザインまで、現場ディレクターから実践例をともなう解説
・ブックデザイン、マガジンディレクションの見地からの解説
・資生堂のブランディング、アドヴァタイジングの見地からの解説
・ファインアートの見地からの解説

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

出席点等、各講師の総合評価による

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

3限のみや3・4限連続等の変則的な授業があるため、掲示等に注意すること。
デザイン科合同教員室 050-5525-2206

授業科目名	スペースプランニングⅠ Space Planning I			
教員名	袖木 恵介、橋本 夕紀夫、木下 史青、 皆川 明、青木 ゆかり、八木澤 優記			
開講時期	前期	木曜 4・5	単位	2
履修対象	学部生 (デザイン科)			
特記事項				

■授業テーマ

スペースプランニングは、空間に必要なヒトとモノの関係性を整理し、空間というメディアをとおしてヒトにとって何が大事なのかを提示する事と言える。アート／建築／インテリア／ファッション／映像などの媒体をとおして最前線で活躍する講師陣により、空間プランニングの概要を学び、それぞれのデザイナーが何を大事にプランニングし、何を提示しているのか、そこからデザインの枠を超えた空間表現の可能性をつかんでほしい。

■授業計画及び内容

1. ガイダンス
橋本和幸
2. サイトスペシフィックアート (仮)
袖木恵介
3. サイトスペシフィックアート (仮)
袖木恵介
4. インテリアデザイン 1
橋本夕紀夫
5. インテリアデザイン 2
橋本夕紀夫
6. インテリアデザイン 3
橋本夕紀夫
7. インテリアデザイン 4
橋本夕紀夫
8. ディスプレイデザイン (展示デザインについて)
木下史青
9. ディスプレイデザイン (照明計画／現地見学)
木下史青
10. ヒト・フク・空間 1 (仮)
皆川明
11. ヒト・フク・空間 2 (仮)
皆川明
12. 未定
八木澤優記
13. 未定
八木澤優記
14. 映像とスペースデザイン (テレビを通して見るスペースデザイン)
青木ゆかり
15. 映像とスペースデザイン (現地見学／スタジオ見学等 (未定))
青木ゆかり

■受講に当たっての留意事項

最前線でデザインを行っているデザイナーの仕事に肌で感じてほしい。デザインの領域が多くある事にアンテナを向けてほしい。学部デザイン科3年以上受講可能。

■成績評価方法

出席点、課題レポートの評価による。

■教科書／参考書

パソコン、プリント等により講義。資料は随時案内する。

■備考（オフィスアワー）

5限のみと4、5限連続の場合があるので、掲示等に注意する事。
デザイン科 空間・設計研究室またはデザイン科合同教員室を通じて随時取り次ぐ (教員室を窓口として対応)

授業科目名	スペースプランニングⅡ Space Planning II			
教員名	富田 泰行、団塚 栄喜、石多 未知行、 田瀬 理夫、中野 恒明			
開講時期	後期	木曜 4・5	単位	2
履修対象	学部生 (デザイン科)			
特記事項				

■授業テーマ

空間・環境デザインの領域で、特に外部空間のデザインを中心とした講義を行います。都市、土木、建築、ランドスケープ、ライティング、ストリートファニチャー、アートなど、都市環境におけるデザインでは多面的な視点から考えることが必要となります。本講義は特にアーバンデザイン、ランドスケープ、照明、映像演出、エコロジーなどの視点から空間のデザインのあり方を講義していきます。

■授業計画及び内容

0. オリエンテーション 清水泰博
1. 光について_街、住まい、心理 富田泰行
2. 生活の光/都市の光 富田泰行
3. 生活のプロダクトや境界の景色における光 富田泰行
4. 都市における自然とは何か/EARTHSCAPE 作品を通じて 団塚栄喜
5. 都内あるいは近郊の(団塚先生 Project) 見学 団塚栄喜
6. 映像が広げる新たな空間演出表現、プロジェクションマッピング/制作ガイダンス 石多未知行
7. プロジェクションマッピングの制作実践 石多未知行
8. 都市環境の現状を認識する。東京ヒートマップなどからわかる環境 田瀬理夫
9. 都市エコロジーの再生。日常性、社会性、地域性の回復デザイン 田瀬理夫
10. 都市環境デザインの世界：地域活性化に資する公共空間のデザイン(国内・世界) 中野恒明
11. 都市空間のデザイン：身近な場所の公共空間・街並み(都内事例) 中野恒明
12. 街並デザイン：デザインコーディネートの現場(柴又、中野先生 Project) 見学 中野恒明
13. 五感とスケール感 富田泰行
14. 生活の中の日常と非日常 富田泰行
15. 課題講評：課題テーマは別途決定 富田泰行、清水泰博

■受講に当たっての留意事項

教室での授業を中心に、都内の施設見学会も行います

■成績評価方法

出席点、課題レポートの評価によります

■教科書/参考書

プロジェクターとプリントによる講義。資料は随時案内します

■備考(オフィスアワー)

5限のみと4、5限連続の場合があるので、掲示等に注意する事。デザイン科 環境・設計研究室またはデザイン科合同教員室を通じて随時取り次ぎます

授業科目名	プロダクトデザインⅠ Product Design I			
教員名	山崎 宣由、廣田 尚子、 今中 隆介、山岸 悦夫			
開講時期	前期	金曜 4・5	単位	2
履修対象	学部生 (デザイン科)			
特記事項				

■授業テーマ

プロダクトデザインは、社会的・経済的・文化的・環境的・生活的価値の創造を担い、単に造形力だけでなく、広い視野に立った課題の発見・仮説の構築・問題解決力が求められている。また IT 技術の発展にともないデザインの方法論・プロセス・表現・情報伝達技術にも大きな変化が起きている。こうしたプロダクトデザインが直面する様々な問題について理解を深め、今後のプロダクトデザインの果たすべき役割を考察する。

■授業計画及び内容

- ・プロダクトデザイン の概念
- ・企業及び地域産業におけるデザインの現状
- ・企画からプロモーションまで
- ・現場における 3 次元 CAD&CG
- ・アドバンスデザイン、デザインの未来
- ・経験価値創造のデザイン
- ・体験的ユニバーサルデザイン
- ・デザイン現場見学
- ・生活とデザイン — 身につけるプロダクト
- ・生活とデザイン — 遊
- ・生活とデザイン — 器

■受講に当たっての留意事項

講義の流れを重視する為、欠席しないこと。学部デザイン科 3 年以上受講可能

■成績評価方法

出席日数、受講態度、プレゼンテーション、レポート

■教科書/参考書

■備考(オフィスアワー)

5限のみや4・5限連続の授業があるため、掲示等に注意すること。デザイン科合同教員室
TEL: 050-5525-2206

授業科目名	プロダクトデザインⅡ Product Design II			
教員名	青木 史朗、尾登 誠一、長濱 雅彦、 若杉 浩一、田川 欣也、鄭 秀和			
開講時期	後期	金曜 4・5	単位	2
履修対象	学部生 (デザイン科)			
特記事項				

■授業テーマ

プロダクトデザインⅡは、狭い意味での「かたちづくりのデザイン」を対象としたものではない。テクノロジーを、さらには人間の生き方そのものをより豊かにするために、「デザインという知を活用しよう」という視点からとらえようと考えている。ものごとを食べて租借してみる。昆虫の視野、鳥の視点から見つめなおす、耳を澄ましてみる、問いかけてみる。比喩的に言えば、デザインはそうした語りかけを通じて、「今まで気づかなかった解決策を導く思考」である。21世紀社会を先導するプロダクトデザインの可能性について考察していく。

■授業計画及び内容

- ・ 芸術、技術、デザイン
- ・ 20世紀デザインの誕生
- ・ 日本デザインの歩み
- ・ デザインの今日的課題
- ・ デザインの知再考
- ・ ユビキタスデザイン
- ・ 日本全国スギダラケ倶楽部の活動紹介
- ・ デザインとエンジニアリングについて
- ・ 最新機器のデザインについて
- ・ プロダクトデザインのまとめ

■受講に当たっての留意事項

講義の流れを重視する為、欠席しないこと。学部デザイン科 3 年以上受講可能

■成績評価方法

出席日数、受講態度、レポート

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

5 限のみや 4・5 限連続など、変則的な講義があるため、掲示等に注意すること。

デザイン科合同教員室

TEL：050-5525-2206

授業科目名	映像論 I Image Design I			
教員名	中谷 日出、村田 朋泰、中村 勇吾、 高崎 勝二、口石 潤一、箭内 道彦			
開講時期	前期	金曜 4・5	単位	2
履修対象	学部生 (デザイン科)			
特記事項				

■授業テーマ

複数の講師により映像(論)を様々な角度、メディアから考察し、学ぶ

■授業計画及び内容

- 1、中谷日出
作品等を通して現代デジタル映像を考察、技法論を学ぶ
- 2、村田朋泰
アニメーションを中心とした映像の考察をし、モデルアニメーションの演習をもとに技法等学ぶ
- 3、中村勇吾
ウェブ作品を通して現代ウェブ概説を学び、考察する
- 4、高崎勝二
CM 映像をもとに撮影方法を学ぶ
- 5、口石潤一
アミューズメント映像の商品性にのっとったプロデュース論、企画、プロダクション技法を学ぶ
- 6、箭内道彦
CM 企画・演出等を通してクリエイター論を展開。クリエイター、クリエイティブとはを考察する。

■受講に当たっての留意事項

映像論 1 の講義の流れが映像論 2 にも繋がるため、通年で受講することが望ましい

■成績評価方法

出席点等、各講師の総合評価による

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

5 限のみや 4・5 限連続など、変則的な講義があるため、掲示等に注意すること。

授業科目名	映像論Ⅱ Image Design II			
教員名	高木 章			
開講時期	後期	金曜 5	単位	2
履修対象	学部生 (デザイン科)			
特記事項				

■授業テーマ

映像という新しい言語の持つ可能性と深さを知るために、CM制作をする。同時に映像制作に欠かすことのできないプロダクションワーク(チーム作業)の重要性を認知する。シナリオの映像制作を完成させるのはもちろんだが、広告映像の商品性という環境の中で前提条件をクリアしながら立案する企画やプレゼンテーションを学ぶ。また、撮影技法、編集技術、サウンドMA等のポストプロダクション技術を学ぶ。

■授業計画及び内容

1. CM企画(実際のCMを企画制作)～公共広告機構のTVCM制作～
2. オーディオとビジュアルのマッチング
3. その他

■受講に当たっての留意事項

学部デザイン科3年以上受講可能。

■成績評価方法

CM完成が最低条件

■教科書／参考書

■備考(オフィスアワー)

5限のみと4、5限連続の場合があるので、掲示等に注意する事。

授業科目名	デザイン特論 Advanced Design			
教員名	デザイン科教員			
開講時期	集中	単位	4	
履修対象	大学院 (修士1年、デザイン専攻)			
特記事項				

■授業テーマ

各研究室の専門領域を軸とした、各研究室ごとのゼミナール方式の授業

■授業計画及び内容

視覚・演出研究室(河北) コミュニケーションデザインの発展論。
企画・理論研究室(藤崎) メディアプロトタイプング。様々なメディアの試作をつくる。
視覚・伝達研究室(松下) 視覚伝達デザインにおける独創性、社会性、技術の3つの柱を立て、事例を交えながら講義。
空間・演出研究室(鈴木)
空間演出の可能性に関する研究、参加学生による研究発表。
空間・設計研究室(橋本) 内部空間のデザインを、多面的な視点から講義。
機能・演出研究室(尾登) アフォーダンスの視点で観る機能デザイン。
機能・設計研究室(長濱) 商品企画とデザイン、サステイナブルデザインなどの研究。
環境・設計研究室(清水) 環境デザインに関わる内容をテーマごとに講義、また参加学生による発表も行う。
映像・画像研究室(箕浦) コミュニケーションデザインを前提とした画像、映像(アニメーションを含めた)論を歴史を含めて講義。
描画・装飾研究室(押元)
平面における主題・構成(構図)・色彩・装飾などの点から視覚的効果について研究。

■受講に当たっての留意事項

デザイン専攻のみ単位取得可能。原則として修士1年次(約30人)を対象とする。

■成績評価方法

各研究室ごとの総合評価とする。

■教科書／参考書

■備考(オフィスアワー)

授業科目名	デザインプロジェクト Design Project			
教員名	デザイン科教員			
開講時期	通年	水曜 1・2	単位	4
履修対象	大学院生（デザイン専攻）			
特記事項				

■授業テーマ

社会連携によるデザイン開発

■授業計画及び内容

デザイン専門領域を横断したチーム編成によるデザイン開発プロジェクト

原則として修士1年次（約30人）を対象とする。

プロジェクトのテーマを、5～6人を1チームとしたメンバーで、デザイン開発を行う。デザインジャンルを横断したチーム編成により、各チームのテーマによるデザイン開発を複合的に行うことで、よりトータルなデザイン成果を高め、かつ深化することを目的とする。また、プロジェクトのテーマは、社会（自治体や企業などの組織）と連携を図り、より具体性のあるテーマを設定しつつ、斬新なデザイン開発を行う。さらにそのデザインが実現することも視野に入れる。地域振興・活性化、特色のある商品開発などのデザインプロジェクトを立ち上げ、修士課程に相応しい総合的なデザイン開発に取り組む授業とする。

指導体制は、常勤教員全員（教授・准教授・助教）と、非常勤講師による集中講義及び実技作品製作により一年間を通して行う。

■受講に当たっての留意事項

デザイン専攻のみ単位取得可能。原則として修士1年次（約30人）を対象とする。

■成績評価方法

企画・コンセプトから立案を経て開発されたデザイン成果を総合的に評価する。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

オフィスアワー：デザイン科合同研究室 tel050-5525-2206

授業科目名	アートディレクション I Art Direction I			
教員名	中村 政久			
開講時期	前期	木曜 5	単位	2
履修対象	大学院生（デザイン専攻）			
特記事項				

■授業テーマ

アートディレクションは変わる。時代は変化し4マスメディアの概念も変わり、新しいコミュニケーションの形とメディアが求められています。時代の最前線の情報と価値観を理解しつつ、基本であるコミュニケーションデザイン力と心理に関わるデザインの考え方を理論的、心理的、実践的に、能力の向上を目指します。

■授業計画及び内容

時代と人々の変化にあったテーマを授業初日にオリエンテーションします。その後、実社会の広告制作過程に即したカリキュラムでコミュニケーションを企画していきます。さらに発想力を磨き、アイデアのビジュアル化をはかっていきます。その過程では徹底したディスカッションを通し、アイデアを実現する授業を行います。最終日に自分の考えによるプレゼンテーションを行い、周りの反応を体得してもらう流れで授業を行います。

▼オリエンテーション及び講師のガイダンス

▼フリーディスカッション

▼時代の価値観、世の中の価値観の抽出

▼アイデア企画

▼サムネールの検討

▼企画書の制作

▼ビジュアルの検討

▼コミュニケーション手法の検討

▼ストーリーテリングの習得

▼プレゼンテーション実習

この間、同時期に講師によって制作された実例をベースにケーススタディとして講義も行い、実際の制作物に直接触れてみる。また、可能であれば制作に現場見学を行う。

■受講に当たっての留意事項

デザインが起点になるコミュニケーションの可能性を考える授業です。学生の積極的な参加と発言を望みます。己の殻に籠りがちな芸大生にとって、気付きのきっかけになる授業にしたい。

■成績評価方法

制作課題への提案内容を主体とします

■教科書／参考書

講師自身のここ数年の企業ブランディング制作物及び広告制作物 (PP、DVD)

■備考（オフィスアワー）

デザイン科合同研究室 tel050-5525-2206

授業科目名	アートディレクションⅡ Art Direction II			
教員名	田中 良治、廣村 正彰、服部 一成、 加藤 芳夫、祖父江 慎、室賀 清徳、松下 計			
開講時期	後期	木曜 4・5	単位	2
履修対象	大学院生 (デザイン専攻)			
特記事項				

■授業テーマ

多岐におよぶ現代のアートディレクションを、6名の講師が各専門領域の視点から語る。

前半は、Web、描画、エディトリアル、パッケージ、ブランディング、サイン計画などの領域で活躍するデザイナーによる実践的アートディレクション論。

後半は、デザイン誌『アイデア』編集長の室賀氏によるクリティカルなアートディレクション論で構成される

■授業計画及び内容

講師

田中良治 (ウェブデザイナー)

廣村正彰 (デザイナー、アートディレクター)

服部一成 (デザイナー、アートディレクター)

加藤芳夫 (クリエイティブディレクター/サントリー)

祖父江慎 (エディトリアルデザイナー)

松下計

【後半6回】

室賀清徳 (編集者)

■受講に当たっての留意事項

アートディレクションは人間性、品格の育成も重要に考えている為、必ず出席すること。

デザイン専攻のみ単位取得可能。

■成績評価方法

出席日数とレポート

■教科書／参考書

なし

■備考 (オフィスアワー)

5限のみや4、5限連続の講義の場合がありますので、掲示等に注意する事。

授業科目名	パブリックアート Public art			
教員名	池村 明生			
開講時期	前期	金曜 3	単位	2
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

公共空間をステージとする芸術的表現をパブリックアートと捉えると、古今東西様々な事例を探すことができます。それは昨今のアーティストたちの芸術作品のみならず、無名な制作者による作品もあれば、市民との共同により完成した作品も多く、様々なパブリックアートからアートやデザインの社会的意味を知ることができます。本授業では、これら社会的意味をもつパブリックアートの変遷をたどりながら、それぞれの時代や場面に求められたアートやデザインのかたち、またアーティストや制作者の役割を把握した上で、現代社会におけるパブリックアートの可能性を考察することを目標とします。

■授業計画及び内容

1. パブリックアート概論

2. パブリックアートの変遷Ⅰ (崇拝と銅像)

3. パブリックアートの変遷Ⅱ (主義と銅像)

4. パブリックアートの変遷Ⅲ (平和と彫刻)

5. パブリックアートの変遷Ⅳ (まちづくりと彫刻)

6. パブリックアートの変遷Ⅴ (再開発とアート)

7. パブリックアートの変遷Ⅵ (市民参加とアート)

8. パブリックアートの変遷Ⅶ (エンターテインメントとアート)

9. パブリックアートの発展形Ⅰ (アートプロジェクト)

10. パブリックアートの発展形Ⅱ (プラスアート)

11. パブリックアートの成立、発展の背景

12. パブリックアートと芸術家のかかわり

13. パブリックアートの論争

14. 現代社会とパブリックアート

15. パブリックアート考察

■受講に当たっての留意事項

授業はパワーポイント資料による解説と履修生とのディスカッションにより進めます。

また研究科の授業として芸術作品の表現だけに興味を示すのではなく、その表現が成立した背景や仕組みを学習することを望みます。

■成績評価方法

授業出席とレポート課題、および授業時の取組みや姿勢によって評価します。

■教科書／参考書

「空間づくりにアートを活かす」(池村明生、学芸出版社、2006年)

■備考 (オフィスアワー)

デザイン科合同教員室 050-5525-2206

授業科目名	環境デザイン Environmental Design			
教員名	宮城俊作、西村浩、大田友祐、面出薫			
開講時期	後期	火曜 4・5	単位	2
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

環境デザインの諸分野の講義を行います。都市、土木、建築、ランドスケープ、インテリア、家具、パブリックアートなど環境デザインの領域は極めて広いものとなります。本講義では特にランドスケープ、アーバンデザイン、インテリア、照明などの視点から空間、環境のデザインのあり方を、歴史、実例や実際などを含めて講義していきます。

■授業計画及び内容

0. オリエンテーション 清水泰博
 1. ランドスケープデザインの職能の実践とその社会的な役割 宮城俊作
 2. 近代アメリカ・現代欧州のランドスケープデザイン 宮城俊作
 3. 都市との関わりから導かれるモノづくりの展開 西村 浩
 4. 日本における土木デザインの進化と現在 西村 浩
 5. モノづくりにおける市民協働の意義と可能性 西村 浩
 6. オフィスの概論／歴史と変遷 大田友祐
 7. オフィスの最新事情／欧米と日本 大田友祐
 8. オフィスのデザイン／手法と実践 大田友祐
 9. 光・あかり・照明の科学／現代照明デザイン史 面出 薫
 10. 建築照明の作法／照明計画論と実践的課題 面出 薫
 11. 光の都市計画／都市環境照明の実践的課題 面出 薫
 12. 照明計画プロジェクト視察調査（東京国際フォーラム他）面出 薫
 13. 日本の伝統的庭園における自然観の表象とその形態について 宮城俊作
 14. ランドスケープデザインにおける空間スケールの扱いについて 宮城俊作
 15. ランドスケープデザインに用いられる素材の特性とその扱いについて 宮城俊作、清水泰博

■受講に当たっての留意事項

教室での授業が中心 自然科学に対する関心を持っていることが望まれます

■成績評価方法

出席点、課題の提出・プレゼンテーションの評価によります

■教科書／参考書

プロジェクターとプリントによる講義。資料は随時案内します／「ランドスケープの視座」宮城俊作、学芸出版社、2001年

■備考（オフィスアワー）

4限のみと、4、5限連続の場合がありますので、掲示等に注意する事。デザイン科 環境・設計研究室またはデザイン科合同教員室を通じて随時取り次ぎます

授業科目名	プロダクトプランニング I Product Planning I			
教員名	山田 弘和、森山 明子			
開講時期	前期	月曜 4・5	単位	2
履修対象	大学院生（デザイン専攻）			
特記事項				

■授業テーマ

■キーワード

- ・プロダクトデザインにおける製品計画手法。
- ・ユーザーのニーズを発見し、コンセプトから造形へ橋渡しするデザインプロセスの学習。
- ・産業デザイン史

etc

■授業内容

現在の社会は、20世紀の大量生産・大量消費の仕組みを抱えながら、一方で地球環境との共存を前提とした新たなしくみを模索する移行期を迎えている。デザインの分野においても今、何を作るべきかを再考する必要がある。プロダクトプランニング I は、従来の製品概念をリコンセプトし、変化する社会構造に最適化させる実践的デザインメソッドである。従来の生産性と消費型経済を中心とするプロダクトアウトの発想による製品開発アプローチを見直して、人のくらしかたを主とする新たな視点による製品計画手法について、デザインプロセスとして学習する。

■授業計画及び内容

■授業計画

- ・わが国デザイン史に学ぶ：デザイン飛躍の駆動力
- ・繊維産業とファッション：1970年代の変貌
- ・コミュニケーションの問題：企業も国も超えて
- ・道具と住まいのディテール：触覚と視覚のはざま
- ・アートとデザインに通底するもの：石元泰博、新井淳一（森山）
- ・開発テーマの発見、開発プログラム
- ・データ・資料収集、ニーズの分析
- ・アイデア展開ーコンセプト立案・仮説づくり、デザインコンセプト
- ・造形アイデア展開、モデリングなどの造形検討手法
- ・インターフェース、形態サイン性の検討
- ・ユーザビリティの検討
- ・製図によるスケール、プロポーション、バランスの検討
- ・基本デザインから実施計画へ
- ・プロダクトプランニングにおけるデザインプロセス
- ・演習課題のプレゼンテーションと講評、など（山田）

■到達目標

デザインプロセスを把握し、コンセプトから造形までの行程を踏むことで整合していく仕組みを学ぶこと。

■授業以外の学習方法

普段使っているプロダクトを色々なユーザーの立場から見直してみよう。単なるアイデアではなく基本をおさえるコンセプトと造形の整合性という観点から、色々なプロダクトを再考してみること。

■受講に当たっての留意事項

プロセスを軸に授業を進めるので、毎回欠かさず受講すること。

■成績評価方法

毎回のスキルチェック及び、プランニング演習作品の提出による総合評価。

■教科書／参考書

毎回、テキスト配布予定。

■備考（オフィスアワー）

デザイン科合同教員室

TEL：050-5525-2206

授業科目名	プロダクトプランニングⅡ Product Planning II			
教員名	白濱 力、安井 俊一、有吉 司、石田 和人			
開講時期	後期	月曜 4・5	単位	2
履修対象	大学院生（デザイン専攻）			
特記事項				

■授業テーマ

プロダクトプランニングⅡでは、共有の道具や装置のデザインプランニングを中心に論を進め、公共分野でインダストリアルデザインが果たす役割と、デザイン方法論について考察する。特に移動におけるアクセシブルデザインを視座に据え、造形の背景と、美しい造形を追及する。

■授業計画及び内容

- ・パブリックプロダクトの概要と考え方
- ・歩行、道、歩行環境、歩行支援装備
- ・タウンモビリティ
- ・移動システムの中の自転車。自転車のデザイン
- ・移動の多様性（1）バス、中小量輸送機材のデザイン。クリチバ市の事例研究
- ・移動の多様性（2）ライトレイル・トランジットの歴史的、社会的背景とデザイン
- ・移動の多様性（3）ヘビーレイル・トランジットのデザイン
- ・鉄道ターミナル概観。ロンドン・ウォータルー、スイス・スタッデルホーフェンなどの事例から
- ・空港ターミナルのデザイン。スキポール空港の事例から
- ・アクセシブル支援機器、機材の概要
- ・パブリックファニチュア概観
- ・パブリックサイン概要
- ・町づくりとサイン
- ・交通ターミナルのサイン
- ・まとめと討論

■受講に当たっての留意事項

デザインを通して社会への関心を持って欲しい。デザイン専攻のみ単位取得可能。

■成績評価方法

講義への参加、質疑応答とレポートによる。

■教科書／参考書

資料配布。参考書：「クルマ社会のリ・デザイン」（鹿島出版会）

■備考（オフィスアワー）

5限のみや4・5限連続など、変則的な講義があるため、掲示等に注意すること。

デザイン科合同教員室

TEL：050-5525-2206

建築科

授業科目名	建築構法 Architectural construction method			
教員名	丸谷 博男			
開講時期	前期	月曜 4	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

建築の根本である架構を学ぶ。架構の方法に大きく影響する「素材」と「使用目的」に着目し、歴史や海外事例から架構法を学ぶ。また、地盤から基礎、そして上部構造へと繋がる架構法の基本を学ぶ。

■授業計画及び内容

- 1 架構法／素材と構造（石、土、木、煉瓦、金属、コンクリート）
- 2 日本の木構造史 1 堅穴住居と高床住居
- 3 日本の木構造史 2 世界最古の木造寺院建築
- 4 日本の木構造史 3 木造高層建築／五重塔
- 5 日本の木構造史 4 明治の建築／西洋建築の影響
- 6 日本の木構造史 5 木割り建築の架構／和小屋
- 7 日本の木構造史 6 民家建築の架構
- 8 現代木構造 在来工法から 2 × 4 まで
- 9 木構造のディテール 1 地盤と基礎
- 10 木構造のディテール 2 1、2階床
- 11 木構造のディテール 3 軸組、小屋組
- 12 木構造のディテール 4 屋根、外壁
- 13 ケーススタディ 1
- 14 ケーススタディ 2
- 15 ケーススタディ 3

■受講に当たっての留意事項

出席を第一義に！

■成績評価方法

出席とレポート評価。

■教科書／参考書

丸谷博男／編著「実践木造住宅のディテールの詳細」彰国社刊

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	構造力学 I Structural Mechanics I			
教員名	大原 和之			
開講時期	後期	金曜 1	単位	2
履修対象	学部 1 年生			
特記事項				

■授業テーマ

建築を学ぶにあたり構造に関する必要な知識を習得する。構造力学 I では建築構造学の入門編として、建物に作用する力の種類や構造モデルの種類、特徴について学ぶ。講義全般を通じて構造設計に必要な基礎知識を習得する他、机上の計算ではなく実感をもって学ぶことを目的とする。

■授業計画及び内容

1. オリエンテーション
2. 構造部材の種類
3. 荷重の種類
4. 力とつりあい
5. 力の合成と分解
6. 単純梁の反力 (1)
7. 単純梁の反力 (2)
8. 片持梁の反力
9. 3 ヒンジ構造 (1)
10. 3 ヒンジ構造 (2)
11. 安定構造と不安定構造 (1)
12. 安定構造と不安定構造 (2)
13. 期末試験

■受講に当たっての留意事項

講義内容の性質上、欠席してしまうと次の講義内容の理解が難しくなるため出席することが重要。わからないことがあれば講義毎に質問すること。

■成績評価方法

出席状況と筆記試験による

■教科書／参考書

「建築構造力学 I 静定構造力学を学ぶ」 坂田弘安・島崎和司 著 (学芸出版社)

■備考（オフィスアワー）

金曜日 10 時 30 分～11 時 30 分 構造第一研究室

授業科目名	構造力学Ⅱ Structural Mechanics II			
教員名	大原 和之			
開講時期	前期	金曜 1	単位	2
履修対象	学部 2 年生			
特記事項				

■授業テーマ

構造力学Ⅱでは静定構造物を対象とし応力算定および応力図の作図方法、断面に生じる力、部材の変形量算定方法を学び、部材設計の基本的な内容が理解できることを目的としている。また一般的な構造として用いられる不静定ラーメンの解法を学び、材料の違いや断面形状の違いによって変形量がどの程度異なるのかを感覚的に身につけることを目的とする。

■授業計画及び内容

1. オリエンテーション
2. 構造物のモデル化
3. 反力の算定
4. 応力の種類と符号の定義
5. 部材に生じる力
6. 断面に生じる力 (1)
7. 断面に生じる力 (2)
8. 部材の変形 (1)
9. 部材の変形 (2)
10. 骨組に生じる力と変形
11. 不静定構造物の解法
12. たわみ角法 (1)
13. たわみ角法 (2)
14. 期末試験

■受講に当たっての留意事項

講義内容の性質上、欠席してしまうと次の講義内容の理解が難しくなるため出席することが重要。わからないことがあれば講義毎に質問すること。

■成績評価方法

出席状況と筆記試験による

■教科書／参考書

「建築構造力学Ⅰ 静定構造力学を学ぶ」 坂田弘安・島崎和司 著 (学芸出版社)
「建築構造力学Ⅱ 不静定構造力学を学ぶ」 坂田弘安・島崎和司 著 (学芸出版社)

■備考 (オフィスアワー)

金曜日 10時30分～11時30分 構造第一研究室

授業科目名	構造計画 Outline of Structural Planning			
教員名	金田 充弘			
開講時期	前期	金曜 5	単位	2
履修対象	学部 1 年生			
特記事項				

■授業テーマ

建築を学ぶにあたり、建築構造についての基本を学ぶ。歴史的建造物から現在進行中のプロジェクトまで、実例を元に構造・工法と建築設計との関係を理解する。

■授業計画及び内容

1. オリエンテーション
2. 建築構造の歴史 (1)
3. 建築構造の歴史 (2)
4. ドーム構造概要
5. アーチ構造概要
6. ドーム・アーチ構造リサーチ・プレゼン
7. ドーム・アーチ構造架橋製作 (1)
8. ドーム・アーチ構造架橋製作 (2)
9. 吊り構造概要
10. 吊り構造リサーチ・プレゼン (1)
11. 吊り構造リサーチ・プレゼン (2)
12. タワー構造概要
13. タワー構造リサーチ・プレゼン (1)
14. タワー構造リサーチ・プレゼン (2)
15. まとめ

■受講に当たっての留意事項

出席し、講義時間中の課題を通して理解をはかること。

■成績評価方法

出席点と講義時間中の課題の評価点数の総合評価とする。

■教科書／参考書

建築の構造 ヴィジュアル版建築入門編集委員会編 彰国社
空間 構造 物語 ストラクチャル・デザインのかくえ 斎藤公男 著 彰国社

■備考 (オフィスアワー)

金曜日 構造第一研究室

授業科目名	構造材料演習 I Structural material maneuver I			
教員名	金田 充弘			
開講時期	後期	金曜 5	単位	2
履修対象	学部 2 年生			
特記事項				

■授業テーマ

建築の構造体に使用されるコンクリート・鋼材等の材料について学び、実験等を通して、構造力学の授業で学んだ知識と結び付けて構造材料についての理解を深める。

■授業計画及び内容

1. オリエンテーション (構造実験室使用に関する注意事項説明)
2. コンクリート実験概要説明
3. コンクリート供試体打設・スランブ試験 (1)
4. コンクリート配合について
5. コンクリート圧縮強度実験 (1)
6. コンクリート供試体打設・スランブ試験 (2)
7. コンクリート板製作
8. コンクリート圧縮強度実験 (2)
9. コンクリート実験まとめ
10. 鋼材実験概要説明
 11. 鋼材引張試験 (1)
 12. 鋼材引張試験 (2)
 13. 鋼材引張試験 (3)
 14. 鋼材引張試験 (4)
 15. まとめ

■受講に当たっての留意事項

出席し、講義時間中の課題を通して理解をはかること。

■成績評価方法

出席点と講義時間中の課題の評価点数の総合評価とする。

■教科書／参考書

建築材料実験用教材 日本建築学会

■備考 (オフィスアワー)

金曜日 構造第一研究室

授業科目名	構造材料演習 II Structural material maneuver II			
教員名	金田 充弘			
開講時期	前期	火曜 2	単位	2
履修対象	学部 3 年生			
特記事項				

■授業テーマ

構造材料演習 I に引き続き、建築の構造体に使用されるコンクリート・鋼材等の材料について学び、実験等を通して、構造力学の授業で学んだ知識と結び付けて構造材料についての理解を深める。

■授業計画及び内容

1. オリエンテーション
2. 光弾性実験概要説明
3. 光弾性実験用試験体製作 (1)
4. 光弾性実験用試験体製作 (2)
5. 光弾性実験 (1)
6. 光弾性実験 (2)
7. 光弾性実験 (3)
8. 光弾性実験まとめ
9. 振動・減衰材実験概要説明
10. 振動実験 (1)
 11. 振動実験 (2)
 12. 減衰材実験 (1)
 13. 減衰材実験 (2)
 14. 減衰材実験 (3)
 15. まとめ

■受講に当たっての留意事項

出席し、講義時間中の課題を通して理解をはかること。

■成績評価方法

出席点と講義時間中の課題の評価点数の総合評価とする。

■教科書／参考書

建築材料実験用教材 日本建築学会

■備考 (オフィスアワー)

火曜日 構造第一研究室

授業科目名	建築材料Ⅰ Architectural Materials I			
教員名	輿石 直幸			
開講時期	前期	火曜 4	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

建築物に使用する主要な材料の基本的な性質（化学的性質・物理的性質・力学的性質・変質現象）についての理解を深める。

■授業計画及び内容

- 第1回 概論（建築物の性能と建築材料の性質）
- 第2回 木材・木質材料
- 第3回 同上
- 第4回 セメントコンクリート
- 第5回 同上
- 第6回 同上
- 第7回 鉄鋼材料
- 第8回 同上
- 第9回 石材
- 第10回 粘土焼成材料（瓦、レンガ、タイル）
- 第11回 ガラス
- 第12回 左官材料
- 第13回 高分子材料
- 第14回 防水材料
- 第15回 学期末試験

■受講に当たっての留意事項

基礎知識を積み重ねていくので連続受講を心掛けてほしい。

■成績評価方法

最終回に教場で試験。授業中に小テストを行うこともある。

■教科書／参考書

特になし。講義に使用するパワーポイントのプリントを配布。
参考書として、
建築材料用教材（日本建築学会、丸善）
建築材料用設計教材（建築材料設計研究会編著、彰国社）など

■備考（オフィスアワー）

[mail]kosiisi@waseda.jp[/mail] で随時

授業科目名	建築材料Ⅱ Architectural Materials II			
教員名	乾 久美子			
開講時期	後期	金曜 2	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

本講義では、毎回のテーマに従って特徴的な材料を活用した近現代の優れた建築作品（または建築家の活動）を取り上げ、そこで利用されている材料が指し示す空間的、形態的、社会的意味を読み解くと共に、建築のイデオロギー的な側面についても一緒に考察していきたいと思えます。

■授業計画及び内容

毎回、各週のテーマに沿った材料の利用方法を研究した矩計図を提出し、発表してもらいます。発表に対する講評を行いながら、それぞれの材料のもつ機能的意味、意匠的意味を開発していきます。

以下の内容を予定しますが詳細のスケジュールについては本講義の冒頭で提示を行います。

- ・モダニズム（石、スチール、ガラス、コンクリート、木）
- ・既製品、オフ・ザ・シェルフ／イームズ、ラカトン&ヴァッサルなど
- ・セルフビルド／石山修武など
- ・大量生産、モジュラーコーディネーション
- ・ハイテック、生産主義／フォスター、ロジャース、ピアノなど
- ・ポストモダニズム、大衆主義／ヴェンチャーリなど
- ・フォルマリズム／磯崎新、篠原一男など
- ・批判的地域主義／内藤廣、隈研吾など
- ・ダーティーリアリズム／OMA など

■受講に当たっての留意事項

毎回の授業で、キーワードについての調査・研究発表を求めます。また、近代建築史の概要に関する理解を要する講義ですので、前期に行われる近代建築史Ⅰを事前に履修してください。

■成績評価方法

出席回数、毎回の研究発表の回数、内容によります。

■教科書／参考書

随時紹介します。

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	建築計画 I Architectural Planning I			
教員名	ヨコミゾ マコト			
開講時期	後期	金曜 2	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

テクノロジーロマン／アイデアルシティ／マテリアリティ

■授業計画及び内容

この授業は、従前の概念の再確認と拡張をめざしたものである。授業内容は大きく三部に分かれる。「テクノロジーロマン」では、技術の進展にともない変化し続ける住空間について住宅設備を切り口に分析する。「アイデアルシティ」では、都市人口の増大をもたらした産業革命以降に描かれた理想都市を近現代都市史として概説する。「マテリアリティ」では、素材の属性（プロパティ）が誘導するデザイン領域の拡張について論ずる。

- 第1回 テクノロジーロマン1
- 第2回 テクノロジーロマン2
- 第3回 テクノロジーロマン3
- 第4回 見学1
- 第5回 アイデアルシティ1
- 第6回 アイデアルシティ2
- 第7回 アイデアルシティ3
- 第8回 見学2
- 第9回 マテリアリティ1
- 第10回 マテリアリティ2
- 第11回 マテリアリティ3
- 第12回 見学3
- 第13回 演習課題1
- 第14回 演習課題2
- 第15回 レポート

■受講に当たっての留意事項

授業の最後は、簡単な課題演習を行う。
各部の節目に、関連する場所や施設、展覧会などの見学を行う。

■成績評価方法

出席回数と演習成果による。

■教科書／参考書

随時紹介

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	建築計画 II Architectural Planning II			
教員名	北川原 温			
開講時期	前期	金曜 2	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

建築家が、建築や環境や都市を計画するとき、どのように様々な条件や情報を理解し、そしてどのように空間的・形態的解決を行い空間的全体像を生み出してゆくのか。建築家がたどるこの計画のプロセスを建築家の想像力の固有性という問題に言及しながら実例について論ずる。

■授業計画及び内容

講義は以下の内容を中心に行う。

- 建築家の事務所を訪問し、実際の仕事の進め方を見学、意見交換を行う。
- 建築に直接・間接に関係する様々な周辺分野を概観する。
- 世界の地域や歴史の中に見られる建築のいくつかの事例について、計画論的な視点から分析する。
- 最近の数例のプロジェクトについてその計画の理念と実際について考察する。

■受講に当たっての留意事項

とくに建築家の事務所訪問の集合時刻を厳守のこと。

■成績評価方法

レポート及び各講義におけるディスカッション。

■教科書／参考書

適宜示す。

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	近代建築史 I History of modern architecture I			
教員名	野口 昌夫			
開講時期	後期	月曜 4	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

19世紀後半に始まる近代建築の歴史的、社会的背景と、鉄、ガラス、コンクリートという新しい素材に対し、ヨーロッパの建築家たちがどのような理念をもって建築を作り上げようとしたかを、時代の流れのみならず、ロンドン、パリ・ウィーン、アムステルダム、バルセロナといった近代に向かう都市の文脈の中で論ずる。とりあげる作品は約40点にしぼり、図面とスライドで解説する。

■授業計画及び内容

- 1 近代建築史を学ぶにあたって
- 2 近代建築の黎明：ロンドン
- 3 アール・ヌーヴォー：パリ、ブリュッセル
- 4 セセッション：ウィーン
- 5 オットー・ワグナーの建築
- 6 アントニオ・ガウディの建築 その1
- 7 アントニオ・ガウディの建築 その2
- 8 ベルラーヘとアムステルダム派 VS デ・ステイール（ロッテルダム派）
- 9 ミース・ファン・デル・ローエ建築
- 10 ル・コルビュジエの建築 その1
- 11 ル・コルビュジエの建築 その2
- 12 ル・コルビュジエの建築 その3

■受講に当たっての留意事項

授業で渡すプリントをファイルして保存すること。

■成績評価方法

出席回数及びレポート。

■教科書／参考書

参考書：「近代建築史図集」日本建築史学会論 彰国社、
「近代建築の黎明」1851-1919、K. フランプトン著、香山寿夫訳
ADA, EDITA TOKYO

■備考（オフィスアワー）

金曜日 15時～16時 建築理論第2 野口研

授業科目名	近代建築史 II History of modern architecture II			
教員名	光井 渉			
開講時期	前期	月曜 3	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

この講義では、日本近代（おおむね江戸時代中期から戦後まで）の建築の在り方を考えていきます。講義では、①この時期の日本社会の変化を概観しながら、その潮流の中で日本が受け入れた西洋建築の形態や考え方と、同時にともめられた日本的なものについて紹介していきます。併せて、建築を支える社会の仕組みとそこでの建築家という存在についても考えていきます。

■授業計画及び内容

各回のテーマは下記の内容の講義と上野公園周辺の近代建築見学を予定します（進行状況に応じて適宜変更する可能性があります）。

- 1 日本近代の建築と都市
- 2 江戸時代の近代化
- 3 建築の西洋化
- 4 建築教育と建築家
- 5 災害と建築
- 6 田園都市と郊外住宅地
- 7 都市化と産業化
- 8 国土と生活の変容
- 9 日本の伝統の解釈
- 10 建築表現の多様化
- 11 日本のモダニズムと戦後
- 12 試験

■受講に当たっての留意事項

講義中に東京近郊の現存する建築作品を紹介するので、休日等に見学するのが望ましい。

■成績評価方法

出席状況及び学期末の試験による。

■教科書／参考書

『カラー版 建築と都市の歴史』（光井渉・太記祐一著、井上書院）を講義中に使用しますので、必ず持参して下さい。

■備考（オフィスアワー）

月曜日 17:30～ 総合工房棟 B 棟4階 光井研究室（B-412室）

授業科目名	都市設計 Urban design			
教員名	窪田 亜矢			
開講時期	後期	火曜 4	単位	2
履修対象	学部 3 年生			
特記事項				

■授業テーマ

人々の生活の場である都市空間を対象として、以下の三つの技術を理解することが、本研究の目的である。

- ・現状を評価し、
- ・未来を構想し、
- ・そこに至る道筋と併せて提案する

■授業計画及び内容

- 1) 本講義の意図と目的
- 2) 都市計画／都市デザイン／まちづくりの全体像
- 3) 気になる都市空間（各自の発表と全員討議）
都市空間をどう評価すれば良いのか？、都市空間の現状と課題
- 4) 気になる都市空間（各自の発表と全員討議）
都市空間は多様であり、様々な評価があることを知る
- 5) 建て替えながら生活文化を継承する
まちづくり規範、デザインガイドライン
- 6) 都市の多様性を確保しながら建築文化を創造する
住民／市民／専門家の意見を反映させる仕組み
- 7) 住み続けられる地域圏／地域社会を構想する
住宅と福祉の融合、公共施設
- 8) 都市更新の仕組みを改善する
都市計画の制度、まちづくり条例
- 9) 気になる都市空間施策（各自の発表と全員討議）
行政や市民や NPO など、どのような主体でも構わないが、物理的な環境改善が行われた事例を採り上げて、その事業の実態を共有する。
- 10) 気になる都市空間施策（各自の発表と全員討議）
物理的な環境改善の実例を対象として、その事業を評価する。
- 11) 東日本大震災後の復興まちづくり - 1
- 12) 東日本大震災後の復興まちづくり - 2
- 13) 東京の 50 年後 - 1（各自の発表と全員討議）
- 14) 東京の 50 年後 - 2（各自の発表と全員討議）
- 15) まとめ

■受講に当たっての留意事項

活発な講義への関与を期待します。

■成績評価方法

学生発表とそれをふまえた意見交換、討議を成績評価の主軸とする。講義時間中の積極的な発言は特に重視して、評価したい。

■教科書／参考書

基本的には必要な資料は講義時間中に配布する。

■備考（オフィスアワー）

ak@ud.t.u-tokyo.ac.jp までお気軽にメールをください。

授業科目名	建築設備 Building services			
教員名	森 義之			
開講時期	前期	火曜 3	単位	2
履修対象	学部 3 年生			
特記事項				

■授業テーマ

地球規模の環境問題が顕在化した現在、大きな環境負荷比率を占める建築物において環境・エネルギー負荷抑制を目指した建築設計が求められている。また建物に求められる機能やサービスは益々多様化・高度化し、さらに東日本大震災後の原発問題や電力需要の逼迫を受け、建築設備の果たす役割・エネルギーインフラ問題への認識を持つことの重要性が改めて問われている。

本授業では、このような社会的背景を受けて社会を取り巻くマクロスケールの環境問題の知識を得ること、建築環境設計における基本的な知識の習得、さらに建築・インフラ設備の役割を分かりやすく解説する。

■授業計画及び内容

- 前半．環境配慮設計と建築設備の役割
1. 地球環境問題と環境配慮設計
 2. 建築設備の役割と設計の視点
 3. 環境設計手法（主に建築環境シミュレーション手法を軸に）
- 後半．設備設計概論
1. 空調設備設計
 2. 給排水設備設計
 3. 電気設備設計
 4. 自然エネルギー技術

■受講に当たっての留意事項

授業の度に講義資料を配付します。

■成績評価方法

出席点および最終授業日のレポート

■教科書／参考書

特になし。参考資料は配布資料内に提示。

■備考（オフィスアワー）

授業終了後、訊きたいこと等あれば別途メールでの質問を受け付けます。

授業科目名	建築社会制度 Legal system of Architecture			
教員名	河村 茂、多田 宏行、松村 進			
開講時期	後期	火曜 3	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

建築法規の理念と体系を把握し、建築関係法規の中核そして基本である、建築基準法における主要な制度・規定について、それが必要とされる社会的背景や目的・趣旨そして技術的な仕組みなどを、具体のまちづくりや公共建築の事例をまじえ実践的に学ぶとともに、社会ルールとしての法規と実際の都市とのつながりについて理解を求める。

■授業計画及び内容

講義は以下の内容を予定するが、状況等に応じて変更する場合もある。

- 1 建築基準法と建築関連法規の体系

法令の体系、法の目的と仕組み、法規及び行政を学ぶ心構え、用語の定義と適用の範囲・適用の除外、制度規定（確認、許可、検査、使用承認、定期報告等）、建築行政組織などについて学習
- 2 地区まちづくりと建築集団規定の関わり
 - ① 大崎、豊洲（造船所等）の大規模跡地開発／「道路規制、用途規制と地区整備の誘導制度（一団地認定、建築協定、地区計画等）」について学習
 - ② 明治生命館、東京駅舎等の保存・復元／「密度規制（容積率、建ぺい率、外壁の後退距離制限）と都市開発諸制度（総合設計、高度利用地区、特定街区、都市再生特別地区等）」について学習
 - ③ 原宿、代官山等の修復型まちづくり／「形態規制（高さ制限）と防火地域、緑化と街並み形成制度（緑化地域、景観地区）」について学習
- 3 公共建築物の計画と建設における建築単体規定の面からの配慮等
 - ① 計画設計段階での配慮事項／「一般構造、材料強度、耐火・避難など安全防災、衛生面からの規定、環境、景観、福祉のまちづくり条例など建築の質向上の面からの規定」について学習
 - ② 建設、管理運営段階での留意事項／「品質の確保、建設廃棄物の処理、工事危害防止、健康被害の抑制、長寿命化、地域開放のためのルールなど」について学習
- 4 国内外の都市建築の動き
 - ① 国外における都市づくりの潮流と建築法規の絡みについて学習
 - ② 建築行政の面からみた国内の建築・まちづくりの動きについて学習
(現場学習)

現地へ赴き、建築社会制度をふまえてできた、具体のまちや建築物を見学し、法規との関係を体感するとともに、現場で話を聞くことで知識だけでなく体験を通じ学習。

■受講に当たっての留意事項

上記「4事例学習」(学期間に1回)は、火曜日の3～5限を用いて行うので、他科目の履修に注意すること。

■成績評価方法

出席日数とレポートの評価点

■教科書／参考書

「建築からのまちづくり・清文社」

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	建築施工 I Building construction I			
教員名	山梨 知彦			
開講時期	前期	月曜 4	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

設計の内容を具現化するには、施工のプロセスは不可欠である。設計意図を施工者に伝え、また施工者の意見を適切にフィードバックすることは、よりよい建築を作り出す上で不可欠な作業であるとも言える。本授業は、種々の現場を、設計者そして施工者の立場からの説明を聞き、そして自ら見学をすることで、設計者に必要な「施工段階で設計者は何をすべきか」の基礎を学ぶことを目的とする。

■授業計画及び内容

以下の内容を予定するが詳細のスケジュールについては授業冒頭で提示を行います。

- 1 ガイダンス 設計者が施工段階で行うこと
- 2 木質建築（その1）
- 3 木質建築（その2）
- 4 祝日・休講
- 5 オフィス（その1）
- 6 オフィス（その2）
- 7 内装工事（その1）
- 8 内装工事（その2）
- 9 小規模現場（その1）
- 10 小規模現場（その2）
- 11 工場見学（その1）
- 12 工場見学（その2）
- 13 レポート作成
- 14 レポート講評と質疑応答
- 15 ディスカッション

■受講に当たっての留意事項

初回および第13回のみ、教室によるパワーポイントを用いた講義形式。

2回～12回、14、15回は、現地（建設現場など）での講義

■成績評価方法

レポートと出席点による

■教科書／参考書

授業内に参考図書リストを配布

■備考（オフィスアワー）

特になし

授業科目名	建築施工Ⅱ Building construction II			
教員名	荻原 剛、内木 博喜			
開講時期	後期	火曜 2	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

本講座は「建築技術表現論」と題し、建築のものづくり（設計・施工）のプロセス・技術を知ることで生まれるデザイン及び表現を講義する。コンクリートから木造までの構造表現、住宅から超高層に至る建築プログラム、多様な素材表現、古典から最先端に至る施工技术、等を切断面にし、そこに浮掘りにされる構工法とデザインの関係を習得する。

■授業計画及び内容

- ①ガイダンス
- ②コンクリート造と表現－1（萩原）
コンクリート建築の構工法と表現－近現代コンクリート建築の概論と事例解説
- ③コンクリート造と表現－2（内木）
住空間とコンクリート－壁と柱、光と影、外殻と柔間
- ④S造と表現－1（萩原）
超高層ビルの構造と表現－シカゴ派から現代までの概説と事例解説
- ⑤S造と表現－2（内木）
住空間とスチール－点と線、透けと間、水泡と雲
- ⑥CWの表現と歴史（萩原）
カーテンウォールの誕生と変遷
- ⑦ガラスと表現（萩原）
ガラスの皮膜その工法と表現－近現代ガラス外装表現の概説と事例解説
- ⑧PCと表現（萩原）
プレキャストコンクリートの多様な表現－近現代PC表現の概説と事例解説
- ⑨金属と表現（萩原）
金属の多様な表現。－近現代金属表現の概説と事例解説
- ⑩木造と表現－1（萩原）
木造空間の変遷と先端技術。
- ⑪木造と表現－2（内木）
住空間と木造－変形と蘇生、異形の家 / 日本における木造の意味
- ⑫先端技術－1（萩原）
免震・耐震技術における工法とデザイン
- ⑬先端技術－2（萩原）
コンピューターと空間表現
- ⑭⑮レポート課題提出・出題

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

出席とレポート

■教科書／参考書

なし。パワーポイントにおける講義形式

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	環境工学Ⅰ Environmental Engineering I			
教員名	平手 小太郎			
開講時期	前期	金曜 3	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

本授業では、人間の生理面・心理面との関係が深く、生活と密着した建築環境・空間内の物理的諸要因について取り扱う。具体的には、健康で快適な居住環境を実現するため、光環境、音環境などのさまざまな問題について、その内容、基本原理、外部条件、制御の方法、建築的対応・課題などの観点から論じて行く。

■授業計画及び内容

- 第1回 居住環境（健康、快適）
- 第2回～第7回 光環境（視覚、照明、採光、日照・日影、色彩）
- 第8回～第12回 音環境（聴覚、音の伝搬、騒音、遮音、音響調整）
- 第13回以降 その他関連事項

■受講に当たっての留意事項

特になし。

■成績評価方法

出席点と各回の小テスト点

■教科書／参考書

加藤信介・土田義郎・大岡龍三著：図説テキスト 建築環境工学、彰国社、2002年

■備考（オフィスアワー）

本務校：東京大学 大学院工学系研究科 建築学専攻
住所：〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1 工学部1号館109号室
電話：03-5841-6177
電子メール：[mail]hirate@arch.t.u-tokyo.ac.jp[/mail]

授業科目名	環境工学Ⅱ Environmental Engineering II			
教員名	平手 小太郎			
開講時期	後期	金曜 3	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

本授業では、人間の生理面・心理面との関係が深く、生活と密着した建築環境・空間内の物理的諸要因について取り扱う。具体的には、健康で快適な居住環境を実現するため、熱環境、空気環境などのさまざまな問題について、その内容、基本原理、外部条件、制御の方法、建築的対応・課題などの観点から論じて行く。

■授業計画及び内容

第1回 外部気候（温湿度、雨、風）
 第2回～第6回 熱環境（温熱感覚、伝熱、断熱、日射、熱負荷、省エネルギー）
 第7回～第10回 空気環境（空気質、換気、通風、防湿、結露）
 第11回～第12回 都市環境（環境汚染、環境共生）
 第13回以降 その他関連事項

■受講に当たっての留意事項

特になし。

■成績評価方法

出席点と各回の小テスト点

■教科書／参考書

加藤信介・土田義郎・大岡龍三著：図説テキスト 建築環境工学、彰国社、2002年

■備考（オフィスアワー）

本務校：東京大学 大学院工学系研究科 建築学専攻
 住所：〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1 工学部1号館109号室
 電話：03-5841-6177
 電子メール：[mail]hirate@arch.t.u-tokyo.ac.jp[/mail]

授業科目名	建築一般構造 Architectural ordinary structure			
教員名	永井 佑季			
開講時期	前期	火曜 5	単位	2
履修対象	学部3年生			
特記事項				

■授業テーマ

歴史的建造物から現在進行中のプロジェクトまで、実例を元に構造・工法と建築設計との関係を理解する。主だった構造形式の類型を理解する。

■授業計画及び内容

1. オリエンテーション
2. 大空間建築（1）
3. 大空間建築（2）
4. 透明・薄い建築（1）
5. 透明・薄い建築（2）
6. 木質構造（1）
7. 木質構造（2）
8. 形態の多様化と複雑化（2）
9. 形態の多様化と複雑化（3）
10. 高層建築（1）
11. 高層建築（2）
12. 素材の多様化（1）
13. 素材の多様化（2）
14. その他の構造
15. まとめ

■受講に当たっての留意事項

出席し、講義時間中の課題を通して理解をはかること。

■成績評価方法

出席点と講義時間中の課題の評価点数の総合評価とする。

■教科書／参考書

構造デザインの歩み 構造設計者が目指す建築の未来 JSCA 構造デザインの歩み編集WG 著 建築技術

■備考（オフィスアワー）

火曜日 構造第一研究室

授業科目名	特論 建築史 I History of architecture I			
教員名	野口 昌夫			
開講時期	前期	月曜 4	単位	2
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

南イタリアのバロック建築

■授業計画及び内容

古代ギリシア起源の都市ナポリ（ネア・ポリス：新都市の意）は、古代ローマを受容した後に、中世、ルネサンスと展開する過程でノルマン、フランス（アンジュー家）、スペイン（アラゴン家）と支配者が変転する。18, 19 世紀には再びフランスのブルボン家の支配下に置かれ、数多くの壮麗なバロック建築が出現し、ナポリは豪奢でダイナミックなバロック都市に変貌する。本講義はまずローマのバロック建築とナポリのバロック建築をとりあげ、その後シチリア・バロック建築を論じ、南イタリアのバロック都市・建築の形態と空間を分析する。

- 1 バロック建築とは何か
- 2 ローマのバロック建築 その1
- 3 ローマのバロック建築 その2
- 4 ナポリの都市形成史
- 5 ナポリのバロック建築 その1
- 6 ナポリのバロック建築 その2
- 7 パレルモの都市形成史
- 8 パレルモのバロック建築 その1
- 9 パレルモのバロック建築 その2
- 10 カタニアのバロック建築
- 11 ラグーサのバロック建築
- 12 モディカのバロック建築
- 13 ノートのバロック建築
- 14 総括、小論文の書き方指導

■受講に当たっての留意事項

配布プリントをファイルし、小論文を書くときの資料とすること。

■成績評価方法

出席回数と小論文の審査

■教科書／参考書

陣内秀信 『歩いてみつけたイタリア都市のバロック感覚』 小学館
陣内秀信 『シチリア ― <南>の再発見』 淡交社

■備考（オフィスアワー）

金曜日 16時～17時、野口研究室（総合工房棟4F）

授業科目名	特論 建築史 II（都市遺産保存論） History of architecture II			
教員名	光井 渉			
開講時期	後期	月曜 5	単位	2
履修対象	大学院生			
特記事項	振替措置（建築→建築史 II、文化財→都市遺産保存論）			

■授業テーマ

近年、歴史的建造物は文化遺産としてはもとより、身近にある町づくりの資産として脚光を浴びています。この講義は、「文化的資産としての歴史的建造物」と題して、明治以降現在まで歴史的建造物がどのように捉えられてきたのかについて検証していきます。

■授業計画及び内容

各回のテーマは以下のものを予定しますが、進行状況に応じて変更する可能性があります。

- 1 日本の歴史的建造物（ガイダンス）
- 2 文化的価値の発見
- 3 保存の視点
- 4 価値評価と修理
- 5 復原の是非
- 6 史跡と城郭
- 7 再現
- 8 民家の保存
- 9 近代建築の保存
- 10 古都の保存
- 11 集落・町並みの保存
- 12 町づくりへ

■受講に当たっての留意事項

振替措置：建築専攻学生は「建築史 II」、文化財保存学専攻学生は「都市遺産保存論」。必ず該当する科目を履修すること。履修科目を誤った場合には、修了単位に認定されない。

■成績評価方法

出席状況にレポートを加えて評価する。

■教科書／参考書

第1回目の講義の際に、参考文献リストを配布します。
参考図書 『カラー版 建築と都市の歴史』（光井渉・太記祐一著、井上書院）

■備考（オフィスアワー）

月曜日 17:30～ 総合工房 B 棟4階 光井研究室（B-412室）

授業科目名	特論 建築史Ⅲ History of architecture III			
教員名	石川 清			
開講時期	前期	月曜 5	単位	2
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

15、16 世紀イタリアの建築家の職能形成過程における建設営為を、中世末期から初期ルネサンスのフィレンツェの状況と、初期ルネサンスから盛期ルネサンスへと至るイタリア建築状況を考察し、「建築のルネサンス」の展開と職能形成のメカニズムを探る。

■授業計画及び内容

15 世紀においてフィレンツェ大聖堂のクーボラ建設は、建築のルネサンスの黎明を意味すると同時に、中世の伝統的建設法との訣別を意味していた。今までに体験しなかった規模と困難さわまる技術的問題は、従来のカーポマエストロ（職人頭）の能力を超えたものであった。この建設の主導権は、伝統的な労働の担い手からこの計画を実現する創造力を持った有識者へと移り、その役割を担ったのがフィリッポ・ブルネレスキであった。その様相とその後の展開を考察する。

1. ルネサンスの定義
2. ルネサンス論の現在
3. ブルネレスキ：建築の技術革新
4. ミケロツォ：建築文化地平の確立
5. アルベルティ：建築の理論化
6. ルネサンス建築書の中の古代
7. 理想都市
8. 個人居住区画（アパルタメント）の成立
9. パラディオ主義の功罪
10. 総括

■受講に当たっての留意事項

適宜配布される資料を精読しておくこと。

■成績評価方法

授業参加とレポート提出

■教科書／参考書

特になし。

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	特論 環境計画 I Environmental Planning I			
教員名	宿谷 昌則			
開講時期	前期	金曜 5	単位	2
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

私たちは皆、多くの時間を建築空間で過ごす。人のからだの周囲に広がる空間を環境と呼ぶが、この環境を如何にデザインしていくべきか、その基本となる考え方を、熱力学や人間生物学の視点から学ぶ。

■授業計画及び内容

- 第一回 環境と形（入れ子構造、形は情報：カタチとカタ）
- 第二回 建築環境システムの型（パッシブとアクティブ）
- 第三回 ヒトのからだ（臓性系器官と体性系器官）
- 第四回 宇宙と住居（太陽位置・庇・窓・体内時計）
- 第五回 システムの持続的な活動（物質循環の鍵は何か？）
- 第六回 植物系の熱力学と環境（葉緑体から葉・樹木・樹木群まで）
- 第七回 動物系の熱力学と環境（ミトコンドリアから細胞・ヒトのからだまで）
- 第八回 生態系の熱力学と環境（小循環から大循環まで一環境の入れ子構造）
- 第九回 照明システム（昼光照明・電灯照明と明視照明・雰囲気照明）
- 第十回 暖房システム（断熱・蓄熱 と 被暖・温房・採温）
- 第十一回 冷房システム（遮熱・通風・蓄冷 と 被寒・涼房・採冷・採涼）
- 第十二回 分離と相互拡散（「かたち」あるモノの生成と維持 水と水蒸気）
- 第十三回 水飲み鳥と地球環境（流れと循環がつくるほどよい環境空間）
- 第十四回 まとめ

■受講に当たっての留意事項

特になし

■成績評価方法

講義内容に関連する事柄のレポートと各自のプレゼンテーションを評価する。

■教科書／参考書

宿谷昌則：「自然共生建築を求めて」（鹿島出版会、1999 年）
宿谷昌則編著：「エクセルギーと環境の理論 — 改訂版」（井上書院、2010 年）

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	特論 環境計画Ⅱ Environmental Planning II			
教員名	高井 啓明			
開講時期	後期	金曜 5	単位	2
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

建築計画的アプローチと環境工学的アプローチの統合を目指し、それぞれの方法論、設計プロセス、事例についての講義と演習等を通して議論を行う。環境計画の視点からの実際の設計を中心に講義。

■授業計画及び内容

- 第1回 建築環境・環境計画の歴史
世界・日本の環境、建築に関する年表や建築における環境計画、環境技術の歴史を辿る
- 第2回 サステナブル建築 世界の環境性能評価
サステナブル建築とは何か、LEED・CASBEEなどの環境性能評価について概説する
- 第3回 パッシブデザイン 環境コンセプト 世界の環境建築
パッシブデザインとその活動、環境コンセプトや世界の環境建築を紹介する
- 第4回 世界の省エネルギー基準 ゼロエネルギー建築
日本・世界の省エネルギー基準の変貌、ゼロエネルギー建築の動向などを紹介する
- 第5回 人の感性・快適性 知的生産性
建築の中に居る人の感性、快適性、知的生産性を高める空間・環境計画について考える
- 第6回 ライフサイクル評価
ライフサイクルコスト、ライフサイクルアセスメントについて概説する
- 第7回 事務所の計画事例
事務所建築の環境デザインについて事例を用いて紹介する
- 第8回 福祉施設 学校の計画事例
福祉施設・学校の環境デザインについて事例を用いて紹介する
- 第9回 劇場 図書館の計画事例
劇場・図書館の環境デザインについて事例を用いて紹介する
- 第10回 大空間の計画事例
大空間の環境デザインについて事例を用いて紹介する
- 第11回 地域・都市の計画事例
地域・都市の環境デザインについて事例を用いて紹介する
- 第12回 環境計画演習1(課題説明) デザインとエンジニアリングのコラボレーション
デザインと環境エンジニアリングの協業のあり方について事例を用いてそのプロセスを紹介する
- 第13回 環境計画演習2(演習・議論)
計算やシミュレーションも行いながら、環境コンセプト、建築・設備計画の方向性を収斂させる
- 第14回 環境計画演習3(発表・講評)
プロポーザルを発表し、個別に講評する

■受講に当たっての留意事項

特になし

■成績評価方法

レポート提出および演習発表の評価

■教科書／参考書

「環境としての建築」R. バンハム (鹿島出版会)、「地球環境建築のすすめ」日本建築学会編 (彰国社)、設計のための建築環境学 みつづける・つくるバイオクライマティックデザイン (彰国社)

■備考 (オフィスアワー)

takai.hiroaki@takenaka.co.jp

授業科目名	特論 建築構造論Ⅰ Structural Behaviour and Form I			
教員名	金田 充弘			
開講時期	前期	金曜 3	単位	2
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

既存の工法の種類や事例に囚われず、素材そのものの物理的特性を理解する。建築構造として生かす可能性について議論し提案することで構造と素材に対する理解を深める。

■授業計画及び内容

1. オリエンテーション
2. 素材の種類と可能性について
3. 素材1 リサーチ・プレゼン (1)
4. 素材1 リサーチ・プレゼン (2)
5. 素材2 リサーチ・プレゼン (1)
6. 素材2 リサーチ・プレゼン (2)
7. 素材3 リサーチ・プレゼン (1)
8. 素材3 リサーチ・プレゼン (2)
9. 素材4 リサーチ・プレゼン (1)
10. 素材4 リサーチ・プレゼン (2)
11. 素材5 リサーチ・プレゼン (1)
12. 素材5 リサーチ・プレゼン (2)
13. 素材6 リサーチ・プレゼン (1)
14. 素材6 リサーチ・プレゼン (2)
15. まとめ

■受講に当たっての留意事項

出席し、講義時間中の課題を通して理解をはかること。

■成績評価方法

出席点と講義時間中の課題の評価点数の総合評価とする。

■教科書／参考書

特になし。

■備考 (オフィスアワー)

金曜日 構造第一研究室

授業科目名	特論 建築構造論Ⅱ Structural Behaviour and Form II			
教員名	尾関 美紀			
開講時期	後期	金曜 3	単位	2
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

最新の研究や、実プロジェクトを通して、建築構造の現在を理解する。研究者、実務者を招いて、研究・設計業務の実際について講義を受ける。

■授業計画及び内容

1. イントロダクション
2. 木質構造最新事例紹介
3. 木質構造Ⅰ（木質構造を専門とする構造設計者による木質構造設計の要点）
4. 木質構造Ⅱ（木材加工の専門家による、製作側からの木質構造の要点）
5. 鋼構造最新事例紹介
6. 鋼構造Ⅰ（鋼構造の製作・施工の専門家による鋼構造の要点）
7. RC 構造最新事例紹介
8. PC 構造最新事例紹介
9. FRP 構造（繊維補強樹脂構造の紹介）
10. 耐震技術Ⅰ（免震技術の紹介）
11. 耐震技術Ⅱ（制振技術の紹介）
12. 実務に携わる構造エンジニアによる事例紹介（個人事務所をベースに活動）
13. 実務に携わる構造エンジニアによる事例紹介（組織事務所をベースに活動）
14. 実務に携わる構造エンジニアによる事例紹介（施工会社をベースに活動）
15. まとめ

■受講に当たっての留意事項

出席し、講義時間中の課題を通して理解をはかること。

■成績評価方法

出席点とレポートの評価点数の総合評価とする。

■教科書／参考書

特になし。

■備考（オフィスアワー）

金曜日 17:30～18:30 構造第一研究室

授業科目名	特論 建築都市計画論Ⅰ Architectural and Urban Design I			
教員名	岸田 省吾			
開講時期	前期	火曜 4	単位	2
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

建築のデザインとはどのようなものか、建築は我々にどのように働きかけてくるか問い直す。デザインを、デザインすること（制作）とデザインされた建築を経験すること（享受）の両面から考える。

講義は三つの段階に分けられる。建築を成立させる基本的な条件、それに対応する建築の基本的な要素について考える。次いで建築のデザインに現われた代表的な形像をとりあげ、実際のデザインで何が問題とされてきたか考える。最後に建築に固有な経験、建築に固有な表現方法を問う。

建築のデザインを理解する上で重要な事項として、デザインに込められる「意図」、そして「意図」をもったデザインがいかんにかまとめられるかについても考える。

講義は建築の力を少しでも実感できるように古今東西の数多くの事例を示しながら進める。古代から現代建築まで様々な建築作品を、デザインという実に人間的な営為から捉え直す機会としたい。

■授業計画及び内容

- 1回 建築デザイン「論」とは
- 2回 内外を分ける
- 3回 開口をあける
- 4回 光と影を扱う
- 5回 部屋は生きている（ゲスト1／カーンの憂鬱）
- 6回 場所とは何か
- 7回 環境は連続する（ゲスト2／変容する大地）
- 8回 型へ収斂する
- 9回 シェマとグリッドにすむ
- 10回 不可能なデザインをデザインする（ゲスト3／プライスの栄光と挫折）
- 11回 身体が思考する
- 12回 時を見る（ゲスト4／時を眺める身体）
- 13回 眼が運動する
- 14回 時間を生きる（ゲスト5／宙ぶりの時間を生きる視線）
- 15回 状況から何が見えるか

■受講に当たっての留意事項

建築デザインを身体と眼による思考という視点からとらえ直す。ゲストとの議論を通し論点を立体的に浮き立たせる。受講には具体から抽象する理解力と講義に参加するという意識を求めたい。

■成績評価方法

出欠とレポートによる

■教科書／参考書

岸田省吾著「建築意匠論」（2012、丸善出版）
参考書として岸田省吾編著「建築の『かたち』と『デザイン』」（2009、鹿島出版会）

■備考（オフィスアワー）

講義終了後、必要に応じ随時

授業科目名	特論 建築都市計画論 II Architectural and Urban Design II			
教員名	赤坂 喜顕			
開講時期	後期	月曜 3	単位	2
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

— “形 (FORM)” と “力 (FORCE)” — 歴史にみる対抗の連鎖 — 西欧におけるギリシャ・ローマ時代からのルネッサンス期を経て現在まで、歴史の底部を流れ続けた 2 つの異なる流れを、形態志向主義…… “形” と構造志向主義…… “力” とし抽出し、各時代がその 2 つの流れの対抗の連鎖によって形成されてきたことを各作品の詳細な形態分析を駆使して説明する。

■授業計画及び内容

1. ガイダンス…………… “形” (形態至上主義) と “力” (構造至上主義) についての概説、及び歴史のルートについて。
2. 2 つの流れ…………… ギリシャ “形” 対ローマ “力” からビザンチン・ゴシックまで、及び日本建築現代建築の比較について。
3. ローマ以後 I…………… ラテン的展開 (アルプス以南・地中海世界)
イタリアルネッサンス初期から盛期、マニエリスム及びバロックまで。
4. ローマ以後 II…………… ゲルマン的展開 (アルプス以北・中欧世界)
ドイツ新古典主義とウィーンの革命、パウハウス対ナチスドイツ及びミースについて。
5. もうひとつの近代…………… スカンジナビアの展開 (フィンランド湾と北欧世界)

G. アスプルンドやアアルトにみる視線の構成と素材の風景について。
いずれの授業も講義と演習をセットにして行われる。

■受講に当たっての留意事項

連続的なレクチャーなので欠席不可

■成績評価方法

出席率とレポートの評価

■教科書／参考書

特になし

■備考 (オフィスアワー)

授業科目名	特論 建築論 Architectural theory			
教員名	入江 経一			
開講時期	後期	金曜 2	単位	2
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

「デザイン」
デザインという言葉は 18 世紀に生まれ工業と結びつきながら発達したが、このような人間の行為は近代のみならず、古代から現在にいたるまで様々に広がる。ここでは、歴史的なものから現代にいたるまで、都市や建築を横断しつつ多様な視点で、社会や生産、テクノロジー、美術などの幅広い活動のなかでのデザインを考察する。

■授業計画及び内容

- (1) 歴史的な背景からデザインを追う流れ。
古代ギリシャ、ローマ
ロマネスクとゴシック
人文主義
ルネッサンス、マニエリスム、バロック
17 世紀の合理主義
19 世紀から 20 世紀にかけての都市と美術とデザイン
近代主義
変革の時代のデザイン
ポストモダン社会のデザイン
情報化社会のデザイン

- (2) テーマによってデザインを追う流れ
アーチ、ドーム
構造とデザイン
歴史主義
装飾、
グリッド ミースとコルビジェ
条理空間と平滑空間
インタラクションデザイン
アルゴリズムックデザイン

■受講に当たっての留意事項

特になし

■成績評価方法

出席とレポート

■教科書／参考書

のちに指定

■備考 (オフィスアワー)

授業科目名	実測 Measurement of Historical architecture		
教員名	光井 渉		
開講時期	集中	単位	2
履修対象	建築科 学部2年生対象		
特記事項			

■授業テーマ

歴史的建造物に直接触れ、精度の高い計測方法を習得し、その内容を図面として表現することを通じて、建築や環境の仕組みや形態を実体験として修得する。

■授業計画及び内容

夏期（7月下旬～8月上旬を予定、詳細については6月中に改めて告示する）に8日間程度の日程で実施する。実施対象については未定であるが、内容については以下の通り。

- 1 建築計測の方法（講義）
- 2 予行演習（学内の建築で実施）
- 3 建造物の計測（3～4日間を予定）
- 4 図面化の方法（講義）
- 5 図面化（分担して実施）
- 6 図面帳の作成

■受講に当たっての留意事項

事前に詳細な日程を掲示し、注意事項の説明会を行うので、その際に指定された製図道具等を持参すること。また、集中講義等の日程と重なることがあるので留意すること。

■成績評価方法

出席状況と作成野帳・図面による。

■教科書／参考書

資料を配布する。

■備考（オフィスアワー）

計測及び図面化作業中に常時行う。

先端芸術表現科

授業科目名	IMA 英語 (取手) Inter Media English			
教員名	荏開津 広			
開講時期	通年	火曜 1	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

The main objective is to develop English speaking capability for exchanging ideas about various aspects of contemporary arts which is critically needed.

■授業計画及び内容

One key concept or pair of concepts is discussed based on a specific text or texts. The students are required to do a series of assignments, including reading, writing, and presentation.

■受講に当たっての留意事項

The class is conducted in English.

■成績評価方法

assignments 50% commitments of the class 50%

■教科書／参考書

T. B. A.

■備考（オフィスアワー）

Please make an appointment by e-mail.

芸術学科

授業科目名	芸術学演習 I Seminar in the theory of fine arts I			
教員名	松尾 大			
開講時期	前期	水曜 2	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

美学テキストの読解と作成

■授業計画及び内容

美学に属するテキストを読む練習と、美学に属する論題をめぐって議論を構築する練習を行う。後者は、書かれた論を作ることを最終的には目指すが、それに至るプロセスでは口頭での討論も行う。

■受講に当たっての留意事項

出席を重視する。

■成績評価方法

平常点

■教科書／参考書

授業中に指示する。

■備考（オフィスアワー）

質問等があれば授業後に受ける。

授業科目名	芸術学演習 II Seminar in the theory of fine arts II			
教員名	田邊 幹之助			
開講時期	後期	水曜 2	単位	2
履修対象	学部生			
特記事項				

■授業テーマ

西洋美術史研究方法の基礎

■授業計画及び内容

芸術学科学部1年生を対象とする必修科目である。後期は西洋美術史の基礎演習を行う。西洋美術史研究室の教員3名がリレー方式で担当し、各教員からレポートあるいは試験の課題が出される。

■受講に当たっての留意事項

出欠席を重視する。芸術学科学部1年生は必ず履修すること。なお、前期の「芸術学演習 I」とは別な授業であり、両方に登録が必要なので注意すること。

■成績評価方法

平常点（出席）・レポートあるいは試験

■教科書／参考書

授業中に適宜、指示する。

■備考（オフィスアワー）

水曜日 14時15分～15時15分 中央棟3階 西洋美術史研究室
あるいは、各担当教員に個別にメールでアポイントを申し込むこと。

授業科目名	論文作成演習 Thesis making maneuver		
教員名	芸術学科教員		
開講時期	集中	単位	2
履修対象	学部生		
特記事項			

■授業テーマ

卒業論文作成のための演習

■授業計画及び内容

芸術学科学部4年生（平成18年度入学以降の学生）を対象とする必修科目である。4年次に各研究室ごとに実施する。実施形態に関しては、各研究室より指示する。

■受講に当たっての留意事項

3年次に行われる卒業論文指導会にて詳細を指示するので必ず出席すること。

■成績評価方法

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	美学特講（川瀬） Special studies of Aesthetics			
教員名	川瀬 智之			
開講時期	通年	月曜 5	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

20世紀美学の諸問題

■授業計画及び内容

この授業では、近現代の美学や芸術論において、感情、象徴、想像力といった概念が、いかなる仕方でも考えられているかについて論じる。必要に応じて近代や現代の具体的な芸術作品にも言及し、美学的思索と芸術作品との連関についても考えていく。

■受講に当たっての留意事項

特になし。

■成績評価方法

平常点（出席）とレポート

■教科書／参考書

必要に応じてプリントを配布する。

■備考（オフィスアワー）

質問等があれば授業後に受ける。

授業科目名	美学特講 (今村) Special studies of Aesthetics			
教員名	今村 純子			
開講時期	前期	火曜 2	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

美学から詩学へ

■授業計画及び内容

この講義では、美学の諸問題が、実際の芸術作品においてどのようにして生きられ感じられるものとなるのか、またそれが、わたしたち自身がその担い手である、わたしたちそれぞれの生の創造をどう促していくのかを考察してみたいと思います。講義では、様々な映画作品、文学作品を取り入れることを予定しています。

☆取り上げる予定の映画／文学：ジョナス・メカス監督『リトアニアへの旅の追憶』、キム・ギドク監督『春夏秋冬そして春』、宮崎駿監督『風立ちぬ』／ドストエフスキー『悪霊』、フランツ・カフカ『城』、ミヒヤエル・エンデ『モモ』など

1. われ（イメージする）、ゆえにわれあり
2. イメージのまがい物
3. 想像力と欲望の問題
4. 詩は絵のごとく／絵は詩のごとく
5. 資本主義と詩
6. 科学技術時代のイメージ思考
7. 「芸術創造」と「生の創造」
8. 美学（アイステーシス＝見ること）から詩学（ポイエーシス＝創ること）へ

■受講に当たっての留意事項

毎回の授業で扱ったことが、日常生活のなかで、また創作活動のなかで、どのように生きられ感じられるのかを考察してみましょう。そしてそれを借り物ではない自分自身の言葉で表現できるよう心がけてみましょう。

■成績評価方法

出席＋リアクションペーパー（40%）および学期末試験（60%）で評価します。

■教科書／参考書

今村純子著『シモーヌ・ヴェイユの詩学』慶應義塾大学出版会、2010年
今村純子責任編集『現代詩手帖特集版 シモーヌ・ヴェイユ』思潮社、2011年
シモーヌ・ヴェイユ著、今村純子訳『前キリスト教的直観』法政大学出版局、2011年

■備考（オフィスアワー）

質問等は授業終了後、およびE-mail で対応します。

授業科目名	美学特講 (長谷川) Special studies of Aesthetics			
教員名	長谷川 明子			
開講時期	前期	月曜 4	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

去年に引き続き、恐怖感を誘うようなイメージを扱う。まず伝統的な美学の枠組みの中で、具体的な作品を例示しつつ、これらのイメージのあり方を確認する。さらに精神分析的方法を取り入れながら、現代的な問題として考える。

■授業計画及び内容

第1回 ガイダンス

第2～9回 美学的な背景から

恐れと哀れみ（アリストテレス『詩学』）
芸術における強い情念の表現（プラトン『国家』とデュボス『詩画論』の対立）
快・不快の感情（カント『判断力批判』とデリダ『芸術と真実』メニンハウス『吐き気』）
不安と退屈、抛りどころの無さ（ハイデガーにおいて）とナチスの残酷
エルンスト・ユンガーの残酷描写とその写真的な視覚性
ベンヤミンにおける複製芸術とショック作用『複製技術時代の芸術作品』、『ドイツ哀悼劇の根源』
ロラン・バルトにおける写真と死の表象

第10～12回 精神分析において

ラカンとフロイト；「死んだ息子の夢」、「イルマの注射の夢」の分析
クリスティヴァ『斬首の光景』
松浦寿輝『平面論』

第13回 まとめ

第14回 試験

第15回 試験の解説

■受講に当たっての留意事項

テーマの性格上、グロテスクな画像、映像等を使用するので、注意してほしい

■成績評価方法

試験、小テストを総合して評価する。

■教科書／参考書

必要に応じて、指示する。

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	美学特講（現代芸術論Ⅰ） Special studies of Aesthetics (Lecture on Modern Art I)			
教員名	鈴木 賢子			
開講時期	後期	金曜 4	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項	現代芸術論Ⅰ と併習（振替措置）			

■授業テーマ

本講義では、アートや文芸、メディア文化における事例を中心に取上げながら、現代社会を捉え直すための方法を探します。

まずは導入として歴史を辿り、現代とのつながりを確認することで、われわれに埋め込まれたパースペクティブを意識化します。意識と無意識、物質と精神、イメージと知の関係性が主要なテーマ系となります。次に、アートや文芸、メディア文化において、前半で考察したテーマ系がいかに作品に現れるのか、ジェンダーの観点を導入しながら分析します。

■授業計画及び内容

- 1 ガイダンス
- 2 近代における意識と身体の問題
- 3 ダーウィン・ショック
- 4 19世紀の心霊主義
- 5 心霊写真
- 6 ヴァルター・ベンヤミン、ロラン・バルトの写真論
- 7 ディスカッション——物質と精神について
- 8 近代社会と一望監視システム、パノプティコン
- 9 レベッカ・ホルン《牢獄》の母胎空間
- 10 E. T. A. ホフマン「砂男」における女性機械
- 11 フロイト「不気味なもの」——エロスと死の欲動をめぐって
- 12 ヴィクトル・エリセ『ミツバチのささやき』作品分析
- 13 『ミツバチのささやき』における少女と怪物
- 14 総合演習とテスト
- 15 マヤ・デレン『魔女のゆりかご』における〈美術史〉の読み変え

■受講に当たっての留意事項

授業中に触れたテーマについて、ときどきリアクション・ペーパーを提出していただきます。リアクション・ペーパーも評価の対象となります。

■成績評価方法

出席が3分の2に満たない場合は単位認定をしません。課題提出を含めた平常点50%、テスト50%で評価します。

■教科書／参考書

そのつど指示します。

■備考（オフィスアワー）

授業その他に関する質問は中央棟3階芸術学科美学研究室に問い合わせること。

授業科目名	美学特講 A（松尾） Seminar in aestheticsA			
教員名	松尾 大			
開講時期	前期	月曜 3	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

ポリフォニー、視点、焦点 — 文学のナラトロジー的分析

■授業計画及び内容

ナラトロジー（物語論）が提供する諸概念のうち、特に「ポリフォニー」、「視点」、「焦点」について論じます。これらの概念は、テキストに登場する作者、語り手、登場人物などのさまざまな発話、見解、信念、イデオロギー、態度を識別し、それらの響き合い、融合、干渉を解明する有力な武器となりえます。したがって、それらの概念を説明し、それらが実際のテキスト（主に小説）にどのように適用されるかを見ます。バフチン（ポリフォニー）、デュクロ（ポリフォニー）、ジュネット（視点と焦点）、バル（焦点）、ファウラー（視点）、ランサー（視点）をはじめとして、多くの理論を取り上げ、それらの内容と射程を考察します。

- 1 バフチンのポリフォニー概念
- 2 デュクロにおける発話のポリフォニー理論
- 3 ポリフォニーの種類 (1)
- 4 ポリフォニーの種類 (2)
- 5 フィギュールとポリフォニー (1)
- 6 フィギュールとポリフォニー (2)
- 7 ジュネットの視点概念
- 8 バルの視点概念
- 9 視点と焦点
- 10 文学テキストへの視点概念の適用（ランサー理論）
- 11 話法と視点 (1)
- 12 話法と視点 (2)
- 13 Fowler の語り手の概念
- 14 小説以外のテキストへの応用 (Nkamanyang など)
- 15 まとめ

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

レポート

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	美学特講 B (松尾) Seminar in aestheticsB			
教員名	松尾 大			
開講時期	後期	月曜 3	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

美学理論における法廷メタファー

■授業計画及び内容

美学理論を構成する際に用いられる様々のメタファーのうち、美的判断、批評判断を記述、説明するために用いられる法廷メタファーを取りあげる。

法廷メタファーは多くのテキストに見られるが、それらの使用を以下の観点で考察、解明する。

- 1 法廷メタファー自体の内容
- 2 法廷メタファーにおいて法廷に召喚される両当事者の内容
- 3 法廷メタファーの機能
- 4 法廷の通念的イメージと法廷メタファーの比較
- 5 実際の法廷と法廷メタファーの比較
- 6 他の領域での法廷メタファーの用法との比較

時代的には古代から現代に至るテキストを時代順に取り上げる。中心は古代と近代に置かれるが、それ以外も取り上げる。余裕があれば、他のメタファーにも考察を広げたい。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

レポート

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	美学演習 (松尾) Seminar in aestheticsC			
教員名	松尾 大			
開講時期	通年	金曜 3	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

美学関係英語論文読解

■授業計画及び内容

美学分野での英語論文を講読する。あらかじめ担当者を決め、訳稿を準備してもらおう。また、関連資料を多く読んでもらおう。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

平常点（出席回数、担当回数などに基づく）

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	美学演習 (川瀬) Seminar in aesthetics			
教員名	川瀬 智之			
開講時期	通年	金曜 5	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

現代フランスの美学

■授業計画及び内容

20世紀フランスを代表する哲学者の一人である、メルロ＝ポンティの著作「眼と精神」を読む。この著作は、メルロ＝ポンティの芸術論として代表的なものであるばかりでなく、彼の哲学の集大成としての意味も持っている。授業は、担当者の作成した訳について受講者全員で検討を加えるという方法で進める。

■受講に当たっての留意事項

フランス語の初級文法を終えていること。

■成績評価方法

平常点（出席）とレポート

■教科書／参考書

Maurice Merleau-Ponty, *L'œil et l'esprit*, Paris, Gallimard, 1964. コピーを配布する。

■備考（オフィスアワー）

質問等があれば授業後に受ける。

授業科目名	美学課題演習 Seminar in the special topics of Aesthetics			
教員名	美学教員			
開講時期	通年	月曜 1	単位	4
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

論文作成指導

■授業計画及び内容

美学専攻の大学院生を対象とする。院生各自が各々の研究テーマに沿った発表をし、参加者全員でそれについて議論する。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

口頭発表およびレポート。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

随時（予約を取る）

授業科目名	日本美術史特講（佐藤） Special lecture on Japanese art history			
教員名	佐藤 道信			
開講時期	通年	火曜 3	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

美術の機構と概念用語

■授業計画及び内容

現在私たちが学びあるいは鑑賞している美術学校や美術館といった機構組織、研究や論文で日常的に使用している美術用語の多くは近現代に造語されたものです。「美術」「絵画」「彫刻」「工芸」といった基本用語を扱った昨年度に続き、本年度は美術の基本的な機構組織、他の重要美術用語について見てみたいと思います。制度の変遷が、美術の概念やことばの変遷と相互補完（補強）する形で展開していることを確認します。

美術学校：工部美術学校、東京美術学校、東京芸術大学
 美術館：美術館、近代美術館、現代美術館
 アカデミー：帝室技芸員、帝国美術院、日本芸術院
 文化財：「文化」「文化財」「文化遺産」「国宝」「人間国宝」
 リアリズム：「写真」「写生」「写実」「自然主義」「現実主義」
 制作：「創造」「表現」「造型」「造形」
 形式：「立体」「平面」「インスタレーション」
 総称：「現代美術」「アート」
 コンセプト：「奇想」「スーパーフラット」

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

平常点、レポート等で評価する。

■教科書／参考書

授業で適宜紹介。

■備考（オフィスアワー）

火曜日 16：20～18：00

授業科目名	日本美術史特講・演習（松田） Special lecture and Seminar in Japanese art history			
教員名	松田 誠一郎			
開講時期	通年	水曜 2	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

日本彫塑史の研究手法

■授業計画及び内容

本年度は、日本彫塑史の研究手法について、テーマを設定して講義・演習発表をおこない、あわせて作品調査の実習をおこなう。

1. 様式論・形式論
2. 文字史料と彫塑
3. 場と機能
4. 美術史学と文化財保存学 ― 構造論と工程論 ―
5. 彫塑作品の調査・撮影

■受講に当たっての留意事項

1. 演習発表の担当を決めるので、前期の第1・2回目の授業には必ず出席すること。
2. 博物館・美術館や実技工房での見学を予定しているので、集合時間や集合場所に注意すること。

■成績評価方法

総合評価方式
 演習発表の内容を基準に、出席率や授業への取り組み方を考慮して、総合的に評価をおこなう。

■教科書／参考書

講義内容に応じて、そのつど指示する。

■備考（オフィスアワー）

水曜日 16：30～18：00 上野校地中央棟3F 松田研究室

授業科目名	日本美術史特講（須賀） Special lecture on Japanese art history			
教員名	須賀 みほ			
開講時期	通年	金曜 2	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

【前期】

日本の造形の特質について、近世の作例を中心に「場」をキーワードとして考察する。

【後期】

日本の造形の特質について、中世の作例を中心に「時」をキーワードとして考察する。

■授業計画及び内容

【前期】「場」

- ・襖絵、屏風
- ・箔、墨、和紙
- ・「内」と「外」

【後期】「時」

- ・絵巻、扇面
- ・線と彩色
- ・物語の情景

■受講に当たっての留意事項

中間と最終に小論を課すほか、各回にコメントペーパーの提出を求める。代理提出は認めない。

■成績評価方法

コメントペーパー、記述内容その他を総合して判断する。

■教科書／参考書

教科書は用いない。参考図書については講義中に指示する。

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	日本美術史特講・演習（古田） Special lecture and Seminar in Japanese art history			
教員名	古田 亮			
開講時期	通年	月曜 5	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

芸術学科の学部3年生以上を対象とします。大学美術館の所蔵品を活用して、作品を見る力を養います。

■授業計画及び内容

作品を見る、ということは誰にでも出来る当たり前のことかもしれませんが、「見る」にもいろいろあります。何となく見ると、考えながらじっくり見るのでは、見えてくるものがまったく違ってくるのです。同じものが違って見えてくるようになるには、見る力を養う必要があります。授業では、見るとはということか、という根本的な問いを常に念頭において作品を見ていきます。

■受講に当たっての留意事項

美術館内で授業します。遅刻は認めません。

■成績評価方法

出席、レポート、その他

■教科書／参考書

授業中、適宜指示します

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	日本美術史演習（佐藤） Seminar in Japanese art history			
教員名	佐藤 道信			
開講時期	通年	火曜 4	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

美術とSF

■授業計画及び内容

SFつまり science fiction は、科学技術とそれによる自然観・宇宙観の先端を反映したフィクション（空想）でありながら、実際には現実の先導役として未来を提示してきました。同時にそれは、宇宙や地球の歴史、古代生物といった過去も提示してきました。そして神仏や幽霊、妖怪、迷信といったフィクションと表裏をなし、科学万能主義に支えられてきたSFは、いま、フィクションか現実か不分明な新たなステージにとってかわられようとしているように見えます。美術と科学が生み出した空想と現実の交錯が、かつての宗教や信仰との交錯によるそれとどう違うのか、それがいまだどのような地平にあり、どのような方向に向かおうとしているのかをさぐります。

宇宙科学：宇宙人、宇宙戦争、宇宙旅行、ビッグバン

物理学：タイムトラベル

生命科学：ジュラシックパーク、人造人間、クローン、幹細胞、iPS細胞、STAP細胞

機会科学：ロボット、からくり人形

情報工学：バーチャルリアリティ、セカンドライフ

■受講に当たっての留意事項

各自発表の他、他の発表者のディスカッションの司会も行なう。

■成績評価方法

発表、司会、出席で評価する。

■教科書／参考書

授業で適宜紹介する。

■備考（オフィスアワー）

火曜日 16：20～18：00

授業科目名	日本美術史演習（須賀） Seminar in Japanese art history			
教員名	須賀 みほ			
開講時期	通年	金曜 5	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

日本絵画史を考える

■授業計画及び内容

日本絵画史に関し、画面形式や材料、技法、描き手、モチーフといったさまざまな観点から課題を設定し、受講者の記述、発表とディスカッションを通じて考察する。

■受講に当たっての留意事項

日本美術史に関する基礎的な事項が把握されていることを前提として授業をおこなう。

■成績評価方法

おもに記述、発表内容をもって判断する。

■教科書／参考書

講義中に指示する。

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	工芸史特講・演習 Special lecture and Seminar in History of Crafts			
教員名	片山 まび			
開講時期	通年	火曜 2	単位	4
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

文房趣味、工芸のコレクションの成立について考えます。

■授業計画及び内容

(前期) 筆や硯、水滴などの文房具は、絵画や書のための用具としてだけではなく、文人たちの蒐集対象ともなってきました。この授業では、中国・宋代に醸成された文房趣味について、南宋の趙希鵬による『洞天清禄集』を講読しつつ、実際の作例や文房に関する研究論文等を概観していきます。

(後期) 前期の授業を踏まえつつ、履修者の発表を中心に授業を行います。発表テーマは文房に関するものであれば、時代や地域は問いません。

■受講に当たっての留意事項

漢文についての基礎的な知識が必要となります。

■成績評価方法

発表、もしくはレポートによる。

■教科書／参考書

講義中に指示。

■備考（オフィスアワー）

都度相談の上、調整。

授業科目名	日本・東洋美術史、工芸史課題演習 Special seminar in history of Japanese & East Asian arts, S			
教員名	日本・東洋美術史、工芸史教員			
開講時期	通年	金曜 3・4	単位	4
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

大学院日本・東洋美術史、工芸史専攻学生に、各自の研究テーマにしたがった研究成果の発表をさせ、指導する。

■授業計画及び内容

■受講に当たっての留意事項

随時指導教員と面接し、テーマや発表について相談すること。

■成績評価方法

研究発表の内容を評価する。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	西洋美術史特講（佐藤） Special lecture on western art history			
教員名	佐藤 直樹			
開講時期	前期	火曜 5	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

ヘレン・シャルフベック研究

■授業計画及び内容

19世紀後半から20世紀初頭にかけて活躍したフィンランドの国民的女流画家ヘレン・シャルフベック(1862-1946)の芸術を研究する。彼女は初期にはパリの同時代美術、あるいは象徴派を代表するJ. M. ウィスラーの影響を受けながら、次第にアヴァンギャルドな作風を展開していった。臀部に障害もつこの画家は、晩年にはヘルシンキ近郊の森に籠って孤独に制作するようになる。イメージソースとして雑誌や書籍の図版を参照し、エル・グレコを再発見、自作の再解釈を行うようになる。同時代の北欧美術の旗手、ムンクとの比較もしながら、これまで知られていなかった彼女の画業を検討したい。

■受講に当たっての留意事項

芸術学科以外でも北欧美術に興味のある学生の聴講を歓迎します。

■成績評価方法

出席と試験で評価する（試験は授業最終日。ノート持ち込み不可）。

■教科書／参考書

授業中に適宜指示する

■備考（オフィスアワー）

メールにて予約：sato.naoki@fa.geidai.ac.jp

授業科目名	西洋美術史特講（越川） Special lecture on western art history			
教員名	越川 倫明			
開講時期	後期	金曜 5	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

ヴェネツィア、スクオーラ・ディ・サン・ロッコの絵画装飾研究

■授業計画及び内容

16世紀ヴェネツィア絵画の代表的なモニュメントであるヤコポ・ティントレット(1519～1594)によるスクオーラ・ディ・サン・ロッコの絵画装飾をテーマとして、実際の作品研究の手続きにしたがって考察を加えていく。

■受講に当たっての留意事項

今年度は後期の金曜5限に開講します。

■成績評価方法

平常点とレポート

■教科書／参考書

授業中に適宜指示します。

■備考（オフィスアワー）

木曜 12:40～14:40（ただしメールで要予約）

授業科目名	西洋美術史特講（田邊） Special lecture on western art history			
教員名	田邊 幹之助			
開講時期	後期	金曜 4	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

末期中世のドイツ絵画

■授業計画及び内容

従来、国際ゴシック時代の終焉からデューラーの登場にいたる時期のドイツ絵画には、ある種の後進性が指摘されてきましたが、しかし近年、こうした否定的な評価に対する見直しの動きを見ることができます。この講義では、平成25年度の講義に続き、近年の研究を取り上げつつ、15世紀後半のドイツ絵画を改めて観察してゆきたいと思えます。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

出席とレポート

■教科書／参考書

授業中に適宜指示

■備考（オフィスアワー）

メールで予約を取ってください。
tanabe@fa.geidai.ac.jp

授業科目名	西洋美術史特講（濱西） Special lecture on western art history			
教員名	濱西 雅子			
開講時期	後期	火曜 4	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

初期キリスト教時代から中世の美術

■授業計画及び内容

初期キリスト教時代から中世にかけての西洋美術の主要作例について考察するなかで、その造形言語（キリスト教図像・様式）を学びます。今年度は、キリスト教図像学を軸として講義を進めます。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

平常点とレポートの総合評価。

■教科書／参考書

授業中に適宜紹介します。

■備考（オフィスアワー）

西洋美術史研究室にて予約の上、個別相談に応じます。

授業科目名	西洋美術史演習（高木） Seminar in western art history			
教員名	高木 真喜子			
開講時期	後期	水曜 2	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項	外国語・仏語上級 C と併習（振替措置）			

■授業テーマ

中世美術に関するフランス語文献の講読、読解およびディスカッション

■授業計画及び内容

初回の授業でガイダンスを行います。

2回目以降は、各回学生の担当者を中心に講読、読解を進めます。

フランス語を中級程度まで履修した学生を主な対象に想定し、美術史関係の専門的な文献を読んで内容を理解する、言及されている事例について調べるなど、講読に基づいた演習を行います。

以下文献のいずれかの章をテキストとして使用する予定です。初回ガイダンス時に、候補となるテキストの概要を説明し、受講生の希望を聞いた上で選びます。

Splendeur de l'enluminure: le roi René et les livres, 2009

Boespflug, François, Dieu et ses images: une histoire de l'éternel dans l'art, 2011

■受講に当たっての留意事項

この授業は、「西洋美術史演習」2単位、もしくは「フランス語上級」1単位、いずれかの単位として認定される授業です。どちらの単位として履修するかを登録時に判断し、演習として履修する場合は「西洋美術史演習（高木）」、語学として履修する場合は「フランス語上級C」の科目名で登録してください。登録後の変更はできません。

■成績評価方法

平常点とレポート

■教科書／参考書

ガイダンス時にテキストのコピーを配布します。

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	西洋美術史演習（近藤） Seminar in western art history			
教員名	近藤 学			
開講時期	前期	金曜 2	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

昨年度に引き続き、作家自身によるすぐれた美術論の一例として Henri Matisse, "Notes d'un peintre" (1908) (邦題: マティス「画家のノート」) を読みます。昨年度は語学を重視しましたが、今回は内容中心になる予定です。

同時に 19 世紀末—20 世紀初頭のフランスを中心とした近代美術の諸問題に視野を広げていきます。

■授業計画及び内容

・マティス自身の実践や理念を解き明かしたマニフェスト的文章です。実作者ならではの具体性、さらには理論的な奥行も兼ね備えています。

・すでに昨年度、かなりのところまで読み進んでいますので、最初の数回は駆け足で既読の内容を振り返ります。その後残りの部分を読み、続けて関連諸領域に移っていく予定です (印象主義、新印象主義、ポスト印象主義 (セザンヌ)、ロダンなど)。

・随時スライドを使用して教員が講義を行います。受講者の顔ぶれによっては担当を決め、具体的な事例 (美術家・作品など) を選んで発表してもらう場合があります。

■受講に当たっての留意事項

・学部生・大学院生いずれも参加可。

・受講者の顔ぶれを見て授業運営の詳細を決定するので、かならず第 1 回授業に出席してください。

■成績評価方法

授業への参加度 (出席) にもとづいて評価します。遅刻しないようお願いします。また他の授業との兼ね合いでやむを得ず欠席する場合は、必ず事前に E メールで連絡してください。

■教科書／参考書

授業で使用する資料などは以下にアップロードします：
[link]<http://2013geidaiseminar.blogspot.jp/>[/link]

参考文献

マティスの発言・著作：

Matisse, *Ecrits et propos sur l'art*, ed. Dominique Fourcade (Paris: Hermann, 1972) [美術学部図書館所蔵]

[マティス『画家のノート』ドミニック・フルカド編、二見史郎訳、みずが書房、1978 年 [美術学部図書館所蔵]]

Roger Benjamin, *Matisse's "Notes of a Painter": Criticism, Theory, and Context, 1891-1908* (Ann Arbor: UMI Research Press, 1987) [西洋美術館図書室]

※ 必要に応じて追加します。

■備考（オフィスアワー）

授業後 (金曜 13:00-)、西洋美術史研究室にて。

それ以外の日時を希望する場合は e メールで連絡してください ([mail]tokyoparis.cambridge@gmail.com[/mail])

授業科目名	西洋美術史演習（薩摩） Seminar in western art history(German IIIC)			
教員名	薩摩 雅登			
開講時期	前期	金曜 5	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項	外国語・独語上級 C と併習（振替措置）			

■授業テーマ

テキスト講読

■授業計画及び内容

我が国における西洋美術史の大半は西洋絵画史で、とりわけ建築に関する授業に乏しい傾向にある。この授業では、主としてドイツの教会建築に関するドイツ語文献を読みながら解説、講義も行う。テキストは受講生を見てから決める。

■受講に当たっての留意事項

講読の授業は出席することが大切。「今日は予習をしていないから欠席して、次回にきちんと予習をしてから出席しよう」と思い出すと脱落する。予習の有無は問わないから遅刻せずに出席すること。この授業は、語学科目「独語上級C」を兼ねているが、語学科目として単位認定を希望する場合には、1単位となる。

■成績評価方法

出席重視で、学期末レポートと一緒に評価する。

■教科書／参考書

プリントで配布

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	西洋美術史特講・演習（田邊）I Special lecture and Seminar in western art history 1			
教員名	田邊 幹之助			
開講時期	前期	水曜 5	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

盛期中世美術の諸問題に関する文献講読とディスカッション

■授業計画及び内容

次の文献を取り上げ、ロマネスクおよびゴシック時代の美術史のトピックに検討を加えます。Conrad Rudolph (ed.), A Companion to Medieval Art: Romanesque and Gothic in Northern Europe, Malden / Oxford / Victoria, 2006

授業は講読とディスカッションを交える形で進めたいと思います。

■受講に当たっての留意事項

初回のガイダンスの際に指示します。

■成績評価方法

出席、発表内容、レポートで評価を行います。

■教科書／参考書

講読テキストはコピーで配布します。

■備考（オフィスアワー）

メールにて予約：tanabe@fa.geidai.ac.jp

授業科目名	西洋美術史特講・演習（田邊）II Special lecture and Seminar in western art history 2			
教員名	田邊 幹之助			
開講時期	後期	水曜 5	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

ゴシック絵画・彫刻に関する文献講読とディスカッション

■授業計画及び内容

Robert Suckale, Stil und Funktion. Ausgewählte Schriften zur Kunst des Mittelalters, München – Berlin 2003 収録の論文をテキストとして、ゴシック美術の図像が担っていた課題と様式形成の問題について考察します。

■受講に当たっての留意事項

ドイツ語初級以上を履修のこと。

■成績評価方法

出席、発表内容、レポートで評価します。

■教科書／参考書

テキストはコピーで配布します。

■備考（オフィスアワー）

メールで予約を取ってください。
tanabe@fa.geidai.ac.jp

授業科目名	西洋美術史演習 A Seminar in western art history A			
教員名	越川 倫明			
開講時期	前期	火曜 3	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

英語の美術史関連文献の講読

■授業計画及び内容

美術史に関連した英語の運用スキルの向上を目的とする。テキストには以下の文献を使用し、輪読、翻訳練習、宿題、および関連するディスカッションを適宜はさみながら進める。

Sylvan Barnet, A Short Guide to Writing about Art, Upper Saddle River (NJ), 2008

それとともに、TOEIC テストのための対策と練習を授業にはさんでいく。学期末には、TOEIC の団体受験制度を利用した試験を行う予定。(ただし同テストのスコアを直接成績に反映させることはない)

■受講に当たっての留意事項

今年度は前期の火曜 3 限に開講する。学部生・大学院生ともに受講できる。なお、教材費として 4 0 5 0 円 (TOEIC 団体受験費用) の負担が必要になるので、あらかじめ了解しておいてください。

■成績評価方法

平常点、宿題、試験

■教科書／参考書

講読テキストはコピー等で配布する。その他参考書は適宜指示する。

■備考（オフィスアワー）

木曜 12:40 ~ 14:40 (ただしメールで要予約)

授業科目名	西洋美術史演習 B - I Seminar in Western art history B-I			
教員名	越川 倫明			
開講時期	前期	水曜 4	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項	外国語・伊語上級 C - I と併習（振替措置）			

■授業テーマ

イタリア美術史文献講読

■授業計画及び内容

今年度は以下の文献を講読します。

Paolo Giovio, Dialogo dell'imprese militari e amorose (1551), Roma, 1978

受講には、平易なイタリア語の文章ならば読める語学力を必要とします。また、読解力のトレーニングとして若干の宿題も出す予定です。

内容としては、ルネサンス以降大いに流行する「エンブレム本」の代表的な文献です。読解練習に加えて、この種の象徴図像に親しむことも目的とします。

■受講に当たっての留意事項

この授業は、語学科目「伊語上級 C-I」を兼ねていますが、語学単位として履修する場合には 1 単位、演習単位として履修する場合には 2 単位となります（演習単位として認定する場合にはレポートの提出を課します）。登録時には、語学でとるか演習でとるかを判断し、語学でとる場合には、ここではなく、必ず「伊語上級 C-I」の方に履修登録してください。

■成績評価方法

平常点（出席）・試験・レポート

■教科書／参考書

講読テキストはコピーで配布。その他参考書は適宜指示します。

■備考（オフィスアワー）

木曜 12:40 ~ 14:40（ただしメールで要予約）

授業科目名	西洋美術史演習 B - II Seminar in Western art history B-II			
教員名	越川 倫明			
開講時期	後期	水曜 4	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項	外国語・伊語上級 C - II と併習（振替措置）			

■授業テーマ

イタリア美術史文献講読

■授業計画及び内容

前期に引き続き、以下の文献を講読します。

Paolo Giovio, Dialogo dell'imprese militari e amorose (1551), Roma, 1978

受講には、平易なイタリア語の文章ならば読める語学力を必要とします。また、読解力のトレーニングとして若干の宿題も出す予定です。

内容としては、ルネサンス以降大いに流行する「エンブレム本」の代表的な文献です。読解練習に加えて、この種の象徴図像に親しむことも目的とします。

■受講に当たっての留意事項

この授業は、語学科目「伊語上級 C-II」を兼ねていますが、語学単位として履修する場合には 1 単位、演習単位として履修する場合には 2 単位となります（演習単位として認定する場合にはレポートの提出を課します）。登録時には、語学でとるか演習でとるかを判断し、語学でとる場合には、ここではなく、必ず「伊語上級 C-II」の方に履修登録してください。

■成績評価方法

平常点（出席）・試験・レポート

■教科書／参考書

講読テキストはコピーで配布。その他参考書は適宜指示します。

■備考（オフィスアワー）

木曜 12:40 ~ 14:40（ただしメールで要予約）

授業科目名	西洋美術史演習 C Seminar in western art history C			
教員名	佐藤 直樹			
開講時期	前期	水曜 3	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

黒いロマン主義

■授業計画及び内容

展覧会カタログ『黒いロマン主義』(Dark Romanticism, 2012) をテキストに、ロマン主義の「暗い」側面を研究する。ロマン主義の精神が 19 世紀の美術作品にとどまらず、20 世紀の美術や映画にまで影響を及ぼしていることを見ていく。受講者は各章を担当し、精読の上、40 分程度にまとめて発表する形式とする。

■受講に当たっての留意事項

テキストは、英語版、ドイツ語版、フランス語版があるので、各自得意な言語のバージョンを使用することができる。パワーポイントによる発表を準備してもらうので、パソコン経験のない者は西洋美術史研究室で助手に相談すること。各回、発表後のディスカッションをリードする「ディスカッサント」を指名する。詳しくは第 1 回のガイダンスで説明するので必ず出席すること。

■成績評価方法

出席、研究発表、ディスカッサントとしての議論内容、および課題発表をまとめたレポートで評価する。

■教科書／参考書

英語版：Dark Romanticism, ed. by Felix Krämer, 2012
 独語版：Schwarze Romantik, hrsg. von Felix Krämer, 2012
 仏語版：L'ange du bizarre, Musée d'Orsay 2013
 西洋美術史研究室に上記の本を保管するので得意な言語のバージョンから自分が担当する章をコピーすること。

■備考（オフィスアワー）

メールにて予約：sato.naoki@fa.geidai.ac.jp

授業科目名	西洋美術史演習 D Seminar in western art history D			
教員名	佐藤 直樹			
開講時期	後期	火曜 5	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

英語文献の購読とディスカッション

■授業計画及び内容

ダラス美術館で開催された展覧会カタログ The Artist and the Camera, Degas to Picasso ed. by Dorothy Kosinski (2000) を購読する。写真術と美術制作の関わりを各章、一人の芸術家で論じたものである。ボナール、ブランクーシ、ドガ、ゴーギャン、クノップフ、ムンク、ヴァロットンなどの各章を担当する発表形式の演習とする。

■受講に当たっての留意事項

出席を重視。パソコンを使っの PowerPoint 発表を準備してもらうので、パソコン経験のない者は西洋美術史研究室で助手に相談すること。各回、発表後のディスカッションをリードする「ディスカッサント」を指名する。初回のガイダンスで発表課題を割り当てるので必ず出席すること。

■成績評価方法

出席、発表内容、レポートで評価する。

■教科書／参考書

購読テキストは西洋美術史研究室のマスターコピーを各人がコピーすること。

■備考（オフィスアワー）

メールにて予約：sato.naoki@fa.geidai.ac.jp

授業科目名	西洋美術史演習 E Seminar in western art history E			
教員名	佐藤 直樹			
開講時期	後期	水曜 3	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

国立西洋美術館の所蔵作品研究

■授業計画及び内容

国立西洋美術館に所蔵・展示されている作品を研究する。受講者は、割り当てられた作品を実見し、国立西洋美術館の資料センターが保管する「作品ファイル」を手がかりに研究を進める。

■受講に当たっての留意事項

パソコンを使ってのパワーポイント発表を準備してもらうので、パソコン経験のない者は西洋美術史研究室で助手に相談すること。各回、発表後のディスカッションをリードする「ディスカッサント」を指名する。初回のガイダンスで発表課題を割り当てるので必ず出席すること。

■成績評価方法

出席、研究発表、ディスカッサントとしての議論内容、および課題発表をまとめたレポートで評価する。

■教科書／参考書

『国立西洋美術館名作選』国立西洋美術館学芸課編集、2009年

■備考（オフィスアワー）

sato.naoki@fa.geidai.ac.jp

授業科目名	西洋美術史課題演習 I Special Seminar in western art history I			
教員名	西洋美術史教員			
開講時期	前期	火曜 2	単位	2
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

西洋美術史研究法

■授業計画及び内容

西洋美術史専攻大学院生を対象とする必修科目である。各自の研究テーマもしくは指定されたテーマについての研究発表、および教員と参加学生によるコメントと討議を中心とする。

■受講に当たっての留意事項

出席を重視する。初回に受講者全員の発表順序・日程を決めるので、必ず出席すること。
今年度より、課題演習は前期と後期に分かれているので、年間を通じて履修する場合には、年度のはじめに両方に登録すること。留学・休学等の理由により一方のみを履修する場合には、該当する方に登録すること。

■成績評価方法

平常点とレポートにより評価する。

■教科書／参考書

指定しない。

■備考（オフィスアワー）

担当指導教員に適宜メール等で連絡し、面談のアポイントをとること。

授業科目名	西洋美術史課題演習Ⅱ Special Seminar in western art history2			
教員名	西洋美術史教員			
開講時期	後期	火曜 2	単位	2
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

西洋美術史研究法

■授業計画及び内容

西洋美術史専攻大学院生を対象とする必修科目である。各自の研究テーマもしくは指定されたテーマについての研究発表、および教員と参加学生によるコメントと討議を中心とする。

■受講に当たっての留意事項

出席を重視する。初回に受講者全員の発表順序・日程を決めるので、必ず出席すること。

今年度より、課題演習は前期と後期に分かれているので、年間を通じて履修する場合には、年度のはじめに両方に登録すること。留学・休学等の理由により一方のみを履修する場合には、該当する方に登録すること。

■成績評価方法

平常点とレポートにより評価する。

■教科書／参考書

指定しない。

■備考（オフィスアワー）

担当指導教員に適宜メール等で連絡し、面談のアポイントをとること。

芸術学各分野

授業科目名	素材論及び演習 I Seminar and practical work of material1			
教員名	本郷 寛			
開講時期	前期	月曜 4・5	単位	2
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

美術教育に関わる諸要素を素材として捉え、美術と教育の関係から総合的に研究する。

■授業計画及び内容

- ①自然と造形
- ②人間と美術
 - ・命について考える（医療・医学から）
 - ・子どもと芸術環境について考える（学校・社会から）
- ③人間と素材・技法
 - ・素材と道具
 - ・道具と技術
- ④教育プロジェクトの実践

講義の一部を集中講義で行う。

■受講に当たっての留意事項

大学院・美術教育研究室に在籍する修士課程生は1年次に履修すること。演習については、授業中に指示する。

■成績評価方法

レポート提出による。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	素材論及び演習 II Seminar and practical work of material2			
教員名	本郷 寛			
開講時期	後期	月曜 4・5	単位	2
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

美術教育に関わる諸要素を素材として捉え、美術と教育の関係から総合的に研究する。

■授業計画及び内容

- ①自然と造形
- ②人間と美術
 - ・命について考える（医療・医学から）
 - ・子どもと芸術環境について考える（学校・社会から）
- ③人間と素材・技法
 - ・素材と道具
 - ・道具と技術
- ④教育プロジェクトの実践

講義の一部を集中講義で行う。

■受講に当たっての留意事項

大学院・美術教育研究室に在籍する修士課程生は1年次に履修すること。演習については、授業中に指示する。

■成績評価方法

レポート提出による。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	構成論及び演習Ⅰ Seminar of Composition1			
教員名	木津 文哉			
開講時期	前期	火曜 3・4	単位	2
履修対象	大学院生			
特記事項	前期：取手、後期：上野で 授業を行う			

■授業テーマ

「美術」あるいは「芸術」作品について、それが成立していくプロセスにおいて、表現者はどのように核を考え、資料を集め、創造的アプローチをし、そして形として成立させていくのかを論じる。一ジャンルに偏ることなく、広い知識と視野をもって作品を制作する意識を育てる。

■授業計画及び内容

前期は、普遍的な美術・芸術・アート の概念をテーマとして取り上げ、制作における基本的な問題をハード部分（技術）とソフト部分（イメージ）との相関関係において論じる。

後期は、受講者個々の具体的な制作について取り上げ、ゼミ形式で演習を取り入れて行っていく。

近年境界が取り払われてきたかに見える表現各ジャンルの中に一つの共通性が見いだせないかを、視覚的な資料（映像・写真・アニメ・漫画・模型 etc）を駆使しながら解説し、ディスカッションしていく。表現者として、発表すること（ファイルによるアピールの方法論・個展・グループ展・コンクール等）についてもディスカッションし、「作品発表」という行為が何のために存在するのか、どういう形で作家、あるいは作家を志す者が「社会」と関わりをもっていくかを論じていく。オブザーバーとして、外部から作家・評論家・画商・美術商などを招き、意見を聴くこともある。

■受講に当たっての留意事項

大学院・美術教育研究室に在籍する修士課程生は1年次に履修すること。

■成績評価方法

レポートあるいは作品提出による。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

学内・美術教育研究室ホームページからメールで問い合わせること。

授業科目名	構成論及び演習Ⅱ Seminar of Composition2			
教員名	木津 文哉			
開講時期	後期	火曜 3・4	単位	2
履修対象	大学院生			
特記事項	前期：取手、後期：上野で 授業を行う			

■授業テーマ

「美術」あるいは「芸術」作品について、それが成立していくプロセスにおいて、表現者はどのように核を考え、資料を集め、創造的アプローチをし、そして形として成立させていくのかを論じる。一ジャンルに偏ることなく、広い知識と視野をもって作品を制作する意識を育てる。

■授業計画及び内容

前期は、普遍的な美術・芸術・アート の概念をテーマとして取り上げ、制作における基本的な問題をハード部分（技術）とソフト部分（イメージ）との相関関係において論じる。

後期は、受講者個々の具体的な制作について取り上げ、ゼミ形式で演習を取り入れて行っていく。

近年境界が取り払われてきたかに見える表現各ジャンルの中に一つの共通性が見いだせないかを、視覚的な資料（映像・写真・アニメ・漫画・模型 etc）を駆使しながら解説し、ディスカッションしていく。表現者として、発表すること（ファイルによるアピールの方法論・個展・グループ展・コンクール等）についてもディスカッションし、「作品発表」という行為が何のために存在するのか、どういう形で作家、あるいは作家を志す者が「社会」と関わりをもっていくかを論じていく。オブザーバーとして、外部から作家・評論家・画商・美術商などを招き、意見を聴くこともある。

■受講に当たっての留意事項

大学院・美術教育研究室に在籍する修士課程生は1年次に履修すること。

■成績評価方法

レポートあるいは作品提出による。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

学内・美術教育研究室ホームページからメールで問い合わせること。

授業科目名	美術教育論Ⅰ（取手） Theory of art and education1			
教員名	小松 佳代子			
開講時期	前期	金曜 4・5	単位	2
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

作品制作と人間形成とがどのようにつながるかについて、論文等の講読、参加者の討議を通じて考察する。

■授業計画及び内容

前期は美術制作と身体との関係を考える。具体的には、Richard Shusterman, *Thinking through the Body*, Cambridge University Press, 2012 を講読する予定。後期は美術教育とは何かを原理的に考えていく。講読する文献については、授業内で指示する。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

平常点とレポート

■教科書／参考書

毎回、何らかの文献を指定して課題をあらかじめ出す。授業計画に記したもののほか、参考文献として次の2点を挙げておく。

- 1) 東京藝術大学美術教育研究室編『美術と教育のあいだ』東京藝術大学出版会 2011
- 2) 小松佳代子編著『周辺教科の逆襲』叢文社 2012

■備考（オフィスアワー）

質問等は、メールで予約の上、随時受けつけます。

授業科目名	美術教育論Ⅱ（取手） Theory of art and education2			
教員名	小松 佳代子			
開講時期	後期	金曜 4・5	単位	2
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

作品制作と人間形成とがどのようにつながるかについて、論文等の講読、参加者の討議を通じて考察する。

■授業計画及び内容

前期は美術制作と身体との関係を考える。具体的には、Richard Shusterman, *Thinking through the Body*, Cambridge University Press, 2012 を講読する予定。後期は美術教育とは何かを原理的に考えていく。講読する文献については、授業内で指示する。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

平常点とレポート

■教科書／参考書

毎回、何らかの文献を指定して課題をあらかじめ出す。授業計画に記したもののほか、参考文献として次の2点を挙げておく。

- 1) 東京藝術大学美術教育研究室編『美術と教育のあいだ』東京藝術大学出版会 2011
- 2) 小松佳代子編著『周辺教科の逆襲』叢文社 2012

■備考（オフィスアワー）

質問等は、メールで予約の上、随時受けつけます。

授業科目名	課題研究 (美術教育) Research and thesis			
教員名	本郷 寛、木津 文哉、小松 佳代子、 宮永 美知代、青木 宏希			
開講時期	通年	木曜 3・4・5	単位	4
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

各自の研究課題をもとにした発表と討議を行い、発表能力の向上と研究の深化をはかる。

■授業計画及び内容

- ・修士1年生は自らの研究課題探求の経過を発表し、それをめぐって全員で討議を行う。
- ・修士2年生は修士論文のテーマを中心に発表し、それをめぐって全員で検討を行う。
- ・博士課程在籍者および研究生は、各自の研究の中間報告を行い、それをめぐって全員で検討を行う。

■受講に当たっての留意事項

大学院・美術教育研究室に在籍する者は全員出席すること。発表レジュメは発表日の一週間前に全員に配布しておくこと。

■成績評価方法

■教科書／参考書

■備考 (オフィスアワー)

発表者は前もって指導教員及び教育研究助手等と発表内容の打ち合わせをしておくこと。

授業科目名	美術教育ゼミ I (論文演習) (取手) Seminar for art and education I (Theoretical approach)			
教員名	小松 佳代子			
開講時期	通年	金曜 3	単位	4
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

論文執筆の基礎を身につける。

■授業計画及び内容

前期は、論理的思考を身につけるとともに、美術教育に関する基本文献を購読する。
後期は、後期は、先行研究批判から自己の研究テーマへの展開を図る。

■受講に当たっての留意事項

大学院・美術教育研究室に在籍する者は、単位に関わらず参加することが望ましい。

■成績評価方法

平常点とレポート

■教科書／参考書

東京藝術大学美術教育研究室編『美術と教育のあいだ』(東京藝術大学出版会 2011)

■備考 (オフィスアワー)

質問等は、メールで予約の上、随時受けつけます。

授業科目名	美術教育ゼミⅡ（立体表現・理論） Seminar for art and education II (3D theory and practice)		
教員名	本郷 寛		
開講時期	集中	単位	4
履修対象	大学院生		
特記事項			

■授業テーマ

立体作品や美術教育の実践に関わる具体的問題を取り上げ研究する。

■授業計画及び内容

- 1 - ①各自の制作活動に合わせて、研究の方法を検討する。
②研究の経緯を記録し、まとめる。
- 2 - ①美術教育関連プロジェクトを企画し実践する。
②実践を通して、美術教育を幅広く研究する。

授業の一部を集中講義の教員をまじえて行う。

■受講に当たっての留意事項

大学院・美術教育研究室に在籍する者は、単位にかかわらず参加することが望ましい。

■成績評価方法

レポート提出による。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	美術教育ゼミⅢ（平面表現・理論） Seminar for art and education 3 (2D theory and practice)		
教員名	木津 文哉		
開講時期	集中	単位	4
履修対象	大学院生		
特記事項			

■授業テーマ

自己の制作（平面表現）に関する、技法及びテーマの決定又、その具体的な制作の方法論、技法においての様々な問題点を、具体的に実例をあげながら論じ、各自の問題意識を明確にしていく。

■授業計画及び内容

画集・図録・ビデオテープ等、視覚資料を多用し、様々なジャンルにおいて、どのような作家が存在し、活躍しているかを解説。講義の一部は集中講義の教員をまじえて行う。（取手、上野開講）

■受講に当たっての留意事項

大学院・美術教育研究室に在籍する者は、単位にかかわらず参加することが望ましい。

■成績評価方法

出席、レポート提出による。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

※ 学内・美術教育研究室ホームページからメールで問い合わせること。

授業科目名	美術解剖学特講 I Artistic anatomy, advanced course I			
教員名	加藤 公太			
開講時期	通年	木曜 5	単位	4
履修対象	美術解剖学専攻の修士1年生対象			
特記事項				

■授業テーマ

人体の骨格についての形態・構造を理解する。

■授業計画及び内容

解剖学の実習書、骨格模型などを用いて、骨格について学ぶ。

■受講に当たっての留意事項

受講は、美術解剖学専攻の修士1年生に限る。

■成績評価方法

出席や研究発表などを総合的に評価。

■教科書／参考書

授業の中で指示する。

■備考（オフィスアワー）

月・水・木（10時から17時）

授業科目名	美術解剖学特講 II Artistic anatomy, advanced course II			
教員名	布施 英利			
開講時期	通年	木曜 3	単位	4
履修対象	美術解剖学専攻の修士2年生対象			
特記事項				

■授業テーマ

美術解剖学の論文を書く力を磨く。

■授業計画及び内容

各自の研究テーマに即して、研究計画の立て方、論文のまとめ方などを実践的に指導する。

また美術館見学などを行い、その調査報告のトレーニングなども行う。

■受講に当たっての留意事項

受講は、美術解剖学専攻の大学院生に限る

■成績評価方法

出席や研究発表などを総合的に評価。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	美術解剖学演習 I Seminar I of artistic anatomy			
教員名	阿久津 裕彦			
開講時期	通年	水曜 5	単位	4
履修対象	美術解剖学専攻の修士1年生対象			
特記事項				

■授業テーマ

人体の筋肉についての形態・構造を理解する。

■授業計画及び内容

粘土による筋肉模型を制作しつつ、筋肉について学ぶ。

■受講に当たっての留意事項

受講は、美術解剖学専攻の修士1年生に限る。

■成績評価方法

出席や研究発表などを総合的に評価。

■教科書／参考書

授業の中で指示する。

■備考（オフィスアワー）

月・水・木（10時から17時）

授業科目名	美術解剖学演習 II Seminar II of artistic anatomy			
教員名	栗田 大輔			
開講時期	通年	月曜 4	単位	4
履修対象	美術解剖学専攻の修士2年生対象			
特記事項				

■授業テーマ

修士論文の執筆に向け、論文を書く能力、口頭発表をする能力を養う。

■授業計画及び内容

各自の研究テーマについて、演習形式で行う。

■受講に当たっての留意事項

受講は、美術解剖学専攻の修士2年生に限る。

■成績評価方法

出席や研究発表などを総合的に評価。

■教科書／参考書

授業の中で指示する。

■備考（オフィスアワー）

月・水・木（10時から17時）

授業科目名	解剖学・同実習 I Practice I of artistic anatomy			
教員名	布施 英利			
開講時期	前期	月曜 1	単位	2
履修対象	美術解剖学専攻の修士1年生対象			
特記事項				

■授業テーマ

人体の形態と構造を学ぶ。

■授業計画及び内容

生体観察を中心に行い、さらに人体を内部の形態・構造から解剖学的に把握する力をつけるための実践的なトレーニングを行う。

■受講に当たっての留意事項

受講は、美術解剖学専攻の修士1年生に限る。

■成績評価方法

出席や研究発表などを総合的に評価。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	解剖学・同実習 II Practice II of artistic anatomy			
教員名	布施 英利			
開講時期	後期	月曜 1	単位	2
履修対象	美術解剖学専攻の修士1年生対象			
特記事項				

■授業テーマ

人体の形態と構造を学ぶ。

■授業計画及び内容

生体観察を中心に行い、さらに人体を内部の形態・構造から解剖学的に把握する力をつけるための実践的なトレーニングを行う。

■受講に当たっての留意事項

受講は、美術解剖学専攻の修士1年生に限る。

■成績評価方法

出席や研究発表などを総合的に評価。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	解剖学・同実習Ⅲ Practice 3 of artistic anatomy			
教員名	布施 英利			
開講時期	前期	月曜 2	単位	2
履修対象	美術解剖学専攻の修士2年生対象			
特記事項				

■授業テーマ

さらに、人体の形態と構造を学ぶ

■授業計画及び内容

修士1年での授業に続き、生体観察を中心に行い、人体を内部の形態・構造から解剖学的に把握する力をつけるための実践的なトレーニングを行う。

■受講に当たっての留意事項

受講は、美術解剖学専攻の修士2年生に限る。

■成績評価方法

出席や研究発表などを総合的に評価。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	解剖学・同実習Ⅳ Practice 4 of artistic anatomy			
教員名	布施 英利			
開講時期	後期	月曜 2	単位	2
履修対象	美術解剖学専攻の修士2年生対象			
特記事項				

■授業テーマ

さらに、人体の形態と構造を学ぶ

■授業計画及び内容

修士1年での授業に続き、生体観察を中心に行い、人体を内部の形態・構造から解剖学的に把握する力をつけるための実践的なトレーニングを行う。

■受講に当たっての留意事項

受講は、美術解剖学専攻の修士2年生に限る。

■成績評価方法

出席や研究発表などを総合的に評価。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	課題研究（1） Problem studies I		
教員名	布施 英利		
開講時期	集中	単位	4
履修対象	美術解剖学専攻の修士1年生対象		
特記事項			

■授業テーマ

美術解剖学専攻の大学院生（修士1年）を対象に、随時、研究指導を行い、研究を論文にまとめ上げる力を養うことを目的とする。

■授業計画及び内容

各自の研究テーマを決め、それに即して指導を行う。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

年次研究レポートを提出すること。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	課題研究（2） Problem studies II		
教員名	布施 英利		
開講時期	集中	単位	4
履修対象	美術解剖学専攻の修士2年生対象		
特記事項			

■授業テーマ

美術解剖学専攻の大学院生（修士2年）を対象に、随時、研究指導を行い、修士論文をまとめ上げる力を養うことを目的とする。

■授業計画及び内容

各自の研究テーマを決め、それに即して指導を行う。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

研究報告を提出する。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

文化財保存学

授業科目名	文化財保存学演習Ⅰ General survey and practice on conservation1			
教員名	文化財保存学教員			
開講時期	前期	火曜 3・4・5	単位	2
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

文化財保存学の各専門分野の教員により、一年間を通して文化財保存の様々な分野の講義・実習を行い、文化財保存の幅広い知識の習得と理解を深める。

■授業計画及び内容

- 回 / 担当教室 / 内容
- 1/ 共通 / ガイダンス
/ 保存科学 / X線安全講習・クロスセッションの作成
 - 2/ 保存科学 / 機器分析法 1
 - 3/ 保存科学 / 機器分析法 2
 - 4/ 油画 / 写真撮影法
 - 5/ 油画 / 修復事例の紹介（講義）、テンペラ技法（実習）
 - 6/ 油画 / ー材料、技法と修復ー（講義）
 - 7/ 油画 / 補彩について（実習）
 - 8/ システム / 文化財修復材料・保存環境実験
 - 9/ 彫刻 / 仏像とは何か
 - 10/ 彫刻 / 材料技法から見た仏像
 - 11/ 彫刻 / 修復の実例

■受講に当たっての留意事項

専門性が高いため、文化財保存学専攻の学生を対象とする。

■成績評価方法

平常点を主体とする。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	文化財保存学演習Ⅱ General survey and practice on conservation2			
教員名	文化財保存学教員			
開講時期	後期	火曜 3・4・5	単位	2
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

文化財保存学の各専門分野の教員により、一年間を通して文化財保存の様々な分野の講義・実習を行い、文化財保存の幅広い知識の習得と理解を深める。

■授業計画及び内容

- 回 / 担当教室 / 内容
- 1/ 建造物 / 街の歴史を読み、保存を考えるー江戸時代の道を歩くー
 - 2/ 建造物 / 修復現場見学
 - 3/ 建造物 / 建物調査実習
 - 4/ 建造物 / 建造物製図実習、保存計画の策定及び発表
 - 5/ 日本画 / 日本画の材料および技法について（講義）
 - 6/ 日本画 / 日本画実習
 - 7/ 日本画 / 装幀実習
 - 8/ 日本画 / 日本画の修理について（講義）
 - 9/ 工芸 / 工芸文化財の保存修復（講義 1）
工芸の伝統技法（蒔絵実習 1）
 - 10/ 工芸 / 工芸文化財の保存修復（講義 2）
工芸の伝統技法（蒔絵実習 2・機織実習 1）
 - 11/ 工芸 / 工芸文化財の保存修復（講義 3）
工芸の伝統技法（蒔絵実習 3・機織実習 2）

■受講に当たっての留意事項

専門性が高いため、文化財保存学専攻の学生を対象とする。

■成績評価方法

平常点を主体とする。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	文化財保護概論 Lecture on the preservation of cultural property			
教員名	上野 勝久			
開講時期	前期	火曜 2	単位	2
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

文化財保護に関する法令・制度・歴史、国際機関及び諸外国における文化財保護の制度などの学習を通じて、文化財保護の思想、文化財保存・修復の理念、国際協力の意味などについて考究する。

■授業計画及び内容

- 文化財の定義と保存の定義
- 文化財保護の歴史
- 文化財保護の大系と制度
- 有形文化財の保護
- 世界遺産条約と真実性概念
- 集落・町並みの保護
- 諸外国の文化財保護
- 国際憲章と修復の理念
- 無形文化財の保護
- 民俗文化財の保護
- 遺跡整備と復原
- 史跡・名勝と景観の保護
- 日本の世界文化遺産

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

出席とレポートによる。

■教科書／参考書

『文化財政策概論－文化遺産保護のあらたな展開に向けて』東海大学出版会

■備考（オフィスアワー）

火曜 17：30～18：30

授業科目名	文化財保護計画論 Lecture on the conservation program of cultural property			
教員名	上野 勝久			
開講時期	後期	火曜 2	単位	2
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

建造物・遺跡の保存修復・管理・整備活用と、歴史地区の保存・再生に関して、調査の方法と計画策定の考え方について学習し、個別性の強い文化遺産の性格に応じた対処の考え方と手法について考究する。

■授業計画及び内容

- 修理事業史
- 修理と現状変更
- 修理設計
- 修理設計
- 木工修理
- 木工修理
- 塗装・彩色修理
- 工学的処置法（1）
- 工学的処置法（2）
- 科学的処置法
- 集落・町並み保存計画
- 地域計画
- 修理報告書

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

出席とレポートによる。

■教科書／参考書

『新建築学大系 50 歴史的建造物の保存』彰国社 『まちづくり教科書 第2巻 町並み保存型まちづくり』丸善

■備考（オフィスアワー）

火曜 17：30～18：30

授業科目名	建築技術史特論 A Advanced lecture on History of Architectural Techniques			
教員名	上野 勝久			
開講時期	前期	月曜 5	単位	2
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

日本の伝統的木造建築の歴史を、技術の歴史という視点から通観し、日本独自の様式との関連を解明する。また、日本建築の構造的特徴と保存修復・活用の手法の関連について考察し、文化財建造物の修復手法、木造建築の展望を論考する。

■授業計画及び内容

- ガイダンス・木造建築の構造的特徴概論
- 古代建築技法と復原調査事例（熊野神社長床）
- 建築規模と空間構成、基礎の変遷
- 近世建築技法と復原調査事例（法華経寺祖師堂）
- 軸部構造の強化と変遷
- 越後豪雪地帯の豪農と千葉県安房地方の分棟型民家（長谷川家住宅・旧平群村）
- 斗拱（組物）の働きと発達過程
- 木造船の構造と造船技術（第五福竜丸）
- 軒と小屋組の発達過程
- 社寺建築の装飾技法（漆・彩色・鍍金具）
- 妻飾りと屋根の種類と変化
- 日本の茅葺き技術
- 造作・柱間装飾の特徴と変化

■受講に当たっての留意事項

各回毎に事前に参考書・参考資料を読んでくること。

■成績評価方法

平常点とレポートおよび見学と研修結果の発表等を総合評価。

■教科書／参考書

『日本建築史図集』 日本建築学会編 彰国社発行

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	建築技術史特論 B Advanced lecture on History of Architectural Techniques			
教員名	秋枝 ユミ イザベル			
開講時期	後期	木曜 5	単位	2
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

建築の技術のひとつとしての「歴史的建造物の保存」、その展開とあり方について考えるため、この授業では西欧において過去の建築がいかに扱われてきたかについて学ぶことをテーマとする。古代から近代にわたってヨーロッパの主要な国々を取り上げ、各々の事例からそれらの取り組みを支えてきた考え方・理念について考究する。

■授業計画及び内容

- 『建築遺産の保存 その歴史と現在』を参考に、次のテーマなどについて取り上げる。
- 伝統的社会から近代社会への移行：歴史と遺産についての考え方
 - ルネサンス期における古代の再発見（ローマ、ヨーロッパの国々）
 - 啓蒙時代（絵画修復、考古学的発見、古代遺産の修復）
 - 古典時代：フランス（保護・目録作成、博物館）、ローマ、ギリシャ
 - ロマン主義の時代：イギリス（ゴシック・リヴァイヴァル、大聖堂の改造）、ゲルマン諸国におけるロマン主義と中世の復活、フランスの国家的行政
 - 様式を重視する修復、保存・修復の対立：フランス、イギリス、オーストリア、イタリア
 - 保存の基本原則と保存政策の発展：イギリス、フランス、中央ヨーロッパ、イタリア
 - 国際的な文書（ヴェニス憲章、世界遺産条約、奈良ドキュメント、他）

など

■受講に当たっての留意事項

各回毎に事前に参考書・参考資料を読んでくること。

■成績評価方法

平常点とレポート提出・発表に基づく。

■教科書／参考書

『建築遺産の保存 その歴史と現在 (A History of Architectural Conservation)』 ユッカ・ヨキレット

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	建造物保存技術論 Technology of Restoration Historical Buildings			
教員名	上野 勝久			
開講時期	前期	月曜 3	単位	2
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

・建造物保存の実例を通じて、修理の方法について考究する。
 ・実際に行われた保存修理の例を社寺建築、民家・住宅、近代建築の3つの分野各一例をとりあげ、具体的な方法について学ぶ。
 ・各事例研究は、対象建造物の概要、歴史・意匠的・構造的・技術的特色、修理着手前の破損状況調査、部材調書の作成、仕様調査、痕跡調査、解体技法、解体中の調査、修理内容の検討、修理技法、補足材の検討、構造補強・復原の検討と技術的課題、組立技法、記録作成、受講生による報告書の講読とディスカッション、最終レポート提出などよりなる。

■授業計画及び内容

第1回～5回 文化財の修復事例（近代建築）
 この間に1回修復現場の見学演習
 第6回～10回 文化財の修復事例（社寺建築）
 この間に1回修復現場の見学演習
 第11回～15回 文化財の修復事例（民家）
 この間に1回修復現場の見学演習

- ・実測調査、破損・仕様調査、構成部材調査
- ・調査、診断と修理方針策定
- ・構造補強設計と施工
- ・補修工事と活用計画
- ・痕跡・復原調査と現状変更
- ・屋根葺替及び部分修理の記録

■受講に当たっての留意事項

文化財の修復現場の見学にあたっては、十分に留意すること。

■成績評価方法

出席およびレポートによる。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

講義終了後。

授業科目名	都市遺産保存論（建築史Ⅱ） Conservation of cultural property at Japanese city			
教員名	光井 渉			
開講時期	後期	月曜 5	単位	2
履修対象	大学院生			
特記事項	振替措置（建築専攻→建築史）			

■授業テーマ

近年、歴史的建造物は文化遺産としてはもとより、身近にある町づくりの資産として脚光を浴びています。この講義は、「文化的資産としての歴史的建造物」と題して、明治以降現在まで歴史的建造物がどのように捉えられてきたのかについて検証していきます。

■授業計画及び内容

各回のテーマは以下のものを予定しますが、進行状況に応じて変更する可能性があります。

- 1 日本の歴史的建造物（ガイダンス）
- 2 文化的価値の発見
- 3 保存の視点
- 4 価値評価と修理
- 5 復原の是非
- 6 史跡と城郭
- 7 再現
- 8 民家の保存
- 9 近代建築の保存
- 10 古都の保存
- 11 集落・町並の保存
- 12 町づくりへ

■受講に当たっての留意事項

振替措置：建築専攻学生は「特論・建築史Ⅱ」、文化財保存学専攻学生は「都市遺産保存論」。必ず該当する科目を履修すること。履修科目を誤った場合には、修了単位に認定されない。

■成績評価方法

出席状況にレポートを加えて評価する。

■教科書／参考書

第1回目の講義の際に、参考文献リストを配布します。
 参考図書 『カラー版 建築と都市の歴史』（光井渉・太記祐一著、井上書院）

■備考（オフィスアワー）

月曜日 17:30～ 総合工房 B 棟4階 光井研究室 (B-412室)

授業科目名	建造物調査・修復演習 Survey and Documentation of Historic Building		
教員名	上野 勝久		
開講時期	集中	単位	4
履修対象	大学院生		
特記事項			

■授業テーマ

- ・町並み及び建造物の調査演習を通じ、保存・修復計画の立案、保存・修復行程の管理、調査・修理報告書の作成に関する知識・技術を修得する。
- ・上野谷中地区周辺、関東近県、および奈良県内で実施する。
- ・内容は、歴史的建造物および町並みの調査演習、歴史的建造物の実測及び製図、破損調査及び調書作成、痕跡調査及び復原図作成、修理方針及び肯定計画の策定、修理現場体験などよりなる。

■授業計画及び内容

- 第一次 建築物調査演習（4月～7月・8回、後期・数回）
- ・部材調書作成、登録文化財申請書作成、修理工事報告書解説、町並み調査等の演習を通して、建造物の調査方法及び評価方法を習得する。
- 第二次 修復演習（7月、1泊2日）
- ・関東近県の文化財修理現場にて、痕跡調査、破損調査、技法調査、修復現場見学を行い、実測製図および報告を作成する。あわせて近隣の文化財見学を行う。
- 第三次 実測調査・製図演習（9月上旬、9泊10日）
- ・奈良古美術研究施設に滞在し、奈良県内の歴史的建造物を対象にした実測調査、構造形式調査、修復現場見学、文化財見学を行う。実測製図および構造形式調書を作成する。

■受講に当たっての留意事項

文化財に直接触れるので、破損、汚損などしないよう注意する。受講前にガイダンスを行い、用具、服装などの指示を受ける。

■成績評価方法

出席とレポート、実測図等成果作品による。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

金曜日 17:30～18:00

授業科目名	保存科学演習 I Colloquium of conservation science I		
教員名	稲葉 政満、桐野 文良、塚田 全彦		
開講時期	前期	月曜 3	単位 1
履修対象	大学院生		
特記事項			

■授業テーマ

保存科学に関する外国文献講読と討議を行い、さらに課題研究について報告し、討論する。

■授業計画及び内容

■受講に当たっての留意事項

受講生は当該分野の学生に限る。

■成績評価方法

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	保存科学演習Ⅱ Colloquium of conservation science2			
教員名	稲葉 政満、桐野 文良、塚田 全彦			
開講時期	後期	月曜 3	単位	1
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

保存科学に関する外国文献講読と討議を行い、さらに課題研究について報告し、討論する。

■授業計画及び内容

■受講に当たっての留意事項

受講生は当該分野の学生に限る。

■成績評価方法

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	保存科学演習Ⅲ Colloquium of conservation science3			
教員名	稲葉 政満、桐野 文良、塚田 全彦			
開講時期	前期	水曜 1	単位	1
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

保存科学に関する外国文献講読と討議を行い、さらに課題研究について報告し、討論する。

■授業計画及び内容

■受講に当たっての留意事項

受講生は当該分野の学生に限る。

■成績評価方法

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	保存科学演習IV Colloquium of conservation science4			
教員名	稲葉 政満、桐野 文良、塚田 全彦			
開講時期	後期	水曜 1	単位	1
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

保存科学に関する外国文献講読と討議を行い、さらに課題研究について報告し、討論する。

■授業計画及び内容

■受講に当たっての留意事項

受講生は当該分野の学生に限る。

■成績評価方法

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	文化財測定学 Analytical science			
教員名	稲葉 政満、鈴木 稔、二宮 修治			
開講時期	通年	金曜 5	単位	4
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

文化財資料の理化学的分析法について、分析の目的、原理、応用例について幅広く講義する。応用例では事前調査や保存処理方法の評価についてもふれる。外部の保存科学者による講義も適宜組み入れる。文化財を保存していく上でどの様な役割を科学が担うかについても論じる。

■授業計画及び内容

以下のテーマに沿って行う。

保存科学の歴史
文化財資料の理化学的測定法の目的
非破壊分析法、微小資料分析法
産地確定、年代確定
酸性雨問題とその対策
紙の製造法と保存法
保存システムの構築
データの解析と評価
文献検索法と研究報文の書き方

研究室主催の集中講義および関連の学外でのシンポジウムへの参加も含める。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

講義中の小テスト、レポートおよび出席率で評価する。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

講義終了時、火曜日 16～17時（稲葉）

授業科目名	美術工芸材料科学 Material science for fine arts			
教員名	桐野 文良			
開講時期	通年	月曜 1	単位	4
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

美術工芸に用いられる材料を制作の立場からの材料の視点より講義する。

■授業計画及び内容

美術工芸品観察しながら以下のテーマで講義する。幅広い視点から材料が見られるように製作の視点を重視する。

- ①美術工芸材料科学とは - 原料と材料
- ②木材の材料科学 I
- ③木材の材料科学 II
- ④繊維の材料科学 - 動物性繊維を中心に
- ⑤繊維の材料科学 - 植物性繊維を中心に
- ⑥接着剤の科学
- ⑦染料の科学 I
- ⑧染料の科学 II
- ⑨高分子化学の基礎
- ⑩高分子材料学の基礎
- ⑪顔料の科学
- ⑫ガラスの科学
- ⑬セラミックス材料学の基礎 I
- ⑭セラミックス材料学の基礎 II
- ⑮文化財と材料科学 - まとめにかえて

■受講に当たっての留意事項

基本的な化学、物理学に関する知識があることが望ましい。

■成績評価方法

出席率で評価する。

■教科書／参考書

適宜示す。

■備考（オフィスアワー）

fkirino@fa.geidai.ac.jp、講義終了時（桐野）

授業科目名	材料科学実験 Experiment in material science			
教員名	稲葉 政満			
開講時期	通年	月曜 4・5	単位	1
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

美術工芸品に使われる材料は多岐にわたっている。したがって、本講義では、材料の物質としての化学的性質、物理的性質や物質の化学的変化等無機物と有機物の化学・物理実験を通じて観察することにより、材料科学の理解に欠くことのできない基礎的な知識を確実なものにし、多種多様な材料の性質の理解に関しても科学的態度をもって対処できる能力を養成する。

■授業計画及び内容

実験の基礎知識
美術工芸品に用いられる有機物の基礎的実験
美術工芸品に用いられる無機物の基礎的実験
データの解析

■受講に当たっての留意事項

実験機器使用のため、保存科学の学生のみとする。

■成績評価方法

実験実習のため出席点とレポートで評価する

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

講義終了時

授業科目名	機器分析法 Instrumental analysis			
教員名	稲葉 政満、桐野 文良			
開講時期	通年	金曜 2	単位	2
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

文化財に用いられている材料や劣化生成物を明らかにするための機器分析法について講義する。当教室が所有する種々の分析機器を中心に、その原理、解析法ならびに文化財試料への適用法を講義する。

■授業計画及び内容

以下の機器について講義を行う。

- ・光学顕微鏡
- ・SEM
- ・XRD
- ・XRF
- ・分光学的手法（IR、UV、可視、発光分光、ラマン）
- ・物理分析法の原理

■受講に当たっての留意事項

機器分析実験と併せて履修すること。

■成績評価方法

レポート

■教科書／参考書

「機器分析（1）」、日本分析化学会編、朝倉書店、R. V. PEOSOK, L. D. Shields 荒木、鈴木繁喬訳 “分析化学（第2版）” 東京化学同人

■備考（オフィスアワー）

fkirino@fa.geidai.ac.jp、講義終了時

授業科目名	機器分析実験 Experiment in instrumental analysis			
教員名	稲葉 政満、桐野 文良			
開講時期	通年	金曜 3	単位	1
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

文化財試料の機器分析実験であり、実際に操作法あるいは測定データの解析を実習する。

■授業計画及び内容

- ・光学顕微鏡
- ・SEM + EDX
- ・XRD（広角、微小部、薄膜）
- ・FT-IR
- ・UV-可視分光
- ・電気分析
- ・ラマン分光

■受講に当たっての留意事項

実習の性質上履修可能な人数に制限がある。研究上分析機器を操作する必要がある学生は必ず履修すること。機器分析法と合わせて履修すること。

■成績評価方法

平常点およびレポート

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

fkirino@fa.geidai.ac.jp、講義終了時

授業科目名	保存環境学特論 Museum environment			
教員名	朽津 信明、木川 りか、佐野 千絵			
開講時期	後期	火曜 1	単位	2
履修対象	学部生・大学院生			
特記事項	学部生は卒業要件単位にならない			

■授業テーマ

博物館展示室や収蔵庫などの室内におかれた文化財や、屋外に展示されている文化財の保存方法について、主に温湿度の制御や、生物被害対策による最新の研究成果を中心に講義、実習する。

■授業計画及び内容

朽津教員

- 0 1. 保存の歴史
- 0 2. 保存の考え方
- 0 3. 計測法と評価法
- 0 4. 保存の実例

木川教員・佐野教員

- 0 1. 文化財の虫害
- 0 2. 文化財の微生物被害
- 0 3. 文化財害虫の対処法

■受講に当たっての留意事項

専門性が高いため、文化財保存学専攻の修士課程以上を対象とする。
1 回ごとに完結しない講義形式となるため、欠席しないこと。

■成績評価方法

レポート・試験

■教科書／参考書

『博物館の基本』(財)博物館学協会、(株)東京プレス
『博物館の環境管理』ギャリートムソン、雄山閣

■備考 (オフィスアワー)

火曜日授業終了後 教室

授業科目名	保存環境計画論 Lecture on the preservation program of cultural environment			
教員名	佐野 千絵			
開講時期	前期	火曜 1	単位	2
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

文化財を劣化させる要因には熱・水分・光・汚染空気・生物など様々なものがある。それらの要因によって文化財の材質がどんな影響を受けるか、劣化を防ぐためにどうすれば良いか述べる。これらを踏まえて博物館・美術館における文化財の公開に関する法規制等を解説し、文化財にとって安全な保存環境を設計・制御・監視するためには、専門家としてどのような点に留意しなければならないかを論じる。

■授業計画及び内容

- 0 1. 保存環境学概論
- 0 2. 温度と湿度
- 0 3. 温度と湿度 (実習)
- 0 4. 大気汚染と室内汚染
- 0 5. 大気汚染 (実習)
- 0 6. 光と照明
- 0 7. 生物被害防止と IPM
- 0 8. 害虫・カビへの対策
- 0 9. 防災・防犯
- 1 0. 保存環境計画

■受講に当たっての留意事項

専門性が高いため、文化財保存学専攻の修士課程以上を対象とする。
毎回異なる課題について講義を行うので欠席しないこと。

■成績評価方法

出席点、レポートと学期末試験。

■教科書／参考書

『文化財保存環境学』三浦定俊他、朝倉書店
『文化財の保存環境』東京文化財研究所、中央公論美術出版
『博物館資料保存論—文化財と空気汚染』佐野千絵他、みみずく舎

■備考 (オフィスアワー)

火曜日授業終了後 教室

授業科目名	修復計画論 Lecture on restoration planning			
教員名	北野 信彦、中山 俊介、朽津 信明、早川 典子			
開講時期	前期	木曜 1	単位	2
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

文化財の修復を実施する前には、必ず何らかの計画が立てられ、それに従った作業が施工される。このような修復計画を立案する上では、対象となる文化財とはどのようなものであり、それを保存修復するには何をすれば良いのか、何をすればいけないのかを的確に判断することは大切なことである。

本授業では、文化財を修復する意義についてまず共通認識を持ったうえで、修復計画の基本的な理念と考え方、今日に至るまでの修復の歴史、各種文化財の修復現場で行われる施工仕様と使用される材料/技法の選択に対する基本的な規範などについて講義する。

具体的には、これまでに各教員が携わってきた様々な文化財資料の保存修復に関する具体的な作業を進めるために行ってきた事例を挙げ、それぞれの文化財資料に対する歴史的な解釈と、材質・技法に関する科学的な結果をも合わせて、これまでとは異なった新しい文化財の見方について講義するよう心がける。

■授業計画及び内容

講義：授業は以下の各教員がそれぞれのテーマについて講義を分担して行う。

北野信彦 教員（文化財総論・建造物の伝統的修理・埋蔵文化財・塗装技術）

中山俊介 教員（近代文化遺産）

朽津信明 教員（石造文化財）

早川典子 教員（装こう・漆工芸）

■受講に当たっての留意事項

専門性が高いため、文化財保存学専攻の修士課程以上を対象とする。

■成績評価方法

平常点（授業への積極的な取り組み方など）

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

木曜日授業終了後 教室

質問などは、メール [mail]kitano@tobunken. go. jp[/mail] まで

授業科目名	修復材料学特論 Conservation materials			
教員名	中山 俊介、北野 信彦、朽津 信明、早川 典子			
開講時期	前期	木曜 2	単位	2
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

修復材料学特論では、中山教員が近代文化遺産の保存科学について、朽津教員が石造文化財の保存修復について、早川教員が文化財修復に関連する有機化学材料について、北野教員が埋蔵文化財の保存修復関連の材料等について講義を行う。

■授業計画及び内容

中山教員

世界の恒久平和を願うシンボルとして世界遺産に登録された原爆ドームを始め、近年、映画フィルムが重要文化財指定を受ける等、近代文化遺産を構成する材料も多様化している。講義ではこれまで実務として関わってきた近代化遺産の保存処理を例に挙げ、その変遷を解説する。

朽津教員

材料としての顔料及び石材の歴史や科学的性質について講義する。

早川教員

文化財修復に用いる有機材料を中心に、その科学的性質や現場での使用方法について講義する。

北野教員

主に埋蔵文化財（木製品・植物繊維製品・金属製品・瓦や土器・土層剥ぎ取り・遺物取り上げなど）を取り扱う現場で実際に保存修復作業に用いている材料や保存処理薬剤について、これまで実務として関わってきた現場での工程や使用方法について解説する。

■受講に当たっての留意事項

専門性が高いため、文化財保存学専攻の修士課程以上を対象とする。

■成績評価方法

平常点を主体とする

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

木曜日授業終了後 教室

授業科目名	文化財保存学 I Conservation science I		
教員名			
開講時期		単位	4
履修対象	大学院生		
特記事項			

■授業テーマ

中国絵画演習

■授業計画及び内容

未定（授業初日にスケジュールを提示）

■受講に当たっての留意事項

中国工筆画を中心とした実技的演習。中国画あるいは日本画において修士課程程度の実技を習得していること。

教材費を徴収する。本テーマでの開講は本年度限りである。

■成績評価方法

出席ならびに作品による

■教科書／参考書

授業の初日に紹介する。

■備考（オフィスアワー）

授業時間後

授業科目名	文化財保存学 II Conservation science II		
教員名			
開講時期		単位	4
履修対象	大学院生		
特記事項			

■授業テーマ

中国絵画史

■授業計画及び内容

未定（授業初日にスケジュールを提示）

■受講に当たっての留意事項

中国絵画史についての講義。文化財保存、日本画、中国画、日本東洋美術史等の基礎知識があること。修士以上が望ましい。

■成績評価方法

出席とレポート

■教科書／参考書

なし。資料配布あり。

■備考（オフィスアワー）

授業時間後

授業科目名	埋蔵文化財保存論 Lecture on the conservation of archaeological objects			
教員名	関根 理恵			
開講時期	通年	月曜 2	単位	4
履修対象	大学院生			
特記事項				

■授業テーマ

埋蔵文化財保存に関する国際法令や制度、国際機関による取り組み等の歴史的経緯および現状について学び、国内外の埋蔵文化財保存の最新動向について考究する。

■授業計画及び内容

- 日本における埋蔵文化財保存に関する国際法令および制度
 - 文化財保護法
 - 埋蔵文化財発掘又は遺跡の発見の届け出等に関する規則
- 埋蔵文化財保存に関する国際法令および国際政策
 - Convention on the Protection of the Underwater Cultural Heritage 2001
 - Convention on the Means of Prohibiting and Preventing the Illicit Import, Export and Transfer of Ownership of Cultural Property 1970
 - Recommendation on International Principles Applicable to Archaeological Excavations 1956
- UNESCOによる文化遺産救済キャンペーンについて
 - アブ・シンベルからフィラエまでのヌビア遺跡群
 - ボルブドゥール寺院遺跡群
 - モヘンジョダロ遺跡群
- UNESCO文化遺産保存日本信託基金 Programme について
 - パーミアン溪谷の文化的景観と古代遺跡群
- 学外での見学／調査等

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

平常点とレポートおよび発表等の総合評価

■教科書／参考書

Noguchi Hideo, The Restoration of Borobudur, UNESCO Publishing, 2005, 978-92-3-103940-9

■備考（オフィスアワー）

講義終了後

授業科目名	古文化財研究 Research Tour of Cultural Property			
教員名	文化財保存学教員			
開講時期		集中	単位	4
履修対象	大学院生			
特記事項	学事暦参照			

■授業テーマ

近畿地方（主に京都・奈良）を中心に、1週間の古美術研究旅行を行う。

■授業計画及び内容

実施時期は5月下旬。学事暦参照。
1年次に実施。

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

教職科目

授業科目名	教職概論 (取手) Introduction of profession		
教員名	萩野谷 栄		
開講時期		単位	2
履修対象	教職課程履修者		
特記事項			

■授業テーマ

社会や時代の変化とともに学校教育に求められる内容・質が変化してきている。その変化に対応した教育改革の核として教育職員の様々の能力の向上が掲げられている。

このような現状を踏まえて、基本的な法令を基に学校教育の理解を深めるとともに、教師として児童・生徒にどのように向き合い、理解し、教育活動に取り組むかについて、講義・事例研究を通して理解を深める。特に学校で果たす「美術教師」の役割について、実事例研究等を基にして考察する。

■授業計画及び内容

- 第1回 教職の概念と意義 教師像
- 第2回 教育の目的
- 第3回 学校教育と教育法規
- 第4回 事例から学ぶ 教師のあり方
- 第5回 事例から学ぶ 教師のあり方と教育法規
- 第6回 事例から学ぶ 教師のあり方・学校組織・法規
- 第7回 教師の仕事と法的位置付け
- 第8回 教師の仕事と学校経営参画意識
- 第9回 事例から学ぶ 美術、工芸の教師の果たす役割
- 第10回 教育課程の編成と実施
- 第11回 美術の指導と教育課程
- 第12回 組織マネジメント
- 第13回 教師の勤務 勤務条件・服務
- 第14回 今日の教育施策と教員採用試験の実際
- 第15回 論文試験 まとめ

■受講に当たっての留意事項

教師を目指すものとしての望ましい授業参加態度であること

■成績評価方法

授業・事例研究等の参加状況
小論文試験

■教科書／参考書

授業時 プリント配付
参考書 第1回の時に指示をする。

■備考 (オフィスアワー)

授業終了後

授業科目名	教育原理 Principles of education			
教員名	青柳 路子			
開講時期	通年	水曜 3	単位	4
履修対象	教職課程履修者			
特記事項				

■授業テーマ

教育の基本原理を学び、教育そして教育学についての基礎的で幅広い知識を修得することによって、日本社会や学校における教育事象や教育課題について多角的にとらえる視座を身につける。また教職に就くことを目指す者として、将来の自らの教育実践につながるような、教育について積極的に考察する態度を養うことを目標とする。

■授業計画及び内容

授業は講義形式でプリント等を用いながら進める。授業内容によって、受講生が自ら考えられるよう DVD 等を用いたり、受講生同士が議論したり交流したりできるような機会を盛り込む。

1. オリエンテーション：授業の概要と履修について
2. 教育とはなにか①：教育という営みについて
3. 教育とはなにか②：教育がもたらすもの
4. 教育と人間：発達をめぐって
5. 教育と子ども：子ども観を中心に
6. 教育の目的①：教育思想から (1)
7. 教育の目的②：教育思想から (2)
8. 教育と社会、歴史①：近代学校の成立
9. 教育と社会、歴史②：国民国家と教育
10. 教育と社会、歴史③：日本における学校制度の成立
11. 教えること、学ぶこと
12. 学習の過程と形態
13. 教師の仕事①：教師のアイデンティティ
14. 教師の仕事②：教職の専門職化
15. 教育の目標とカリキュラム、評価、そして学力
16. 教育におけるメディアと学びの空間のデザイン
17. 教育における法
18. 教育行政
19. 学校間の接続①：就学前教育から初等教育へ
20. 学校間の接続②：中等教育から高等教育へ
21. 子どもの権利
22. 特別な支援を必要とする子どもたちへの配慮
23. 社会教育と生涯学習
24. ジェンダー、セクシュアリティ、社会階層をめぐって
26. 現代における教育の問題を考える①
27. 現代における教育の問題を考える②
28. まとめと振り返り (レポートもしくはテスト)

※ 授業の終わりにコメントペーパーを書いてもらい、受講者の学修成果を確かめるとともに各自の知的関心を授業に反映させることができるようにしたい。

※ 授業内容の順番は入れ替わることがある。

■受講に当たっての留意事項

教職を目指す学生を対象とした授業なので、なるべく欠席をしないこと。

■成績評価方法

平常点と学期末のレポートもしくはテストによる。
平常点として出席を重視する。この他、授業終わりに配布するコメントペーパー等への記入状況・内容により授業への参加意欲も加味する。

■教科書／参考書

授業では配付プリントを使用する。

参考書：木村元ほか著『教育学をつかむ』（有斐閣、2009年、2205円）
（その他の参考書は授業中に示す。）

■備考 (オフィスアワー)

授業終了後。

授業科目名	教育心理学 Educational psychology			
教員名	青柳 路子			
開講時期	後期	水曜 5	単位	2
履修対象	教職課程履修者			
特記事項				

■授業テーマ

教育とはどういう営みか、教えるということはどういうことか、子どもたちが学ぶためにどのような援助ができるか。教育場面に立つとき出会うであろう、そうした問いに向かい合うための手立てとして、教育心理学の基礎的知識を習得する。

授業では、学ぶとはどういうことか、人はどのような発達を遂げるのかを理解することをはじめ、その学習や発達をとらえようとしてきた研究の蓄積を学ぶ。また集団（あるいは社会）の心理が及ぼす影響を学校教育に即して理解し、子どもたちに関わる際に尊重し考慮すべき個別性と、その背後で理解しておくべき普遍性について考える。

全体をとおして、心理学の知見に基づいて学校の果たす役割や、教員が果たしている役割はといった何かという領域にまで受講者と共に考えを深めたい。

■授業計画及び内容

授業は講義形式でプリントとスライドを用いながら進める。受講生が自ら考えられるよう DVD 等を用いたり、時には受講生同士が議論したり交流したりできるような機会を盛り込む。

1. オリエンテーション：授業の概要と履修について
2. 教育心理学を学ぶ意義：教育の歴史と心理学の歴史・展開から
3. 学習のしくみ①：行動主義からのアプローチ
4. 学習のしくみ②：学習意欲と動機づけ
5. 記憶のメカニズム
6. 発達と教育①：遺伝と環境
7. 発達と教育②：初期経験の重要性
8. 発達の諸相①：
9. 発達の諸相②：
10. 学びの支援：発達障害など個に応じた学びの援助
11. 知能と創造性
12. パーソナリティを理解する：パーソナリティ検査に着目して
13. 学級という社会
14. 学力と教育評価
15. 全体を振り返って：まとめとテスト（もしくはレポート）

※ 毎回授業の終わりにコメントペーパーを書いてもらい、受講者の学修成果を確かめるとともに各自の知的関心を授業に反映させることができるようにしたい。

■受講に当たっての留意事項

教職を目指す学生を対象とした授業なので、なるべく欠席をしないこと。

■成績評価方法

平常点と学期末のテスト（もしくはレポート）による。平常点として、授業への出席を重視する。この他、授業終わりに配布するコメントペーパーの内容等により授業への参加意欲も加味する。

■教科書／参考書

授業中に指示する。

■備考（オフィスアワー）

授業終了後。

授業科目名	教育課程の研究（取手） Curriculum design			
教員名	杉本 昌裕			
開講時期		集中	単位	1
履修対象	教職課程履修者			
特記事項				

■授業テーマ

教育課程とは、学校教育の目的を達成するための教育内容・教材に関する計画である。そのため、教育基本法、学校教育法をはじめ様々な教育法規や教育制度を基につくられる。

本授業では、学校教育において必要な変わることのない教育と現在解決を図るべき教育などを、小学校、中学校、高等学校に当てはめて考えることから始めていく。

具体的には、学校教育の原理的なこと、児童・生徒理解、教員の果たす役割などを講義と簡単な演習の中から学び取り、各自が実際に教育課程の編成を計画することで、研究を進める。

■授業計画及び内容

- 1 教育課程とは
- 2 発達段階と教育課程構成
- 3 「教育課程」編成のための法規及び制度（その1）
- 4 「教育課程」編成のための法規及び制度（その2）
- 5 教育目標および重点解題とは
- 6 小学校の教育課程
- 7 中学校の教育課程
- 8 高等学校の教育課程
- 9 特別支援学校等の教育課程
- 10 諸外国の教育課程
- 11 社会教育とのかかわり
- 12 美術とのかかわり
- 13 教育課程をつくる（その1）
- 14 教育課程をつくる（その2）
- 15 まとめ

■受講に当たっての留意事項

集中講義なので一日休むと単位取得ができませんので、注意すること。

■成績評価方法

概ね、出席状況 40%、ノート提出 30%、テストまたは課題論文 30% で評価する。

■教科書／参考書

『教育にかかわる（教育課程の研究編）』杉本昌裕』を使います。

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	工芸教育法 A Method of design and craft Education A			
教員名	織田 このみ			
開講時期	通年	月曜 5	単位	4
履修対象	教職課程履修者			
特記事項	AB いずれか1つ（4単位）を履修			

■授業テーマ

現代社会、特に情報化社会にあって人間教育として工芸教育が果たす役割を考えるとともに、学校現場においては教師としてどのような展望を持ち、これからの工芸教育を实践していくのかを考察する。将来、教師として学習指導する際に必要な事項として工芸についての基本的考え方や道具の原理と扱い、中学・高校における指導方法・授業展開などを、演習を交えて学んでいく。

■授業計画及び内容

1. 工芸教育法について
2. 工作・工芸教育の変遷
3. 工芸についての基本的考え方
4. 工芸の学習指導・演習（1）
5. 素材と技法（1）
6. 素材と技法（2）
7. 素材と技法（3）
8. 素材と技法（4）
9. 素材と技法（5）
10. 素材と技法（6）
11. 素材と技法（7）
12. 工芸の学習指導・演習（2）
13. 道具の原理と扱い（1）
14. 道具の原理と扱い（2）
15. 前期試験およびレポート提出
16. 学校施設と設備および教材としての材料
17. 教科書、教材、道具の選択（提出課題の指示）
18. 工芸デザインのプロセス
19. 学習指導・発想を導く
20. 基礎造形（1）
21. 基礎造形（2）
22. 基礎造形（3）
23. 学習指導要領の形式と内容
24. 指導案の形式
25. 学習指導案と年間指導計画
26. 学習指導・装飾の意義
27. 学習指導「表現」「制作」（課題の提出）
28. 学習指導「鑑賞」
29. 作品の評価、学習の評価
30. まとめ、課題作品返却

■受講に当たっての留意事項

出席重視、遅刻しないこと。ノートを準備。教材費 500 円程度。

■成績評価方法

通年 2/3 以上の出席、筆記試験・課題作品・レポート・平常点

■教科書／参考書

講義で指示

■備考（オフィスアワー）

（月 5）（火 4） 講義前後 美術教育研究室

授業科目名	工芸教育法 B Method of design and craft Education B			
教員名	織田 このみ			
開講時期	通年	火曜 4	単位	4
履修対象	教職課程履修者			
特記事項	AB いずれか1つ（4単位）を履修			

■授業テーマ

現代社会、特に情報化社会にあって人間教育として工芸教育が果たす役割を考えるとともに、学校現場においては教師としてどのような展望を持ち、これからの工芸教育を实践していくのかを考察する。将来、教師として学習指導する際に必要な事項として工芸についての基本的考え方や道具の原理と扱い、中学・高校における指導方法・授業展開などを、演習を交えて学んでいく。

■授業計画及び内容

1. 工芸教育法について
2. 工作・工芸教育の変遷
3. 工芸についての基本的考え方
4. 工芸の学習指導・演習（1）
5. 素材と技法（1）
6. 素材と技法（2）
7. 素材と技法（3）
8. 素材と技法（4）
9. 素材と技法（5）
10. 素材と技法（6）
11. 素材と技法（7）
12. 工芸の学習指導・演習（2）
13. 道具の原理と扱い（1）
14. 道具の原理と扱い（2）
15. 前期試験およびレポート提出
16. 学校施設と設備および教材としての材料
17. 教科書、教材、道具の選択（提出課題の指示）
18. 工芸デザインのプロセス
19. 学習指導・発想を導く
20. 基礎造形（1）
21. 基礎造形（2）
22. 基礎造形（3）
23. 学習指導要領の形式と内容
24. 指導案の形式
25. 学習指導案と年間指導計画
26. 学習指導・装飾の意義
27. 学習指導「表現」「制作」（課題の提出）
28. 学習指導「鑑賞」
29. 作品の評価、学習の評価
30. まとめ、課題作品返却

■受講に当たっての留意事項

出席重視、遅刻しないこと。ノートを準備。教材費 500 円程度。

■成績評価方法

通年 2/3 以上の出席、筆記試験・課題作品・レポート・平常点

■教科書／参考書

講義で指示

■備考（オフィスアワー）

（月 5）（火 4） 講義前後 美術教育研究室

授業科目名	美術教育法 A Teaching method of art education A			
教員名	矢部 亜矢			
開講時期	通年	金曜 4	単位	4
履修対象	教職課程履修者			
特記事項	AB いずれか1つ（4単位）を履修			

■授業テーマ

本講義は、美術科教育の理論と実際、学習指導に必要な基本的知識と技術について、主に中学の教育課程を軸として学ぶものである。教員の現状を把握すると共に、日本の美術教育史、授業を想定した演習などの実践的体験を通して、表現者としての自己と教育との関わり方や、美術の活動が人間にもたらすもの、現在の社会的背景を踏まえた望ましい美術科教育のあり方について、様々な角度から考察する。将来、教職に就く意志を持ち、真摯に課題に取り組む覚悟のあるものが履修すること。

■授業計画及び内容

1. 美術の教師になるために 教師の資質と専門性
2. 教師の役割 授業に必要な要素とは
3. 子供の発達段階と段階的指導 学習指導要領の構成
4. 中学校学習指導要領 A 表現 教科書との比較
5. 中学校学習指導要領 B 鑑賞
6. A 表現の題材研究
7. 表現の模擬授業 1
8. 2
9. 3
10. B 鑑賞の題材研究
11. 鑑賞の模擬授業 1
12. 2
13. 3
14. 評価と観点 学習指導計画表の作成
15. 学習指導計画表 [展開]
16. 学習指導計画表の検証
17. 授業の導入
18. 模擬授業準備 1 題材決定
19. 模擬授業準備 2 展開の考察
20. 模擬授業と講評その 1
21. " その 2
22. " その 3
23. " その 4
24. 年間および三年間の指導計画の構成と作成
25. 日本の美術教育の歴史その 1
26. その 2
27. 今日の美術教育・学習指導要領の変遷その 1
28. " その 2
29. 現代の様々な教育実践
30. 教育実習と教員採用試験について

※ 項目は参考

■受講に当たっての留意事項

- ・各自配布プリント（B 4）整理用ファイルを用意。
- ・1年・4年時での履修はしないこと。3年での履修が望ましいが、公欠の多い学年は避ける。
- ・美術教育法 A または B の単位取得が教育実習の必須条件であるので注意すること。

■成績評価方法

出席・提出物・授業参加状況による。
 ※ 課題は全て提出のこと。期限厳守。
 ※ 原則無欠席。遅刻・早退不可。前期・後期それぞれの授業時数の3分の1を欠席した場合、その時点で失格。
 ※ 教職科目という講義の性質上、提出された課題の内容が不十分な場合（内容・期限・提出数）、無欠席でも単位不認定とする。

■教科書／参考書

教科書（必携）：学習指導要領「美術」解説、「美術資料」秀学社
 中学校教科書「美術1」「美術2.3上下」開隆堂
 参考書：「新版 美術教育の基礎知識」建帛社

■備考（オフィスアワー）

金曜 4限 - 5限（中央棟 B 1 F 美術教育研究室）

授業科目名	美術教育法 B Teaching method of art education B			
教員名	藤岡 孝充			
開講時期	通年	木曜 5	単位	4
履修対象	教職課程履修者			
特記事項	AB いずれか1つ（4単位）を履修			

■授業テーマ

「美術科」という教科の担う役割は大きいですが、授業時数の減少や教員の削減が進んでいる。このような現状を受け止めつつ、美術科教育の意義や学習指導に必要な基本的知識と方法を学ぶ。具体的には「中学校美術」の授業を中心に、題材設定や指導計画の組み立て方を理解し、模擬授業などを行いながら授業実践に慣れることとともに、美術科教育へのそれぞれの関わり方を考える。

■授業計画及び内容

- 1 ガイダンス：美術教育と美術科教育
- 2 美術科教員の資質と専門性
- 3 中学校学習指導要領「美術」A 表現
- 4 中学校学習指導要領「美術」B 鑑賞
- 5 中学校学習指導要領「美術」指導計画の作成と内容の取扱い
- 6 評価の考え方と方法
- 7 習指導案（細案）の考え方と作成方法
- 8 グループワーク：教科書の題材による学習指導案の検討
- 9 グループワーク：学習指導案 発表
- 10 ビデオ教材の事例による「鑑賞」の授業の理解
- 11 グループワーク：「鑑賞」の題材による学習指導案の検討
- 12 グループワーク：「鑑賞」の題材による模擬授業準備
- 13 「鑑賞」の模擬授業と講評（1）
- 14 「鑑賞」の模擬授業と講評（2）
- 15 「鑑賞」の模擬授業と講評（3）
- 16 用具・材料について
- 17 グループワーク：「表現」の題材による学習指導案作成
- 18 グループワーク：「表現」の題材による模擬授業準備
- 19 「表現」による模擬授業と講評（1）
- 20 「表現」による模擬授業と講評（2）
- 21 「表現」による模擬授業と講評（3）
- 22 美術教育の歴史（1）明治～戦中（教科書を中心に）
- 23 美術教育の歴史（2）戦後（学習指導要領の変遷）
- 24 年間指導計画・3か年題材配列計画の組み立て方
- 25 年間指導計画作成
- 26 海外の美術教育理論と歴史
- 27 子どもの絵の発達段階
- 28 美術科の教員になるための手順
- 29 教員採用試験の問題解説
- 30 これからの美術教育

■受講に当たっての留意事項

- ・必ず履修該当学年（3年時）で受講すること。（1, 2年時には受講しないこと）
- ・将来、教職に就く意思を持ち、真摯に課題に取り組む姿勢があること。
- ・グループワークなどの重要な活動があり、全回出席を前提として授業を進めていくので、欠席・遅刻・早退はしないこと。
- ・指定された教科書は必ず購入すること。

■成績評価方法

出席状況、グループワークや模擬授業への参加態度、指導案等の提出物による総合的な評価を行う。

■教科書／参考書

検定教科書中学校用『美術1』、『2・3上』、『2・3下』（光村図書出版）、
 中学校学習指導要領解説美術編（文部科学省）

■備考（オフィスアワー）

授業終了時に申し出ること。

授業科目名	道徳教育の研究 Studies of Moral Education			
教員名	杉本 昌裕			
開講時期	前期	火曜 4	単位	2
履修対象	教職課程履修者			
特記事項				

■授業テーマ

道徳教育は、今日の教育の重点課題である。小学校・中学校では「道徳」の授業がある。それだけでなく、高等学校ではどのように指導していくか、各教科の指導の中に道徳をどのように含めるか、などの課題も新しい学習指導要領に明記された。本講義では、演習や実習を取り入れ、体験型・参加型の授業展開にし、実践的な授業を工夫していく。また、自らの道徳教材開発も課題として取り入れていく。

■授業計画及び内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 道徳教育の意義
- 第3回 学校教育における道徳教育の歴史
- 第4回 小学校・中学校での実践について
- 第5回 道徳教材の開発（演習）
- 第6回 教材研究（グループ討議）
- 第7回 教材研究（自己開発）
- 第8回 高等学校での道徳の指導
- 第9回 事例研究
- 第10回 事例研究から指導の在り方へ
- 第11回 美術、工芸指導の中での道徳教育
- 第12回 美術、工芸指導における道徳的教材研究
- 第13回 道徳の評価（考え方）
- 第14回 道徳の評価（評価の実際）
- 第15回 まとめ「心の教育に向けて」

■受講に当たっての留意事項

できるだけ欠席しないこと。

■成績評価方法

概ね、出席 40%、ノート提出 20%、研究教材等 20%、まとめの課題（論文形式またはテスト）20%とし、総合的に評価する。

■教科書／参考書

教材については、オリエンテーションで指示する。

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	特別活動の指導法（取手） Study of special activities			
教員名	杉本 昌裕			
開講時期		集中	単位	1
履修対象	教職課程履修者			
特記事項				

■授業テーマ

特別活動とはどのようなものか、また、特別活動を通して何を学ぶか・指導するかなどについて、実践的に授業を進めていく。具体的には、講義の中に演習や実習を取り入れ、体験型・参加型の授業展開とする。受講者各自の創意工夫により、これまでの特別活動の課題や問題点を明らかにし、新しい形の特別活動の在り方を創造する。

■授業計画及び内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 特別活動について
- 第3回 特別活動の年間指導計画及び計画の立て方
- 第4回 学級活動、HR 活動の進め方（1）
- 第5回 学級活動、HR 活動の進め方（2：学級目標）
- 第6回 集団指導の技術
- 第7回 集団討議法について（演習）
- 第8回 特別活動の教材
- 第9回 教材研究（グループ討議）
- 第10回 宿泊を伴う学校行事
- 第11回 学校行事の進め方
- 第12回 部活動などの指導と実際
- 第13回 特別活動の評価
- 第14回 美術とのかかわり
- 第15回 まとめ

■受講に当たっての留意事項

集中講義なので一日欠席すると単位取得ができないので注意すること。
また、簡単な図表を描くため、色鉛筆や定規などがあれば持参してください。

■成績評価方法

概ね、出席（40%）、ノート提出（20%）、教材研究・指導法課題（20%）、試験または小論文（20%）で評価する。

■教科書／参考書

オリエンテーションの時の連絡する。

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	教育方法論（取手） Method of education		
教員名	藤岡 孝充		
開講時期	集中	単位	1
履修対象	教職課程履修者		
特記事項			

■授業テーマ

時代の要請に変化していく学校教育を、教育方法の歴史、カリキュラムと授業デザイン、授業研究、授業分析、メディア教育など、教育活動における方法論を通して理解を深め、新しいの教育の方法について考察する。ビデオ教材を使って、いくつかの授業実践の事例も取りあげる予定。

■授業計画及び内容

1. 日本の学校教育の変遷
2. 学校教育という制度
3. 学校の社会的機能
4. 授業の様式
5. 教育方法の歴史1－19世紀まで－
6. 教育方法の歴史2－20世紀～現代－
7. カリキュラムとは何か
8. 授業分析の方法
9. メディアと教育
10. 教師像について
11. これからの「学び」を考える
12. レポート課題について

■受講に当たっての留意事項

2日間の集中講義であるので、半日以上遅刻、早退、欠席の場合は単位を認めない。

教職に就く意思があり、真摯な態度で受講すること。

受講の準備として、荻谷剛彦著『学校ってなんだろう』を読んでおくことが望ましい。

※履修登録ができていない場合は受講しても単位が出ないので注意すること。

■成績評価方法

出席条件を満たした上でのレポートによる評価を行う。

■教科書／参考書

指定なし。

■備考（オフィスアワー）

授業終了時に申し出ること。

授業科目名	生徒指導の研究 Study of student guidance			
教員名	池田 秀俊			
開講時期	前期	金曜 4	単位	2
履修対象	教職課程履修者			
特記事項				

■授業テーマ

近年、学校では「いじめ」「不登校」「非行」などさまざまな問題が生じていて、生徒指導の役割はますます重視されてきている。しかし生徒指導の目的はこのような生徒の問題行動への対処にだけあるのではなく、すべての生徒のよりよき人格的発達を目指して行われるところにある。この授業では学校教育の実態に即して、生徒指導の意義やあり方について考察し、その課題と問題について探る。

■授業計画及び内容

- 第1回：生徒指導の意義
- 第2回：教育課程と生徒指導
- 第3回：教科指導と生徒指導（1）美術
- 第4回：教科指導と生徒指導（2）総合学習他
- 第5回：学級担任と生徒指導
- 第6回：生徒の問題行動と生徒指導（1）暴力、非行
- 第7回：生徒の問題行動と生徒指導（2）いじめ、命の教育
- 第8回：生徒の問題行動と生徒指導（3）不登校、中途退学
- 第9回：生徒の発達と生徒理解
- 第10回：懲戒と体罰、校則
- 第11回：進路指導と生徒指導（1）進学、就職
- 第13回：進路指導と生徒指導（2）キャリア教育
- 第14回：生徒指導の充実に向けて
- 第15回：まとめ

■受講に当たっての留意事項

教員を目指すという自覚を持って受講すること。出席、授業態度を重視する。

■成績評価方法

学期末試験、出席状況、ワークシート

■教科書／参考書

授業時にプリントを配布する。

講義後にワークシートを実施。

■備考（オフィスアワー）

授業終了後

授業科目名	教育相談 Educational counseling		
教員名	萩野谷 栄		
開講時期		単位	2
履修対象	教職課程履修者		
特記事項			

■授業テーマ

社会の激しい変化とともに学校現場には時代を反映した「心の教育」上での多くの問題が生じ、その対応として特に「教育相談」が重要視されている。

本授業では、講義、事例研究・役割演技法をとおして、児童・生徒の心理と行動、学校現場で行われる教育相談活動についての知識や技能の基礎を学ぶ。

■授業計画及び内容

- 第1回 教育相談の意義と背景
- 第2回 学校における教育相談の特質
- 第3回 生徒指導上の諸問題と教育相談
- 第4回 事例を作る 子どもの心理を考える
- 第5回 事例から学ぶ 子供の心理と教師の対応
- 第6回 事例から学ぶ 対応と防止、組織的対応
- 第7回 学校組織と教育相談
- 第8回 適応と不適応の心理
- 第9回 学校と不適応行動
- 第10回 学校と不適応行動
- 第11回 カウンセリングとは
- 第12回 ストレスマネジメント教育
- 第13回 学校とカウンセリング
- 第14回 心理アセスメント
- 第15回 論文試験 まとめ

■受講に当たっての留意事項

教師を目指すものとしての望ましい授業参加態度であること

■成績評価方法

授業・事例研究等の参加状況
小論文試験

■教科書／参考書

授業時プリント配付
参考書 第1回授業時に指示をする

■備考（オフィスアワー）

授業終了後

授業科目名	教育実習（含、事前事後指導）（高等学校教諭） Teaching practice (high school)		
教員名	池田 秀俊、本郷 寛		
開講時期	集中	単位	3
履修対象	教職課程履修者		
特記事項	入学年度の「履修案内」を参照すること		

■授業テーマ

教育実習は将来、学校教員になるうとする者が、一定期間学校の現場で教員としての必要な知識、技能を修得するために行うものである。実習では実際に生徒に対して教育活動を行うわけであるから、教師としての自覚と相応の準備が必要であり、またその成果を省みて評価する必要がある。従って教育実習は「事前指導」「実習校における教育実習」「事後指導」のすべてが含まれることを理解しておかなければならない。

- ・事前指導では実習の意義や心構えについて理解を深めるとともに、実習における諸注意や準備について具体的に指示する。
- ・事後指導では実習生の体験報告を通して、実習の反省・評価をするとともに、その体験を他学生と共有するための交流学习を行う。

■授業計画及び内容

〈事前事後の指導について〉

事前指導

- ・教育実習の意義
- ・教育実習への準備
- ・学校組織と学校生活
- ・指導上の諸注意
- ・研究授業のあり方
- ・実習の記録と評価

事後指導

- ・実習の体験報告
- ・実習のまとめと反省
- ・事前者への助言

■受講に当たっての留意事項

入学年度の履修案内を参照すること。

■成績評価方法

実習校から送られてくる成績報告書、出勤簿、教育実習記録簿、事前・事後指導レポート、事前・事後指導の出席状況等をもとに総合的に判断する。

■教科書／参考書

『教育実習の手引き』等必要な資料を随時配布する。

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	教育実習（含、事前事後指導）（中学校教諭） Teaching practice (junior high school)			
教員名	池田 秀俊、本郷 寛			
開講時期	集中	単位	5	
履修対象	教職課程履修者			
特記事項	入学年度の「履修案内」を参照すること			

■授業テーマ

教育実習は将来、学校教員になるようとする者が、一定期間学校の現場で教員としての必要な知識、技能を修得するために行うものである。実習では実際に生徒に対して教育活動を行うわけであるから、教師としての自覚と相応の準備が必要であり、またその成果を省みて評価する必要がある。従って教育実習は「事前指導」「実習校における教育実習」「事後指導」のすべてが含まれることを理解しておかなければならない。

- ・事前指導では実習の意義や心構えについて理解を深めるとともに、実習における諸注意や準備について具体的に指示する。
- ・事後指導では実習生の体験報告を通して、実習の反省・評価をするとともに、その体験を他学生と共有するための交流学习を行う。

■授業計画及び内容

〈事前事後の指導について〉

事前指導

- ・教育実習の意義
- ・教育実習への準備
- ・学校組織と学校生活
- ・指導上の諸注意
- ・研究授業のあり方
- ・実習の記録と評価

事後指導

- ・実習の体験報告
- ・実習のまとめと反省
- ・次年度実習者への助言

■受講に当たっての留意事項

入学年度の履修案内を参照すること。

■成績評価方法

実習校から送られてくる成績報告書、出勤簿、教育実習記録簿、事前・事後指導レポート、事前・事後指導の出席状況等をもとに総合的に判断する。

■教科書／参考書

『教育実習の手引き』等必要な資料を随時配布する。

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	介護等体験 Practice of care and so on			
教員名				
開講時期		単位	0	
履修対象	教職課程履修者			
特記事項	入学年度の「履修案内」を参照すること			

■授業テーマ

特別支援学校および社会福祉施設における介護などの体験活動

■授業計画及び内容

教育職員免許法によって定められた7日間（特別支援学校2日間、社会福祉施設5日間）の体験活動である。中学校教員免許状取得希望者は、必ず行うこと。事前指導の内容は次の通りである。

- ・介護等体験の理念と目的
- ・介護等体験の心得
- ・介護等体験までの準備
- ・介護等体験の実際
- ・介護等体験の記録

■受講に当たっての留意事項

事前指導に出席しない者は、体験を行うことができない。

■成績評価方法

教員免許状の申請時に、各施設等が発行する体験に関する証明書の提出が必要となる。この証明書は再発行されないため、保管に注意すること。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	教職実践演習 Seminar for the Teaching Practice		
教員名	本郷 寛、藤岡孝充、青柳 路子、 小松 佳世子、宮永 美知代、青木 宏希		
開講時期	集中	単位	2
履修対象	教職課程履修者		
特記事項			

■授業テーマ

美術を通じた教育と人間への理解を深め、今日的課題に即した教員として総合的かつ実践的な視野を身につけることを目標とする。

■授業計画及び内容

授業は講義と演習で行う。講義では、これまでの学修を振り返り「教職に関する科目」「教科に関する科目」を実際の教育現場と関連づけてさらに深く理解しながら、生徒・保護者との人間関係能力の向上に関わる課題などを取り上げる。演習では、模擬授業などのグループ活動を主として、さらに学校現場でのフィールドワークや現職教員と学級経営および指導について具体的にディスカッションすることによって教育者としての実践的視点を身につける。最後に、グループ討論のまとめを発表する。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 教職科目から実践へ
- 第3回 模擬授業の指導計画の作成ー「総合的な学習の時間」と連携したテーマとしてー
- 第4回 模擬授業①
- 第5回 模擬授業②
- 第6回 模擬授業③とまとめ
- 第7回 教員の役割、教員の職務内容ーフィールドワークのためのオリエンテーションー
- 第8回 フィールドワーク①
- 第9回 フィールドワーク②
- 第10回 フィールドワーク③
- 第11回 グループ討論ー学校が抱える今日の問題についてー
- 第12回 フィールドワークとグループ討論内容の発表①
- 第13回 フィールドワークとグループ討論内容の発表②
- 第14回 フィールドワークとグループ討論内容の発表③
- 第15回 発表のまとめと定期試験（定期試験はレポートとする）

■受講に当たっての留意事項

- ・教職実践演習は、本年度に教育実習を行い、かつ、本年度中に教員免許取得を予定している学生が履修する科目である。該当する学生は、必ず履修登録を行うこと。
- ・教職課程科目であること、またグループ活動を中心とした授業となること、学校現場へのフィールドワークを行うことから、遅刻・欠席は厳禁。
- ・7月初旬に授業のオリエンテーションを行うので詳細は掲示で確認すること。

■成績評価方法

授業への出席態度、グループワークへの参加態度、履修カルテ、レポートの結果を基に、社会人・人間としての教員の資質が身についたか、教育現場における今日的な教育課題を理解し実践に対応しうるかを評価する。

■教科書／参考書

授業中に指示する。

■備考（オフィスアワー）

7月に実施するオリエンテーションで指示する。

授業科目名	映像メディア表現 Visual art and expression		
教員名	木津 文哉		
開講時期	集中	単位	0.5
履修対象	日本画専攻のみ		
特記事項			

■授業テーマ

作品制作を主眼とする本学の学生にとって、作品制作のプロセスを学ぶ時期においては、視点や考え方の偏りが一番避けなければならないことである。本講義においてはできるだけ他ジャンルの作品、作家像、制作態度に言及しながら、「一ジャンルに精通するだけでは、広義に「作家」とは呼べないのではないか」という仮定のもとに様々な資料を見せ、論じていく。サブカルチャー、カウンターカルチャーの取り扱いについても言及する。

■授業計画及び内容

VTR・DVD等、映像資料、文献資料を潤沢に利用し、授業を行う。映像作品（ジョルジュ・メリエス/月世界旅行から、ソラリス、ブレードランナー、イントレランス、七人の侍、ピクサーアニメーション、ピロスマニ、マルメロの陽光 etc.）を観ながら、「映像」作品の特性、歴史、作家性を解説しつつ、画面上で表現されている時間、温度、質感、テーマ性等、絵画作品との対比について取り上げる。

■受講に当たっての留意事項

履修できるのは、日本画専攻の学生のみ。
取手校地における開講となる。
※0.5単位の授業である。G-net上は切り上げられて表示されるので、注意すること。

■成績評価方法

スライドフィルム提出、レポートを課す。

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

学芸員科目

授業科目名	生涯学習概論 Programmes for lifelong learning			
教員名	奥村 高明			
開講時期	後期	月曜 5	単位	2
履修対象	1年次以上			
特記事項				

■授業テーマ

・生涯学習の概念や成立過程、生涯学習の実際等を検討することを通して、生涯学習の意義と必要性について理解する。
・美術的な視点から生涯学習をとらえ、美術的な実践例の検証やアートプロジェクトの立案を通して、生涯学習に主体的に取り組むための実践力を高める。”

■授業計画及び内容

・生涯学習の概念が成立した社会背景や歴史的なプロセスを理解するとともに、審議会答申や関連法等を踏まえながら行政的な施策の実際を検討し、生涯学習の意義と必要性について考察する。
・生涯学習を美術家や美術教育、美術館等から分析し、生涯学習における美術的な取組の実際と効果を検証するとともに、アートプロジェクトの立案を通して生涯学習に関わる具体的な方法について検証する。

- 第1回-講義-生涯学習とは何か(1)-生涯学習の基礎知識
- 第2回-講義-生涯学習とは何か(2)-生涯学習の概念の成立と社会背景
- 第3回-講義-生涯学習の実際(1)-生涯学習と行政組織
- 第4回-講義-生涯学習の実際(2)-生涯学習に関する答申と関連法①
- 第5回-講義-生涯学習の実際(3)-生涯学習に関する答申と関連法②
- 第6回-講義-生涯学習の実際(4)-生涯学習に関する団体と活動の実際
- 第7回-講義-生涯学習の実際(5)-社会教育施設と生涯学習事業①
- 第8回-講義-生涯学習の実際(5)-社会教育施設と生涯学習事業②
- 第9回-講義-生涯学習と美術(1)-美術館の発見と成立
- 第10回-講義-生涯学習と美術(2)-美術館における普及活動の実際と効果
- 第11回-講義-生涯学習と美術(3)-アートプロジェクトの実際
- 第12回-講義・演習-生涯学習のデザイン(1)-アートプロジェクトの立案
- 第13回-講義・演習-生涯学習のデザイン(2)-アートプロジェクトの立案と協議
- 第14回-講義・演習-生涯学習のデザイン(3)-アートプロジェクトの立案と協議
- 第15回-講義-教育の生態系としての生涯学習のデザイン”

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

■教科書／参考書

■備考(オフィスアワー)

授業科目名	博物館概論 A Introduction to Museums A			
教員名	薩摩 雅登			
開講時期	前期	月曜 2	単位	2
履修対象	1年次以上			
特記事項				

■授業テーマ

博物館学芸員課程への入門講座として、博物館・美術館に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

■授業計画及び内容

高等学校までは本科目に類する教科がないうえに、受講生の多くは展覧会を通してのみ博物館・美術館に接していることが多い。本科目では、美術館の現場で仕事をしている経験を踏まえて、文献資料に偏ることなく、画像映像を多用して、今日の我が国における博物館・美術館の総体的・本質的な実態を伝えていく。東京藝術大学という特性から、美術資料を所蔵する博物館すなわち美術館に重点を置く。

- 第1回-講義(ガイダンス)-博物館学・学芸員課程とは
- 第2回-講義-博物館・美術館の定義と種類
- 第3回-講義-博物館・美術館の機能と施設
- 第4回-講義-美術館設立の具体例①東京都現代美術館
- 第5回-講義-美術館設立の具体例②東京藝術大学大学美術館
- 第6回-講義-博物館の歴史①ミュージアムのルーツ 西洋古典古代文明
- 第7回-講義-博物館の歴史②西洋近世近代
- 第8回-講義-博物館の歴史③日本の書院・茶室・絵馬堂など
- 第9回-講義-博物館の歴史④日本近代
- 第10回-講義-博物館の歴史⑤日本の現状
- 第11回-講義-博物館の組織と職員
- 第12回-講義-学芸員の職務
- 第13回-講義-博物館関係法規
- 第14回-講義-ユニヴァーシティ・ミュージアム(大学博物館)
- 第15回-試験-(授業内容から出題する)

■受講に当たっての留意事項

博物館学芸員課程を履修する者は、この博物館概論を最初に受講することが望ましい。

■成績評価方法

出席と試験

■教科書／参考書

■備考(オフィスアワー)

授業科目名	博物館概論 B (取手) Introduction to Museums B			
教員名	薩摩 雅登			
開講時期	前期	金曜 1	単位	2
履修対象	1 年次以上			
特記事項				

■授業テーマ

博物館学学芸員課程への入門講座として、博物館・美術館に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

■授業計画及び内容

高等学校までは本科目に類する教科がないうえに、受講生の多くは展覧会を通してのみ博物館・美術館に接していることが多い。本科目では、美術館の現場で仕事をしている経験を踏まえて、文献資料に偏ることなく、画像映像を多用して、今日の我が国における博物館・美術館の総体的・本質的な実態を伝えていく。東京藝術大学という特性から、美術資料を所蔵する博物館すなわち美術館に重点を置く。

- 第 1 回 - 講義 (ガイダンス) - 博物館学・学芸員課程とは
- 第 2 回 - 講義 - 博物館・美術館の定義と種類
- 第 3 回 - 講義 - 博物館・美術館の機能と施設
- 第 4 回 - 講義 - 美術館設立の具体例①東京都現代美術館
- 第 5 回 - 講義 - 美術館設立の具体例②東京藝術大学大学美術館
- 第 6 回 - 講義 - 博物館の歴史①ミュージアムのルーツ 西洋古典古代文明
- 第 7 回 - 講義 - 博物館の歴史②西洋近世近代
- 第 8 回 - 講義 - 博物館の歴史③日本の書院・茶室・絵馬堂など
- 第 9 回 - 講義 - 博物館の歴史④日本近代
- 第 10 回 - 講義 - 博物館の歴史⑤日本の現状
- 第 11 回 - 講義 - 博物館の組織と職員
- 第 12 回 - 講義 - 学芸員の職務
- 第 13 回 - 講義 - 博物館関係法規
- 第 14 回 - 講義 - ユニヴァーシティ・ミュージアム (大学博物館)
- 第 15 回 - 試験 - (授業内容から出題する)

■受講に当たっての留意事項

博物館学学芸員課程を履修する者は、この博物館概論を最初に受講することが望ましい。

■成績評価方法

出席と試験

■教科書／参考書

■備考 (オフィスアワー)

授業科目名	博物館経営論 Museum Management			
教員名	安藤 美奈			
開講時期		集中	単位	2
履修対象	2 年次以上			
特記事項				

■授業テーマ

前半の 6 回では、博物館を運営する上で重要と思われる基礎的なテーマを取りあげ、博物館経営について幅広い理解を図る。中盤の 6 回では、博物館にとどまらず視点を広く据えて、美術をとりまくマーケットについての理解を図る。最後の 3 回では、美術館運営に建築家がどのように関わり得るかを理解することで、美術館の新設・改設時にとどまらず、展覧会の企画など日常的な美術館運営において、実際に生かせる技能を身につけることを目標とする。

■授業計画及び内容

様々な社会・経済情勢の変化は、博物館を取り巻く環境にも影響を及ぼしている。そうした状況を踏まえながら、前半では、博物館経営に関わる基礎的な知識を解説し、博物館が抱える課題について理解を深める。後半では美術マーケットの現場で仕事をしている人を講師に招いて、年毎に変化する現況を直接に伝えてもらう。1 日 3 コマ (回)、5 日間の集中講義で行う。

- 第 1 回 - 集中講義 - 博物館経営について - ミュージアム・マネジメントとは何か
- 第 2 回 - 集中講義 - 博物館の成り立ちについて - 組織、人材、財政、設備 -
- 第 3 回 - 集中講義 - 博物館のサービス、プログラムについて
- 第 4 回 - 集中講義 - 博物館におけるマーケティングとは何か
- 第 5 回 - 集中講義 - 博物館評価について
- 第 6 回 - 集中講義 - 博物館経営の現在とこれから
- 第 7 回 - 集中講義 - インディペンデント・キュレーター・マネージメント
- 第 8 回 - 集中講義 - アートの価値、評価額、保険額
- 第 9 回 - 集中講義 - アート・アドバイザーという仕事
- 第 10 回 - 集中講義 - アート・マーケット
- 第 11 回 - 集中講義 - ギャラリー・マネージメント
- 第 12 回 - 集中講義 - オークションハウス
- 第 13 回 - 集中講義 - 設計競技時における建築家として思想
- 第 14 回 - 集中講義 - 設計中における美術館準備室との協議
- 第 15 回 - 集中講義 - 開館後における美術館との関係、展覧会企画の実際

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

■教科書／参考書

■備考 (オフィスアワー)

授業科目名	美術館資料論 A Museum Collections A			
教員名	古田 亮			
開講時期	前期	月曜 4	単位	2
履修対象	3年次以上			
特記事項				

■授業テーマ

博物館・美術館における資料の収集、保管、調査、研究などに関する理論や方法を学ぶ。大学美術館常勤教員の現場経験に基づくさまざまな実例をとりあげ、大学美術館の資料を教材として利用しながら、資料の扱い方、調査研究の意義、具体的な調査研究の方法を受講生に習得させる。

■授業計画及び内容

- 第1回目 博物館・美術館における資料とは
- 第2回目 東京藝術大学大学美術館のコレクション
- 第3回目 資料収集の方法・収蔵庫
- 第4回目 美術資料の取り扱いかたの基本と心構え
- 第5回目 日本における美術品のコレクションと鑑賞の歴史
- 第6回目 諸外国の博物館の資料の扱い方と展示について①
- 第7回目 諸外国の博物館の資料の扱い方と展示について②
- 第8回目 絵画資料① それは何で記されたか。筆記素材について
- 第9回目 絵画資料② それは何時記されたか。年記の読み方
- 第10回目 絵画資料③ それは何故のこされたか。資料の意味について
- 第11回目 資料収集の実際－美術館の所蔵品になるまで
- 第12回目 資料公開－理念と方法
- 第13回目 所蔵資料の調査研究① 一次資料と二次資料の活用
- 第14回目 所蔵資料の調査研究② モチーフ
- 第15回目 所蔵資料の調査研究③ デザインと技法

■受講に当たっての留意事項

実物を取り扱うこともあり、場所も異なることもあるので、遅刻をすると参加できない場合がある。

■成績評価方法

出席を重視する

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

原則として授業後

授業科目名	美術館資料論 B Museum Collections B			
教員名	黒川 廣子			
開講時期	後期	月曜 4	単位	2
履修対象	3年次以上			
特記事項				

■授業テーマ

博物館・美術館における資料の収集、保管、調査、研究などに関する理論や方法を学ぶ。大学美術館常勤教員の現場経験に基づくさまざまな実例をとりあげ、大学美術館の資料を教材として利用しながら、資料の扱い方、調査研究の意義、具体的な調査研究の方法を受講生に習得させる。

■授業計画及び内容

- 第1回目 博物館・美術館における資料とは
- 第2回目 東京藝術大学大学美術館のコレクション
- 第3回目 資料収集の方法・収蔵庫
- 第4回目 美術資料の取り扱いかたの基本と心構え
- 第5回目 日本における美術品のコレクションと鑑賞の歴史
- 第6回目 諸外国の博物館の資料の扱い方と展示について①
- 第7回目 諸外国の博物館の資料の扱い方と展示について②
- 第8回目 絵画資料① それは何で記されたか。筆記素材について
- 第9回目 絵画資料② それは何時記されたか。年記の読み方
- 第10回目 絵画資料③ それは何故のこされたか。資料の意味について
- 第11回目 資料収集の実際－美術館の所蔵品になるまで
- 第12回目 資料公開－理念と方法
- 第13回目 所蔵資料の調査研究① 一次資料と二次資料の活用
- 第14回目 所蔵資料の調査研究② モチーフ
- 第15回目 所蔵資料の調査研究③ デザインと技法

■受講に当たっての留意事項

実物を取り扱うこともあり、場所も異なることもあるので、遅刻をすると参加できない場合がある。

■成績評価方法

出席を重視する

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

原則として授業後

授業科目名	博物館資料保存論 Preservation of Museum Collections			
教員名	稲葉 政満			
開講時期	前期	木曜 5	単位	2
履修対象	2年次以上			
特記事項				

■授業テーマ

博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通じて、資料の保存に関する基礎的能力を養う。

■授業計画及び内容

博物館における資料保存の意義、美術資料および建造物の保全、博物館資料の保存環境、文化財の保存と活用に焦点をあてて行う。

※その年度の講義順序は初回時に配布する※

- ① - 講義 - ガイダンス - 博物館における資料保存の意義
- ② - 講義 - 博物館資料の保存環境 - 保存環境 (IPM を含む)
- ③ - 講義 - 博物館資料の保存環境 - 材料の劣化と分析
- ④ - 講義 - 博物館資料の保存環境 - 災害の防止と対策
- ⑤ - 講義 - 資料の保全 - 日本画
- ⑥ - 講義 - 資料の保全 - 日本画
- ⑦ - 講義 - 資料の保全 - 油画
- ⑧ - 講義 - 資料の保全 - 油画
- ⑨ - 講義 - 資料の保全 - 彫刻
- ⑩ - 講義 - 資料の保全 - 彫刻
- ⑪ - 講義 - 資料の保全 - 工芸
- ⑫ - 講義 - 資料の保全 - 工芸
- ⑬ - 講義 - 資料の保全 - 建造物
- ⑭ - 講義 - 文化財の保存と活用 - 建造物
- ⑮ - 講義 - 文化財の保存と活用 - 博物館と地域のかかわり

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

出席を重視する

■教科書／参考書

参考書：

石崎武志 編著：博物館資料保存論 講談社 (2012)
 森田稔：博物館資料保存論 (放送大学教材) (2012)
 佐野千絵、呂俊民、吉田直人、三浦定俊：博物館資料保存論 - 文化財と空気汚染 - みみずく舎 (2010)

■備考 (オフィスアワー)

原則として授業後

inaba@fa.geidai.ac.jp (保存科学研究室 稲葉)

授業科目名	企画展示論 Museum Exhibitions and Projects			
教員名	薩摩 雅登			
開講時期	後期	月曜 2	単位	2
履修対象	2年次以上			
特記事項				

■授業テーマ

単なる展示技術論ではなく、本学理論系の学生が展覧会を企画して実施できるまで、および、本学実技系の学生が個展やグループ展を独自で開催するために必要な基礎的な知識の習得を目標とする。

■授業計画及び内容

実際に多種多様な展覧会を企画実施している経験を踏まえて、企画展示 (展覧会) の立案、計画から実施、図録の編集、会期中の会場管理までの具体的な方法を受講生に習得させる。本科目の内容は博物館実習へと継続発展する。本科目の評価は出席とレポート (展覧会企画書) で行う。

- 第1回 - 講義 - 展示公開の意義 研究・創作成果の発表
- 第2回 - 講義 - 展覧会の歴史①博覧会
- 第3回 - 講義 - 展覧会の歴史②企画展
- 第4回 - 講義 - 展覧会の歴史③我が国の特殊事情 デパートとメディア
- 第5回 - 講義 - 展覧会の形態と方法
- 第6回 - 講義 - 展覧会の企画と予算
- 第7回 - 講義 - 展覧会場の施設と環境 ファシリティーレポートなど
- 第8回 - 講義 - 展示道具の基本
- 第9回 - 講義 - 展示計画と会場施工
- 第10回 - 講義 - 展示技術の基礎 (平面系)
- 第11回 - 講義 - 展示技術の基礎 (立体系)
- 第12回 - 講義 - 照明技術の基礎 電気と光の基礎知識
- 第13回 - 講義 - 図録の編集
- 第14回 - 講義 - 展覧会会期中の作品解説 ギャラリートーク 解説シートなど
- 第15回 - 講義 - 展覧会会期中の危機管理

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

出席とレポート

■教科書／参考書

■備考 (オフィスアワー)

授業科目名	博物館情報・メディア論 Museum Information and Media			
教員名	川口 雅子			
開講時期	前期	木曜 4	単位	2
履修対象	2年次以上			
特記事項				

■授業テーマ

博物館・美術館における情報活動全般を対象とする。とくに情報発信の前提となる情報収集・整理活動の実際を具体例と共に学ぶ。博物館・美術館の社会的責務に照らし、情報活動に関して何が最も重要な課題であるかを論理的に思考し、説明することができるようになる。

■授業計画及び内容

現代の美術館における情報部門の役割、収蔵品の登録管理（コレクション・マネジメント）、収蔵品情報管理システム、美術館活動と作品調査研究、美術館図書室の活動、美術館における情報発信などの諸問題を取り上げ、具体的な事例を織り交ぜながら現状や課題について検討する。美術館が扱うさまざまな情報のなかでも収蔵作品の資料・情報に重点を置き、スライド等を通じてその実際への理解を促進する。とりあげる事例は西洋美術分野が中心になる。

- 第1回～第2回（講義）－ 導入～美術館の情報資料部門とは
- 第3回～第4回（講義）－ 美術館における情報活動の課題
- 第5回～第6回（講義）－ 収蔵作品の登録管理（コレクション・マネジメント）
- 第7回～第8回（講義）－ 美術館における情報発信（インターネット、新たなメディアの活用）
- 第9回～第10回（講義）－ 収蔵作品のドキュメンテーション
- 第11回～第12回（講義）－ 美術館と作品調査研究、美術館図書室の役割
- 第13回～第14回（講義）－ 情報公開と美術の著作権
- 第15回（講義）－ 総括

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

平常点およびレポートによる。平常点は授業への参加状況、コメントペーパーの提出状況で総合的に判断する。

■教科書／参考書

- 国立西洋美術館所蔵作品データベース <http://collection.nmwa.go.jp/artizeweb/>
- 国立西洋美術館研究資料センター学術情報案内 <http://www.nmwa.go.jp/jp/education/resources.html>
- Timothy Ambrose, Crispin Paine『博物館の基本』東京：日本博物館協会，1995.
- 日本博物館協会編『資料取り扱いの手引き』東京：日本博物館協会，2004.
- S. A. ホルム『博物館ドキュメンテーション入門』東京：勁草書房，1997.
- 『博物館情報・メディア論』東京：放送大学教育振興会，2013.
- 加藤哲弘[ほか]『変貌する美術館』京都：昭和堂，2001.
- レニー・ゾールズベリー，アリー・スジョ『偽りの来歴：20世紀最大の絵画詐欺事件』東京：白水社，2011.
- 川口「美術館の情報活動に関する一考察」『国立西洋美術館研究紀要』18，2014.
- 同上「国立西洋美術館：コレクションの価値を高めるデータベースへの挑戦」『文化庁月報』537，2013. http://www.bunka.go.jp/publish/bunkachou_geppou/2013_06/series_01/series_01.html

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	博物館教育論 Museum Education Studies			
教員名	真住 貴子			
開講時期	集中	単位	2	
履修対象	1年次以上			
特記事項				

■授業テーマ

博物館の強みは、なんといっても『本物に出会える』ということでしょう。博物館では収蔵品を利用してすばらしい教育活動を行っています。この授業では特に芸大生にかかわりの深い美術館を中心に、価値ある博物館教育をどのように行うかについて、学生自身に考え、企画してもらいます。博物館教育の意義と機能を学び、実践的に行うための具体的な知識を身につけることを目標といたします。

■授業計画及び内容

講義だけでなく、上野公園内の美術館博物館の教育活動を実際に見学し、それらを学生自身で分析し、最終的に美術館・博物館の教育活動を他学科の学生とグループになって企画・発表してもらいます。講義では、一方通行の講義ではなく、全員に発言を求めて授業を進めます。試験は行わず、出席とレポート提出で成績を評価します。

- 第1回－講義－博物館教育概論 歴史と現在
- 第2回－講義－博物館と学校、地域をつなぐボランティアとファシリテーター
- 第3回－講義－教育活動の実際、企画、予算、準備、実施まで
- 第4回－見学－美術館、博物館の視察1（予定）
- 第5回－グループ演習－前回の視察の振り返りと分析
- 第6回－見学－美術館、博物館の視察2（予定）
- 第7回－グループ演習－前回の視察の振り返りと分析
- 第8回－見学－美術館博物館の視察3（予定）
- 第9回－グループ演習－前回の視察の振り返りと分析
- 第10回－見学－美術館博物館の視察4（予定）
- 第11回－グループ演習－前回の視察の振り返りと分析
- 第12回－講義－4つの美術館博物館の比較から見える今日の博物館教育の課題
- 第13回－グループ演習－学生による企画立案
- 第14回－グループ演習－学生による企画立案
- 第15回－グループ演習－企画発表

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

質問は授業時間内にお問い合わせいたします。

授業科目名	美術館実習 A Museum Practice A		
教員名	薩摩 雅登		
開講時期	集中	単位	3
履修対象	学部 4 年生以上、修士 2 年生以上、博士 2 年生以上		
特記事項			

■授業テーマ

東京藝術大学という特性を考慮して、美術資料を実際に調査、研究、梱包、展示するために必要な、「作品取り扱い」の方法と技術の基礎を受講生に習得させる。

■授業計画及び内容

東京藝術大学大学美術館常勤教員および非常勤講師が、それぞれの専門を踏まえて、大学美術館の施設と所蔵資料を使用して、受講生に古美術品から電気機器までの取り扱い方を実践的・具体的に指導する。夏期集中講義期間中に実施するが、少人数を維持するためと受講生の都合を考慮して、A コースと B コースに分けて実施する。成績は出席とレポート（作品解説実習）による。

- 第 1 回 - 講義 - 美術資料を扱う心構え、服装、必要な道具などの説明
- 第 2 回 - 見学 - 美術館収蔵庫・収蔵方法の見学
- 第 3 回 - 実習 - 箱の種類と特性、紐の結び方、風呂敷の扱い方など
- 第 4 回 - 実習 - 梱包材料の種類と特性 - 梱包の方法
- 第 5 回 - 実習 - 古美術（掛福装、卷子装など）の取り扱い
- 第 6 回 - 実習 - 茶道具の取り扱い
- 第 7 回 - 実習 - 額絵の取り扱い
- 第 8 回 - 実習 - 刀剣の取り扱い
- 第 9 回 - 実習 - 照明器具・電気機器の取り扱い
- 第 10 回 - 実習 - 照明・シューティング実習

■受講に当たっての留意事項

博物館学芸員課程の総仕上げであるから、他の必修 8 科目を全て受講してから履修することが望ましい。実習であるから出席を重視し、遅刻は厳しく採点する。

■成績評価方法

出席とレポート

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	美術館実習 B Museum Practice B		
教員名	薩摩 雅登		
開講時期	集中	単位	3
履修対象	学部 4 年生以上、修士 2 年生以上、博士 2 年生以上		
特記事項			

■授業テーマ

東京藝術大学という特性を考慮して、美術資料を実際に調査、研究、梱包、展示するために必要な、「作品取り扱い」の方法と技術の基礎を受講生に習得させる。

■授業計画及び内容

東京藝術大学大学美術館常勤教員および非常勤講師が、それぞれの専門を踏まえて、大学美術館の施設と所蔵資料を使用して、受講生に古美術品から電気機器までの取り扱い方を実践的・具体的に指導する。夏期集中講義期間中に実施するが、少人数を維持するためと受講生の都合を考慮して、A コースと B コースに分けて実施する。成績は出席とレポート（作品解説実習）による。

- 第 1 回 - 講義 - 美術資料を扱う心構え、服装、必要な道具などの説明
- 第 2 回 - 見学 - 美術館収蔵庫・収蔵方法の見学
- 第 3 回 - 実習 - 箱の種類と特性、紐の結び方、風呂敷の扱い方など
- 第 4 回 - 実習 - 梱包材料の種類と特性 - 梱包の方法
- 第 5 回 - 実習 - 古美術（掛福装、卷子装など）の取り扱い
- 第 6 回 - 実習 - 茶道具の取り扱い
- 第 7 回 - 実習 - 額絵の取り扱い
- 第 8 回 - 実習 - 刀剣の取り扱い
- 第 9 回 - 実習 - 照明器具・電気機器の取り扱い
- 第 10 回 - 実習 - 照明・シューティング実習

■受講に当たっての留意事項

博物館学芸員課程の総仕上げであるから、他の必修 8 科目を全て受講してから履修することが望ましい。実習であるから出席を重視し、遅刻は厳しく採点する。

■成績評価方法

出席とレポート

■教科書／参考書

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	音響学 Acoustics			
教員名	小泉 宣夫			
開講時期	通年	木曜 2	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生（学芸員科目としてのみ履修可能）			
特記事項	学芸員科目としてのみ 履修可能			

■授業テーマ

音響学の基礎として、音の物理的性質、聴覚の機能（生理）、聴覚の感覚的性質（心理）について学ぶ。また、室内音響などの音環境の特徴について講義する。さらに、電気音響変換等のオーディオ技術や、デジタルオーディオの概要についても触れる。

■授業計画及び内容

- 音と情報
音による情報と技術の発展、音とバーチャルリアリティ
- 音波
音波の基本的性質、平面波と球面波、定在波と共振、音圧の測定
- 音のスペクトル
周期信号の表現、スペクトルの特徴、基本周波数と音程
- 室内音響
音の反射と残響、残響時間の推定、室内音場の特徴
- 聴覚
聴覚のしくみ、音の知覚、ピッチ感覚と音色、方向知覚
- アナログ・オーディオ
電気音響変換器、オーディオ信号の扱い、録音機器、音の編集と処理
- デジタルオーディオ
音響信号とデジタル処理、オーディオの圧縮符号化、記録媒体
- 空間オーディオ
バイノーラルシミュレーション、ステレオ方式、マルチチャンネル方式

■受講に当たっての留意事項

■成績評価方法

期末の試験成績に基づく

■教科書／参考書

教科書：『基礎 音響・オーディオ学』（小泉宣夫著、コロナ社、2005年）
参考書：『サウンドシンセシス 電子音響学入門』（小泉宣夫・岩崎真、講談社、2011年）

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	芸術文化環境論 Lecture on Environment of Cultural Art			
教員名	伊志嶺 絵里子、朝倉 由希			
開講時期	通年	木曜 3	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生（学芸員科目としてのみ履修可能）			
特記事項	学芸員科目としてのみ 履修可能			

■授業テーマ

芸術文化の創造と振興に必要な環境整備のあり方について考察する。各受講生が芸術（家）と社会の関係について様々な角度から考察できるように、基礎的な知識・理論の習得を目指す。

■授業計画及び内容

文化政策やアーツマネジメントの基礎的な理論を提供するとともに、現在、芸術文化分野で議論されているトピックスについて、実際の事例を取り上げながら解りやすく解説する。主なテーマは以下の通りです。

- 芸術文化への財政支援は必要なのか？
- 芸術文化の社会的意義と役割とは何か？
- 芸術文化政策・アーツマネジメントとは何か？
- 日本の芸術文化政策の歴史的変遷
- 芸術文化政策を担う多様な主体
国・自治体の役割／企業メセナ／市民活動・アートNPOの役割
- 芸術支援政策と評価
- 地域社会とアートプロジェクト（音楽祭など）
- 公立文化施設（主に音楽ホール）の運営状況と課題
- 音楽アウトリーチ活動の意義と課題
- 世界の芸術文化政策
ーアメリカ、イギリス、フランス、シンガポール等
- 1) 芸術文化を活用した国家ブランド戦略

■受講に当たっての留意事項

・伊志嶺、朝倉の2人の教員で開設する。
・アートフォームは問わないが、教員の研究テーマが主に音楽であるため、授業の内容も音楽や舞台芸術を多く取り扱うことになる。そのことをあらかじめ了解のうえ履修していただきたい。

■成績評価方法

出席や授業参加への意欲、レポート等により総合的に評価する。

■教科書／参考書

教材：資料を授業ごとに配布する。
参考書：授業内で適宜紹介する。

■備考（オフィスアワー）

メールにて受け付けます。
[mail]ishimine.eriko@ms.geidai.ac.jp[/mail]

授業科目名	西洋音楽史 History of Western Music			
教員名	福中 冬子、佐藤 望			
開講時期	通年	金曜 3	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生（学芸員科目としてのみ履修可能）			
特記事項	学芸員科目としてのみ履修可能			

■授業テーマ
西洋音楽史概説

■授業計画及び内容
〔前期〕

1. オリエンテーション、古代ギリシャ、中世の単旋聖歌
2. 中世の単旋律世俗歌曲、初期のポリフォニー音楽
3. ノートルダム楽派とアルス・アンティークワ
4. アルス・ノーヴァ
5. ルネサンス音楽総説とブルゴーニュ楽派
6. フランドル楽派
7. ローマ楽派とヴェネツィア楽派
8. ルネサンスの世俗曲と器楽曲
9. バロック音楽総説とオペラの成立
10. オペラの発展
11. オラトリオと教会音楽
12. バロックの鍵盤楽曲
13. バロックの室内楽曲
14. バロックの管弦楽曲
15. 前期期末試験

〔後期〕

1. 古典派総説とオペラ・セリア
2. 古典派の喜劇オペラ：オペラ・ブッフア、ジングシュピール、オペラ・コミーク
3. 古典派のピアノ音楽
4. 古典派の管弦楽曲
5. 19世紀ロマン主義
6. 19世紀のオペラ
7. 19世紀のピアノ音楽
8. 19世紀の管弦楽曲
9. 世紀末の音楽
10. 20世紀の音楽総説
12. 表現主義と十二音音楽
13. 新古典主義
14. 1950年以降の音楽
15. 後期期末試験

注) 上記はあくまで予定であり、変更する可能性もある。

■受講に当たっての留意事項

講義中に私語をした者は即退室を命じる。減点や失格の対象とする場合もあるので十分注意すること。メールの送受信やインターネット使用等、授業中の携帯電話の使用は、即退室、評価は「不可」。なお如何なる理由があれど（レッスン等を含む）、途中入退室は認めない。

■成績評価方法

各学期末に実施する試験によって評価する。また後期には不定期に課すレポート（1～2枚程度）も評価の対象とする（これに関しては後期初回の講義で詳しく説明するので、必ず出席すること）。

■教科書／参考書

講義内では使用しないが、U. ミヒェルス編『カラー図解音楽事典』（白水社）およびグラウト著『新西洋音楽史』（1998-2001）を参考書として指定するので、各自購入するなり、該当箇所をコピーするなりして用意すること。

■備考（オフィスアワー）

毎回の授業終了後、または予約による。

前期・後期と担当教員が異なるので、注意すること。

授業科目名	日本・東洋音楽史 History of Japanese and Asian Music			
教員名	塚原 康子、植村 幸生			
開講時期	通年	月曜 3	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生（学芸員科目としてのみ履修可能）			
特記事項	学芸員科目としてのみ履修可能			

■授業テーマ
日本音楽およびアジア音楽の歴史と現状

■授業計画及び内容
（前期）

日本における音楽文化の展開を通史的に概観し、現代日本の多様な音楽文化にいたる道筋をたどる。あわせて、現存する主要な日本音楽種目の現状とその音楽的特質を把握する。各人が、日本という地域で培われてきた音楽文化との接点を見出し、意識化することを目標とする。

（後期）

アジア諸民族の音楽文化について、その歴史と現状を概観する。それぞれの音楽文化の特質を、その様式、社会的機能、成立と発展、相互の交流、伝統と近代化といった論題に沿って説明する。実演および視聴覚資料等を通じて、アジア音楽の多様性を体験的に理解することを目標とする。

■受講に当たっての留意事項

出席を非常に重視する。前期・後期とも、出席回数が50%に満たない場合はその期の試験を受けることができない。

■成績評価方法

前期末および後期末に行う試験の得点を合算し、出席状況を加味して評価する。前期末の試験は日本音楽史に関する知識と理解を、後期末の試験はアジア諸民族の音楽と楽器に関する知識と理解を問うものとする。

■教科書／参考書

（前期）月溪恒子『日本音楽との出会い―日本音楽の歴史と理論―』東京堂出版、2010年。
（後期）特に指定しない（参考書を授業時に紹介する）

■備考（オフィスアワー）

（塚原）火曜日 9:30～10:20。
（植村） 随時応じる。ただし原則として予約制とする。
[mail]uemura_y@ms.geidai.ac.jp[/mail]

授業科目名	西洋音楽史概説 Introduction to History of Western Music			
教員名	土田 英三郎、福中 冬子			
開講時期	通年	火曜 4	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生（学芸員科目としてのみ履修可能）			
特記事項	学芸員科目としてのみ 履修可能			

■授業テーマ

西洋音楽の通史

■授業計画及び内容

楽理科の1、2年次生を対象とし、西洋音楽史の流れを概説するとともに、音楽史学全体や各時代の研究にとって重要な問題を紹介する。

〔前期〕

1. 「歴史」「歴史記述」とは何か
2. 西洋音楽史研究の基本問題
3. 単旋聖歌と中世世俗歌曲
4. 多声音楽の成立と発展
5. アルス・ノヴァとトレチェントの音楽
6. 中世からルネサンスへ
7. フランドル楽派の音楽

〔後期〕

8. バロック様式の成立
9. バロック音楽のジャンルと形式
10. バロックの音楽
11. バロックから古典派へ
12. 初期古典派の音楽
13. 盛期古典派の音楽
14. 19世紀前半の音楽
15. 19世紀後半の音楽
16. 世紀転換期の音楽
17. 20世紀以降の音楽の特質
18. 20世紀以降の音楽の歴史

■受講に当たっての留意事項

楽理科の1、2年次生は必修。他科の学生も履修・聴講可能。

■成績評価方法

学期末にレポートを課し、学年末に試験を行う予定。

■教科書／参考書

教材：プリントを授業中に配布する。

参考書：初めに基本文献表を配布し、音楽史記述の諸傾向と問題点を紹介する。受講者はグラウト／パリスカ『新西洋音楽史』上中下（音楽之友社）やU. ミヒェルス編『図解音楽事典』（白水社）等をもとに、各自で重要事項を整理してゆくこと。

■備考（オフィスアワー）

火曜 3限（総合ゼミナール、音楽学実習等がない場合）、その他の空き時間（要予約）。

授業科目名	日本音楽史概説 Introduction to History of Japanese Music			
教員名	塚原 康子			
開講時期	通年	火曜 5	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生（学芸員科目としてのみ履修可能）			
特記事項	学芸員科目としてのみ 履修可能			

■授業テーマ

日本における音楽文化の成立と展開を、各時代を特徴づける新しい種目の生成と既存種目の変化を軸に、通史的に把握する。

■授業計画及び内容

古代から現代にいたるまで、多種多様な音楽種目を発達させてきた日本の音楽文化の歴史の変遷を、考古学資料、楽譜をふくむ文献資料、画像資料、現存する音楽伝承などを手がかりに概説する。近年の新しい研究動向やその成果もできるだけ紹介する。

1. 総説
2. 5世紀以前
3. 東アジア外来楽舞の伝来
4. 外来楽舞の日本化
5. 声明の伝来と展開
6. 中世の新しい歌謡
7. 能楽の源流
8. 能楽の大成
9. 三味線伝来とキリシタン音楽
10. 近世の中国系外来音楽
11. 近世の雅楽・声明・能楽
12. 三味線音楽の始まり
13. 近世箏曲の始まり
14. 地歌箏曲の展開
15. 尺八音楽の展開
16. 人形浄瑠璃の始まり
17. 人形浄瑠璃の音楽
18. 歌舞伎の始まり
19. 歌舞伎の音楽1（浄瑠璃）
20. 歌舞伎の音楽2（長唄、陰囃子）
21. 近代の日本音楽1（戦前）
22. 近代の日本音楽2（戦後）

■受講に当たっての留意事項

楽理科1・2年生の必修科目。各人が現存する日本音楽の資料や実技・実演に接し、また諸外国の音楽史との類似点や相違点を考えることを通して、日本音楽史に関心をもち、その特質をつかむことを期待する。

■成績評価方法

試験（前期・後期）

■教科書／参考書

国立劇場編『日本の伝統芸能講座—音楽』淡交社、2008年刊。その他、参考資料は随時指示する。

■備考（オフィスアワー）

火日 9:30～10:20

授業科目名	東洋音楽史概説 Introduction to History of Asian Music			
教員名	植村 幸生			
開講時期	通年	火曜 2	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生(学芸員科目としてのみ履修可能)			
特記事項	学芸員科目としてのみ履修可能			

■授業テーマ

アジア諸民族の音楽文化とその歴史

■授業計画及び内容

テーマ別の単元を設定し、その中で数回ずつの講義を行う。アジア音楽を正しく「読み取る」力を身につけ、研究的な関心をはぐくむことが本科目の目標である。予定されている単元は次の通り。

(前期)

1. 総論：アジアの音楽文化圏
2. 声と楽器
3. 音楽・芸能の場
4. 古代東アジアの音楽文化

(後期)

5. 音の組織化
6. 物語と音楽・芸能
7. アジアの宗教と音楽
8. 近現代のアジア音楽

■受講に当たっての留意事項

楽理科(1, 2年生)の必修科目。他科の学生の受講も妨げないが、楽理科の必修科目であることを了解の上受講すること。

■成績評価方法

筆記試験(前期・後期の二回)を行う。また、毎回提出させるコメントの内容も評価に加味される。

■教科書／参考書

特定の教科書は用いないが、次の書籍を教科書に準ずる参考書としてあげる：柘植・植村『アジア音楽史』(音楽之友社、1996年) 柘植・塚田『はじめての世界音楽』(音楽之友社、1999年) その他の参考書(多数あり)は授業中に指示する。

■備考(オフィスアワー)

随時応じる。ただし原則として予約制とする。
[mail]uemura_y@ms.geidai.ac.jp[/mail]

授業科目名	音楽民族学概説 Introduction to Ethnomusicology			
教員名	早稲田 みな子			
開講時期	通年	火曜 4	単位	4
履修対象	美術・音楽学部生(学芸員科目としてのみ履修可能)			
特記事項	学芸員科目としてのみ履修可能			

■授業テーマ

音楽民族学(従来「民族音楽学」といわれてきた学問)の基本的な考え方、歴史、方法、理論、研究動向等を、多様な音楽文化の実例とともに概説する。

■授業計画及び内容

前期・後期、それぞれ1~2回、ゲストによるレクチャーデモンストラーションや、学生個人またはサークル等による自主的な発表を予定しています(日程未定)。積極的な発表を期待しています。

講義は以下のようなテーマにそって進めます。具体例としてアジア、アフリカ、アメリカ、オセアニア各地の音楽文化を紹介する予定です。

<前期>

- 第1回：音楽民族学とは?
- 第2~5回：音楽民族学の態度・アプローチ
- 第6~7回：音楽民族学の歴史
- 第8回：楽器分類
- 第9回：楽器の伝播と変容
- 第10回：宗教音楽の伝播と変容
- 第11回：音楽民族学の展開
- 第12回：文化接触・文化変容
- 前期最終回：試験

<後期>

- 第1回：学会紹介
- 第2~4回：音体系の多様性
- 第5回：フィールドワーク
- 第6回：採譜
- 第7~8回：楽譜の多様性
- 第9~10回：ディアスポラの音楽
- 第11~12回：社会運動と音楽
- 後期最終回：試験

授業の進捗状況により、順番や内容が変更されることがあります。

■受講に当たっての留意事項

基本的に上記の方法で成績評価しますが、積極的な授業への関与は加味します。

■成績評価方法

出席(50%)、試験・課題(50%)

■教科書／参考書

教科書：

- ・柘植元一『世界音楽への招待』(音楽之友社、1991)
→ 絶版のため随時プリントを配布します。

参考書：

- ・柘植元一・塚田健一 編 『はじめての世界音楽』(音楽之友社、1999)
- ・徳丸吉彦 『民族音楽学理論』(放送大学、1996)
- ・藤井知昭 他編 『民族音楽概論』(東京書籍、1992)
- ・山口修 『応用音楽学と民族音楽学』(放送大学、2004)
- ・櫻井哲男・水野信男 編 『諸民族の音楽を学ぶ人のために』(世界思想社、2005)
- ・若林忠宏 編著 『世界の民族音楽辞典』(東京堂出版、2005)
- ・笠原潔・徳丸吉彦 『音楽理論の基礎』(放送大学、2007)

参考視聴覚資料：

- ・「音と映像による世界民族音楽大系」(VHS テープ、全16巻)
- ・「音と映像による新世界民族音楽大系」(レーザーディスク、全15巻)

■備考(オフィスアワー)

Eメール：minako.waseda@gmail.com

美術研究科リサーチセンター開設科目

授業科目名	論文作成技術特殊講義 Introduction to Doctoral Thesis Writing		
教員名	中西 麻澄		
開講時期	集中	単位	1
履修対象	博士1年次対象		
特記事項			

■授業テーマ

講義と実習をまじえながら、論文の形式、編集技術などの、論文作成上の基本を修得し、そのうえで様々な論文のタイプを学び、自分の博士論文執筆の際の基礎をかためます。

■授業計画及び内容

第1回 4月25日(金) 6時限目 オリエンテーション、第1回授業「論文作成の基本」

論文全体の構成／論文の構成要素／全体の

形式／クラス分け

第2回 5月30日(金) 「文献・資料の収集と整理」

文献検索の方法／収集した文献の保存法／

文献表の作り方／

文献の引用の際の典拠の書き方

第3回 6月27日(金) 「文章の校正、本文」

校正の仕方／句読点・括弧などの記号の使

い方／

本文の文体、接続詞、類語

第4回 10月31日(金) 「文章の編集」

レイアウト／図版とキャプション／註のつ

け方

第5回 11月28日(金) 「章立て」

論文全体の構想／目次(章立て)／要旨

*第2回目以降は、2クラスに分けて授業をします。(4時限目または6時限目)

■受講に当たっての留意事項

4月25日(金)6時限目のオリエンテーションには必ず出席すること。演習(授業中の課題)に関しては、できるだけ早い時期からパソコン上で作業する習慣をつけるよう、心がけてください。

■成績評価方法

平常点(出席+課題の提出)

■教科書／参考書

参考資料を適宜配布。

■備考(オフィスアワー)

次のアドレスへ連絡の上、面接予約をしてください
[mail]mnakani@fa.geidai.ac.jp[mail]

授業科目名	論文作成技術演習 Seminar for Doctoral Thesis Writing		
教員名	五十嵐 ジャンヌ		
開講時期	集中	単位	1
履修対象	博士2年次対象		
特記事項			

■授業テーマ

実技系博士後期課程2年次を対象に、各自が執筆する博士論文のテーマや構想を明確化させるのが目的である。演習形式の授業を通して、論文執筆を円滑に進めるための技術的な指導を行う。

■授業計画及び内容

5月16日(金)

・オリエンテーション

・クラス分け(6月以降は4時限組と6時限組の2クラスに分かれる)

・論文の書き方(文章作成の基本、資料収集など)の講義

6月20日(金)

文章作成の実習、論文構成の分析

10月3日(金)、10月24日(金)(日程変更の場合、授業で通知する)

ゼミ発表や文章作成実習を通して意見交換、議論を行う。

12月に博士論文の中間発表を行う。

■受講に当たっての留意事項

5月16日(金)6時限目のオリエンテーションには必ず出席すること。

夏期休業中の課題として目次を作成する。

■成績評価方法

平常点

■教科書／参考書

授業中に資料を配布。

■備考(オフィスアワー)

金曜日午後、リサーチセンター

[mail]jannu@fa.geidai.ac.jp[mail]

[mail]minando@fa.geidai.ac.jp[mail]

なお、複数年の履修は認めない。

外国人留学生科目

授業科目名	日本語（入門） introductory Japanese			
教員名	石田 恵里子、茶谷 恭代			
開講時期	通年	月曜3・金曜3	単位	4
履修対象	留学生対象			
特記事項				

■授業テーマ

日本語（にほんご）をはじめて勉強（べんきょう）する留学生（りゅうがくせい）のための入門（にゅうもん）クラス
Introductory course for international students who study Japanese for the first time

■授業計画及び内容

○いままで日本語（にほんご）を勉強（べんきょう）したことがない留学生（りゅうがくせい）を対象（たいしょう）に、基礎（きそ）から学習（がくしゅう）を始（はじ）めます。

This course is for international students who have little or no knowledge of Japanese.

○日常（にちじょう）生活（せいかつ）に必要な（ひつよう）なコミュニケーションができるようになることが目標（もくひょう）です。
Objectives of this course is acquisition of daily / survival communication skills.

○授業（じゅぎょう）では会話（かいわ）活動（かつどう）が中心（ちゅうしん）です。ひらがな・カタカナも学習（がくしゅう）します。
This course emphasizes the development of conversational skills.

Students will also learn how to read and write Japanese syllabic characters: Hiragana and Katakana.

■受講に当たっての留意事項

月曜（げつよう）・金曜（きんよう）、両方（りょうほう）のクラスに毎回（まいかい）出席（しゅっせき）してください。

Course requirement: Students are required to attend all Monday (1:00-2:30) and Friday (1:00-2:30) classes.

留学生（りゅうがくせい）はだれでも出（で）ることができます。単位（たんい）が必要（ひつよう）な学生（がくせい）は2/3以上（いじょう）出席（しゅっせき）し、学期末（がっきまつ）におこなうテストに合格（ごうかく）しなければなりません。

This course is open to all international students for credit or non-credit.

Students who intend to earn credits on this course must pass the end-term exam as well as attend a minimum of 2/3 of all classes throughout the course.

■成績評価方法

出席（しゅっせき）と授業（じゅぎょう）でのようすと試験（しけん）をあわせて成績（せいせき）をだします。

Grades are mainly decided through students' attendance, demonstration and result of end-term exam.

■教科書／参考書

「Basic Japanese for Students はかせ1・2」スリーエーネットワーク
(ISBN 4-88319-405-1 / 4-88319-406-x)

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	日本語（初級） Japanese (Lower Grade)			
教員名	石田 恵里子、茶谷 恭代			
開講時期	通年	月曜4・金曜4	単位	4
履修対象	留学生対象			
特記事項				

■授業テーマ

初級（しょきゅう）文法（ぶんぽう）の後半（こうはん）を学習（がくしゅう）するクラス

Curriculum: Overview of basic grammar and practice stepping up to intermediate level

■授業計画及び内容

○日本語（にほんご）を半年（はんとし）前後（ぜんご）勉強（べんきょう）したことがある学生（がくせい）のためのクラスです。
（初級（しょきゅう）前半（ぜんはん）終了（しゅうりょう）程度（ていど）でいい）

This course is designed for international students who have studied Japanese for around 6 months and have learned basic sentence patterns.

○初級（しょきゅう）後半（こうはん）の文法（ぶんぽう）項目（こうもく）（いろいろな活用形（かつようけい）や表現（ひょうげん））を学習（がくしゅう）します。

Objectives: To introduce and summarize the basic level of Japanese grammar and expressions.

○特（とく）に会話（かいわ）の力（ちから）をつける活動（かつどう）をします。

The course emphasizes the development of conversational skill.

■受講に当たっての留意事項

月曜（げつよう）と金曜（きんよう）両方（りょうほう）のクラスに毎回（まいかい）出席（しゅっせき）してください。

Course requirement: Students are required to attend all Monday and Friday classes.

ただし、参加者（さんかしゃ）の人数（にんずう）などにより週1回（しゅう1かい）のクラスになる可能性（かのうせい）もあります。However, the schedule subject to be changed into once-in-a-week basis.

留学生（りゅうがくせい）はだれでも出（で）ることができます。単位（たんい）が必要（ひつよう）な学生（がくせい）は、2/3以上（いじょう）出席（しゅっせき）し、学期末（がっきまつ）のテストに合格（ごうかく）しなければなりません。

This course is open to all international students for credit or non-credit. Students who intend to earn credits on this course must pass the end-term exam as well as attend a minimum of 2/3 of all classes throughout the course.

■成績評価方法

出席（しゅっせき）と授業（じゅぎょう）でのようすと試験（しけん）の結果（けっか）をあわせて成績（せいせき）をだします。

Grades are mainly decided through students' attendance

■教科書／参考書

「Basic Japanese for Students はかせ 2」
(ISBN: 4-88319-406-x)

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	日本語（中級） Japanese (Middle Grade)			
教員名	茶谷 恭代			
開講時期	通年	金曜 5	単位	4
履修対象	留学生対象			
特記事項				

■授業テーマ

日本語の中級レベル

■授業計画及び内容

○日本語の初級～初中級レベルの学習を修了している学生を対象とする。

○中級レベルの語彙や文法を学習し、理解・運用ができるようになることを目標とする。

授業では中級以上のレベルの読解教材を一定のペース（2回で1課分を目標）で進める予定。
(履修する学生のレベルに応じて変更する可能性もある。)

○テキストのトピックを題材に、適宜話す活動も取り入れる。

○まとまった量の文章を書く練習については、希望があれば個別に対応する。

■受講に当たっての留意事項

留学生は単位取得に関係なく自由に参加することができる。初中級レベルの知識はある程度前提として進めるため、毎回事前に予習をして授業に参加することが望ましい。単位が必要な学生は2/3以上出席し、前期、後期1回ずつ、計2回の試験を受けること。(出席者のレベル等に応じてレポートの提出に振り替える場合もある。)

■成績評価方法

出席状況・授業態度・議論への参加と試験の結果を総合して評価する。

■教科書／参考書

出席者のレベルとニーズを考慮し、相談の上、クラスで指示する。

■備考（オフィスアワー）

授業科目名	日本事情（含日本語表現法） Japanese Society			
教員名	杉本 和寛			
開講時期	通年	金曜 3	単位	4
履修対象	留学生対象			
特記事項				

■授業テーマ

日本の歴史及び社会事情に関する簡単なレクチャー、および、日本語における文章表現能力の修得

■授業計画及び内容

1. 文章・画像・映像などを通して、日本の歴史や現代の社会事情について理解を深める。

2. 1. についての学生たち自身の知識や体験を話し合い、理解を共有すると共に、現代日本の諸問題について考える。

3. 定期的に文章を書き、日本語表現能力の向上を目指す。

■受講に当たっての留意事項

授業の内容上、中級以上の日本語能力を持つ学生であることが望ましい。

■成績評価方法

出席状況、および、授業時間内の発表内容や文章の内容により成績を判断する。

■教科書／参考書

特に指定せず、適宜プリント等を配布する。

■備考（オフィスアワー）

月曜日Ⅱ限目

実技カリキュラム（各科別）

絵画科実技年間カリキュラム

日本画

学 部

月	日	週	1 年	2 年	3 年	4 年
			日本画実技Ⅰ	日本画実技Ⅱ	日本画実技Ⅲ	日本画実技Ⅳ
4	1～4	1	植物制作・百合・菊 梅原 植田	模写 (絵因果経) 斎藤 吉村	壁画／版画集中講義 (取手／上野校地)	自由課題制作 関 吉村
	7～11	2				
	14～18	3			人体制作 手塚 植田	
	21～25	4				
	28～2	5				
5	7～9	6	写生旅行 (5/7～12)	風景制作 手塚 植田	人体デッサン	
	12～16	7	模写 (隨身庭騎絵巻) 梅原 植田		風景制作 手塚 植田	人体制作 (自画像) 関 吉村
	19～23	8				
	26～30	9				
6	2～6	10	風景制作 梅原 植田	合同研究会	自由課題制作 関 吉村	
	9～13	11		人体デッサン		
	16～20	12		動物制作 斎藤 吉村		
	23～27	13				
	30～4	14				
7	7～11	15	合同研究会			
	14～18	16				
	22～25	17				
夏 期 休 業						
10	1～3	1	人体デッサン	模写 源氏物語絵巻 斎藤 吉村	人体デッサン	卒業制作 関 吉村
	6～10	2	静物制作 梅原 植田		自由課題制作 手塚 植田	
	14～17	3				
	20～24	4	人物制作 梅原 植田		合同研究会	
	27～31	5				
11	4～7	6		人物制作 梅原 植田		古美術研究旅行 11/7～20
	10～14	7				
	17～21	8	自由制作 梅原 植田	自由課題制作 手塚 植田		
	25～28	9				
12	1～5	10	合同研究会			
	8～12	11				
	15～19	12				
	22～26	13				
1	5～9	14	自画像課題制作 (絹本) 梅原 植田	自由課題制作 (絹本) 斎藤 吉村	自由課題制作 手塚 植田	自由課題制作 関 吉村
	13～16	15				
	19～23	16				
	26～30	17				卒制採点 (全教員)
単位			日本画実技Ⅰ 12単位 材料論 2単位 校外指導・古典Ⅰ 2単位	日本画実技Ⅱ 14単位 材料及び構成論Ⅰ 2単位 校外指導・古典Ⅱ 2単位	日本画実技Ⅲ 18単位 壁画又は版画 6単位 材料及び構成論Ⅱ 2単位 校外指導・古典Ⅲ 2単位	日本画実技Ⅳ 6単位 絵画論 2単位 特別演習 2単位 自画像 4単位 卒業制作 14単位
単位 (合計)			16単位	18単位	28単位	28単位

大学院美術研究科

月	日	週	修士 1 年	修士 2 年	博士 課程	備 考				
			日本画研究 I・II	日本画研究 III・IV		学年担当 学部 1年 梅原・植田 2年 斎藤・吉村 3年 手塚・植田 4年 関・吉村 大学院 第一研究室 斎藤 典彦 植田 一穂 非常勤講師 第二研究室 関 出 梅原 幸雄 非常勤講師 第三研究室 手塚 雄二 吉村 誠司 非常勤講師				
4	1～4	1	日本画研究 I 第 1 研究室 斎藤典彦 植田一穂 非常勤講師	日本画研究 III 第 1 研究室 斎藤典彦 植田一穂 非常勤講師	創作総合研究 造形計画特別演習	木村工房安全講習 取手/6月 上野/4月 裏打ち講義 取手/6月 上野/7月 上野/10月 箔講義 取手/6月 上野/11月 絵画講義（五島美術館）10月 絵画講義（出光美術館） 7月 日本画材料講義 上野/12月 絵画とお茶 5月 材料講義「筆」 上野/10月 接着講義 上野/7月				
	7～11	2								
	14～18	3								
	21～25	4	第 2 研究室 関 出 梅原幸雄 非常勤講師	第 2 研究室 関 出 梅原幸雄 非常勤講師						
5	28～2	5	第 3 研究室 手塚雄二 吉村誠司 非常勤講師	第 3 研究室 手塚雄二 吉村誠司 非常勤講師						
	7～9	6								
	12～16	7								
	19～23	8								
	26～30	9	人体デッサン	人体デッサン						
6	2～6	10	日本画研究 I 合同研究会	日本画研究 III 合同研究会						
	9～13	11								
	16～20	12								
	23～27	13								
7	30～4	14								
	7～11	15								
	14～18	16								
	22～25	17								
夏 期 休 業										
10	1～3	1			日本画研究 II 研究会	日本画研究 IV 研究会	創作総合研究 造形計画特別演習	大学院 第一研究室研究発表展 上野/8月 第一研究室校外実習 (美術館見学等) 第二研究室絵画材料研究 第二研究室野外実習 (写生旅行等) 第二研究室素描発表展(陳列館)/7月 第三研究室研究発表展 第三研究室伴大納言現状模写		
	6～10	2								
	14～17	3								
	20～24	4								
	27～31	5								
11	4～7	6								
	10～14	7								
	17～21	8								
	25～28	9								
12	1～5	10	日本画研究 II 研究会	日本画研究 IV 研究会					創作総合研究 造形計画特別演習	東北写生旅行 5/7～12 古美術研究 11/7～20 集中講義彫塑実習 9月 映像メディア表現 7月 (取手/教職科目)
	8～12	11								
	15～19	12								
	22～26	13								
1	5～9	14								
	13～16	15								
	19～23	16								
	26～30	17								
	単位				日本画研究 I 8単位 日本画研究 II 8単位	日本画研究 III 7単位 日本画研究 IV 7単位	創作総合研究 4単位 造形計画特別演習 4単位			
	単位 (合計)				16単位	14単位	8単位			

絵画科実技年間カリキュラム

油画

学 部

			基礎課程				専門課程							
月	日	週	1 年 生		2 年 生		3 年 生		4 年 生					
必修科目			絵画造形実技Ⅰ		絵画造形実技Ⅱ		絵画造形実技Ⅲ・現代美術		絵画造形実技Ⅳ・卒業制作・自画像					
担任教員			工藤・O JUN・小林(正)		齋藤・三井田・寺内		坂田・秋本		坂口・中村					
担当助手			小林(仁)・中山・村山・山田		林(航)・千村・鷹野		小林(裕)・瓜生・酒井		加来・林(頌)・梅村					
4	1~4	1	ガイダンス		ガイダンス		ガイダンス		ガイダンス					
	7~11	2	共通カリキュラムNo.1 「ドローイング-part.1」 工藤・O JUN・小林(正)		共通カリキュラム 齋藤・三井田・寺内 選択カリキュラム紹介		現代美術 古美術研究旅行A班		版画実習 版画専攻者必修	絵画表現 坂田 小林(正) 齋藤	素材と表現 工藤 O JUN 秋本	現代美術表現 坂口 保科 中村	版画表現 東谷 三井田	
	14~18	3												
	21~25	4												
28~2	5													
5	7~9	6	「ドローイング-part.2」											
	12~16	7	前期全教員批評会5/23		前期全教員批評会5/21									
	19~23	8												
	26~30	9												
6	2~6	10	選択カリキュラムNo.1 現代美術基礎Ⅰ 中村	選択カリキュラムNo.2 素材と表現Ⅰ-A 工藤	選択カリキュラムNo.3 素材と表現Ⅰ-B (立体造形) OJUN・小林(史)	選択カリキュラムNo.1 絵画表現Ⅱ-A 坂田	選択カリキュラムNo.2 絵画表現Ⅱ-B 小山	絵画表現 坂田 小林(正) 齋藤	素材と表現 工藤 O JUN 秋本	現代美術表現 坂口 保科 中村	版画表現 東谷 三井田	創作研究Ⅱ 卒業制作準備期間 自画像準備		
	9~13	11	支持体地塗り実習(秋本)		選択カリキュラムNo.3 現代美術基礎Ⅱ-A 坂口	選択カリキュラムNo.4 素材と表現Ⅱ-B O JUN	選択カリキュラムNo.5 現代美術基礎Ⅱ-B 保科・西村					チュートリアル期間		
	16~20	12	創作研究 工藤・O JUN・小林(正)				創作研究Ⅰ					前期全教員批評会6/23~6/27		
	23~27	13	写生旅行7/4~7/6 小林(正)・O JUN・小林(仁)・中山・村山・山田				前期全教員批評会7/7~11					卒業制作プラン1提出		
7	30~4	14	アトリエ整理期間		アトリエ整理期間		アトリエ整理期間		アトリエ整理期間		アトリエ整理期間			
	7~11	15					安宅賞受賞者展示		上野芸友会賞受賞者展示					
	14~18	16												
	22~25	17												
夏 期 休 業														
10	1~3	1	選択カリキュラムNo.4 絵画表現Ⅰ-A 小林(正)	選択カリキュラムNo.5 素材と表現Ⅰ-C O JUN	選択カリキュラムNo.6 絵画表現Ⅰ-B 齋藤	選択カリキュラムNo.6 版画表現 東谷・三井田	選択カリキュラムNo.7 素材と表現Ⅱ-C 秋本	絵画表現 坂田 小林(正) 齋藤	素材と表現 工藤 O JUN 秋本	現代美術表現 坂口 保科 中村	版画表現 東谷 三井田	卒業制作プラン2提出		
	6~10	2	共通カリキュラムNo.2 創作研究・創作展示 (アートパスに向けて) 工藤・O JUN・小林(正)		創作研究・進級制作 齋藤・三井田・寺内		油画英語演習 デニス・リンダ					創作研究Ⅱ (卒業制作・自画像制作)		
	14~17	3	後期全教員批評会12/5		油画英語演習 デニス・リンダ		創作研究Ⅰ					後期全教員批評会11/17~11/21		
	20~24	4	アートパス 12/5~12/7		チュートリアル期間		チュートリアル期間					卒業制作プラン3提出		
11	27~31	5					日本画ゼミ *2年生以上の任意受講							
	4~7	6												
	10~14	7												
	17~21	8												
12	25~28	9												
	1~5	10												
	8~12	11	共通カリキュラムNo.3 工藤・O JUN・小林(正)		3年次選択コースガイダンス		4年次選択コースガイダンス							
	15~19	12			進級制作展準備									
1	22~26	13	アトリエ整理期間		アトリエ整理期間		アトリエ整理期間		アトリエ整理期間		アトリエ整理期間			
	5~9	14	共通カリキュラムNo.3		進級制作展1/5~8						創作研究Ⅱ (卒業制作・自画像制作)			
	12~16	15	ポートフォリオ制作・レポート作成		後期全教員批評会1/5・6		ポートフォリオ制作・レポート作成		ポートフォリオ制作・レポート作成		卒業制作・自画像提出			
	19~23	16									卒業制作講評会			
単位			絵画造形実技Ⅰ 18単位 (油画集中講義6時間含)		絵画造形実技Ⅱ 16単位 (油画集中講義6時間含)		絵画造形実技Ⅲ 24単位 現代美術 4単位 ※絵画表現、素材と表現、現代美術表現は絵画造形実技Ⅲを履修。版画表現は版画造形実技Ⅰを履修。 (油画集中講義12時間含)		絵画造形実技Ⅳ 10単位 卒業制作 14単位 自画像 4単位 ※絵画表現、素材と表現、現代美術表現は絵画造形実技Ⅳを履修。版画表現は版画造形実技Ⅱを履修。 (油画集中講義6時間含)					
	単位(合計)		18単位		16単位		28単位		28単位		28単位			

古美術研究旅行 10単位

大学院美術研究科 油画

月	日	週	修士1年	修士2年	博士課程	備考	
必修科目			絵画造形研究	絵画造形研究 (修了制作)	創作総合研究 造形計画特別演習	学部・学年担任 1年：工藤・O JUN・小林(正) 2年：齋藤・三井田・寺内 3年：坂田・秋本 4年：坂口・中村	
4	1~4	1	ガイダンス			研究領域特別研究指導 選択科目 本申請書提出 (3年次)	3・4年次コース 絵画表現 坂田・小山・小林・齋藤
	7~11	2	油画第1研究室 小林正人 自分の絵で羽ばたいて行けるよう、各自徹底的に作品追求	油画第1研究室 小林正人 自分の絵で羽ばたいて行けるよう、各自徹底的に作品追求	研究領域特別研究指導 選択科目 本申請書提出 (3年次)		
	14~18	3					
	21~25	4					
5	28~2	5				油画第2研究室 小山穂太郎 「イメージを媒介する素材/メディア」の研究。フィールドワークを通しての創作の実践	油画第2研究室 小山穂太郎 「イメージを媒介する素材/メディア」の研究。フィールドワークを通しての創作の実践
	7~9	6					
	12~16	7					
	19~23	8					
6	26~30	9	油画第3研究室 坂口寛敏 展覧会の企画運営を行い、アートによる地域連携の可能性を研究する	油画第3研究室 坂口寛敏 展覧会の企画運営を行い、アートによる地域連携の可能性を研究する	研究領域特別研究指導 選択科目 本申請書提出 (3年次)	素材と表現 工藤・O JUN・秋本	
	2~6	10					
	9~13	11					
	16~20	12					
7	23~27	13	油画第4研究室 坂田哲也 種々の支持体によるドローイング、絵画制作および発表	油画第4研究室 坂田哲也 種々の支持体によるドローイング、絵画制作および発表	研究領域特別研究指導 選択科目 本申請書提出 (3年次)	現代美術表現 坂口・保科・中村	
	30~4	14					
	7~11	15					
	14~18	16					
7	22~25	17	油画第5研究室 保科豊巳 プロジェクト型の授業を中心として現代表現を創作する	油画第5研究室 保科豊巳 プロジェクト型の授業を中心として現代表現を創作する	研究領域特別研究指導 選択科目 本申請書提出 (3年次)	版画表現 東谷・三井田	
	7~11	15					
	14~18	16					
	22~25	17					
夏期休業			学位論文提出 (3年次)				
10	1~3	1	油画第6研究室 坂田哲也 種々の支持体によるドローイング、絵画制作および発表	油画第6研究室 坂田哲也 種々の支持体によるドローイング、絵画制作および発表	研究領域特別研究指導 選択科目 本申請書提出 (3年次)	油画推薦科目 (学部1年) 「絵画技法史料論」 齋藤・秋本	
	6~10	2					
	14~17	3					
	20~24	4					
11	27~31	5	油画第7研究室 O JUN ・ドローイングおよび絵画制作 ・社会見学	油画第7研究室 O JUN ・ドローイングおよび絵画制作 ・社会見学	研究領域特別研究指導 選択科目 本申請書提出 (3年次)	油画演習 (ゼミ) 池田 嘉人 小林 史子 デニス・リンダ 西村 雄輔	
	4~7	6					
	10~14	7					
	17~21	8					
12	25~28	9	油画第1研究室 小林正人 自分の絵で羽ばたいて行けるよう、各自徹底的に作品追求	油画第1研究室 小林正人 自分の絵で羽ばたいて行けるよう、各自徹底的に作品追求	研究領域特別研究指導 選択科目 本申請書提出 (3年次)	集中講義 (予定) 秋元 雄史氏 (客員教授) 福住 廉氏 (卒制講師) その他	
	1~5	10					
	8~12	11					
	15~19	12					
1	22~26	13	油画第2研究室 小山穂太郎 「イメージを媒介する素材/メディア」の研究。フィールドワークを通しての創作の実践	油画第2研究室 小山穂太郎 「イメージを媒介する素材/メディア」の研究。フィールドワークを通しての創作の実践	研究領域特別研究指導 選択科目 本申請書提出 (3年次)	オフィスアワー： 全教員が随時対応する	
	5~9	14					
	12~16	15					
	19~23	16					
1	26~30	17	油画第3研究室 坂口寛敏 展覧会の企画運営を行い、アートによる地域連携の可能性を研究する	油画第3研究室 坂口寛敏 展覧会の企画運営を行い、アートによる地域連携の可能性を研究する	研究領域特別研究指導 選択科目 本申請書提出 (3年次)	博士審査展 作品・論文公开发表 (3年次)	
	5~9	14					
	12~16	15					
	19~23	16					
1	26~30	17	油画第4研究室 坂田哲也 種々の支持体によるドローイング、絵画制作および発表	油画第4研究室 坂田哲也 種々の支持体によるドローイング、絵画制作および発表	研究領域特別研究指導 選択科目 本申請書提出 (3年次)	研究領域特別研究指導 選択科目 本申請書提出 (3年次)	
	5~9	14					
	12~16	15					
	19~23	16					
1	26~30	17	油画第5研究室 保科豊巳 プロジェクト型の授業を中心として現代表現を創作する	油画第5研究室 保科豊巳 プロジェクト型の授業を中心として現代表現を創作する	研究領域特別研究指導 選択科目 本申請書提出 (3年次)	全教員批評会 (1年次) 予備申請審査 (2年次) 予備申請書提出 (2年次)	
	5~9	14					
	12~16	15					
	19~23	16					
1	26~30	17	油画第6研究室 坂田哲也 種々の支持体によるドローイング、絵画制作および発表	油画第6研究室 坂田哲也 種々の支持体によるドローイング、絵画制作および発表	研究領域特別研究指導 選択科目 本申請書提出 (3年次)	アトリエ整理期間	
	5~9	14					
	12~16	15					
	19~23	16					
1	26~30	17	油画第7研究室 O JUN ・ドローイングおよび絵画制作 ・社会見学	油画第7研究室 O JUN ・ドローイングおよび絵画制作 ・社会見学	研究領域特別研究指導 選択科目 本申請書提出 (3年次)	アトリエ整理期間 修了制作提出	
	5~9	14					
	12~16	15					
	19~23	16					
単位			絵画造形研究Ⅰ(前期) 8単位 絵画造形研究Ⅰ(後期) 8単位	絵画造形研究Ⅱ(前期) 8単位 絵画造形研究Ⅱ(後期) 8単位	創作総合研究 4単位 造形計画特別演習 4単位 選択科目 2単位		
	単位 (合計)		16単位	16単位	10単位		
			プロジェクト演習 1単位	プロジェクト演習 1単位	プロジェクト演習 1単位		

絵画科実技年間カリキュラム

版画

学 部

月	日	週	1 年	2 年	3 年	4 年	備 考	
必修科目					版画実技 I	版画実技 II・卒業制作・自画像		
4	1～4	1				各版種による 実技実習	芸術学科1年次 日本画3年次 版画集中講義 4/7～4/18 美術教育大学院 版画集中講義	
	7～11	2						
	14～18	3			古美術研究旅行 (A班) 4/17～4/30	卒業制作ゼミ		
	21～25	4						
	28～2	5						
5	7～9	6			3年生基礎実習 5/7～6/27 ※各版種2週間で実習を行う	前期特別講義 版画素材研究週間 (グラウンド/インク制作、 紙漉き見学実習、 スクリーンプリント、 石版、版画工房見学他)		
	12～16	7			リトグラフ基礎実習 (東谷)			
	19～23	8			銅版画基礎実習 (薬師寺)			
	26～30	9			シルクスクリーン基礎実習 (宮寺)			
6	2～6	10			木版画基礎実習 (三井田)			前期全教員批評会6/23～6/27
	9～13	11						
	16～20	12						
	23～27	13						
	30～4	14						卒業制作プラン1提出
7	7～11	15						
	14～18	16						
	22～25	17			合評会			合評会
夏 期 休 業								
10	1～3	1					卒業制作プラン2提出	油画2年 選択カリキュラムNo.6 版画表現 東谷・三井田 10/1～10/24
	6～10	2			伝統木版画技法実演(摺り師 安達以乍牟氏他)			
	14～17	3			各版種による 実技実習 東谷 三井田 薬師寺 宮寺		卒業制作 東谷 三井田 薬師寺 宮寺	
	20～24	4						
	27～31	5						
4～7	6							
11	10～14	7			3年生展(10月～11月の間)	後期全教員批評会11/17～11/21		
	17～21	8						
	25～28	9				卒業制作プラン3提出		
	1～5	10						
12	8～12	11				卒業制作中間講評会		
	15～19	12						
	22～26	13			後 期 特 別 講 義			
	5～9	14			合評会			
1	12～16	15				卒業制作作品提出 採点(油画全教員)		
	19～23	16						
	26～30	17						
	5～9	14						
単位					版画実技1 28単位	版画実技II 10単位 卒業制作 14単位 自画像 4単位		
単位(合計)					28単位	28単位		

大学院美術研究科 版画

月	日	週	修士1年	修士2年	博士課程						
必修科目			版画創作研究	版画創作研究 (修了制作)	創作総合研究 造形計画特別演習						
4	1~4	1	創作研究	創作研究	創作総合研究						
	7~11	2	新生展 (4月下旬) 東谷 武美 三井田盛一郎 薬師寺 章雄 宮寺 雷太	修了制作ゼミ 東谷 武美 三井田盛一郎 薬師寺 章雄 宮寺 雷太	造形計画特別演習 東谷 武美 三井田盛一郎						
	14~18	3									
	21~25	4									
28~2	5										
5	7~9	6	三井田ゼミ 「版画理論・歴史 及び技法研究」								
	12~16	7									
	19~23	8									
	26~30	9									
6	2~6	10				前期特別講義 版画素材研究週間 (石版石実習、版画工房見学 他) 版画素材研究週間 (グラウンド/インク制作、紙漉き見学実習 他)					
	9~13	11									
	16~20	12									
	23~27	13									
	30~4	14									
7	7~11	15							合評会		
	14~18	16									
	22~25	17									
夏 期 休 業											
10	1~3	1	依賞 (修士1年)	後期特別講義							
	6~10	2									
	14~17	3									
	20~24	4									
	27~31	5									
11	4~7	6				創作研究 版画集制作 東谷 武美 三井田盛一郎 薬師寺 章雄 宮寺 雷太	創作研究 修了制作 東谷 武美 三井田盛一郎 薬師寺 章雄 宮寺 雷太 修了制作中間講評会	創作総合研究 造形計画特別演習 東谷 武美 三井田盛一郎			
	10~14	7									
	17~21	8									
	25~28	9									
12	1~5	10							合評会		博士論文審査 東谷 武美 三井田盛一郎 (その他油画教員等がかかる)
	8~12	11									
	15~19	12									
	22~26	13									
1	5~9	14	修了制作提出 採点 (油画全教員)								
	12~16	15									
	19~23	16									
	26~30	17									
単位											
単位(合計)						16単位 プロジェクト演習 1単位	16単位 プロジェクト演習 1単位	8単位 プロジェクト演習 1単位			

備 考
芸術学科1年次 日本画3年次 版画集中講義 4/7 ~ 4/18 美術教育大学院 版画集中講義 夏期公開講座 7/30 ~ 8/6 リトグラフ・シルクスクリーン 選択カリキュラムNo.6 版画表現 東谷・三井田 10/1 ~ 10/24 全国大学版画展 於町田市立国際版画美術館 (12月初旬)

絵画科実技年間カリキュラム

壁画

大学院美術研究科

月	日	週	修士 1 年	修士 2 年	博士 課程	備 考		
必修科目			壁画創作研究	壁画創作研究 (修了制作)	創作総合研究 造形計画特別演習	(壁画第1研究室) 中村政人 村山修二郎 油画専攻1年実技担当 アートプロジェクト演習 地域でのアートプロジェクト に参加をし実践的に創作研究 を展開する。 プロジェクトマネージメント 演習: 企画立案から予算計画、 広報計画、展示計画と実践的 にプロジェクトマネージメン トを研究する。		
4	1~4	1	中村政人ゼミ アートプロ ジェクト演習 1: フィール ドワーク	中村政人ゼミ アートプロ ジェクト演習 4: アーティ ストインレジ デンス	フレスコ技法 材料研究 工藤晴也 杉崎匡史		研究領域特別研究指導 選択科目	
	7~11	2						
	14~18	3					本申請書提出 (3年次)	
	21~25	4	プロジェクト マネージメン ト演習1		モザイク技法 材料研究 工藤晴也			
	28~2	5						
5	7~9	6	ステンドグラス 技法基礎演 習		ステンドグラス 技法材料研 究			
	12~16	7	創作研究	創作研究	鶴身美友 中野竜志		研究領域特別研究指導 選択科目	
	19~23	8						
	26~30	9			壁画表現・演 習 (環境及び建 築空間におけ る壁画研究) 工藤晴也			
		創作研究						
6	2~6	10	創作研究	創作研究			研究領域特別研究指導 選択科目	
	9~13	11						
	16~20	12						
	23~27	13						
7	30~4	14	アートプロジ ェクト演習2: プランニング	アートプロジ ェクト演習5: コミュニテイ アート				
	7~11	15						
	14~18	16	プロジェクト マネージメン ト演習2					
	22~25	17						
夏 期 休 業								
10	1~3	1	プランニング 発表	プランニング 発表	・修了制作 ・修了論文	研究領域特別研究指導 選択科目		
	6~10	2	アートプロジ ェクト演習3: 展示発表	アートプロジ ェクト演習6: ソーシャルア ート			・ストラッポ 技法演習 工藤晴也 ・フレスコ技 法演習 杉崎匡史	
	14~17	3						
	20~24	4						
	27~31	5						
11	4~7	6	プロジェクト マネージメン ト演習 3	修了制作		研究領域特別研究指導 選択科目		
	10~14	7						
	17~21	8						
	25~28	9						
12	1~5	10	ドキュメント 制作	創作研究		研究領域特別研究指導 選択科目		
	8~12	11						
	15~19	12						
	22~26	13						
1	5~9	14	創作研究	修了制作提出、講評採点 (油画全教員)		博士審査展 作品・論文公开发表 (3年次) 研究領域特別研究指導 選択科目		
	12~16	15						
	19~23	16						
	26~30	17						
単位			壁画創作研究Ⅰ(前期) 8単位 壁画創作研究Ⅰ(後期) 8単位	壁画創作研究Ⅱ(前期) 8単位 壁画創作研究Ⅱ(後期) 8単位	創作総合研究 4単位 造形計画特別演習 4単位 選択科目 2単位			
単位 (合計)			16単位	16単位	10単位			
			インターンシップ 1単位	インターンシップ 1単位	インターンシップ 1単位			
			プロジェクト演習 1単位	プロジェクト演習 1単位	プロジェクト演習 1単位			

絵画科実技年間カリキュラム 油画技法・材料

大学院美術研究科

月	日	週	修士 1 年	修士 2 年	博士 課程	備 考			
必修科目			絵画造形研究 絵画技術研究 絵画材料研究及び実験	絵画造形研究 絵画技術研究 絵画材料研究及び実験(修了制作)	創作総合研究 造形計画特別演習	学 部 油画実技授業			
4	1～4	1	<ul style="list-style-type: none"> ・油画造形実習 齋藤 芽生 秋本 貴透 ・絵画技術研究 (テンペラ絵具と油絵具に よる「混合技法」研究) 齋藤 芽生 長谷川 健司 千村 曜子 ・イタリア初期ルネサンス テンペラ画の模写 木島 隆康 ・絵画材料研究及び実験 (発想・制作・記録のプロ セスに関わる表現と材料の 研究) 秋本 貴透 後藤 温子 高橋 涼太 	<ul style="list-style-type: none"> ・油画造形実習 ・修了制作 齋藤 芽生 秋本 貴透 ・修了論文 齋藤 芽生 秋本 貴透 ・絵画技術研究 (テンペラ絵具と油絵具に よる「混合技法」研究) 齋藤 芽生 長谷川 健司 千村 曜子 ・イタリア初期ルネサンス テンペラ画の模写 木島 隆康 ・絵画材料研究及び実験 (発想・制作・記録のプロ セスに関わる表現と材料の 研究) 秋本 貴透 後藤 温子 高橋 涼太 	<ul style="list-style-type: none"> ・創作総合研究 齋藤 芽生 秋本 貴透 ・造形計画特別演習 齋藤 芽生 秋本 貴透 ・技法材料特別演習 齋藤 芽生 秋本 貴透 	<ul style="list-style-type: none"> ・学部生に関しては1年次、4 年次まで、実技授業全般を 担当する。 齋藤 芽生 秋本 貴透 長谷川 健司 後藤 温子 			
	7～11	2							
	14～18	3							
	21～25	4							
5	28～2	5	<ul style="list-style-type: none"> ・イタリア初期ルネサンス テンペラ画の模写 木島 隆康 ・絵画材料研究及び実験 (発想・制作・記録のプロ セスに関わる表現と材料の 研究) 秋本 貴透 後藤 温子 高橋 涼太 	<ul style="list-style-type: none"> ・イタリア初期ルネサンス テンペラ画の模写 木島 隆康 ・絵画材料研究及び実験 (発想・制作・記録のプロ セスに関わる表現と材料の 研究) 秋本 貴透 後藤 温子 高橋 涼太 	<ul style="list-style-type: none"> ・技法材料特別演習 齋藤 芽生 秋本 貴透 	<ul style="list-style-type: none"> ◇油画学部1年次授業 ・絵画技法史材料論 (指定科目・油画専攻1年次 推薦科目) 火曜日1・2時限 齋藤 芽生 秋本 貴透 木島 隆康 ・支持体・地塗り制作実習 齋藤 芽生 秋本 貴透 長谷川 健司 千村 曜子 高橋 涼太 			
	7～9	6							
	12～16	7							
	19～23	8							
6	26～30	9	<ul style="list-style-type: none"> ・絵画材料研究及び実験 (発想・制作・記録のプロ セスに関わる表現と材料の 研究) 秋本 貴透 後藤 温子 高橋 涼太 	<ul style="list-style-type: none"> ・イタリア初期ルネサンス テンペラ画の模写 木島 隆康 ・絵画材料研究及び実験 (発想・制作・記録のプロ セスに関わる表現と材料の 研究) 秋本 貴透 後藤 温子 高橋 涼太 	<ul style="list-style-type: none"> ・技法材料特別演習 齋藤 芽生 秋本 貴透 	<ul style="list-style-type: none"> ◇油画学部1年次授業 ・絵画表現と絵画材料 齋藤 芽生 秋本 貴透 千村 曜子 高橋 涼太 			
	2～6	10							
	9～13	11							
	16～20	12							
7	23～27	13	<ul style="list-style-type: none"> ・絵画材料研究及び実験 (発想・制作・記録のプロ セスに関わる表現と材料の 研究) 秋本 貴透 後藤 温子 高橋 涼太 	<ul style="list-style-type: none"> ・イタリア初期ルネサンス テンペラ画の模写 木島 隆康 ・絵画材料研究及び実験 (発想・制作・記録のプロ セスに関わる表現と材料の 研究) 秋本 貴透 後藤 温子 高橋 涼太 	<ul style="list-style-type: none"> ・技法材料特別演習 齋藤 芽生 秋本 貴透 	<ul style="list-style-type: none"> ◇油画学部2年次授業 ・絵画表現と絵画材料 秋本 貴透 長谷川 健司 後藤 温子 千村 曜子 高橋 涼太 			
	30～4	14							
	7～11	15							
	14～18	16							
夏 期 休 業			学位論文提出 (3年次)						
10	1～3	1	<ul style="list-style-type: none"> ・油画造形実習 齋藤 芽生 秋本 貴透 ・絵画技術研究 (テンペラ絵具と油絵具に よる「混合技法」研究) 齋藤 芽生 千村 曜子 ・イタリア初期ルネサンス テンペラ画の模写 木島 隆康 ・絵画材料研究及び実験 (発想・制作・記録のプロ セスに関わる表現と材料の 研究) 秋本 貴透 長谷川 健司 後藤 温子 高橋 涼太 	<ul style="list-style-type: none"> ・油画造形実習 ・修了制作 齋藤 芽生 秋本 貴透 ・修了論文 齋藤 芽生 秋本 貴透 ・絵画技術研究 (テンペラ絵具と油絵具に よる「混合技法」研究) 齋藤 芽生 千村 曜子 ・イタリア初期ルネサンス テンペラ画の模写 木島 隆康 ・絵画材料研究及び実験 (発想・制作・記録のプロ セスに関わる表現と材料の 研究) 秋本 貴透 長谷川 健司 後藤 温子 高橋 涼太 	<ul style="list-style-type: none"> ・創作総合研究 齋藤 芽生 秋本 貴透 ・造形計画特別演習 齋藤 芽生 秋本 貴透 ・材料技法特別演習 齋藤 芽生 秋本 貴透 	<ul style="list-style-type: none"> ◇油画学部3年次授業 ・素材と表現 秋本 貴透 高橋 涼太 ・絵画表現 齋藤 芽生 千村 曜子 			
	6～10	2							
	14～17	3							
	20～24	4							
11	27～31	5	<ul style="list-style-type: none"> ・イタリア初期ルネサンス テンペラ画の模写 木島 隆康 ・絵画材料研究及び実験 (発想・制作・記録のプロ セスに関わる表現と材料の 研究) 秋本 貴透 長谷川 健司 後藤 温子 高橋 涼太 	<ul style="list-style-type: none"> ・イタリア初期ルネサンス テンペラ画の模写 木島 隆康 ・イタリア初期ルネサンス テンペラ画の模写 木島 隆康 ・絵画材料研究及び実験 (発想・制作・記録のプロ セスに関わる表現と材料の 研究) 秋本 貴透 長谷川 健司 後藤 温子 高橋 涼太 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料技法特別演習 齋藤 芽生 秋本 貴透 ・博士論文審査 齋藤 芽生 秋本 貴透 (その他の油画専攻教員が 加わる) 	<ul style="list-style-type: none"> ◇芸術学科1年次授業 ・カンヴァス制作実習・講義 齋藤 芽生 千村 曜子 高橋 涼太 			
	4～7	6							
	10～14	7							
	17～21	8							
12	25～28	9	<ul style="list-style-type: none"> ・絵画材料研究及び実験 (発想・制作・記録のプロ セスに関わる表現と材料の 研究) 秋本 貴透 長谷川 健司 後藤 温子 高橋 涼太 	<ul style="list-style-type: none"> ・イタリア初期ルネサンス テンペラ画の模写 木島 隆康 ・絵画材料研究及び実験 (発想・制作・記録のプロ セスに関わる表現と材料の 研究) 秋本 貴透 長谷川 健司 後藤 温子 高橋 涼太 	<ul style="list-style-type: none"> ・博士論文審査 齋藤 芽生 秋本 貴透 (その他の油画専攻教員が 加わる) 	大学院集中講義			
	1～5	10							
	8～12	11							
	15～19	12							
1	22～26	13	<ul style="list-style-type: none"> ・修了制作 採点(油画専攻全教員) ・修了論文提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・修了制作 採点(油画専攻全教員) ・修了論文提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルフォト概論 早川 廣行 ・亀茲石窟壁画論 中川原 育子 谷口 陽子 ・絵画概論(実習) 春日 敏夫 ・古典技法概論 赤木 範陸 				
	5～9	14							
	12～16	15							
	19～23	16							
単位	26～30	17	<ul style="list-style-type: none"> 絵画造形研究Ⅰ(前期) 5単位 絵画技術研究Ⅰ(前期) 2単位 絵画材料及び実験Ⅰ(前期) 2単位 絵画造形研究Ⅰ(後期) 5単位 絵画技術研究Ⅰ(後期) 2単位 絵画材料及び実験Ⅰ(後期) 1単位 	<ul style="list-style-type: none"> 絵画造形研究Ⅱ(前期) 6単位 絵画技術研究Ⅱ(前期) 1単位 絵画材料及び実験Ⅱ(前期) 2単位 絵画造形研究Ⅱ(後期) 6単位 絵画技術研究Ⅱ(後期) 1単位 絵画材料及び実験Ⅱ(後期) 1単位 	<ul style="list-style-type: none"> 創作総合研究 4単位 造形計画演習 4単位 油画材料及び研究(2)単位 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏期公開講座(油画後期) (今年は休講) 			
	単位(合計)						17単位	17単位	8(10)単位
							プロジェクト演習 1単位	プロジェクト演習 1単位	プロジェクト演習 1単位

彫刻科実技年間カリキュラム

学 部

月	日	週	1 年	2 年	3 年	4 年
4 5	1～4	1	塑造 (人体・等身・デッサン) 木戸 深井 北郷 林 原 森 大巻 高畑 藤原 田中	金属 (基礎実技・課題制作) 木戸 大巻 森田 石膏取り 北郷 大巻 原 高畑 藤原 田中 彫刻 I 大巻 原 田中 石膏取り 北郷 大巻 原 高畑 藤原 田中 彫刻 I 大巻 原 田中	午前 塑造 午後 実材 木戸 深井 北郷 林 原 森 大巻 高畑 藤原 小俣 森田 今野	彫刻実技 卒業制作 I 木戸 深井 北郷 林 原 森 大巻 高畑 藤原 小俣 森田 今野
	7～11	2				
	14～18	3				
	21～25	4				
	28～2	5				
	5	7～9	6			
		12～16	7			
		19～23	8			
	6	2～6	10			
9～13		11				
16～20		12				
23～27		13				
30～4		14				
7		7～11	15			
	14～18	16				
	22～25	17				
夏 期 休 業						
10	1～3	1	石彫 (基礎実技) 林 原 今野 田中	実材選択実技 I 石彫 林 原 今野 木彫 深井 森 小俣 金属 木戸 大巻 森田 テラコッタ 北郷 高畑 藤原	彫刻選択実技・構成 石彫 林 原 今野 木彫 深井 森 小俣 金属 木戸 大巻 森田 テラコッタ 北郷 高畑 藤原	彫刻実技 卒業制作 II 木戸 深井 北郷 林 原 森 大巻 高畑 藤原 小俣 森田 今野
	6～10	2				
	14～17	3				
	20～24	4				
	27～31	5				
11	4～7	6				
	10～14	7				
	17～21	8				
	25～28	9				
12	1～5	10	彫刻 II 大巻 原 田中	古美術研究 12/3～16 木戸・原	実材選択実技 II (発表) 森 林	
	8～12	11				
	15～19	12				
	22～26	13				
1	5～9	14				
	13～16	15				
	19～23	16				
	26～30	17				
単位			彫刻実技 I 18単位	彫刻実技 II 18単位 彫刻論・古典研究 2単位	彫刻実技 III 20単位 彫刻論 2単位	彫刻実技 IV 16単位 卒業制作 14単位
単位 (合計)			18単位	20単位	22単位	30単位

工芸科実技年間カリキュラム

学 部			工芸基礎		彫金								
月	日	週	1 年	2 年	3 年	4 年							
4	1~4	1	基礎造形実習Ⅰ 三田村有純 三神慎一郎 高岡 太郎 内堀 豪 窪木 博子	鍛金 篠原 行雄 丸山 智巳	陶芸 島田 文雄 豊福 誠	古美術研究 接 合 飯野 一朗	各種技法研究 飯野 一朗 前田 宏智						
	7~11	2											
	14~18	3											
	21~25	4											
	28~2	5											
5	7~9	6	彫金 飯野 一朗 前田 宏智	鑄金 橋本 明夫 赤沼 潔	象 嵌 飯野 一朗	自主制作 飯野 一朗 前田 宏智							
	12~16	7											
	19~23	8											
6	2~6	10	絵画実習(素描) 三田村有純 小林 史子 三神慎一郎 高岡 太郎 内堀 豪 窪木 博子	漆芸 三田村有純 小椋 範彦	染織 菅野 健一 上原 利丸	宮(各種色金) 飯野 一朗 前田 宏智							
	9~13	11											
	16~20	12					基礎造形実習Ⅱ 表示図法 木工芸実習 三田村有純 藺部 秀徳 黒澤 潔 臼井 仁美 三神慎一郎 高岡 太郎 内堀 豪 窪木 博子						
	23~27	13											
	30~4	14											
7	7~11	15	木工安全講習										
	14~18	16											
	22~25	17											
夏 期 休 業													
10	1~3	1	塑像実習 三田村有純 (原 真一) (森 淳一) (大卷 伸嗣) 高見 直宏 角田 優 三神慎一郎 高岡 太郎 内堀 豪 窪木 博子	専門基礎実技 飯野 一朗 前田 宏智 篠原 行雄 丸山 智巳 橋本 明夫 赤沼 潔 三田村有純 小椋 範彦 島田 文雄 豊福 誠 菅野 健一 上原 利丸	装身具 飯野 一朗	卒業制作 飯野 一朗 前田 宏智							
	6~10	2											
	14~17	3											
	20~24	4											
	27~31	5											
11	4~7	6	絵画実習(毛筆・扇面) 三田村有純 廣瀬 貴洋 三神慎一郎 高岡 太郎 内堀 豪 窪木 博子		打ち出し 前田 宏智	自主制作 飯野 一朗 前田 宏智							
	10~14	7											
	17~21	8											
12	1~5	10	基礎造形実習Ⅲ ガラス造形実習 三田村有純 藤原 信幸 海藤 博 榎本 夏帆 三神慎一郎 高岡 太郎 内堀 豪 窪木 博子										
	8~12	11											
	15~19	12											
1	5~9	14											
	13~16	15											
	19~23	16											
	26~30	17											
単位		工芸基礎実技Ⅰ	20単位	工芸基礎実技Ⅱ	20単位	彫金技法研究Ⅰ	20単位	彫金技法研究Ⅱ	12単位	卒業制作	14単位	自画像	2単位
単位(合計)		20単位		20単位		20単位		28単位					

工芸科実技年間カリキュラム

学 部

鍛 金

鑄 金

月	日	週	3 年	4 年	3 年	4 年
4	1～4	1	古美術研究 4/1～4/14	卒業制作 篠原 行雄 丸山 智巳	古美術研究 4/3～16	真土蠟型鑄造 橋本 明夫 赤沼 潔
	7～11	2				
	14～18	3	機械工作演習 (スピニングを含む) 篠原 行雄 守屋 康平		真土込型鑄造 橋本 明夫 赤沼 潔	
	21～25	4				
	28～2	5				
5	7～9	6	木目金演習 丸山 智巳	卒業制作 (含自画像) 橋本 明夫 赤沼 潔		
	12～16	7	溶接演習 篠原 行雄 岩崎 裕純			
	19～23	8				
6	26～30	9	鍛造演習 篠原 行雄 岩崎 裕純	生型鑄造 橋本 明夫 南 時俊		
	2～6	10				
	9～13	11				
	16～20	12	木目金演習 丸山 智巳			
23～27	13					
7	30～4	14	接合実習 丸山 智巳 守屋 康平			
	7～11	15				
	14～18	16				
	22～25	17				
夏 期 休 業						
10	1～3	1	変形絞り 原型制作 (動物) 篠原 行雄 守屋 康平 岩崎 裕純	卒業制作 篠原 行雄 丸山 智巳	石膏鑄造 橋本 明夫 赤沼 潔 南 時俊	卒業制作 橋本 明夫 赤沼 潔
	6～10	2				
	14～17	3				
	20～24	4	変形絞り (動物) 篠原 行雄 守屋 康平 岩崎 裕純			
	27～31	5				
11	4～7	6	(技法レポート) 篠原 行雄 丸山 智巳	作品提出採点 卒業制作講評 (全教員)	精密鑄造 1 (遠心鑄造) 赤沼 潔 佐治 真理子	作品提出採点 卒業制作講評 (全教員)
	10～14	7				
	17～21	8				
	25～28	9				
12	1～5	10	鍛金技法研究 1 20単位	鍛金技法研究 2 12単位 卒業制作 14単位 自画像 2単位	鑄金技法研究 1 20単位	鑄金技法研究 2 12単位 卒業制作 14単位 自画像 2単位
	8～12	11				
	15～19	12				
	22～26	13				
1	5～9	14	単位 (合計) 20単位	単位 (合計) 28単位	20単位	28単位
	13～16	15				
	19～23	16				
	26～30	17				

工芸科実技年間カリキュラム

学 部			漆 芸		陶 芸			
月	日	週	3 年	4 年	3 年	4 年		
4	1～4	1	古美術研究 4/3～16	漆造形実習（通年） 三田村有純 小椋 範彦 漆装飾実習（前期） 三田村有純 小椋 範彦	古美術研究 4/3～16	ロクロ成形 窯炉焼成 島田 文雄 豊福 誠		
	7～11	2						
	14～18	3						
	21～25	4						
	28～2	5						
	5	7～9	6	漆造形実習・乾漆（通年） 青木 洋介 漆造形実習・木胎（通年） 松崎 森平	卒業制作 三田村有純 小椋 範彦 青木 洋介 松崎 森平	ロクロ成形 窯炉焼成 島田 文雄	石膏型成形 島田 文雄 田中 隆史 窯炉焼成 島田 文雄 田中 隆史	
		12～16	7					
		19～23	8					
		26～30	9					
	6	2～6	10		漆造形実習・乾漆（通年） 青木 洋介 漆造形実習・木胎（通年） 松崎 森平	卒業制作 三田村有純 小椋 範彦 青木 洋介 松崎 森平	ロクロ成形 窯炉焼成 島田 文雄	石膏型成形 島田 文雄 田中 隆史 窯炉焼成 島田 文雄 田中 隆史
		9～13	11					
		16～20	12					
		23～27	13					
		30～4	14					
	7	7～11	15		漆造形実習・乾漆（通年） 青木 洋介 漆造形実習・木胎（通年） 松崎 森平	卒業制作 三田村有純 小椋 範彦 青木 洋介 松崎 森平	ロクロ成形 窯炉焼成 豊福 誠	鑄込み・ロクロ形成 島田 文雄 田中 隆史 正親 里紗 窯炉焼成 島田 文雄 豊福 誠
		14～18	16					
		22～25	17					
夏 期 休 業								
10	1～3	1	学外研修 研究制作 三田村有純 小椋 範彦 青木 洋介 松崎 森平		卒業制作 三田村有純 小椋 範彦 青木 洋介 松崎 森平	研究制作 豊福 誠 田中 隆史 正親 里紗	卒業制作 島田 文雄 豊福 誠	
	6～10	2						
	14～17	3						
	20～24	4						
	27～31	5						
11	4～7	6		卒業制作 三田村有純 小椋 範彦 青木 洋介 松崎 森平	卒業制作 三田村有純 小椋 範彦 青木 洋介 松崎 森平	研究制作 豊福 誠 田中 隆史 正親 里紗	卒業制作 島田 文雄 豊福 誠	
	10～14	7						
	17～21	8						
	25～28	9						
12	1～5	10		卒業制作 三田村有純 小椋 範彦 青木 洋介 松崎 森平	卒業制作 三田村有純 小椋 範彦 青木 洋介 松崎 森平	研究制作 豊福 誠 田中 隆史 正親 里紗	卒業制作 島田 文雄 豊福 誠	
	8～12	11						
	15～19	12						
1	22～26	13		卒業制作 三田村有純 小椋 範彦 青木 洋介 松崎 森平	卒業制作 三田村有純 小椋 範彦 青木 洋介 松崎 森平	研究制作 豊福 誠 田中 隆史 正親 里紗	卒業制作 島田 文雄 豊福 誠	
	5～9	14						
	13～16	15						
	19～23	16						
	26～30	17		作品提出・講評・採点 （全教員）	作品提出採点 卒業制作講評（全教員）		作品提出採点 卒業制作講評（全教員）	
	単 位		漆芸技法研究Ⅰ 20単位	漆芸技法研究Ⅱ 12単位 卒業制作 14単位 自画像 2単位	陶芸技法研究Ⅰ 20単位	陶芸技法研究Ⅱ 12単位 卒業制作 14単位 自画像 2単位		
	単 位（合計）		20単位	28単位	20単位	28単位		

工芸科実技年間カリキュラム

学 部		染 織		備 考		
月	日	週	3 年	4 年		
					1年研修旅行	
4	1～4	1	古美術研修旅行 4/3～4/14	研究制作1 菅野 健一 上原 利丸 出居 麻美 橋本 圭也	1年指定科目 工芸制作論	
	7～11	2				
	14～18	3	染織技法研究4（紅型） 菅野 健一 上原 利丸			1～2年指定科目 工芸理論 又は日本工芸史概説
	21～25	4				
	28～2	5				
5	7～9	6	染織技法研究5（型染） 菅野 健一 上原 利丸	彫金 指定科目等 金属材料学 日本金工史 金属工作機械概論（9月集中・必修） 研修旅行		
	12～16	7				
	19～23	8				
	26～30	9				
6	2～6	10	染織技法研究6（スクリーン） 菅野 健一		研究制作2 菅野 健一 上原 利丸 出居 麻美 橋本 圭也	鍛金 指定科目等 金属材料学 日本金工史 金属工作機械概論（9月集中・必修） 研修旅行 5月
	9～13	11				
	16～20	12				
	23～27	13				
	30～4	14	染織技法研究7（友禅染） 上原 利丸	鑄金 指定科目等 金属材料学 日本金工史		
7～11	15					
14～18	16					
7	22～25	17			学部3年後期～4年前期 鑄金制作法 金属工作機械概論（9月集中・必修） 研修旅行	
	夏 期 休 業					
10	1～3	1	染織技法研究8 ・色糸効果 ・組織織 上原 利丸 橋本 圭也	卒業制作 菅野 健一 上原 利丸 出居 麻美 橋本 圭也		漆芸 指定科目等 化学塗装学 漆工史 化学塗装実験 通年講義漆芸研究ゼミ 研修旅行
	6～10	2				
	14～17	3				
	20～24	4	染織技法研究9 ・二重織 ・綴織 菅野 健一 出居 麻美			
	27～31	5				
11	4～7	6	染織技法研究10 ・二重織自由制作 ・緋織 菅野 健一 出居 麻美	陶芸 指定科目等 東洋陶磁史 陶磁原料学 研修旅行 登り窯焼成法（11月集中・必修）		
	10～14	7				
	17～21	8				
	25～28	9				
12	1～5	10	染織技法研究11 自由制作 菅野 健一 上原 利丸 出居 麻美 橋本 圭也		染織 指定科目等 染織工芸史 染色化学 学部3・4年研修旅行 9月	
	8～12	11				
	15～19	12				
	22～26	13				
1	5～9	14		木工芸 木工造形ゼミ 前期12回 11月集中講義 素材・工具演習（11月集中・必修） 研修旅行 9/30～10/3		
	13～16	15				
	19～23	16				
	26～30	17				
	単 位		染織技法研究1 20単位		染織技法研究2 12単位 卒業制作 14単位 自画像 2単位	ガラス造形 研修旅行 特別講義・ワークショップ
	単 位（合計）		20単位	28単位	卒展 1/26～1/31	

工芸科実技年間カリキュラム

大学院美術研究科

彫金

鍛金

月		日		週		修 士 1 年		修 士 2 年		修 士 1 年		修 士 2 年		
4	1~4	1	彫金技法研究 研究制作1		彫金第1研究室 飯野 一朗 (ジュエリー)		彫金技法研究 彫金制作法 研究制作1		彫金技法研究 彫金制作法 研究制作1		鍛金技法研究Ⅰ 研究制作1 鍛金第1研究室 篠原 行雄 鍛金第2研究室 丸山 智巳		鍛金技法研究Ⅲ 鍛金制作法 研究制作1 篠原 行雄 丸山 智巳	
	7~11	2												
	14~18	3												
	21~25	4	彫金第2研究室 前田 宏智											
	28~2	5	精密鑄造実習											
	7~9	6												
	12~16	7												
	19~23	8												
	26~30	9					彫金技法研究 研究制作2		彫金技法研究 研究制作2		精密鑄造実習		修了制作	
	2~6	10					飯野 一朗		前田 宏智					
6	9~13	11	溶接実習								鍛金制作法 研究制作2 篠原 行雄 丸山 智巳		篠原 行雄 丸山 智巳	
	16~20	12	彫金制作法 研究制作2		彫金制作法 研究制作2									
	23~27	13	飯野 一朗		前田 宏智									
	30~4	14												
7	7~11	15									取手金工機械室実習			
	14~18	16												
	22~25	17												
夏 期 休 業														
10	1~3	1	彫金技法研究 研究制作3		彫金技法研究 研究制作3		修了制作		修了制作		鍛金技法研究Ⅱ 鍛金制作法 研究制作3 篠原 行雄 丸山 智巳		鍛金技法研究Ⅳ 修了制作 篠原 行雄 丸山 智巳	
	6~10	2	飯野 一朗		前田 宏智		飯野 一朗		前田 宏智					
	14~17	3												
	20~24	4												
	27~31	5												
11	4~7	6												
	10~14	7												
	17~21	8												
	25~28	9												
12	1~5	10												
	8~12	11												
	15~19	12												
	22~26	13												
1	5~9	14												
	13~16	15												
	19~23	16												
	26~30	17												
単位		彫金技法研究 彫金制作法 精密鑄造実習		12単位 2単位 2単位		彫金技法研究 彫金制作法		12単位 2単位		鍛金技法研究 鍛金制作法 精密鑄造法		12単位 2単位 2単位		
単位 (合計)				16単位				14単位		16単位		14単位		

工芸科実技年間カリキュラム

大学院美術研究科

鑄金

漆芸

月	日	週	修 士 1 年	修 士 2 年	修 士 1 年	修 士 2 年			
4	1～4	1	鑄金技法研究 精密鑄造2 (減圧鑄造) 橋本 明夫 佐治 真理子	鑄金技法研究 橋本 明夫 赤沼 潔	漆造形技法研究 三田村 有純 小椋 範彦	漆造形技法研究 漆裝飾技法研究 三田村 有純 小椋 範彦			
	7～11	2							
	14～18	3							
	5	21～25			4	鑄金技法研究 (セラミック鑄造) 橋本 明夫 南 時俊	鑄金制作法 研究制作 橋本 明夫 赤沼 潔	漆裝飾技法研究 古典研究 漆芸歴史研究 三田村 有純 小椋 範彦 青木 洋介 松崎 森平	漆造形技法研究
		28～2			5				
		7～9			6				
12～16		7	修了制作 三田村 有純 小椋 範彦 青木 洋介 松崎 森平						
19～23		8							
26～30	9								
6	2～6	10	鑄金制作法 研究制作1 橋本 明夫 赤沼 潔	研究発表 提出	研究発表 提出	修了制作 三田村 有純 小椋 範彦 青木 洋介 松崎 森平			
	9～13	11							
	16～20	12							
	23～27	13							
7	30～4	14	鑄金第1研究室 橋本 明夫 鑄金第2研究室 赤沼 潔	研究発表 提出	研究発表 提出	修了制作 三田村 有純 小椋 範彦 青木 洋介 松崎 森平			
	7～11	15							
	14～18	16							
	22～25	17							
夏 期 休 業									
10	1～3	1	鑄金制作法 研究制作2 橋本 明夫 赤沼 潔 南 時俊 佐治 真理子	修了制作 橋本 明夫 赤沼 潔 南 時俊 佐治 真理子	漆造形技法研究 研究制作 三田村 有純 小椋 範彦 青木 洋介 松崎 森平	修了制作 三田村 有純 小椋 範彦 青木 洋介 松崎 森平			
	6～10	2							
	14～17	3							
	20～24	4							
	27～31	5							
11	4～7	6	提出・講評・採点	作品提出採点 修了制作講評 (全教員)	提出 講評 採点 (全教員)	作品提出採点 修了制作講評 (全教員)			
	10～14	7							
	17～21	8							
	25～28	9							
12	1～5	10	提出・講評・採点	作品提出採点 修了制作講評 (全教員)	提出 講評 採点 (全教員)	作品提出採点 修了制作講評 (全教員)			
	8～12	11							
	15～19	12							
	22～26	13							
1	5～9	14	提出・講評・採点	作品提出採点 修了制作講評 (全教員)	提出 講評 採点 (全教員)	作品提出採点 修了制作講評 (全教員)			
	13～16	15							
	19～23	16							
	26～30	17							
	単位		鑄金技法研究 12単位 鑄金制作法 2単位 酸素溶接 2単位	鑄金技法研究 12単位 鑄金制作法 2単位	漆造形・裝飾技法研究 13単位 漆芸歴史研究 2単位	漆造形・裝飾技法研究 15単位			
	単位 (合計)		16単位	14単位	15単位	15単位			

工芸科実技年間カリキュラム

大学院美術研究科

陶芸

染織

			修 士 1 年		修 士 2 年		
4 5 6 7	1～4	1	陶磁技法研究 1 窯炉制作実習	陶磁技法研究 3 研究制作 島田 文雄 豊福 誠	研究制作 1 菅野 健一 上原 利丸 出居 麻美 橋本 圭也	研究制作 1 菅野 健一 上原 利丸 出居 麻美 橋本 圭也	
	7～11	2					
	14～18	3					
	21～25	4					
	28～2	5					陶芸第 1 研究室 島田 文雄
	7～9	6	陶芸第 2 研究室 豊福 誠				
	12～16	7					
	19～23	8					
	26～30	9					
	2～6	10	陶磁技法研究 1 窯炉制作実習	研究制作 2 菅野 健一 上原 利丸 出居 麻美 橋本 圭也			研究制作 2 菅野 健一 上原 利丸 出居 麻美 橋本 圭也
	9～13	11					
	16～20	12					
	23～27	13					
	30～4	14	陶磁技法研究 1 窯炉制作実習 島田 文雄 豊福 誠	研究制作 3 菅野 健一 上原 利丸 出居 麻美 橋本 圭也			修了制作 菅野 健一 上原 利丸 出居 麻美 橋本 圭也
	7～11	15					
	14～18	16					
	22～25	17					
夏 期 休 業							
10 11 12 1	1～3	1	陶磁技法研究 2 研究制作 1 島田 文雄 豊福 誠	陶磁技法研究 4 修了制作 島田 文雄 豊福 誠	研究制作 4 菅野 健一 上原 利丸 出居 麻美 橋本 圭也	作品提出採点 修了制作講評 (全教員)	
	6～10	2					
	14～17	3	陶磁技法研究 2 研究制作 2 島田 文雄 豊福 誠				
	20～24	4					
	27～31	5					
	4～7	6	陶磁技法研究 2 登り窯焼成 島田 文雄 豊福 誠 西村 圭生				
	10～14	7					
	17～21	8					
	25～28	9	陶磁技法研究 2 研究制作 3 島田 文雄 豊福 誠				作品提出採点 修了制作講評 (全教員)
	1～5	10					
8～12	11						
15～19	12						
22～26	13	陶芸技法研究 登り窯実習	陶芸技法研究 14単位	染技法研究または織技法 研究 15単位	染技法研究または織技法 研究 15単位		
5～9	14						
13～16	15						
19～23	16						
26～30	17	単位 (合計)	16単位	14単位	15単位	15単位	

工芸科実技年間カリキュラム

大学院美術研究科

木工芸

ガラス造形

月	日	週	修 士 1 年	修 士 2 年	修 士 1 年	修 士 2 年			
4	1～4	1	木工技法材料研究 機械工具演習 木工芸第1研究室 菌部 秀徳・黒澤 潔	木工技法材料研究 研究制作1 菌部 秀徳 黒澤 潔	ガラス技法研究Ⅰ (ホットワーク)	ガラス技法研究Ⅰ (ホットワーク)			
	7～11	2							
	14～18	3							
	21～25	4							
	5	28～2	5	木工技法材料研究 研究制作1 菌部 秀徳 黒澤 潔			木工技法材料研究 研究制作2 菌部 秀徳 黒澤 潔	ガラス技法研究Ⅱ (キルンワーク)	ガラス技法研究Ⅱ (キルンワーク)
		7～9	6						
		12～16	7						
		19～23	8						
	6	26～30	9	木工技法材料 研究 菌部 秀徳 黒澤 潔			木材造形研究 菌部 秀徳 黒澤 潔	ガラス技法研究Ⅲ (コールドワーク)	ガラス造形第1研究室 藤原信幸 海藤 博
2～6		10							
9～13		11							
16～20		12							
23～27		13							
7	30～4	14	木材造形研究 研究制作3 菌部 秀徳 黒澤 潔	木材造形研究 研究制作3 菌部 秀徳 黒澤 潔	前期講評会	前期講評会			
	7～11	15							
	14～18	16							
	22～25	17							
夏 期 休 業									
10	1～3	1	木工技法材料研究 研究制作4 菌部 秀徳 黒澤 潔	修了制作 菌部 秀徳 黒澤 潔	ガラス技法研究Ⅰ (ホットワーク)	修了制作			
	6～10	2							
	14～17	3							
	20～24	4							
	27～31	5							
11	4～7	6	素材・工具演習 (集中3日間)	木工技法材料研究 木材造形研究	ガラス技法研究Ⅱ (キルンワーク)	藤原信幸 海藤 博			
	10～14	7							
	17～21	8							
	25～28	9							
12	1～5	10	木工技法材料研究 研究制作5 菌部 秀徳 黒澤 潔	木工技法材料研究 研究制作5 菌部 秀徳 黒澤 潔	ガラス技法研究Ⅲ (コールドワーク)	藤原信幸 海藤 博			
	8～12	11							
	15～19	12							
	22～26	13							
1	5～9	14	木材造形研究 研究制作5 菌部 秀徳 黒澤 潔	木材造形研究 研究制作5 菌部 秀徳 黒澤 潔	後期講評会	後期講評会			
	13～16	15							
	19～23	16							
	26～30	17							
	単位		木材造形研究 8単位 木工技法材料研究 7単位	木材造形研究 8単位 木工技法材料研究 7単位	ガラス技法研究 10単位 溶解炉実習 2単位 古典技法研究 3単位	ガラス技法研究 10単位 溶解炉実習 2単位 古典技法研究 3単位			
	単位 (合計)		15単位	15単位	15単位	15単位			

工芸科実技年間カリキュラム

大学院美術研究科 博士後期課程

月	日	週	博士1～3年	備 考	
4	1～4	1	研究内容により彫金、鍛金、 鍍金、漆芸、陶芸、染織、 木工芸、ガラス造形の各研 究室で指導	彫金 修士1年 精密鑄造法（集中） 溶接実習（集中）	
	7～11	2			
	14～18	3			
	21～25	4			
	28～2	5			
5	7～9	6		創作総合研究	鍛金 金属工作機械概論（集中） 修士1年 精密鑄造法（集中）
	12～16	7		造形計画特別演習	
	19～23	8			
	26～30	9			
6	2～6	10			鍍金 修士1年 溶接実習（集中）
	9～13	11			
	16～20	12			
	23～27	13			
	30～4	14			
7	7～11	15	漆芸		修士1年 ギャラリースペースにて 研究発表
	14～18	16			
	22～25	17			
夏 期 休 業					
10	1～3	1	創作総合研究		陶芸 修士1年 窯炉制作研究（必修）
	6～10	2	造形計画特別演習		
	14～17	3			
	20～24	4			
	27～31	5			
11	4～7	6		染織 研修旅行 9月	
	10～14	7			
	17～21	8			
	25～28	9			
12	1～5	10		創作総合研究 4単位	木工芸 研修旅行 9/30～10/3
	8～12	11		造形計画特別演習 4単位	
	15～19	12		8単位	
	22～26	13			
1	5～9	14			ガラス造形 研修旅行
	13～16	15			
	19～23	16			
	26～30	17			
	単位		創作総合研究 4単位		
			造形計画特別演習 4単位		
	単位（合計）				8単位

デザイン科実技年間カリキュラム

学 部

学 部			1 年		2 年		3 年		4 年								
月	日	週	基礎課程 観察と表現 自然と人間	技法	専門基礎課程 発想と表現 生活・衣・食・住・遊	技法	専門課程 構想と表現 社会・都市・情報	専門課程 卒業制作									
4	1～4	1	ガイダンス		ガイダンス		ガイダンス		ガイダンス								
	7～11	2															
	14～18	3	デザイン 基礎実技 I-a 線描 (描画・装飾)	デザイン 基礎実技 I-b 塑像 (彫刻科教員)	タイポグラフィ I-1 (必修)	デザイン実技 II-a 発想と表現 (環境・設計) 清水 「プレイグラウンド」	アニメーション (選択)	デジタルモデリング (選択)	デザイン実技 III-a 構想と表現 「都市」 全教員	デザイン実技 IV-a 河北/箕浦/ 松下/藤崎/ 押元 「プレ卒業制作」 A	デザイン実技 IV-a 尾登/清水/ 長濱/橋本/ 鈴木 「プレ卒業制作」 B						
	21～25	4															
	28～2	5															
7～9	6	デザイン 基礎実技 I-b 塑像 (彫刻科教員)	デザイン 基礎実技 I-a 線描 (描画・装飾)														
12～16	7																
5	19～23	8															
	26～30	9															
	6	2～6	デザイン実技 I-a 観察と表現 (企画・理論) 藤崎 「調べる」		フリーハンドスケッチ (必修)	デザイン実技 II-b 発想と表現 進級課題 (視覚・演出) 河北 「谷中・根津・千駄木」	プレゼンテーション (必修)	古美術研究旅行 A、B 班別実施									
		9～13															
16～20																	
23～27																	
7	30～4																
	7～11	デザイン実技 I-b 観察と表現 (機能・設計)		デザイン 実技 II-d 発想と表現 (空間・設計) 橋本 「座る」		デザイン実技 III-b 構想と表現 「伝統と革新」 全教員		デザイン実技 IV-b 「卒業制作」									
	14～18																
	22～25							河北秀也 尾登誠一									
夏 期 休 業																	
10	1～3	1	長濱 「にぎる」		実測 (必修)	デザイン 実技 II-c 発想と表現 (映像・画像) 箕浦 「食」	タイポグラフィ I-2 (選択)	樹脂 (選択)	デザイン実技 III-c 構想と表現 STEP1 「LIFE-生命・社会・暮らし」 全教員	箕浦昇一 清水泰博 松下 計 長濱雅彦 藤崎圭一郎 橋本和幸 押元一敏 鈴木太郎							
	6～10	2															
	14～17	3															
	20～24	4															
	27～31	5	デザイン実技 I-c 観察と表現 (描画・装飾) 押元 「観る・探す」								デザイン実技 II-e 発想と表現 (機能・演出) 尾登・鈴木 「トキのカタチ」		デザイン実技 III-d 構想と表現 STEP2 「LIFE-生命・社会・暮らし」 全教員		卒業制作講評 全教員 卒業制作提出・採点 全教員		
11	4～7	6															
	10～14	7															
	17～21	8															
	25～28	9															
12	1～5	10															
	8～12	11															
	15～19	12	デザイン実技 I-d 観察と表現 進級課題 (空間・演出) 鈴木 「マテリアル」		デザイン実技 II-f 発想と表現 (視覚・伝達) 松下 「伝える」												
	22～26	13															
1	5～9	14															
	13～16	15															
	19～23	16	プレゼンテーション期間		プレゼンテーション期間		プレゼンテーション期間		プレゼンテーション期間								
	26～30	17							卒展								
単位			デザイン基礎実技 I デザイン実技 I デザイン技法 I	4単位 14単位 2単位	デザイン実技 II デザイン基礎実技 II (技法 II)	14単位 4単位	デザイン実技 III 専門科目	16単位 4単位	デザイン実技 IV 卒業制作	12単位 14単位							
単位 (合計)			20単位		18単位		20単位		26単位								

デザイン科実技年間カリキュラム

大学院美術研究科

月	日	週	修士 1 年	修士 2 年	博士 課程	備 考	
			デザインスペシャリスト プロフェッショナルリスト				
4	1～4	1	ガイダンス	ガイダンス	ガイダンス	<p>●学部1年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン基礎実技Ⅰ（必修） 4単位 ・デザイン実技Ⅰ（必修） 14単位 ・デザイン技法Ⅰ（必修） 2単位 ・図学Ⅱ（必修指定科目） 4単位 <p>（※2年次の図学Ⅰとどちらかを選択）</p> <p>●学部1～4年次に取得する講義（指定科目）必修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語科目（英語科目が望ましい） 2単位 <p>選択（※以下のうちから4単位選択）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西洋美術史概説Ⅰ 2単位 ・西洋美術史概説Ⅱ 2単位 ・西洋美術史概説Ⅲ 2単位 ・日本美術史概説 4単位 ・東洋美術史概説 4単位 ・日本工芸史概説 4単位 ・日本・東洋建築史Ⅰ 2単位 ・日本・東洋建築史Ⅱ 2単位 <p>●学部2年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン実技Ⅱ（必修） 14単位 ・デザイン基礎実技Ⅱ（技法Ⅱ） （全員必修+選択必修） 4単位 ・デザイン原論（必修指定科目） 4単位 ・デザイン概説（必修指定科目） 4単位 ・芸術情報演習（AMC開設必修指定科目） 4単位 <p>●学部3年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン実技Ⅲ（必修） 16単位 ・古美術研究旅行 10単位 ・専門科目（以下より4単位以上選択必修） ビジュアルデザインⅠ（前期） 2単位 ビジュアルデザインⅡ（後期） 2単位 プロダクトデザインⅠ（前期） 2単位 プロダクトデザインⅡ（後期） 2単位 スペースプランニングⅠ（前期） 2単位 スペースプランニングⅡ（後期） 2単位 映像論Ⅰ（前期） 2単位 映像論Ⅱ（後期） 2単位 <p>※以上専門科目はⅠ・Ⅱセットでの履修が望ましい</p> <p>●学部4年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン実技Ⅳ（必修） 12単位 ・卒業制作（必修） 14単位 <p>●大学院美術研究科修士課程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン特論（修士Ⅰ・2年次いずれかで取得） 4単位 ・デザイン研究（修士Ⅰ・2年次どちらも取得） 計20単位 ・デザインプロジェクト（修士Ⅰ年次必修） 4単位 ・専門科目（以下より4単位以上選択必修） アートディレクションⅠ（前期） 2単位 アートディレクションⅡ（後期） 2単位 パブリックアート（前期） 2単位 環境デザイン（後期） 2単位 プロダクトプランニングⅠ（前期） 2単位 プロダクトプランニングⅡ（後期） 2単位 <p>※以上専門科目はⅠ・Ⅱセットでの履修が望ましい</p> <p>●博士課程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創作総合研究（博士Ⅰ・2年次どちらも取得） 計4単位 ・造形計画特別演習（博士Ⅰ・2年次どちらも取得） 計4単位 ・選択科目（※1科目以上必修） 2単位 	
		7～11	2				
		14～18	3				
		21～25	4				
		28～2	5				
5	7～9	6		デザイン研究			
	12～16	7					
	19～23	8					
	26～30	9					
6	2～6	10	デザインプロジェクト	デザイン研究	創作総合研究 造形計画特別演習		
	9～13	11					
	16～20	12					
	23～27	13					
	30～4	14					
7	7～11	15		デザイン研究 「修了制作」			
	14～18	16					
	22～25	17		河北秀也 尾登誠一			
夏 期 休 業							
10	1～3	1		箕浦昇一 清水泰博 松下 計 長濱雅彦 藤崎圭一郎 橋本和幸 押元一敏 鈴木太郎	創作総合研究 造形計画特別演習		
	6～10	2					
	14～17	3					
	20～24	4					
	27～31	5					
11	4～7	6	デザイン研究	卒業制作講評 全教員 卒業制作提出・採点 全教員			
	10～14	7					
	17～21	8					
	25～28	9					
12	1～5	10					
	8～12	11					
	15～19	12					
	22～26	13					
1	5～9	14	プレゼンテーション期間	プレゼンテーション期間	プレゼンテーション期間		
	13～16	15					
	19～23	16					
	26～30	17		卒展			
	単位		デザイン研究 10単位	デザイン研究 10単位	創作総合研究 4単位 造形計画特別演習 4単位 選択科目 2単位		
	単位（合計）			32単位	10単位		

建築科実技年間カリキュラム

学 部

月	日	週	1 年	2 年	3 年	4 年
4	1～4	1	ガイダンス			
	7～11	2	Introduction to Architecture ヘネガン・樫村	住宅Ⅰ 北川原・長坂		建築と表現 中山・林
	14～18	3				
	21～25	4				
	28～2	5				
5	7～9	6				
12～16	7					
19～23	8					
26～30	9					
6	2～6	10	基礎 野口・稲葉	集合住宅Ⅰ 乾・田村		プレディプロマ ヘネガン
	9～13	11				
	16～20	12	家具(デザイン) 中山・福井・原口	7月上旬 卒業制作 テーマ発表		
	23～27	13				
7	30～4	14	合同講評	合同講評 実測7月下旬 光井・中村	合同講評	合同講評
	7～11	15				
	14～18	16				
	22～25	17				
夏 期 休 業						
10	1～3	1	家具(制作) 中山・福井・原口	架構 金田・倉重	古美術研究	卒業制作 全教員
	6～10	2				
	14～17	3			地区設計 乾・高見	
	20～24	4				
	27～31	5				
11	4～7	6	集合住宅Ⅱ ヘネガン・佐々木	11月初旬 中間審査		
	10～14	7				
	17～21	8				
	25～28	9				
12	1～5	10	合同講評	合同講評	合同講評	提出 講評
	8～12	11	塑造 彫刻科教員			
	15～19	12				
	22～26	13				
1	5～9	14	共通短期課題			共通短期課題
	13～16	15				
	19～23	16				
	26～30	17				
	単位		設計製図Ⅰ 塑造 12単位 4単位	設計製図Ⅱ 実測 10単位 2単位	設計製図Ⅲ 10単位	設計製図Ⅳ 卒業制作 6単位 14単位
	単位(合計)		16単位	12単位	10単位	20単位

建築科実技年間カリキュラム

大学院美術研究科

月	日	週	修士 1 年	修士 2 年	博士 課 程	備 考				
						講義：専門科目				
4	1～4	1	建築設計研究第1	建築設計研究第3		学部1年（必修） 建築構法 構造計画 建築概論Ⅰ・Ⅱ 日本東洋建築史Ⅰ・Ⅱ 演習Ⅰ・Ⅱ CAD図法 構造力学Ⅰ				
	7～11	2	建築設計第1研究室 乾 久美子							
	14～18	3	建築設計第2研究室 中山英之							
	21～25	4	建築設計第3研究室 トムヘネガン							
5	28～2	5	建築設計第3研究室 トムヘネガン	構造論研究第3	創作総合研究	学部2年（必修） 構造力学Ⅱ 構造材料演習Ⅰ 建築材料Ⅰ・Ⅱ 環境工学Ⅰ・Ⅱ 西洋建築史Ⅰ・Ⅱ				
	7～9	6	環境設計第1研究室 北川原 温							
	12～16	7	環境設計第2研究室 ヨコミゾマコト							
	19～23	8	環境設計第2研究室 ヨコミゾマコト							
6	26～30	9	構造論研究第1	修士設計／論文中間発表1	造形計画特別演習	学部3年（必修） 建築計画Ⅰ・Ⅱ 近代建築史Ⅰ・Ⅱ 都市設計 建築設備 建築社会制度 建築施工Ⅰ・Ⅱ 建築材料演習Ⅱ 建築一般構造				
	2～6	10	構造計画第1研究室 金田充弘							
	9～13	11	建築史研究第1							
	16～20	12	建築理論第1研究室 光井渉							
7	23～27	13	建築理論第2研究室 野口昌夫	建築史研究第3						
	30～4	14	建築理論第2研究室 野口昌夫							
	7～11	15	建築設計Ⅰ							
	14～18	16	建築設計Ⅰ							
夏 期 休 業										
10	1～3	1	建築設計研究第2	修士設計／論文中間発表2	創作総合研究	集中講義（建築創作論） （年1～2回）				
	6～10	2								
	14～17	3								
	20～24	4								
	27～31	5								
11	4～7	6	構造論研究第2	修士設計／修士論文		大学院美術研究科修士課程 選択科目（選択必修・18単位） 建築史Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 建築史Ⅰ・Ⅱ 環境計画Ⅰ・Ⅱ 建築構造論Ⅰ・Ⅱ 建築都市計画論Ⅰ・Ⅱ 建築論				
	10～14	7								
	17～21	8								
	25～28	9								
12	1～5	10	建築史研究第2	提出	造形計画特別演習					
	8～12	11								
	15～19	12								
	22～26	13								
1	5～9	14	建築設計Ⅱ	講評		博士後期課程 選択科目（選択必修・2単位）				
	13～16	15								
	19～23	16								
	26～30	17								
			設計／研究	8単位	設計／研究	6単位	創作総合研究	4単位		
			特論（選択）			18単位	造形計画特別演習	4単位		
							選択科目	2単位		
			単位（合計）			32単位		10単位		

先端芸術表現科実技年間カリキュラム

学 部

月	日	週	1 年	2 年	3 年	4 年	
	担当教員		古川、八谷	長谷部、佐藤	小谷、新任	鈴木	
	担当助手		豊永、加瀬	山岡、宇都	間瀬	栗山 (山岡)	
4	4	0	新入生ガイダンス@上野4/4(金) ガイダンス 4/4(金)	ガイダンス 4/4 (金)			
	7~11	1	メディアリテラシー基礎	スタジオ選択 カリキュラム (工作)	スタジオ選択 カリキュラム (写真)	研究室面談	研究室活動
	14~18	2				研究室編成	
	21~25	3	スタジオ講習1 (ドローイング)			研究室制指導開始	
	4/28~5/2	4	合宿 4/30~5/2				
(5/5,6) 7~9	5	スタジオ講習2 (工作)	スタジオ選択 カリキュラム (映像)	スタジオ選択 カリキュラム (音楽)	ミクストメディア・プラクティス Phase 1		
12~16	6				自由制作期間		
19~23	7						
26~30	8						
6	2~6	9	スタジオ講習3 (音楽+映像)	IMA演習			
	9~13	10			ミクストメディア・プラクティス Phase 2		
	16~20	11	スタジオ講習4 (写真)	スタジオ選択 カリキュラム (身体)	スタジオ選択 カリキュラム (電子工作)		
	23~27	12		古美術研究旅行 (6/23-7/5)			
	30~7/4	13					
7	7~11	14		フィールドワーク (制作プロセス習得カリキュラム)			
	14~18	15	前期試験週間				
	22~24	16	前期授業終了・一斉清掃 (7/24)				
夏 期 休 業							
10	10/1~3	0	ガイダンス 10/1 (水)				
	6~10	1	スタジオ講習5 (身体)	フィールドワーク (制作プロセス習得 カリキュラム)	ミクストメディア・プラクティス Phase 3	自由制作期間	
	14~17	2					
	20~24	3				WIP展 (10/20~24)	
	27~31	4		IMA演習			
11	4~7	5	スタジオ講習6 (デザイン)		ミクストメディア・プラクティス Phase 4		
	10~14	6	IMA演習				
	17~21	7	アートバス制作期間	アートバス制作期間	アートバス制作期間		
	25~28	8					
12	1~5	9					
	8~12	10	アートバス				
	15~19	11	アートバス整理期間				
	22~26	12			自由制作期間	最終審査会	
1	5~9	13	メディアリテラシー応用	エディトリアル・ワーク	ミクストメディア・プラクティス Phase 5	卒業修了制作展搬入準備	
	12~16	14					
	19~23	15					
	26~30	16	後期授業終了 (1/27)	後期授業終了 (1/27)	後期授業終了 (1/27)	卒業修了制作展 1/26~1/31	

先端芸術表現科実技年間カリキュラム

大学院

月	日	週	修士 1 年	修士 2 年	博士 1 年	博士 2 年	博士 3 年以上	
	担当教員		たほ、日比野	小沢	伊藤 + 博士学生指導教員			
	担当助手		川越	栗山 (山岡)	柴田			
4	4	0	ガイダンス 4/4 (金)					
	7~11	1	入学展示 (4/7-18)	修了制作・修了研究	指導教員による指導	指導教員による指導 博士論文執筆, 作品制作	指導教員による指導 博士論文執筆, 作品制作	
	14~18	2						
	21~25	3	レキシコン					本申請書等提出 (4/30 16時30分 上野)
4/28~5/2	4	教員レクチャー	副査決定					
(5/5,6) 7~9	5							
12~16	6				博士論文着手プレゼン	博士論文中間プレゼン		
19~23	7							
26~30	8			修了制作・研究計画提出 (論文章立て提出)				
6	2~6	9	アトラス展 (7/7~11)					
	9~13	10						
	16~20	11						
	23~27	12						
30~7/4	13							
7	7~11	14				作品中間発表会 (7/7~11)		
	14~18	15	前期試験週間					
	22~24	16	前期授業終了・一斉清掃 (7/24)		前期授業終了・一斉清掃 (7/24)			
			夏 期 休 業		夏 期 休 業		夏 期 休 業 論文提出 (8/30 16時30分 上野)	
10	10/1~3	0	ガイダンス 10/1 (水)					
	6~10	1	ヴィジティング アーティスト1	プロポ・論文概要 (作品解説章立) 提出				
	14~17	2	ヴィジティング アーティスト2					
	20~24	3	ヴィジティング アーティスト3	WIP展 (10/20~24)				
11	27~31	4	ヴィジティング アーティスト4					
	4~7	5	ヴィジティング アーティスト5					
	10~14	6	ドキュメント制作	論文・作品解説本提出 (12/18)				
	17~21	7						
25~28	8							
1~5	9							
12	8~12	10						
	15~19	11						
	22~26	12		最終審査会			博士展: (12月18日~25日)	
1	5~9	13						
	12~16	14	学年末プレゼン前半					
	19~23	15	学年末プレゼン後半			予備申請を学科内で承認		
	26~30	16	後期授業終了 (1/27)	卒業修了制作展 1/26~1/31		予備申請書提出 (1/31: 16時30分 上野)	審査報告提出 (1月末) 学位授与 (3月)	

芸術学科実技年間カリキュラム

学 部			1 年	2 年	2 年	備 考
月	日	週				
4	1～4	1	ガイダンス/版画ガイダンス 銅版、リトグラフ、木版、 シルクスクリーン 坂口・池田・版画教員	ガイダンス 塑造（首像） 美術館見学 森・大卷	ガイダンス 手塚・村岡	2年次は、前期日本画・後期彫刻のグループと前期彫刻・後期日本画のグループに分かれて履修する。
	7～11	2	素描 坂口・池田		模写 手塚 村岡	
	14～18	3				
	21～25	4				
	28～2	5				
5	7～9	6	石膏取り	植物制作 手塚 村岡		
	12～16	7				
	19～23	8				
	26～30	9				
6	2～6	10	キャンバス下地制作実習 坂口・池田	美術館見学 選択別実習 テラコッタ 又は 木彫 又は 石彫 森・大卷	風景制作 手塚 村岡	
	9～13	11	油彩1（模写） 坂口・池田			
	16～20	12	油彩2（肖像画） 坂口・池田			
	23～27	13				
	30～4	14				
7	7～11	15	写実実習 坂口・池田 写真センター	植物制作 手塚 村岡	塑造 石膏取り	
	14～18	16				
	22～25	17				
夏 期 休 業						
10	1～3	1	進級制作展・ アートパス取材 坂口・池田	ガイダンス 手塚・村岡	古美術研究 10/22～11/4	
	6～10	2		模写 手塚・村岡		ガイダンス 塑造（首像） 美術館見学 森・大卷
	14～17	3		風景制作 手塚 村岡		
	20～24	4				
	27～31	5				
11	4～7	6	美術館見学 選択別実習 テラコッタ 又は 石彫 又は 金属 森・大卷			
	10～14	7				
	17～21	8				
	25～28	9				
12	1～5	10	基礎造形実技Ⅰ 8単位	基礎造形実技ⅡA・B 各4単位		
	8～12	11				
	15～19	12				
	22～26	13				
1	5～9	14	基礎造形実技Ⅰ 8単位	基礎造形実技ⅡA・B 各4単位		
	13～16	15				
	19～23	16				
	26～30	17				
単位						
単位（合計）			8単位		8単位	

美術教育実技年間カリキュラム

大学院美術研究科

月	日	週	修士 1 年	修士 2 年	博士 課 程	備 考
						必修科目 美術教育論 素材論及び演習 構成論及び演習
4	1～4	1	素材論及び演習 ゼミⅡ	ゼミⅡ 本郷 寛 ゼミⅢ 木津文哉	創作総合研究 美術総合研究	ゼミⅠ（論文演習） ゼミⅡ（立体表現・理論） ゼミⅢ（平面表現・理論）
	7～11	2	本郷 寛			
	14～18	3	構成論及び演習 ゼミⅢ 木津文哉			
	21～25	4				
	28～2	5				
5	7～9	6	研修旅行	各自のテーマによる実技 本郷 寛 木津文哉 豊福 誠 篠原行雄 斎藤典彦	各自のテーマによる実技 本郷 寛 木津文哉 豊福 誠 篠原行雄 斎藤典彦	ゼミⅠ～Ⅲの内二つ以上を 選択 研修旅行
	12～16	7				
	19～23	8				
	26～30	9				
6	2～6	10	各自のテーマによる実技 本郷 寛 木津文哉 豊福 誠 篠原行雄 斎藤典彦	各自のテーマによる実技 本郷 寛 木津文哉 豊福 誠 篠原行雄 斎藤典彦	各自のテーマによる実技 本郷 寛 木津文哉 豊福 誠 篠原行雄 斎藤典彦	ゼミⅠ～Ⅲの内二つ以上を 選択 研修旅行
	9～13	11				
	16～20	12				
	23～27	13				
7	30～4	14	前期実技講評	前期実技講評	前期実技講評	博士審査展 12月 修了作品展 1/26～1/31
	7～11	15				
	14～18	16				
	22～25	17				
夏 期 休 業						
10	1～3	1	素材論及び演習 ゼミⅡ	修了制作	創作総合研究 美術総合研究	
	6～10	2	本郷 寛			
	14～17	3	構成論及び演習 ゼミⅢ 木津文哉			
	20～24	4				
	27～31	5				
11	4～7	6	各自のテーマによる実技 本郷 寛 木津文哉 豊福 誠 篠原行雄 斎藤典彦	各自のテーマによる実技 本郷 寛 木津文哉 豊福 誠 篠原行雄 斎藤典彦	各自のテーマによる実技 本郷 寛 木津文哉 豊福 誠 篠原行雄 斎藤典彦	
	10～14	7				
	17～21	8				
	25～28	9				
12	1～5	10	各自のテーマによる実技 本郷 寛 木津文哉 豊福 誠 篠原行雄 斎藤典彦	各自のテーマによる実技 本郷 寛 木津文哉 豊福 誠 篠原行雄 斎藤典彦	各自のテーマによる実技 本郷 寛 木津文哉 豊福 誠 篠原行雄 斎藤典彦	
	8～12	11				
	15～19	12				
	22～26	13				
1	5～9	14	後期実技講評	後期実技講評	後期実技講評	
	13～16	15				
	19～23	16				
	26～30	17				
	単位		実技 4単位 素材論及び演習 4単位 構成論及び演習 4単位 ゼミ 4単位	実技 4単位 ゼミ 4単位	創作総合研究 4単位 美術教育総合研究 4単位 ゼミ 単位	木工室 木工機械安全使用演習 原口健一
	単位 (合計)		16単位	8単位	8単位	

文化財保存学実技年間カリキュラム

保存修復

大学院美術研究科

日本画

油画

彫刻

工芸

建造物

月	日	週	修士1年	修士2年	修士1年	修士2年	修士1年	修士2年	修士1年	修士2年	修士1年	修士2年					
4	1~4	1	課題研究 古典模写 修復実習 装演実習	課題研究 古典模写 (修了制作) 修復実習 装演実習	写真撮影法 (一般撮影)	各自のテーマによる課題研究 伝統技法研究 I・II 技法材料論	修復実習 古典技法研究 I	課題研究 修了制作 修復実習	各自のテーマによる課題研究 修復実習 古典技法研究	課題研究 修了制作		課題研究 (修士論文)					
	7~11	2															
	14~18	3															
	21~25	4															
	28~2	5															
	7~9	6															
5	12~16	7	古文化財研究 5/22~5/28(予定)				古文化財研究		古文化財研究			古文化財研究					
	19~23	8	古典模写 修復実習 装演実習	修復実習 I 伝統技法研究 I・II 技法材料論	修復実習 II 伝統技法研究 I・II 技法材料論	修復実習 古典技法研究 I	各自のテーマによる課題研究 修復実習 古典技法研究										
	26~30	9															
2~6	10																
6	9~13	11															
	16~20	12															
	23~27	13															
	30~4	14															
7	7~11	15	第1研究室 宮廻正明 第2研究室 荒井 経		木島隆康		籾内佐斗司 (兼) 深井 隆	辻 賢三 安藤 孝一 関根 理恵			上野勝久 (兼) 光井 渉						
	14~18	16															
	22~25	17															
夏期休業											建造物調査・ 修復演習第1回	夏期休業					
夏期休業											建造物調査・ 修復演習第2回	夏期休業					
10	1~3	1	古典模写 修復実習 装演実習	古典模写 (修了制作) 修復実習 装演実習			修復実習 古典技法研究 II	課題研究 修了制作 修復実習	各自のテーマによる課題研究 修復実習 古典技法研究	課題研究 (修士論文、 又は、修了制作)	課題研究	課題研究 (修士論文)					
	6~10	2															
	14~17	3															
	20~24	4															
	27~31	5															
11	4~7	6			修復実習 伝統技法研究 I・II 技法材料論												
	10~14	7															
	17~21	8															
	25~28	9															
12	1~5	10															
	8~12	11															
	15~19	12															
	22~26	13															
1	5~9	14		修士論文 要旨執筆		修士論文 要旨執筆		修士論文 要旨執筆		修士論文 要旨執筆		修士論文 要旨執筆					
	13~16	15															
	19~23	16											修了作品 発表会 提出・採点	修了作品 発表会 提出・採点	修了作品 発表会 提出・採点	修了作品 発表会 提出・採点	修了作品 発表会 提出・採点
	26~30	17															
単位			文化財保存学演習 課題研究 材料技術論 修復実習 伝統技法研究 古文化財研究	4単位(必修) 1年次4単位、2年次6単位(必修) 4単位(選択) 4単位(選択) 4単位(選択) 4単位(選択)								文化財保存学 演習(必修) 課題研究(必修) 1年次 2年次 建造物調査・修復演習 古文化財研究	6単位 4単位 6単位 4単位(選択) 4単位(選択)				
単位(合計)											32単位	24単位					

文化財保存学実技年間カリキュラム
保存科学・システム保存学

大学院美術研究科 保存科学

システム保存学

月	日	週	修士1年	修士2年	修士1年	修士2年	博士課程
4	11	1	機器分析実験 材料学実験	課題研究 (修士論文)		課題研究 (修士論文)	文化財保存学総合研究 (特別実習含む) 選択科目
	14~18	2					
	21~25	3					
	28~ 2	4					
5	6~ 9	5	古文化財研究	古文化財研究			
	12~16	6					
	19~23	7					
6	26~30	8	機器分析実験 材料学実験				
	2~ 6	9					
	9~13	10					
	16~20	11					
	23~27	12					
7	30~ 4	13	保存科学 文化財測定学 稲葉政満 美術工芸材料学 第一研究室 桐野文良 美術工芸材料学 第二研究室 塚田全彦			システム保存学 連携研究機関 独立行政法人 東京文化財研究所 保存環境学 修復材料学 研究室 研究室 (併)佐野千絵 (併)中山俊介 (併)木川りか (併)北野信彦 (併)朽津信明 (併)早川典子	
	7~11	14					
	14~18	15					

夏期休業

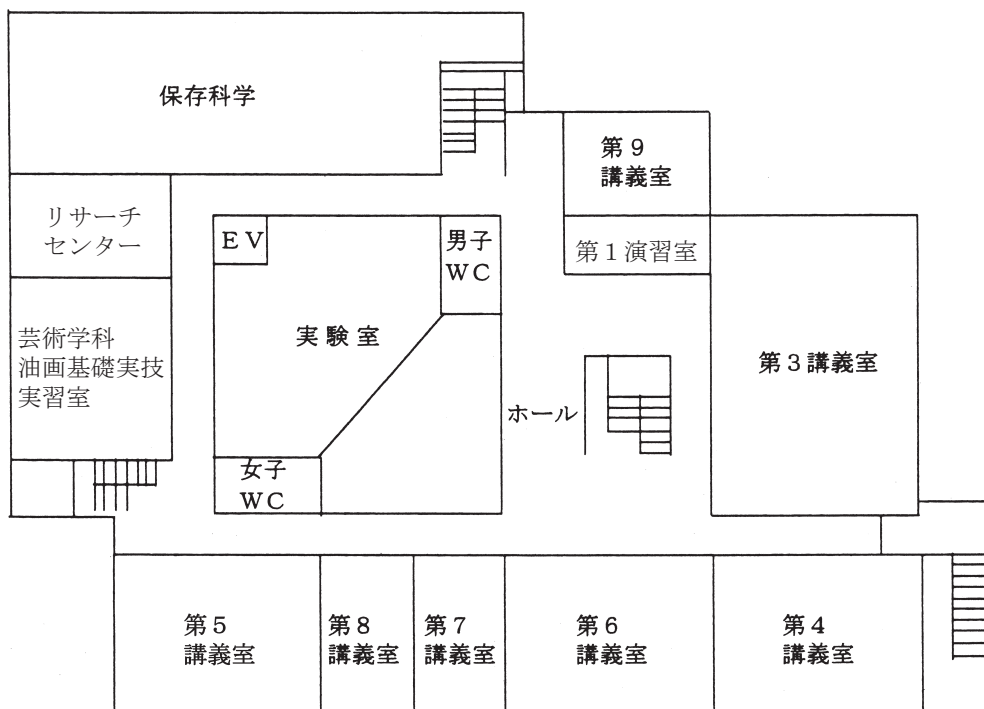
10	1~ 3	1	機器分析実験 課題研究 (修士論文)	課題研究 (修士論文)	課題研究 (修士論文)	課題研究 (修士論文)	
	6~10	2					
	14~17	3					
	20~24	4					
	27~31	5					
11	4~ 7	6					
	10~14	7					
	17~21	8					
	25~28	9					
12	1~ 5	10					
	8~12	11					
1	5~ 9	12		修士論文 要旨執筆		修士論文 要旨執筆	
	13~16	13					
	19~23	14		修士論文 発表会 採点		修士論文 発表会 採点	
	26~28	15					
単位			文化財保存学演習 4単位 (必修) 課題研究 1年次 4単位 (必修) 2年次 6単位 (必修) 機器分析実験 1単位 (選択) 材料学実験 1単位 (選択)	文化財保存学演習 4単位 (必修) 課題研究 1年次 4単位 (必修) 2年次 6単位 (必修) 古文化財研究 4単位 (選択)	文化財保存学総合研究 (特別実習含む) 1年次 4単位 2年次 4単位 選択科目 研究領域特別研究指導		
単位 (合計)			22単位		18単位		10単位

備考
修士1年 古文化財研究 5/24~5/30

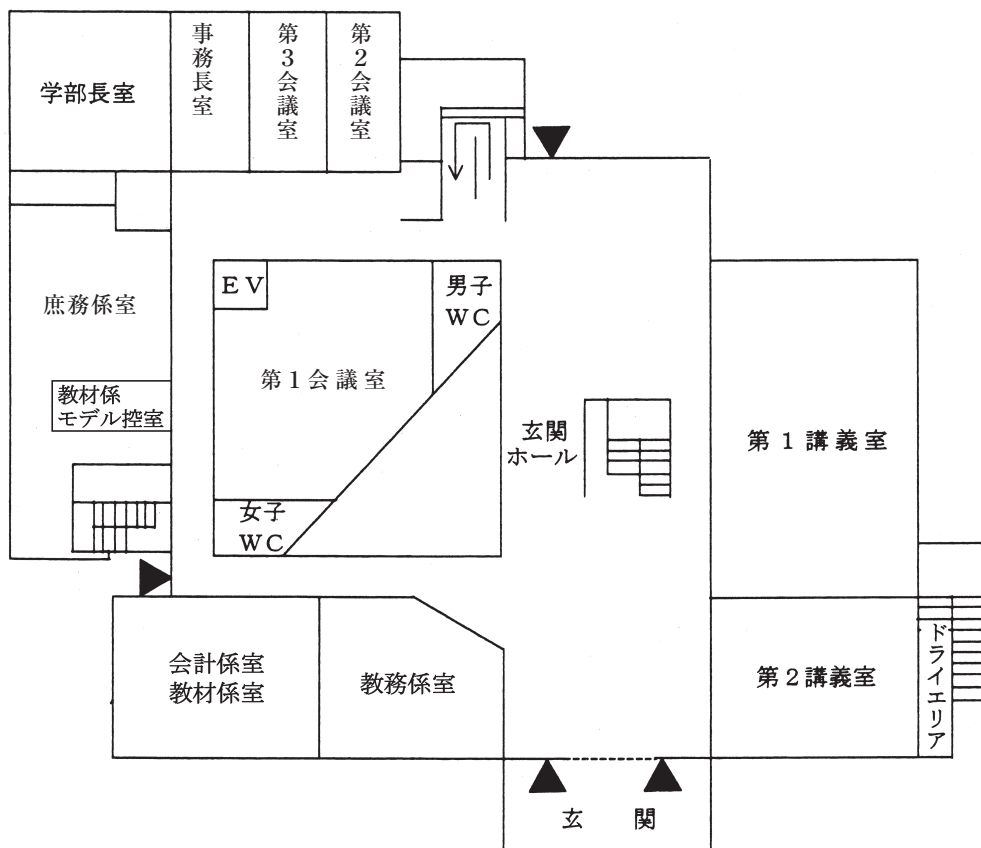
上野校地・取手校地配置図

上野校地中央棟 (1F・2F)

2F

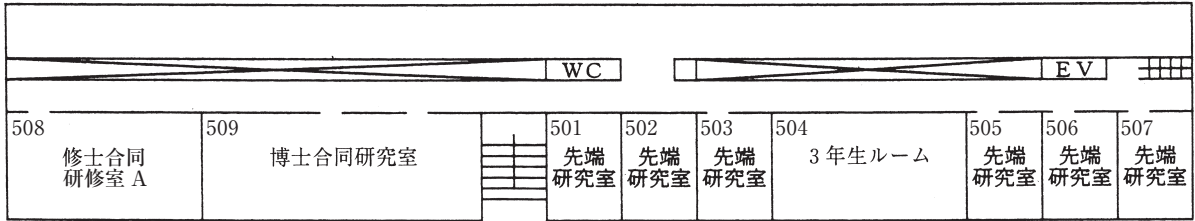


1F

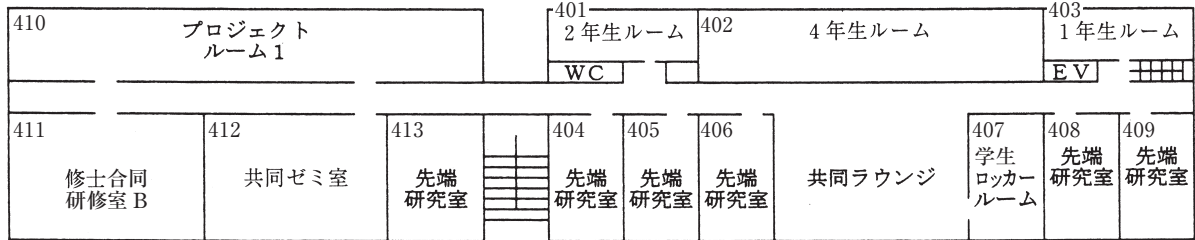


●取手校地メディア教育棟

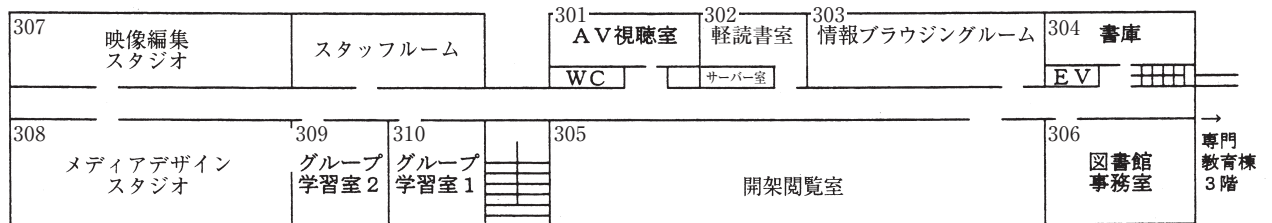
5 F



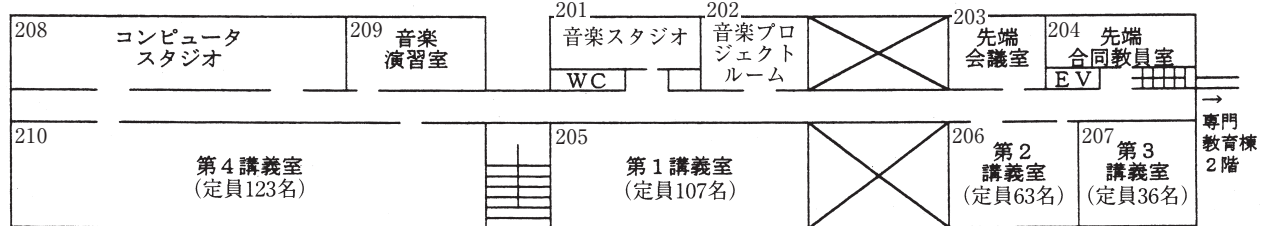
4 F



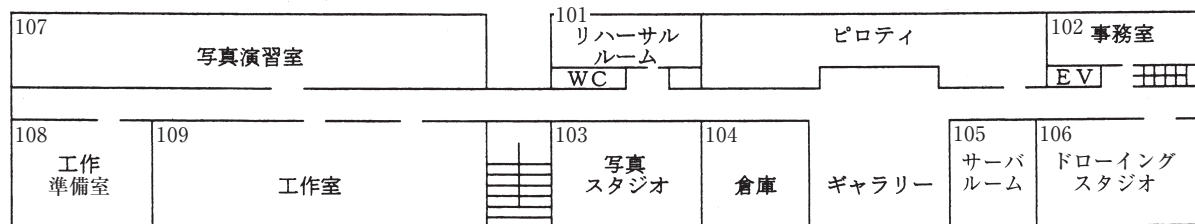
3 F



2 F

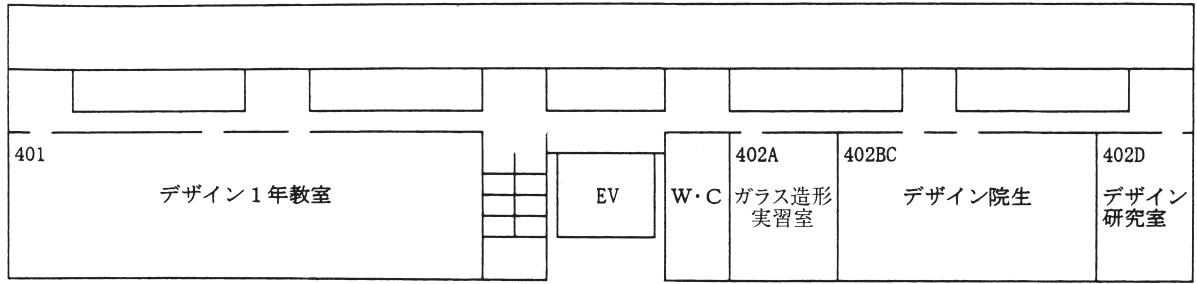


1 F

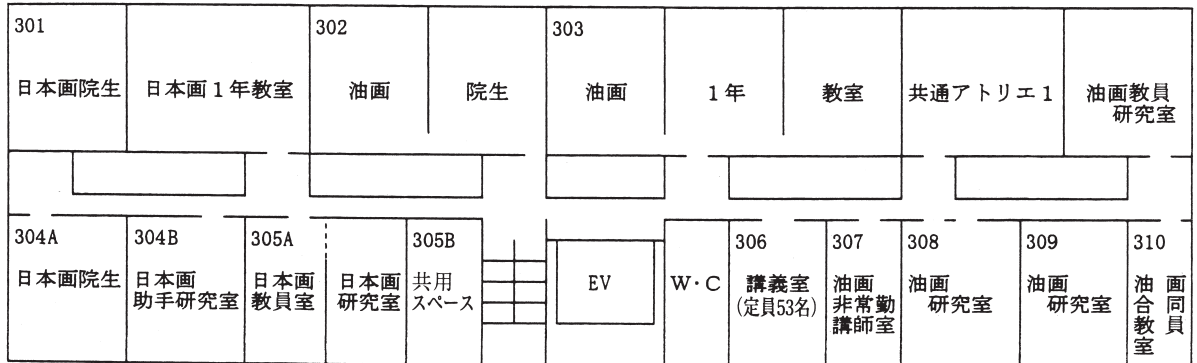


●取手校地専門教育棟

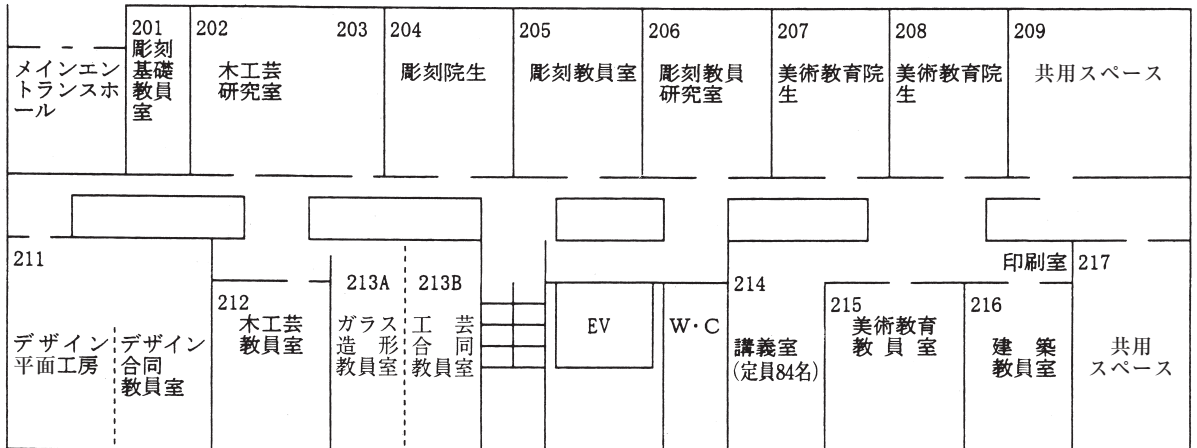
4 F



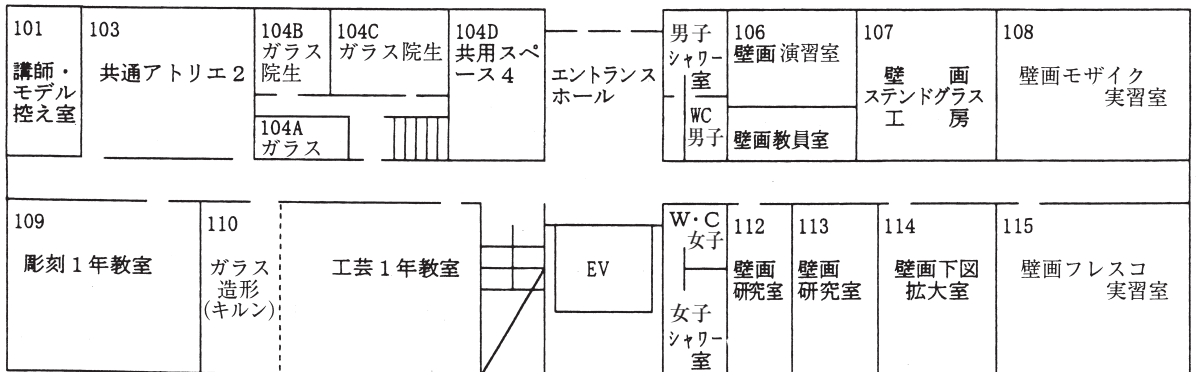
3 F



2 F



1 F

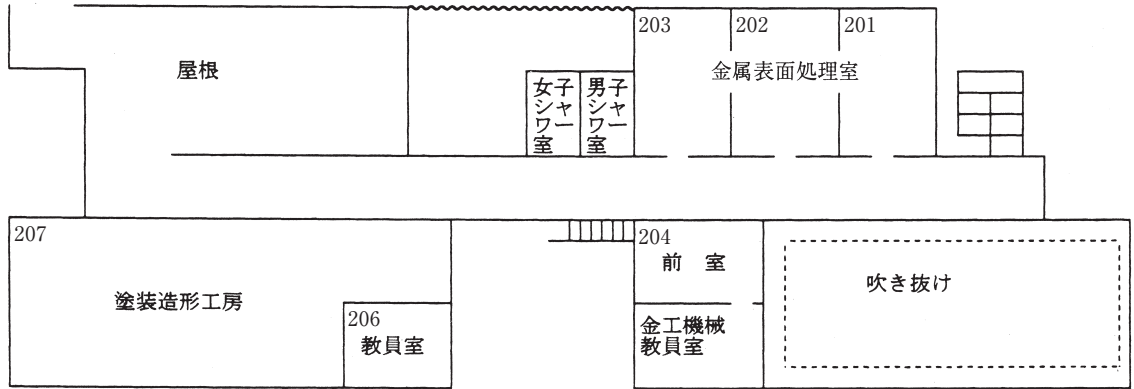


用務員室

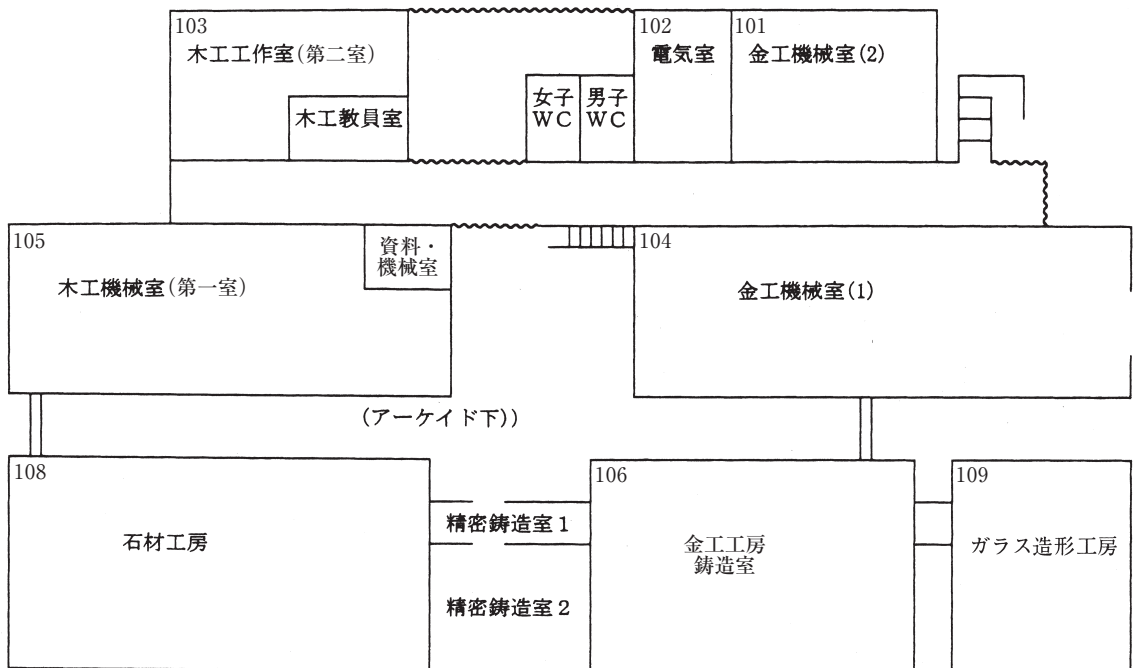
●取手校地共通工房棟

2 F

専門教育棟メインエントランスホールへ



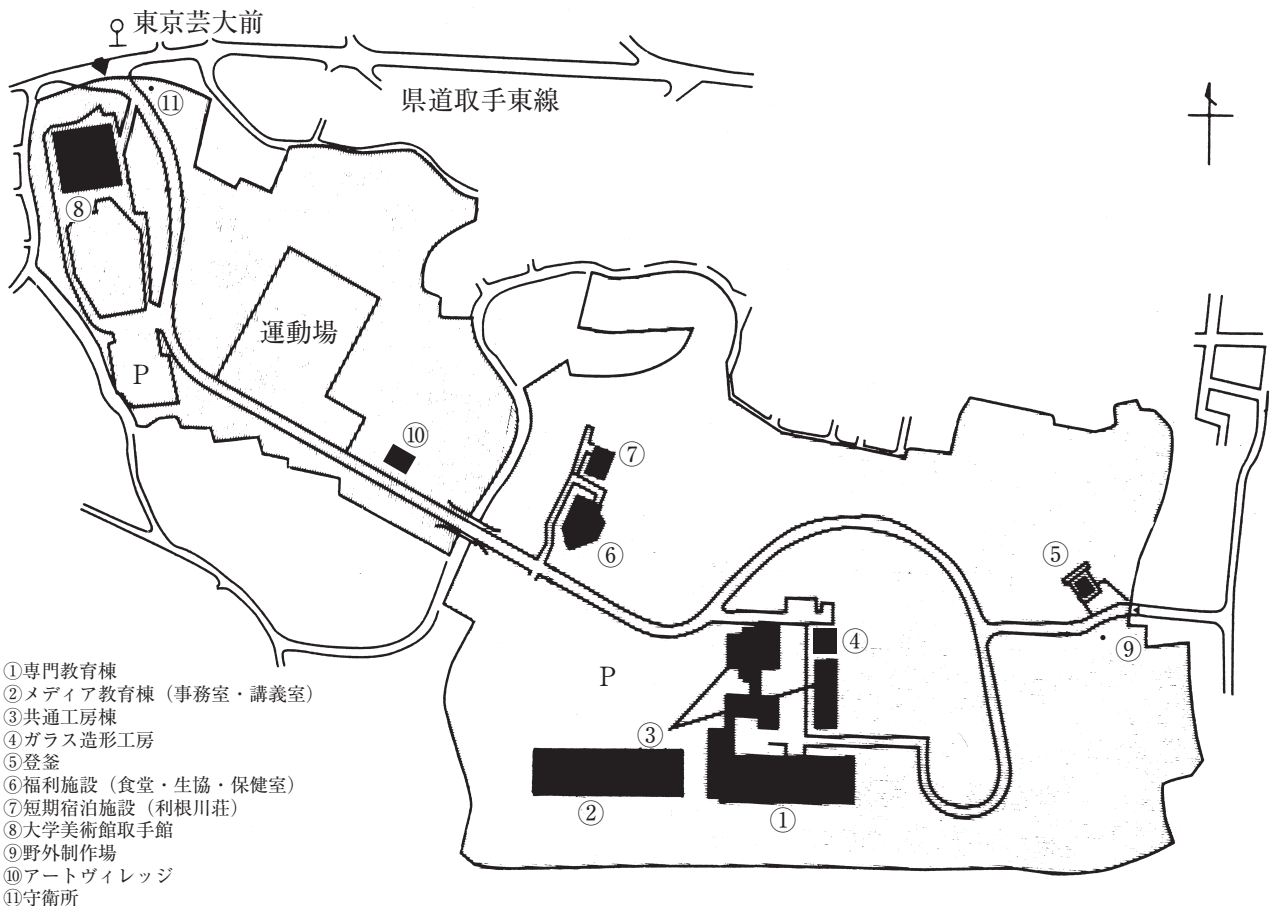
1 F



上野校地配置図



取手校地配置図



バス時刻表

スクールバス時刻表

平成 25 年 4 月 8 日改正

取手駅東口発	時 間	芸大取手校地発
〈東口バス乗り場 4 番〉	8	40
45 00	9	27
40	10	20
25	11	07 47
05	12	50
*10	13	
50	14	32
☆30	15	10
30	16	12 50*
50 10	17	30
30	18	12 50
50 10	19	30
	20	20

注 1：取手駅東口駅前のバス停留所は、取手市コミュニティーバス、取手聖徳女子中高スクールバスと共用の停留所となります。他のバスの利用者及び一般通行者等の妨げにならないよう注意してください。

注 2：取手駅東口駅前では他のバスとの発着の関係で、駅前広場の周回や近辺での待機などの対応をすることがあります。

注 3：満員の場合は乗車できません（定員90名）。また、途中で乗降はできません。

注 4：バスへの乗降及び運行中は、運転手の指示に従ってください。

注 5：バス内での飲食は禁止です。

注 6：*印の便は、モデルさん（最高15名程度）優先です。

注 7：☆印の便は、途中で給油を行う場合があります。

大利根交通バス時刻表

平 日（月 曜～金 曜）

土・日・休 日

取手駅東口発	時 間	東京芸大前発
〈東口バス乗り場 2 番〉	5	52
54 42 30 10	6	12 24 36 48
54 42 30 25 18 06	7	00 07 12 24 36 48 54
45 30 18 12 06	8	00 12 27 42 57
50 40 30 22 15 00	9	04 12 22 37 52
45 30 10	10	12 27 42 57
55 35 15 00	11	17 37 57
55 35 25 15	12	07 17 37 57
55 35 15	13	17 37 57
55 35 15	14	17 37
55 40 25	15	07 22 37 47 57
50 35 25 15 05	16	07 17 32 47
56 41 33 25 05	17	07 15 23 38 54
58 42 34 25 12	18	07 16 24 40 54
58 47 38 22 12	19	04 20 29 40 54
54 38 25 12	20	07 20 36 53
55 38 25 11	21	07 20 37 54
47 32 12	22	14 29 44
02	23	

取手駅東口発	時 間	東京芸大前発
45 30	6	12 27 42 57
50 30 15 00	7	12 32 47
50 35 20 05	8	02 17 32 47
45 25 05	9	07 27 47
45 35 25 05	10	07 17 27 47
45 25 05	11	02 27 47
45 25 05	12	07 27 47
45 25 05	13	07 27 47
45 25 05	14	07 27 47
45 25 05	15	07 27 47
45 25 05	16	07 27 47
57 42 23 05	17	05 24 39 53
42 22 11	18	04 24 42 59
57 41 17 00	19	23 39 52
53 42 22 10	20	04 24 35 54
55 38 12	21	20 37 59
17	22	

《所要時間約15分》運賃320円

平成25年 4 月 1 日改正